大正六年九月十四日　第三種郵便物認可　・　昭和七年五月二十七日　印刷納本　・　昭和七年六月一日發行　（毎月一回一日發行）

建築と社會

昭和七年六月一日　第十五輯　第六號

實用小住宅

6

日本建築協會

會　告

本會定款一部變更認可の件

豫て認可申請中でありました當協會定款一部變更の件（定款第三條中ノ事務所ヲ大阪市北區中之島三丁目三番地ニ變更）は下記寫の通認可がありました。

收社第三三九號

大阪府大阪市西區土佐堀通壹丁目壹番地
社團法人　日本建築協會

昭和七年四月六日付申請定款變更ノ件認可ス
昭和七年五月十七日

內務大臣　鈴木喜三郎 印

本會事務所移轉の件

移轉先　大阪市北區中之島三丁目三番地
朝日ビルデイング4階第405號室
（市電一渡邊橋停留場下車）
電話番號(23)本局　長4500、4501
4502～4505
5470～5474
5510～5542

本會紋章懸賞圖案入選者發表

豫て募集中の本協會紋章圖案は壹百六拾葉の應募圖案を得ました。愼重審査の結果下記諸君が夫々入選せられました（入選並優秀圖案は本號掲載）

入選佳作	（特別賛助員）	小清水　仙之助	横濱市中區本牧町天徳寺 678
1	（普通賛助員）	元木　徳松	東京市小石川區東京工廠技術課
2	（同　上）	元木　徳松	同　上
3	（會　員）	安田　則世	大阪市住吉區阪南町西1の42
4	（同　上）	早良　俊夫	神戸市六甲篠原

メートル法に依る實用安價小住宅設計圖案當選者發表

豫て募集中の「メートル法に依る實用安價小住宅設計圖案」は應募總數實に341案といふ斯の種懸賞に於ては近年稀れなる記錄を創りました。そこで五月十七日から連日に亘つて審査會を開き審査員の愼重嚴選の結果下記の諸君が當選の榮譽を擔はれました（入選圖案は本文中に掲出す）

一等	堀　武雄	大阪市港區東田中町4の93の3
二等一席	保田　信夫	大阪市港區南泉尾町1の88
二等二席	久保田　健祿	東京市麹町區丸ノ內十三號館渡邊仁建築工務所
三等一席	川部　吉助	東京市外巢鴨町上駒込378
三等二席	田子秀二郎 內田　寬 金澤秋夫	北海道廳建築部
三等三席	高木貞一	大阪市東區京橋3の75大林組設計部內
佳作	板橋資郎	東京市外澁谷町宇田川4
佳作	鐘ケ江正人	大阪市北區空心町1の20
佳作	川合正夫	大阪市住吉區阪南町中6
佳作	丹羽　豐	大阪市東成區北生野町2の50
佳作	中川辰雄	兵庫縣川邊郡小濱村米谷字石田18
佳作	保田信夫	大阪市港區南泉尾町1の81

市街地建築物法令發行に就いて

さきに出版の豫告を致しました本會編纂中の「市街地建築物法令」は殆んど印刷準備が出來てゐますが大阪府の同法施行細則がまだ發令になりませんのでこれが發令あり次第直ちに發行の豫定であります。どうぞ今暫くお待ちを願ひます。

昭和七年六月

社團法人　日本建築協會

登録商標 OHNO SHUTTER PATENTE

日米特許一二個・實用新案登錄四六個併用

大野式防火捲上ケ戸

〔特許大野式シヤッター〕

主要製品

大野式シヤッター
大野式ルーブルシヤッター
大野式工場用軸承
大野式轉子入軸筐
大野式轉子入戸車
大野式廻轉軸抵抗測定機
各種防火扉

日英米佛特許三一個・實用新案五九個併用

特許不二サッシ

受托營業

合資會社 大野製作所

東京市芝區三田四國町二番地・電話三田(45)三七三七 三七三八

取付出張員駐所・大阪市此花區上福島中二・電話福島(45)五八八

建築と社會

第十五輯第六號　　昭和七年六月發行

實用小住宅

目　次

メートル法に依る住宅の設計に就いて …… 藤井厚二（17）
住宅愛 —家の管理と活用— …… 葛野壯一郎（18）
小住宅問題雜考 …… 南信（22）
住宅空地考 …… 淺野繁（26）
週末安息の家の試作 …… 松本儀八（32）
不燃質小住宅の新構造法 …… 岡田孝男（34）
生活最少限度の住宅研究 …… 中村義雄（49）
實用安價小住宅の研究 …… 渡邊金藏（52）
小住宅の臺所に就いて …… 新名種夫（54）
婦人創作の住宅案 ……（57）
小住宅設計圖案附設計概要書 …… 日本建築協會住宅委員會（42）
都市建築物內空氣の汚染狀態及び其の措置に關する制度に就きて …… 日本建築協會法制委員會（會報6）
耐火構造家屋の諸稅率に關する意見 …… 日本建築協會法制委員會（會報12）
岐阜愛知兩縣下に於ける古建築解說（下）…… 天沼俊一（特附37）

日本建築協會紋章懸賞入選圖案發表及同審査評 ……（1）
メートル法に依る實用安價小住宅設計懸賞當選圖案發表及同審査評 ……（4）

談話室 ……（67）
執筆者紹介 ……（會報14）
國際新建築集 ……（19）
會報 ……（會報1）
廣告索引 ……（廣告6）

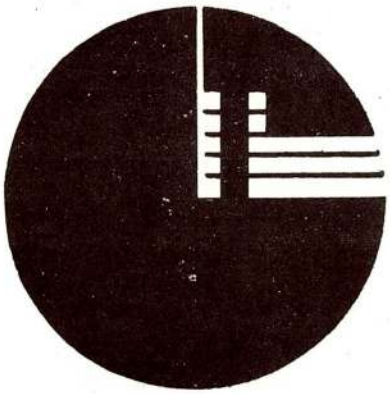


小清水　仙之助　　暗號（陽）

入　　選



佳作 1　元木　德松　暗號（春）



佳作 2　元木　德松　暗號（黑）



佳作 3　安田　則世　暗號（虫）

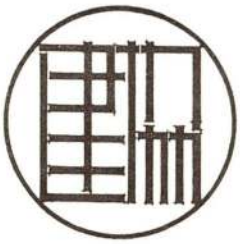


佳作 4　早貝　俊夫　暗號（C）

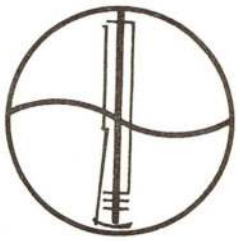
日本建築協會紋章懸賞當選圖案



暗號　黑白



暗號　◎



暗號　川



暗號　陽



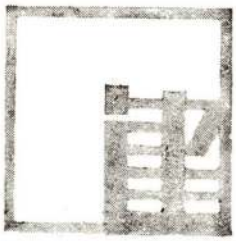
暗號　日



暗號　S.O.S.



暗號　美



暗號　徒



暗號　旭



暗號　日の丸



暗號　商



暗號　代



暗號　孝



暗號　骨



暗號　光

日本建築協會紋章懸賞優秀圖案　（順序不同）

紋章審査評

（掲載は原稿到着順）

協會紋章審査に就て

モトノ・セイゴ

紋章に就ての重要なる要素を數へ擧げて見ると次の様になる

（一）明瞭明折に內容を表示せねばならぬ

（二）表示せんとするもの（例へば『建』の字の如きもの）を最大限度に簡約せねばならぬ

（三）最も單純なる線と構成とに依り大きなる愛着と迫力とを引き起さねばならぬ

（四）用途と製作とに對する各種類各方面の考慮を必要とする（例へば印刷物に用ゆる場合、襟章にする場合等々）

之等の條件を基本として考へる場合にこの度入選せるものは一頭地を秡いて居る様に思ふ『春』に於ては（三）の條件に欠け、『黒』に於ては（一）の條件に欠け、『虫』に於ては（二）（三）、『匚』に於ては（一）（二）（三）に稍々欠けたる點を認める。（四）の觀點からしても『虫』と『匚』とは他に劣る。

私の標準

瀧澤眞弓

かねてから、私は、紋章（マーク）の如きものゝ意匠に對して次のやうな標準をもつてゐる。

一、簡明である事（この點で、日の丸の旗は日本一の傑作だと思つてゐる）

二、意味表現が明瞭である事は固より必要だがそれがあまり露骨でない事（といふのは、未知の者に對しても、一寸の說明にて了解せしめ得るもの）

三、獨創的で、且つ清新である事。

以上のやうな標準から見て、私も亦入選圖案を推した。まづ第一の條件に對して相當な滿足を與へてくれる（但し、も少し單純化する餘地はありさうに思へる）第二の條件について言へば、之れならば會員外の者に對しても『建の字だ』と說明しただけで即座の首肯を求める事が出來さうだ（但しあたまのよくない手合ひは固よりこの限りでない）。第三の條件についても、應募案中まづ第一であつたかと思はれた。

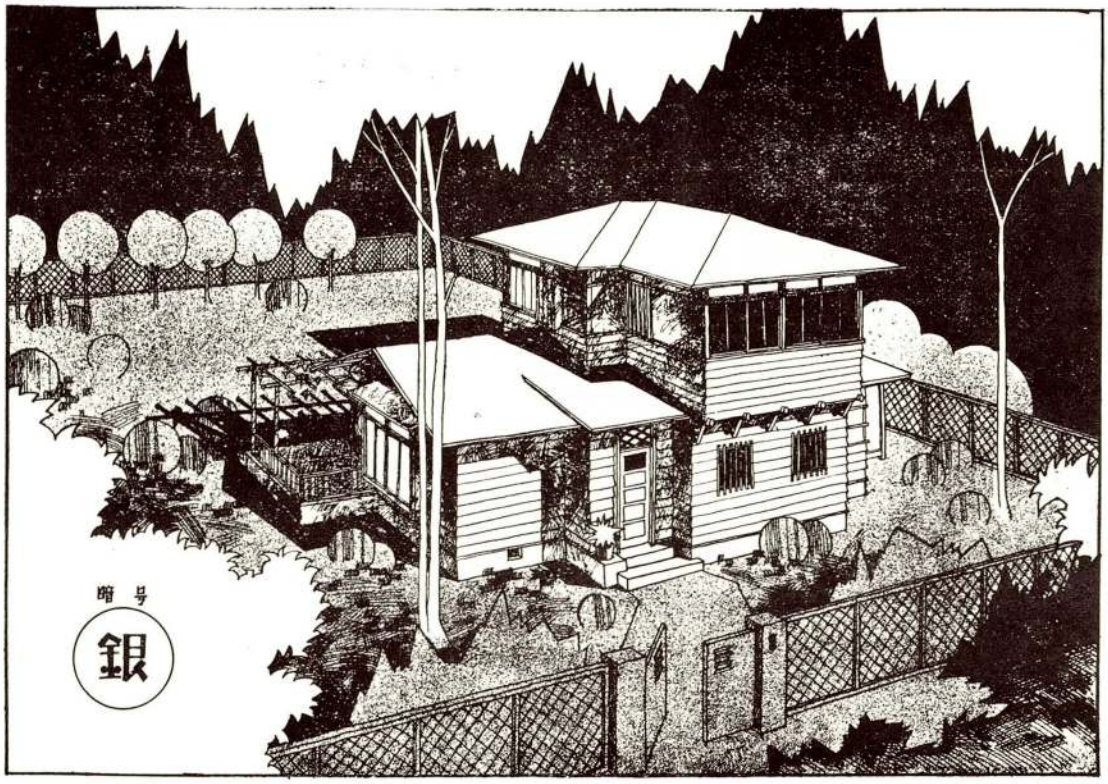
固より上記は相對的な話である。この紋章そのものが、本會の紋章として申分ないかどうかといふ事は全々別問題である。若しも强いて、この入選圖案に希望をつなぐとすれば、本會は更にその入選者と協力して研究する餘地を保留してはどうかと思ふのである。

選後感

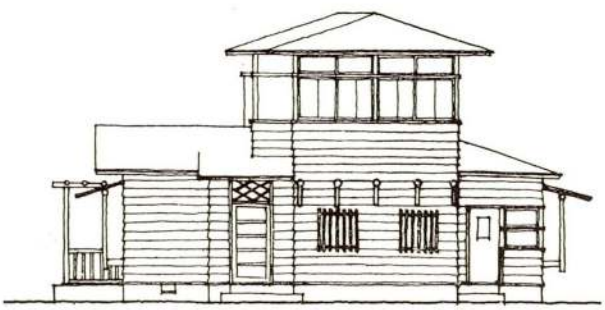
本間乙彦

今度の應募圖案を通覽して感じたことは建築學會の紋章の應募作がよい意味、悪い意味で大きな影響を今度の應募作に當つてゐる事であります。

私は入選作の圖案の手法が新鮮味をもち、圖案化しにくい建の字を字劃にこだわらずに其印象をつかんだ點で他の作よりすばぬけてゐると思ふ。見る人によればモダン味がすぎるとか、判讀しにくいと批難するかもしれないが、要は紋章であるからその批難はあたらないと思ふ。むしろ建築學會の紋章よりもすぐれてゐるとさへ思はれる。



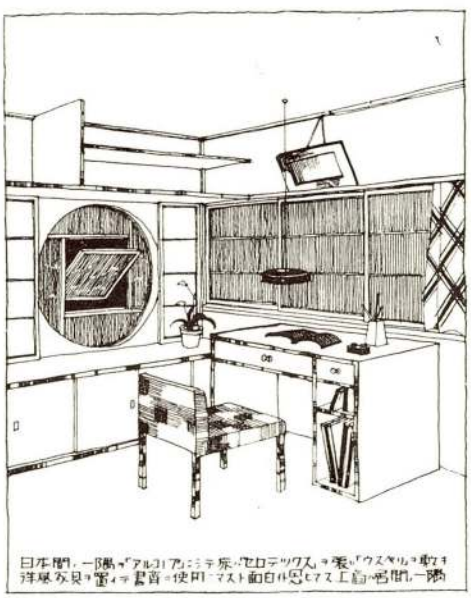
透　視　圖



正面

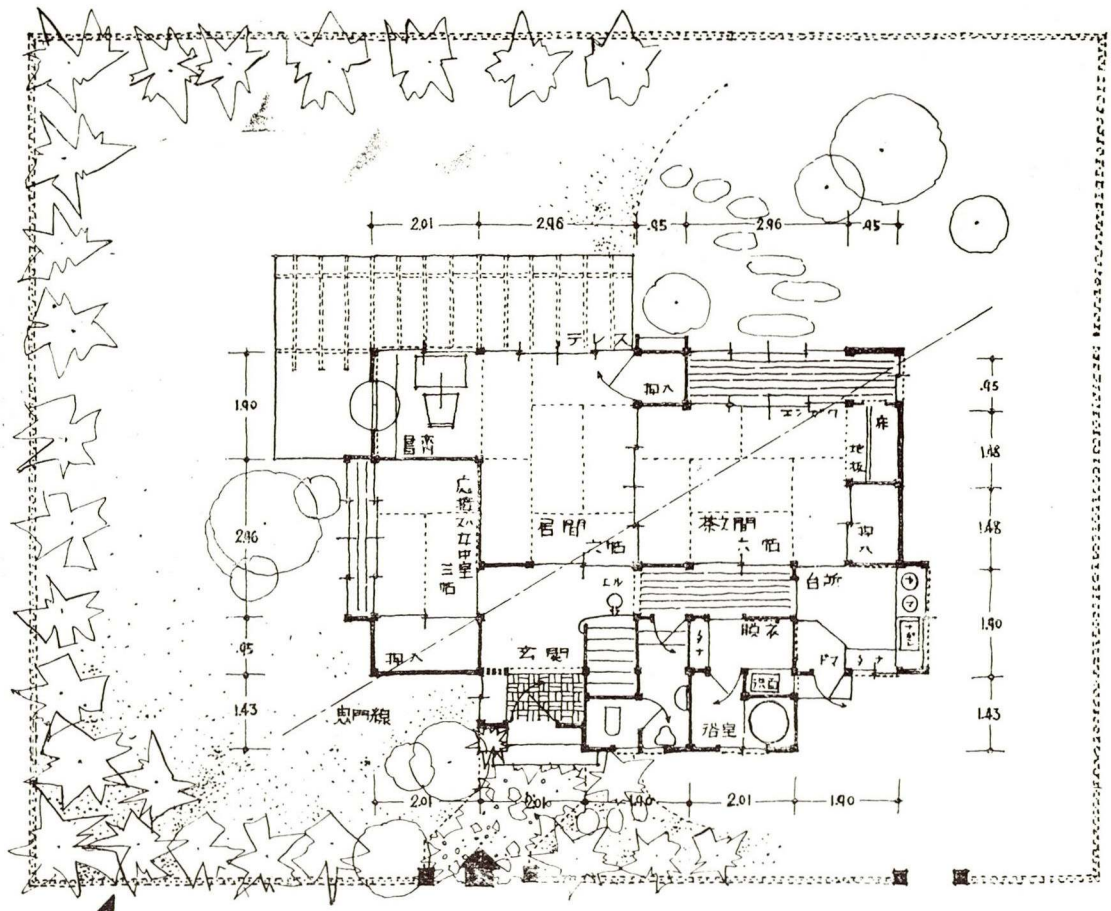


側面

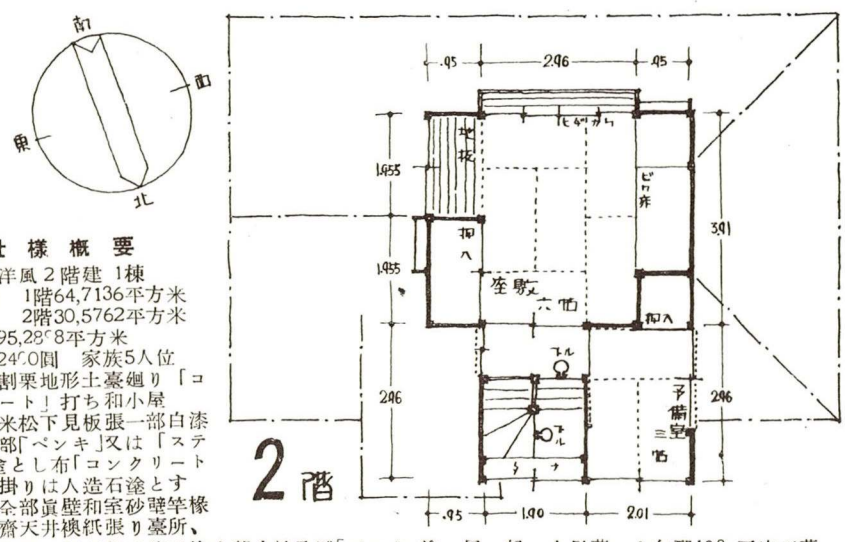


日本間ト一隅ヲ「アルコーブ」ニシテ床ハセロテックス」ヲ張リ「ウスベリ」ヲ敷キ洋風家具ヲ置イテ書斎ニ使用マスト雖モ自由ニ居ラレル工夫ガ西間ト一隅

メートル法に依る實用安價小住宅懸賞設計當選圖案　　一等　堀　武雄 氏



1階



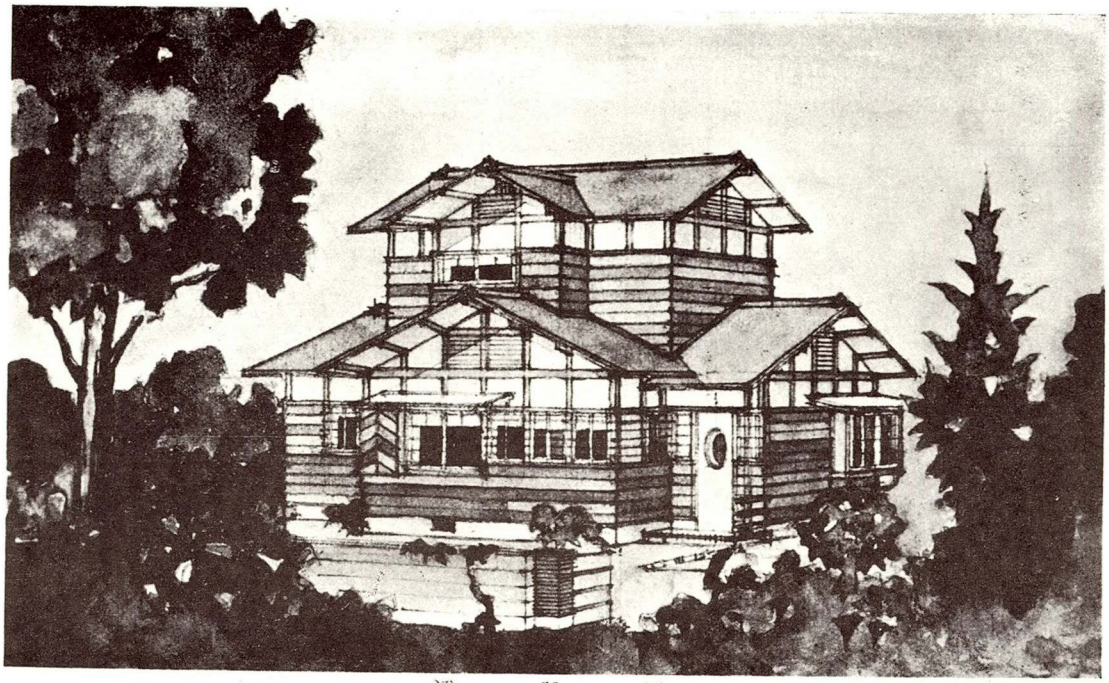
2階

仕様概要

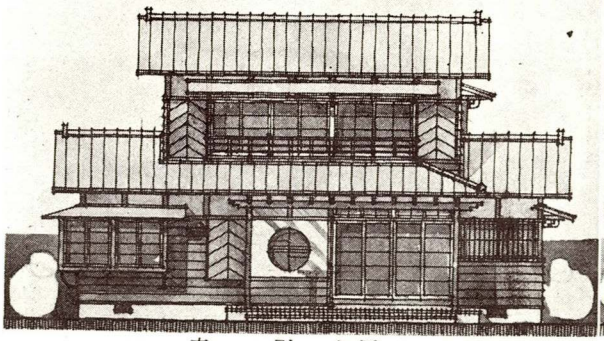
木造瓦葺洋風２階建 1棟
建築面積　1階64,7136平方米
　　2階30,5762平方米
延面積　95,28c8平方米
建築費　24c0圓　家族5人位
構造　割栗地形土臺廻り「コンクリート」打ち和小屋
外部　米松下見板張一部白漆喰塗木部「ペンキ」又は「ステイン」塗とし布「コンクリート」見え掛りは人造石塗とす
内部　全部眞壁和室砂壁竿椽天井書齋天井襖紙張り臺所、廊下、浴室、便所等は漆喰塗木部生地及び「ペンキ」塗　屋根　土居葺、上勾配18°平安瓦葺
浴槽　丸型長州風呂とす
便所　大正式便所とす

此案では疊寸法の單位を舊寸法の近似數 0.95m × 1.90 m に定め柱の大いさを 11cm とし寸法の計算方法は舊來と同樣にして疊の割付けをしました。例へば8帖となれば 1.90m（疊の長さ）11.90 m（同左）10.11 m（柱の大さ）23.91 m は柱眞々の寸法です本圖案は以上の方法によつて設計しました。

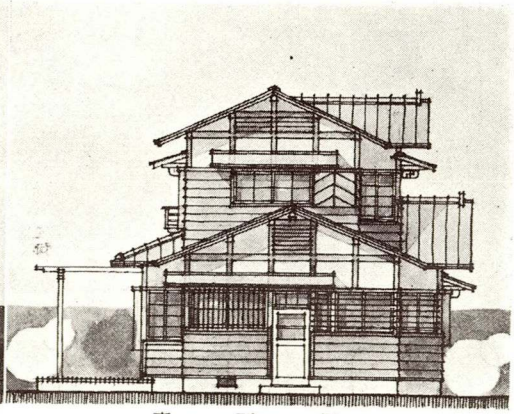
メートル法に依る實用安價小住宅懸賞設計當選圖案　　一等　堀　武雄 氏



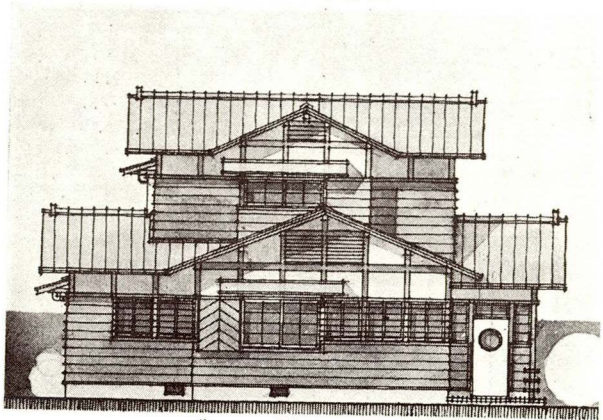
透　　視　　圖



南　　面　　圖



東　　面　　圖



北　　面　　圖

說　明　書

木造瓦葺2階建　敷　地　306平方米
第1階　69平方米
第2階　31平方米
延面積　100平方米

建築費　2500圓

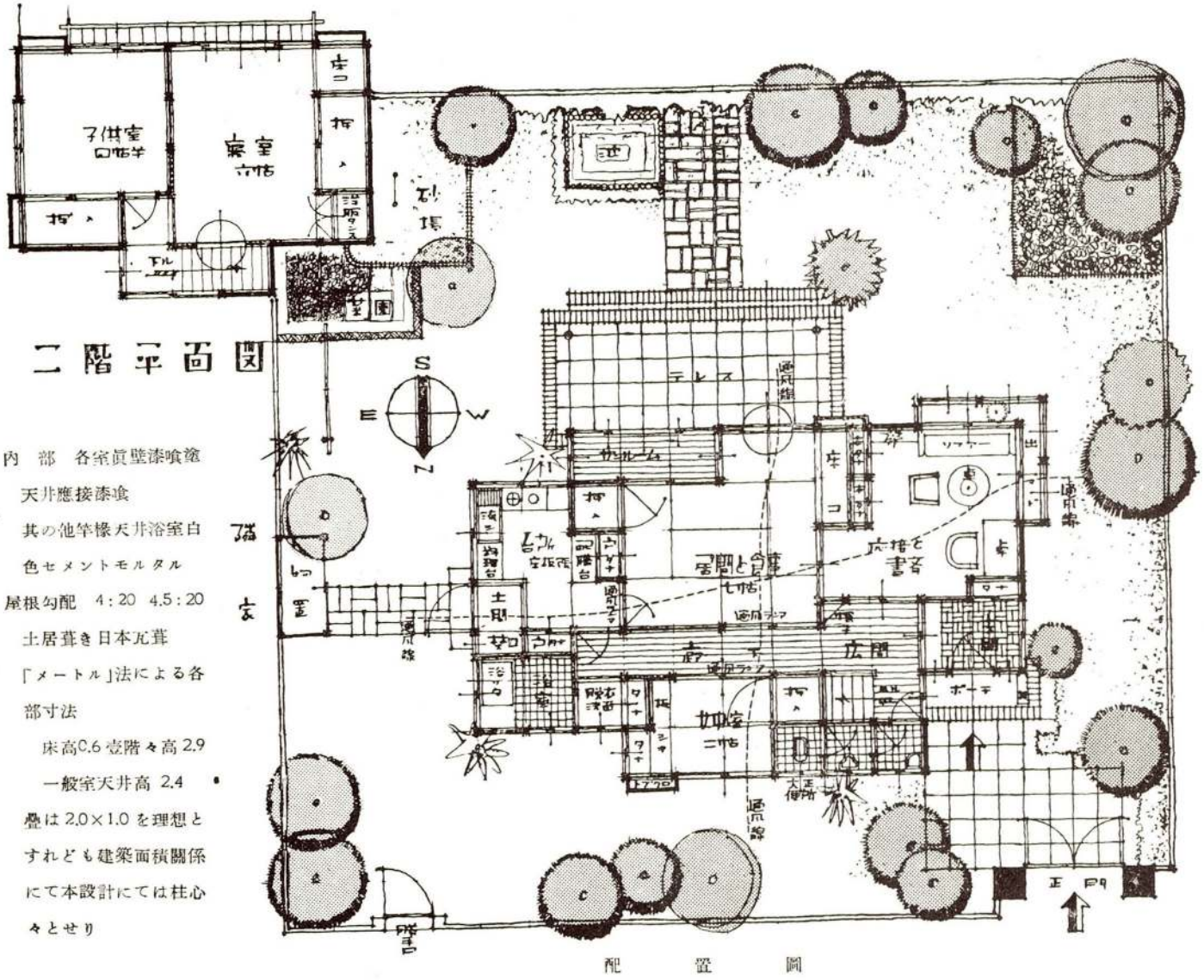
構　造　基礎コンクリート打木造和小屋
土臺檜其の他米松

外　部　腰モルタル塗、壁眞壁下見板張り

メートル法に依る實用安價小住宅懸賞設計當選圖案

二等一席　　保田　信夫 氏

メートル法に依る實用安價小住宅懸賞設計當選圖案　二等一席　保田　信夫　氏



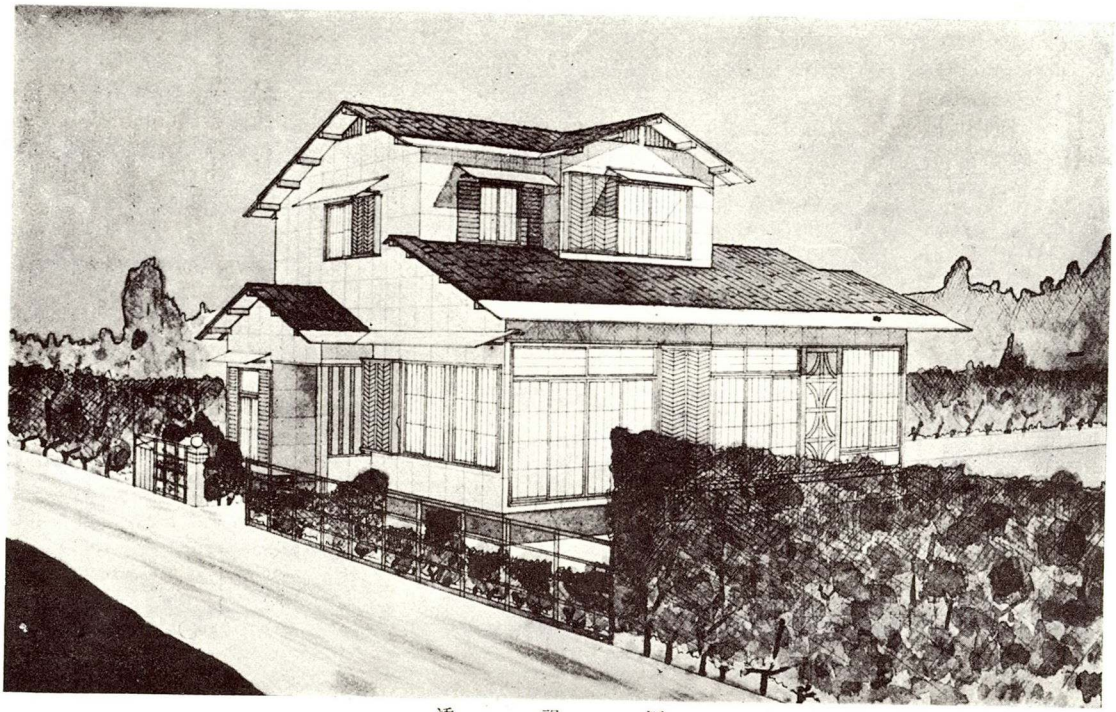
配　置　圖

二階平面圖

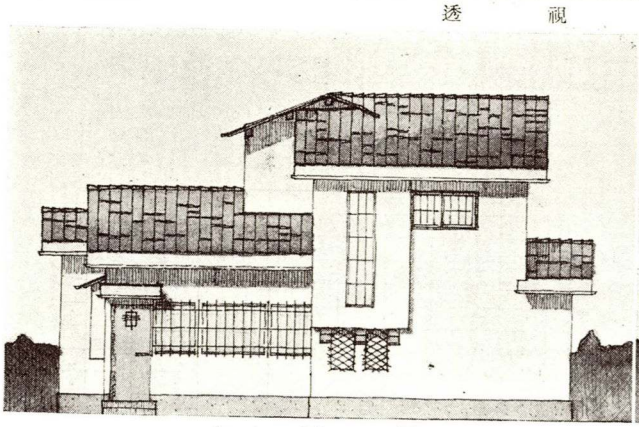
内　部　各室眞壁漆喰塗
天井應接漆喰
其の他竿縁天井浴室白色セメントモルタル

屋根勾配　4：20　4.5：20
土居葺き日本瓦葺

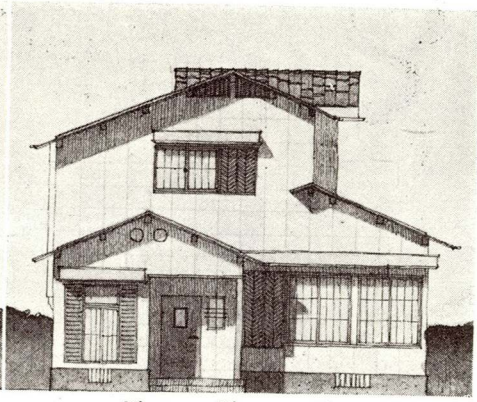
「メートル」法による各部寸法
床高0.6 壹階々高 2.9
一般室天井高 2.4
疊は 2.0×1.0 を理想とすれども建築面積關係にて本設計にては柱心々とせり



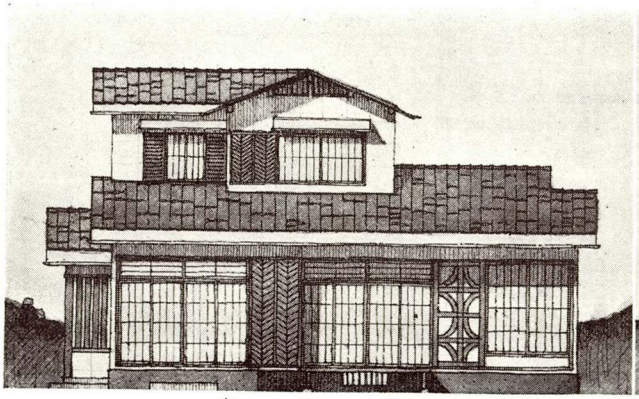
透　　視　　圖



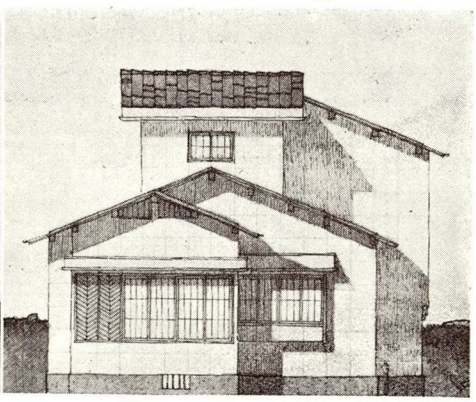
北　　面　　圖



西　　面　　圖

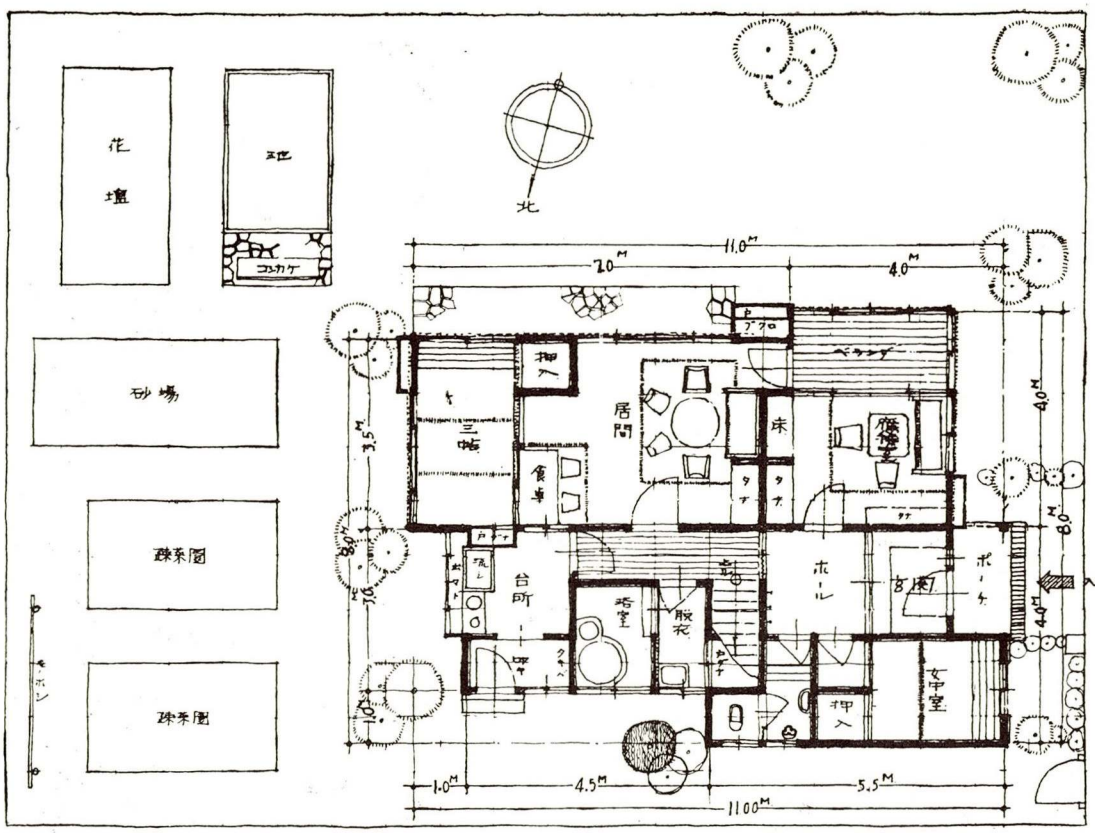


南　　面　　圖



東　　面　　圖

メートル法に依る實用安價小住宅懸賞設計當選圖案　　**二等二席**　　**久保田健祿 氏**



1　階　平　面　圖

設　計　說　明

敷地面積 300.0 平方米

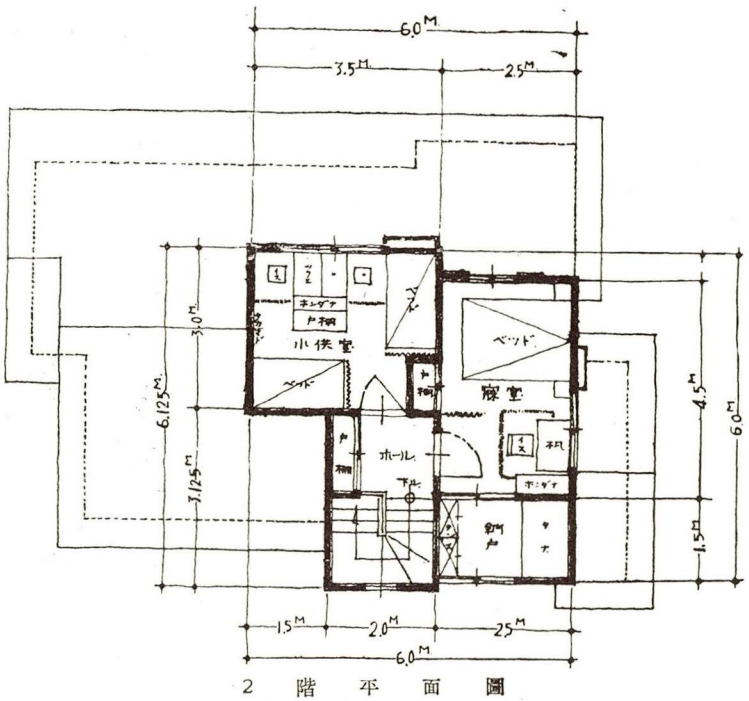
建物、1階69.5平方米 2階30.5平方米　合計100.0平方米

想定家族　夫婦小供2人老人1人女中1人合計6人

様式　在來の日本住宅建築に新構造法に依る現代味を加へるもの

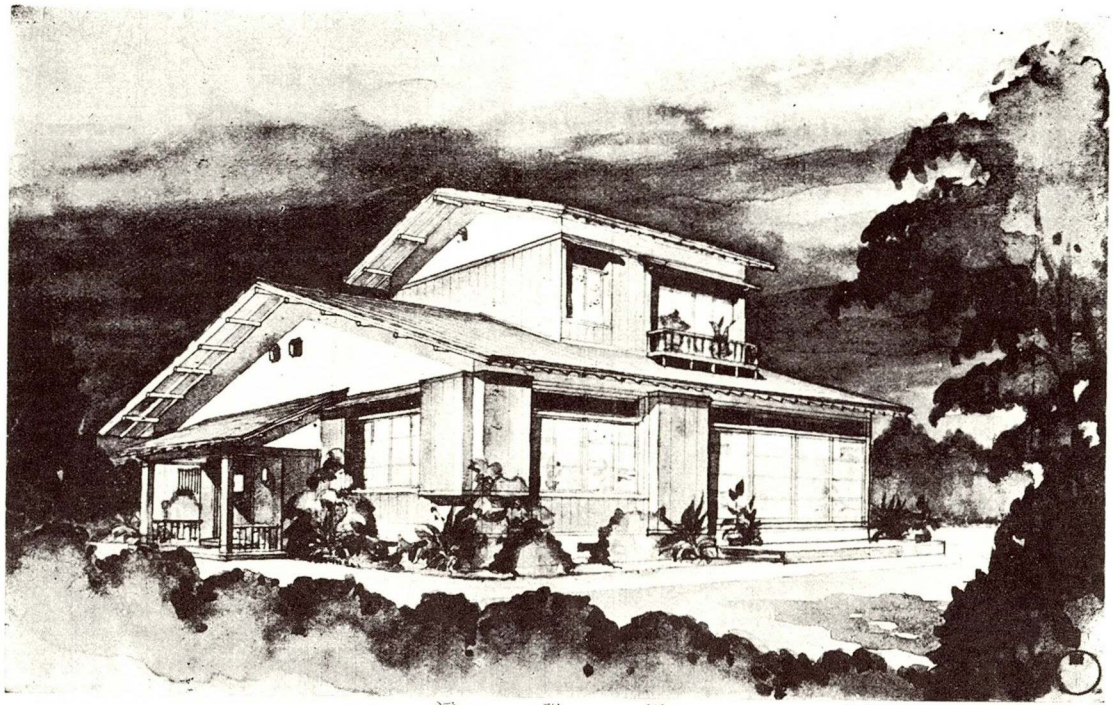
構造　防濕防音防寒防暑を主眼とする木骨耐震乾構造法とし基礎には混凝土を用ひ柱4吋半角、間柱四ツ割とし小屋組は和小屋にて充分金物にて緊結するものとす

本構造の特徴　在來の木小舞式土造式又は木摺式の壁を排して耐火と防水性を兼ねたる「石綿スレート」を用ふ内部には保温、遮熱、耐久性を具備する「トマテックス」を用ひ工期の短縮と現場作業の簡易化を試みるものなり

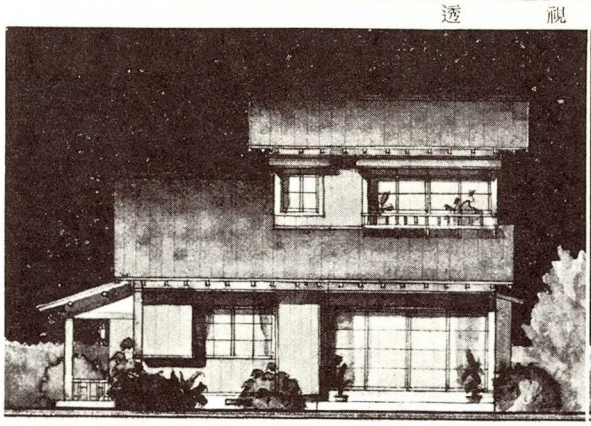


2　階　平　面　圖

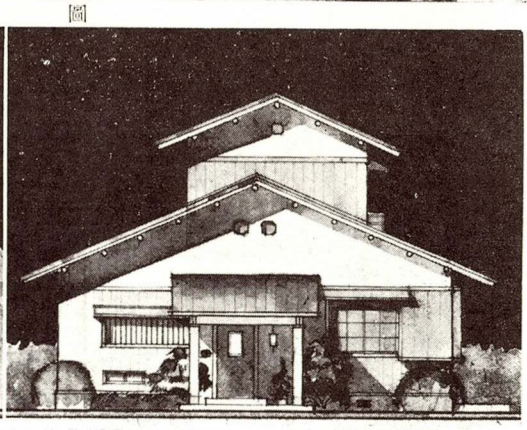
メートル法に依る實用安價小住宅懸賞設計當選圖案　　二等二席　　久保田健祿 氏



透　視　圖



南　面　圖



西　面　圖



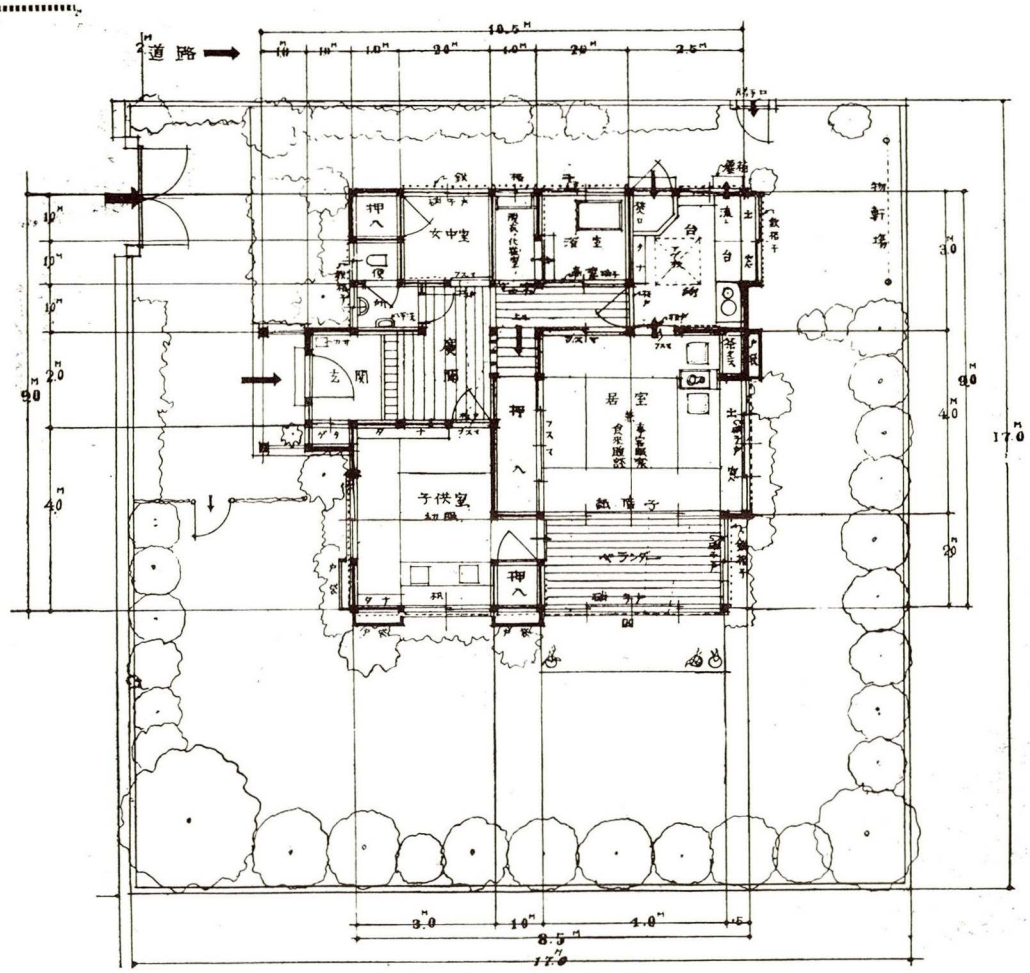
東　面　圖

設　計　概　要

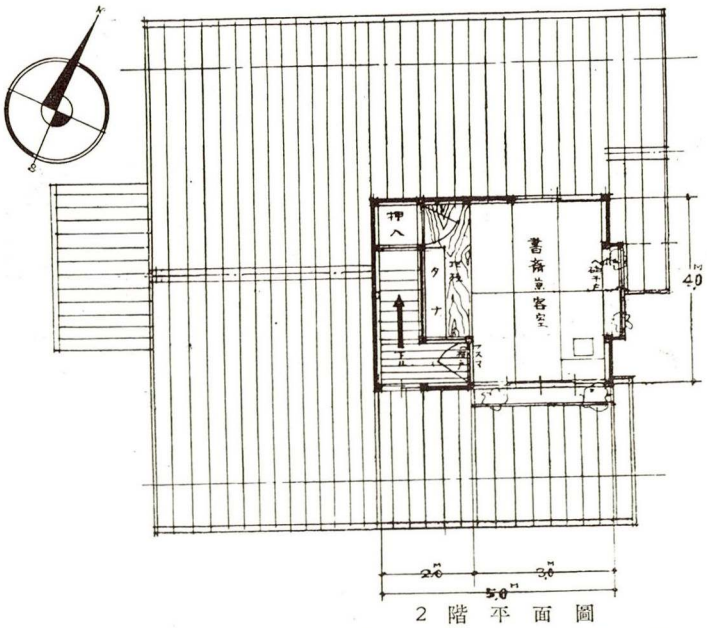
會社員、夫妻、子供2人及女中1人との住居を目的として設計しました。平面は餘室面積を除去する事と、採光及通風とに重を置き、家族本位とし、日本室を主として一家の團欒室なる居室を中心として食事、睡眠、來客、其他の雜用に對して兼用し南側に續くベランダーは夏季に於て障子を除去して居室の擴張をせしめます、子供室を南側、隣に取り日本室として睡眠をも兼用し書齋を二階に獨立せしめ

△

メートル法に依る實用安價小住宅懸賞設計當選圖案　　**三等一席　川部　吉助 氏**



1 階 及 敷 地 配 置 圖



2 階 平 面 圖

仕用概略

敷地面積
289平方米

建築面積
96.5平方米

軒　高
1階　3.2米
2階　6.4米

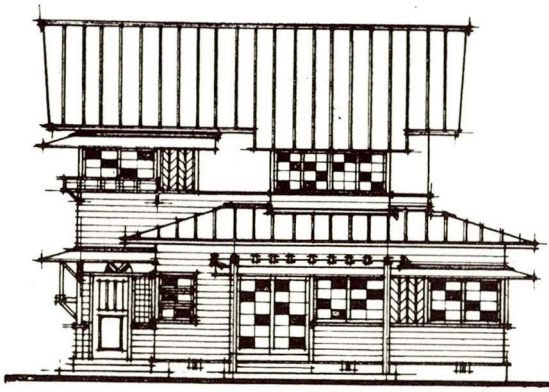
構　造
木造2階建

△
場合には客室とも兼用します。
以上各室と室との連絡を考案をしました。
外觀は切妻屋根を持つ和風に洋風を加味し簡素を旨とし外壁なる竪羽目板の褐色、切妻小壁の淡黃色漆喰、及瓦の赤褐色との色調の効果をねらひしました。

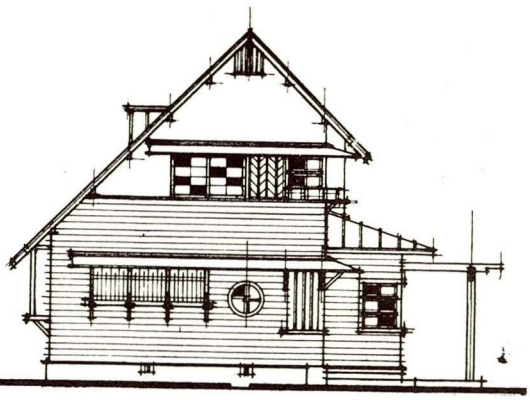
メートル法に依る實用安價小住宅懸賞設計當選圖案　　三等一席　　川部　吉助 氏



透　視　圖

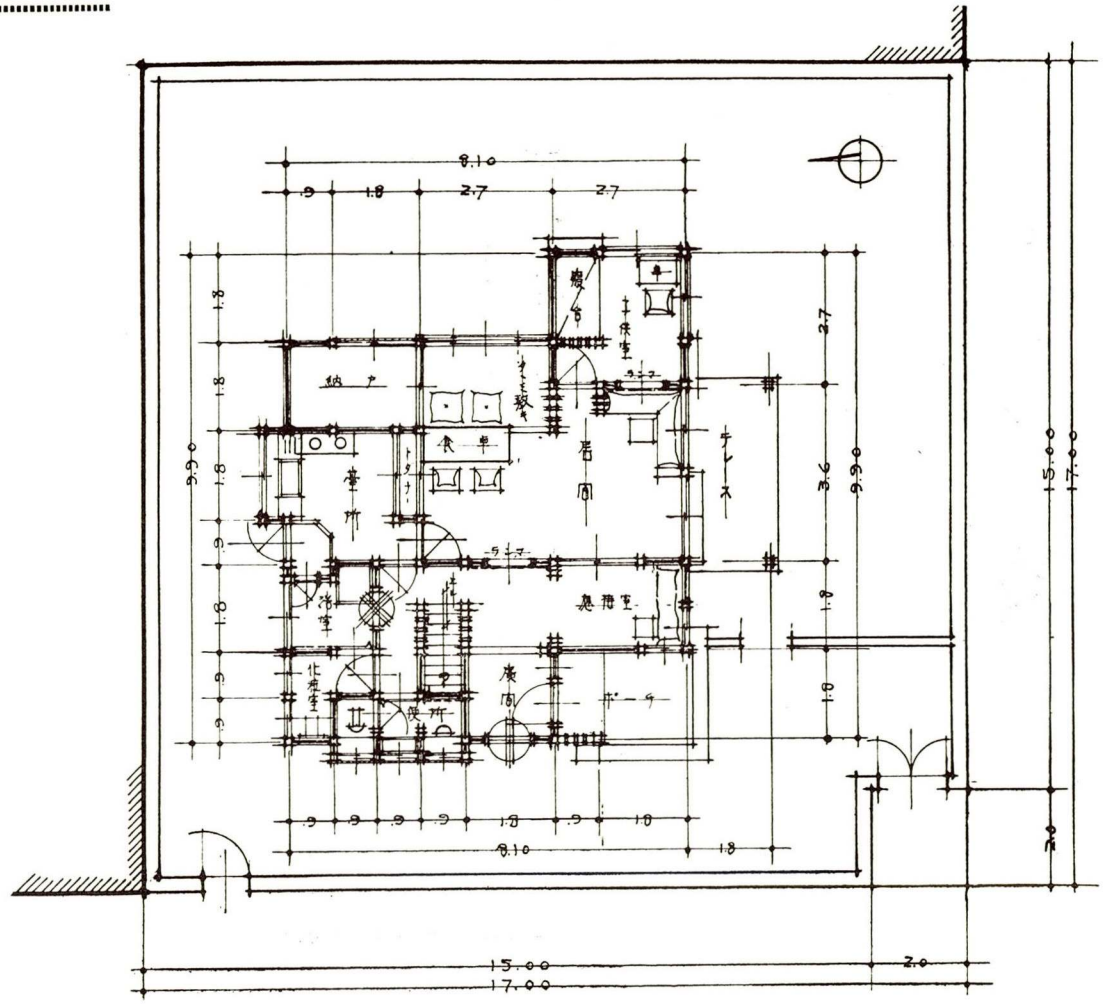


正　面　圖



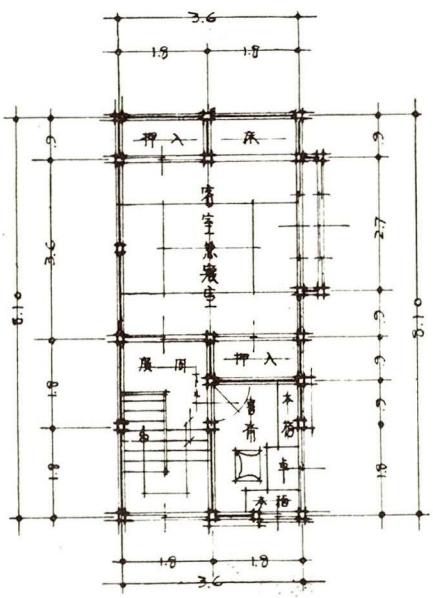
側　面　圖

メートル法に依る實用安價小住宅懸賞設計當選圖案　**三等二席**　田子秀二郎氏　内田寛氏　金澤秋夫氏



設計說明書

敷地　285平方米
建坪　96.39平方米
工費　2500圓
樣式　新日本式
構造及仕上げ
基礎　割栗「コンクリート」地形土臺「ボールト」締付
軸部　木造
外壁　白漆喰塗り下見板張り「クレオソート」塗
内壁　各室ハ眞壁洋室は壁紙貼木部「ワニス」塗
小屋組　和小屋
屋根　瓦葺付亜鉛引鐵板一文字葺「ペンキ」塗り
天井　和室は檜皮網代組天井洋室は「トマテツクス」張立の上紙貼
床　玄關「テレース」浴室便所は「タイル」張り他は二重板張りの上洋室は絨壇使用和室は疊敷きとす

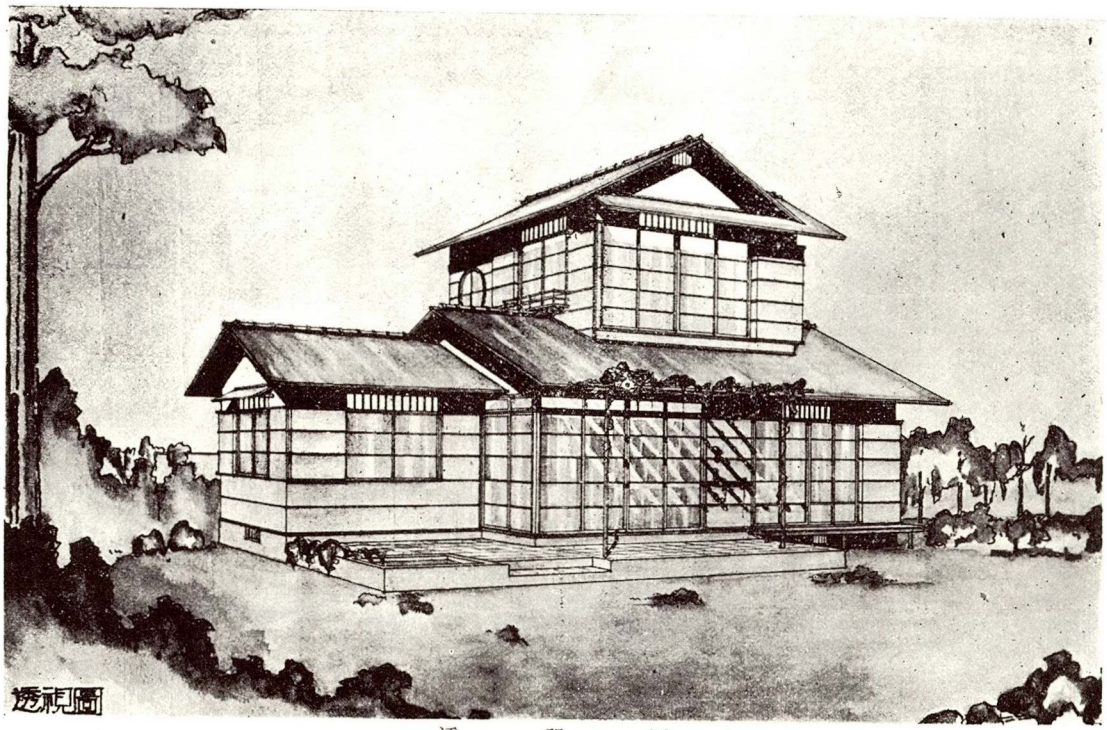


プランの要點

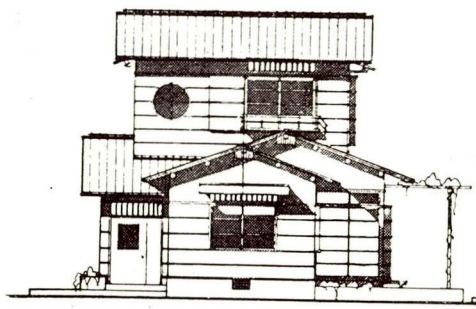
全體として家族本位とせり
廣間の一部に簡單なる應接室を取り居間は各室の中心に設け臺所寄りの個所一段高き疊敷きとし食堂に兼用す
子供室は東南の最も日當り良き場所に設けたり
納戸は必要に應じ女中室としても可なり
階上は寢室とし女老人等の客間に兼用す
其他各室出入口等には深き庇を附し夏季の日光の直射を防ぐ各室出入口上其他へ欄間を取り換氣を充分になす

メートル法に依る實用安價小住宅懸賞設計當選圖案　**三等二席**

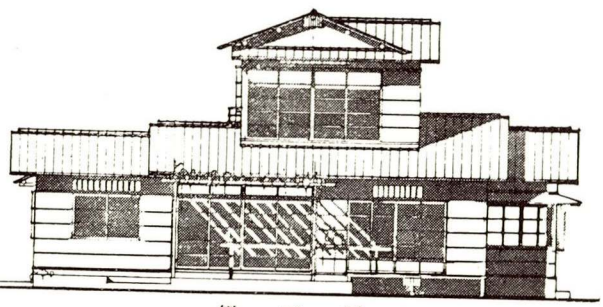
田子秀二郎氏
内田寛氏
金澤秋夫氏



透　　視　　圖



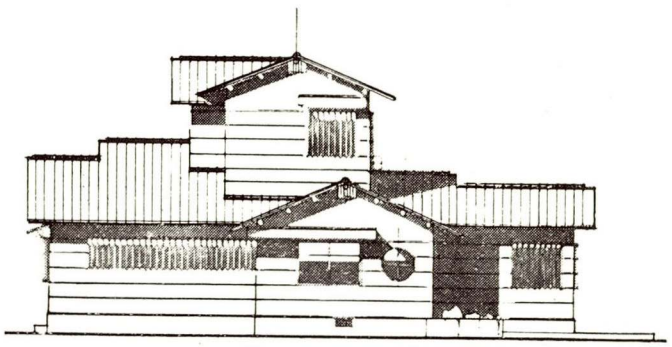
正　面　圖



側　面　圖

設　計　概　要

敷地坪數	300平方米
建物坪數	1階76.52平方米 2階22.74平方米 延99.26平方米
建築費	2500圓
基礎	割栗石搗き固めコンクリート打
軸部	土臺檜柱米栂、筋違及燧使用
屋根及小屋	和小屋4寸勾配杉及松使用、日本瓦葺き
外壁	大壁漆喰薄クリーム色塗仕上
天井	日本間棹縁洋間セロテックス水性ペンキ仕上
造作	主として米栂材
臺所	流しタイル張り調理臺等エナメルペンキ仕上げ瓦斯レンヂ使用
浴室	槇製2人用箱風呂据え付け 燃料瓦斯使用

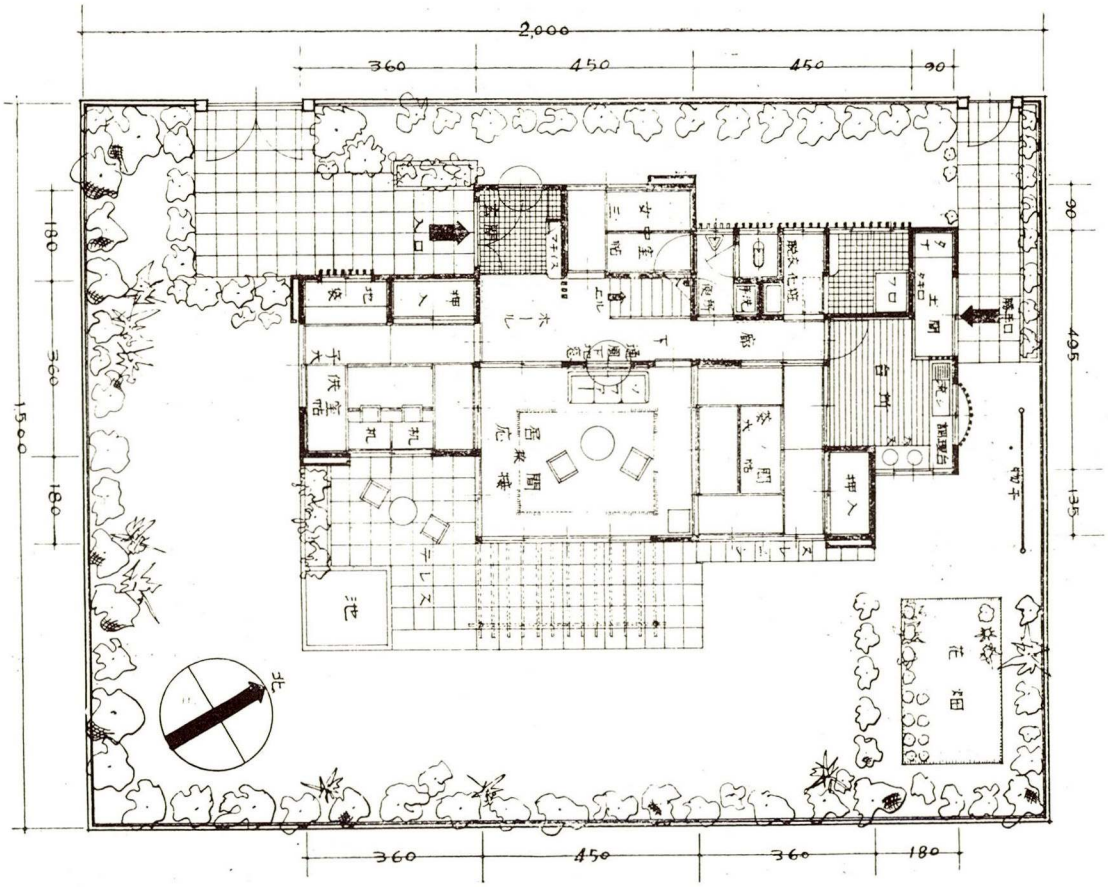


側　面　圖

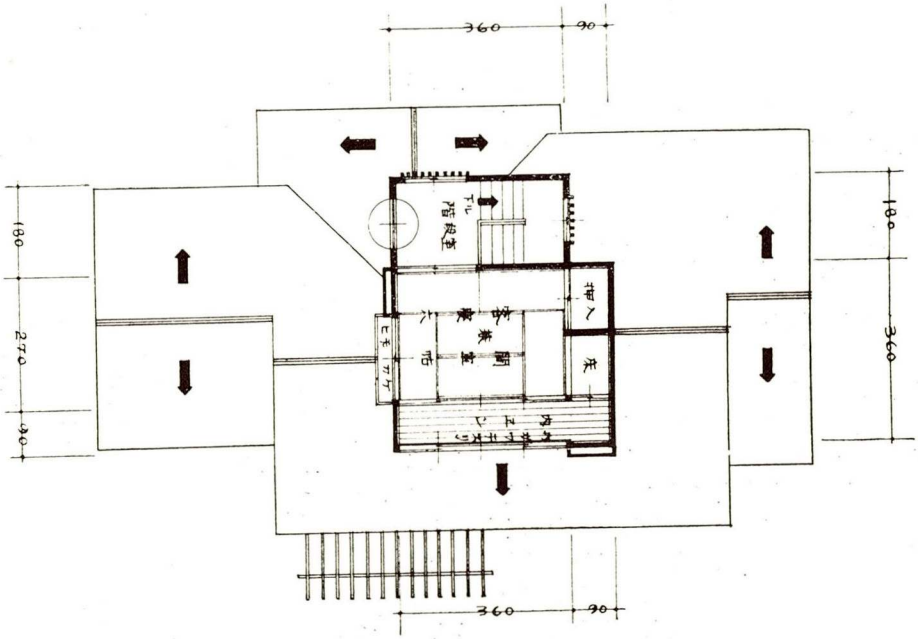
便　　所　内務省改良便所

内部一部オイルステン其他ペンキ、漆喰塗仕上、外部腰廻り横羽目板張り防腐剤塗り

メートル法に依る實用安價小住宅懸賞設計當選圖案　　三等三席　　高木　貞一　氏



第一階平面圖



第二階平面圖

1 2 階 平 面 圖

メートル法に依る實用安價小住宅懸賞設計當選圖案　　三等三席　　高木　貞一 氏

審査概評

審査員

池田實	岡田孝男
葛野壯一郎	高橋榮治
古塚正治	藤井厚二
南信	（五十音順）

應募圖案總數三百四十一の多きに達したのは此の擧が如何に一般の注目を引いたかを知るに足る審査の方針としては先づ間取を主にした、他の諸點も相當に考慮したのは無論のことである。第一次で百二十八案を抽出し、次に五十四案を得て、最後に十七案を殘こした。第二日にはこの中から更に選んで等次を附した。各案それぞれ苦心の跡徴すべく且特徴を備へて居るが、優劣の點に至ると各兄たり難く弟たり難しで、斷然光るものは遺憾乍ら見出し得なかつた。兎に角優良なるものは可成あつたが、新機軸を出して居ると思はれるものは比較的に少なかつた。

特に高調した實用安價なる條件がどの程度に徹底したか。實は工費の點をもつと深く考へて貰ひたかつた。工費を無視するのは確かに懸賞競技の一通弊である。

プランは一般に複雜で出入が多く簡單明快を欠くものが大部分を占めて居た。

規定の面積と二階建なる條件の爲めに大分苦心があつた樣である。特に二階は止むを得ず申譯に附したとしか思はれぬものが隨分あつた、尙大部分のものが構造を無視して二階をのせてある。又階段の架け方或は階段下の利用にも無理のあるものが夥しかつた。

物入押入の類が少ないのは此程度の住宅としては大なる欠點と思はれる。

メートル法の適用については種々の成案を得たこれは次の機會には貴重な資料として提供出來るものであらう。

唯甚だ遺憾に堪へないのは規則違反のものが可成あつたことである。紙の大さ製圖法等實質的に差支へない限り寬大に見て應募者の努力を無駄にしないやうに努めた。然し坪數の著しく超過するものだとか、平家建のものは已むを得ず除いた。

他人の案を其儘借りて來られたと認むるものが數點あつた、これは德義上にも大變殘念なことである。內に審査員の舊作を全然コツピーして提出されたのがあつた、これに至つては其意が那邊に有るのか蓋し諒解に苦しむ次第である。

以下入選各案に短評を試みやう。

第一等

平面は單簡明瞭で無理のない良案であるが二階の取り方に幾らか構造上の缺陷がある、二階の跳ね出しは必要の無いものであらう。

臺所は他室との關係上致方なかつたであらうが西日を受くるは遺憾である。エレベーションも單純で形も宜い。製圖は甚だ巧である。

第二等一席

各室の配置、採光、通風共に良く考案されてゐる、特に居間の床、緣側のあたりは苦心の跡を認める。又臺所を東南に面せしめ得たのは成功といへやう。大多數の案が二階には申譯に辛じて一間しか設けなかつたのに、これは有效に二間を取つたのは確に使用上便である。然し外觀がその割に振はないのは惜しい。

第二等二席

第一階平面は巧妙に配置されてゐるが二階の寢室は窮屈で殆ど使用出來難いであらう。

外壁を石綿スレート張りにしたのは新機軸であるが結果はどうであらう。エレベーションはうまいが難をいへば少し複雜に過ぎる。

第三等一席

殆ど正方形に平面を纏め、凹凸なく明快且二階の架方にも無理がない。然し子供室とベランダーとの取合ひの部分は尙考ふる餘地がある。正方形の平面に禍されて外觀は甚だしき破綻を示して居る、まだまだ練る必要があらう。

第三等二席

他の入選案とは少し趣の變つた平面であるが仲々巧者なもの。難は子供寢室と兩親の寢室とが上下に餘り隔り過ぎる點にある一考を要す。此のエレベーションでは屋根裏が利用出來そうに思はれる。圖面は達者に引いてある。

第三等三席

間取としては平凡であるが無理なく素直に出來てゐる。二階の重ね方には無理がある。階上の六疊內緣は緣側をやめて八疊とする方宜しからう。方位の變なのは如何なる理由に基づくや、これは當然南を正面とすべきであらう。

メートル法による住宅の設計に就いて

藤井厚二

メートル法が一般に實施さるるには相當の年月を要しますが、殊に建築物の設計及施工に於ては、先づ使用する建築材料のすべてが之によつて統一され、工事に關係する職工も之に明かでないと、極めて複雜になつて中々困難なことであると思ひます。併し、木造住宅のメートル法による設計に就いて、舊來の寸尺間によつて標準を定めて製造されたる材料を使用しても、甚しく複雜にはならないと思ひます。殊に、關西地方にては一間を六尺六寸として二米に改め得る便がありますから、比較的施工も容易です。

今回本協會に於て、メートル法による小住宅の建築圖案が募集されましたのは洵に時機をえたことで、メートル法の普及には大なる効果を齎すことゝ思ひますが、之に就いての私の經驗を述べて、參考に供したいと思ひます。

舊來の住宅では、其の室の廣さは四疊半六疊八疊等の如く疊の枚數によつて表されて居りますが、疊の大さは地方によつて多少相違して一樣でありません。室の周圍の相對する壁心(柱心)の距離を、地方によつて六尺或は六尺三寸の倍數に定め、之により疊の大さは割付けられて其の寸法が決定されます。從つて、疊一枚の長さは六尺或は六尺三寸よりも、其の倍數を以て柱の大さ(幅)を除したる寸法だけ短い譯です。京阪神地方に於ては之と異なつて、主要なる室の疊の大さを長さ六尺三寸幅三尺一寸五分と先づ定めて、其の倍數によつて室の內法の大さとします。從つて相對する壁に於ける柱心の距離は六尺三寸の倍數に柱の巾を加へたものですから、一間を六尺六寸即ち二米となし、柱心の距離を二米の倍數となすも、舊來の材料を使用しての施工に甚しい不便を感じません。例へば、十二糎角の太さの柱を使つて八疊間を造るに、柱心にて四米平方の廣さとすれば、一枚の疊の大さは長さ一米九十四糎(六尺四寸二厘)巾九十四糎(三尺二寸一厘)となり、從來のものと甚しい相違はありません。私は大正九年の冬に自己の小住宅をメートル法によつて設計して以來、次の如き寸法を標準とし常に之によつて居りますが、些の不便をも感じません。

室の廣さ　腰掛式座式何れの場合も、長さ及び幅を一米の倍數となし、周圍の壁內に於ける柱の間隔は一米・一米半・二米の三種。

床の高さ　地盤より一階床面まで五十五乃至六十糎、同一の階にて腰掛式と座式とを併用する場合には、前者の床面を之によつて定め、後者の床面は前者よりも三十乃至三十三糎高くなす。

天井の高さ　床面より二百二十乃至二百七十糎、多くの場合に、腰掛式の室に於ては二百七十糎、座式の室にあつてはそれと相違せる床面の高さを減じたる二百三十七乃至二百四十糎。

窓の大さ及び位置　柱の間隔が一米・一米半・二米の三種なる故、窓の幅は柱の巾を十糎とせば九十糎・百四十糎・百九十糎の三種にして引違障子を嵌む。九十糎のものは便所の如きに多く使用し、窓敷居上端の高さは床面より七十乃至百二十糎。主なる室の窓の幅は百四十糎或は百九十糎にして敷居の高さは七十糎。但し、之は腰掛式の床面よりの寸法なるを以て座式の疊面より窓臺までは三十七乃至四十

住宅愛

――家の管理と活用――

葛野壯一郎

糎、窓の高さは内法にて百五十糎、從つて窓鴨居下端より天井下端までは二百七十糎（床面より天井下端まで）より七十糎（床面より窓敷居まで）と百五十糎（窓内法）とを減じたる五十糎。

出入口の大さ　幅は開戸引戸何れも開放し得る内法にて七十糎、八十糎、九十糎の三種となし、便所の如きにては七十糎、玄關の如きにては九十糎、多くの室に於ては八十糎。但し、隣室と併用する爲め廣く開放する必要ある出入口に於ては、百九十乃至三百九十糎とします。高さは玄關にては二百糎、各室にては多く其の上部に欄間を設け、出入口の内法は腰掛式の室にて百八十五乃至百八十九糎、座式の室にて百七十六乃至百八十糎。欄間は出入口との間に蟻壁を設けず内法三十糎（この寸法は嵌め込む紙障子に使用する紙の一枚の幅より定めたるもの）の高さとします。

各材の大さ　柱の太さは十糎角荷重の大なる場合或は大なる住宅にては十二糎角。桁梁の類は十二、十五、二十、二十五、三十糎の高さ。敷居、鴨居、方立は見付四糎廻縁は見付四糎半、竿縁は斷面積九平方糎、或は十二平方糎（竿縁天井の場合に天井板が舊來の一間の長さにて、張上げに不足せば、之を二分して、竿縁に高さの低き幅の大なるものを使用し、其上にて不足せるだけの間隔を置いて張る。）巾木は腰掛式の室にて腰羽目なく巾木のみ使用し、其の高さは十二糎或は十五糎。

住宅の間取や構造設備の如何が常に愼重に考へられなければならぬは勿論で有るが、只單に間取がよいとか構造設備が充分であると言ふだけでは、家は本當の活用をなさない。家の眞の活用は寧ろ其居住者の住み方即ち保管や利用方法の如何に因る所が多いと考へる。いくら正宗の銘刀でも、持ち手如何に因つては害有つて益の無いのと同じ道理で有る。

衣や食に就ても同様の事が言はれる。單に縞柄や色合仕立の如何が重要な事は勿論であるが、さて出來上つた衣類の保管や取合せ着こなしに因つて、其活用に大變な相違が生ずる。食に關しても只材料や調理だけではない。寧ろ食ひ方の如何によつて好味いものも意外に惡味くなつたり、まづい物が思ひの外好味かつたりするので有る。

不用意で亂暴に住み荒らされた家程慘めなものは無い。建築家の苦心も凡て水泡に歸する。新らしく出來上つた家は學校の新らしい卒業生の様なもので有る。卒業の成績だけでは何もならない。一歩社會へ出てから如何に活動するかゞ問題で有る。家が立派に出來上つたと言ふ事は、丁度卒業の成績が優等であつたといふに同じい。卒業成績が優等といふ事は誠に結構には相違ないが、社會人として是れを充分活用する事に因つて眞の効果があらわれる道理で有る。

住宅の保管や利用の問題は、全く是れと同様で保管者の心掛けや住み方即ち利用如何の考究は何人にも最も大切な實際問題と考へられるので有る。

◇

何と言つても自分の家を持ち得る人は小數で有る。百人の内の九十五人までは――或はそれ以上――他人が營利的に建てた出來合の借家に住む運命を持つて居る。衣

や食の問題は或程度まで滿足できても住の滿足を得る事はなか〳〵容易では無い。此事實は社會的に觀て誠に遺憾至極では有るが、其れが現實で有るから何ともならない。偉い政治家が出現して住宅政策を徹底すれば兎も角だが、當分日本にそんな偉い人が出やうとは想像されない。依然として多數者は出來合の不完全な家で滿足しなければならぬので有る。

多數者と言ふ立前からすると、比較的上流の住宅建築の如きは如何でもよいので有る。お氣に入りの建築士に依頼して、好きな樣に勝手に建てられたら其れで片附くので有る。併し多數者の住宅、出來合の借家住宅の建築は左樣は行かない。國民大多數の住の問題に密接に關聯するので有るから、是れは國家的社會的に最重要である。住の問題に觸れずして生活の向上も思想の善導も有る筈はない。吾國の識者は兎角此一面を閑却し勝ちで有るが、其れでは誠に困るので有る。畸形的な文化の進歩は寧ろ國家的に危險である。眞の文化は多數國民生活の充實を內容としなければうそだ。其處にも此處にももぬけの殻のやうな生活ばかりで、いくら强國威張りをして見ても其んなものには何にも價値は無いので有る。

◇

新しいものを造るといふ事と、造られた新らしいものを如何に利用するかといふ事は兩方とも必要である。どちらかと言ふと造られた物を如何に利用するかと言ふ方が、一層むつかしいかも知れない。元來が建築といふ仕事は束縛の多い仕事では有るが、すでに出來上つた他人の造つた物を利用する點になると、色々な點に於て不都合な束縛を感ぜざるを得ない。殊に其れが不用意に造られた借家建築の類に於ては、一層甚しいものが有る。必ずしも工費を惜まぬと言ふ事のみが家を善くする所以では無い。要は居住者の幸福を理想とする細心の注意が最必要で有る。貸す方の營利的立場のみから考へずに、借りる方の立場を充分に考慮に入れて計畫されなければならぬ。造られた物が如何に利用さるゝかといふ點である。或は如何に利用されなければならぬかと言つた方がもつと適切かも知れない。吾人は一面純粹な生活の理想の下に家を支配するので有る。既に造られた家を如何に利用するかと言ふ事は、どう家を支配するかといふのと同じで有る。

◇

『借家住居』と言ふ言葉には色々の面白く無い意味が含まれて居るやうで有る。『寓所』或は『寓居』と言ふ言葉にも同樣の生活に對する不安を意味して居る。『かりずまゐ』即ち英語の『テンポラリ・レジデンス』と言つた樣な意味が强く響くので有る。此世は假の世などと言ふ佛教殊に淨土宗の方面から、相當根强く植えつけられた思想と相俟つて、人生を出來合の頗る安價なかりものと評價し去る樣な嫌ひが有る。生活といふ事が本當に考へられない。人間と生れて私はこれ程不幸はないと信ずる。自分に一番大切な家を假の家とみくびり、又と得られるか得られないか分らない人生を、假の世などと見限つて了ふのは、凡そ是れ程の不心得はないと考へるので有る。

人生に假の人世等と言つたものが無いと同じく、家にも假の家などと言ふものはない。すべてが皆本當の物で有る。幸福であらふが不幸であらふが人世は人世として凡て眞實で有る。同樣に自分の持家に住まふが借家住居であらふが家は家である。家といふ概念に權實と二つの區別をするのは本當ではない。たとへ共居住期間が三月や半歲で有つたとしても、或は又五年七年と延びたとしてもそれは同じで有る。一日だつて無駄が有つてはならないのが吾人の生活の眞實相では有るまいかと私は考へる。古來人生五十年等といつた樣な相場を決めて、何かしら人生に或る期間を定めるやうな嫌ひが有るが是れは非常な間違ひで有る。昨日は昨日、明日は明日で有る。結局は今日一日より他はないので有る。今日の一日を滿足して暮すことで有る。今日を別物にして昨日や明日を考へるのは愚の極で有

る。住宅を考へるにしても、昨日の家や明日の家をいくら考へて見たつて何にもならない。理想の住宅の間取が机の上に山程出來ても、其實現は何時の事やら分らないでは何にもならない。今日の生活に間に合ふ物でなければ何の價値をも與へないので有る。昨日や明日の家では無く先づ今日の家を眞劍に考へて見たいと私は望むので有る。それが自分の持家であらふが借家であらふが、或は又一時的であらふが永久的で有らふが、其んな事は問ふ所ではない。現に住む可く今運命づけられて居る其家について眞實に考へて見たいので有る。

◇

家の管理や利用に就て第一に考へて欲しい事は、現在其人が住んで居る家を愛する事である。家を愛する事即ち『住宅愛』の根本觀念なしには吾々の生活は成り立たない。『住宅愛』は即『生活愛』である。心から家を愛すると言ふ氣持が土臺となつて始めて本當の家の管理や利用が出來ると私は信ずる。生活の充實や向上もやはり根本的な『住宅愛』から出發しなければ嘘である。不具な子供程親にとつてはいとしさ可愛さが增すと言ふでは無いか。『住宅愛』を徹底すれば、立派な家よりも不完全な出來合の借家建の方が一層可憐に感ぜられるとも考へ得る。不幸な兩親が不具な小供を如何にして一人前の人間並として世の中に送り出すかに苦心するが如く、割の惡い借家住居の人達は間に合はない借家普請として其家を最初から見くびるかわりに、如何すれば左樣した家が住宅として吾人の要求を世間並に充實す可きかを工夫し努力す可きで有ると私は考へる。

家に對して誠に冷淡でぞんざいな事實を借家住居の人に對して多く見受ける。殊にそれが最下層の人達ならば兎に角、相當な智識階級の人達に多いのは甚だ遺憾である。家に對して冷淡といふ事は、つまり生活に對して無關心といふことで有り、食つて寢て小供を生むといふ外に生活らしい生活が無いといふに外ならない。其れの何處にも人間らしい精神的な何ものをも持つて居ない、言はゞ犬猫の生活と其內容に於て餘り大差はない事になるので有る。教養と言ふことは人間に本當の生活を教へるに外ならない。教養のあると言はれる人達で、其家を顧みないと言ふに至つては言語道斷である。

◇

『住宅愛』は住宅に對するあらゆる方面からの觀察と智識を要求する。其愛する者に對して何でも知らふと努めるのが人間の通有性である。本當の『住宅愛』は周到な觀察と智識の上に築かれなければならぬ。只やたらと奇麗にく〳〵と計りに朝から晚まで、箒と埃たゝきを以て立ち働らくだけが家を愛する所以ではない事は明らかである。又隅から隅まで無闇と飾り立てる事でもない。それは丁度愛人を奇麗に着飾らせて喜んで居る樣なものである。何れにしても打ちやつて置くよりは良いには相違ないが、それで本當に家を愛して居ると考へたら大きな間違ひである。

家の管理や利用は合理的で有らねばならぬ。盲目的であつてはならない。手水鉢の水にぼうふらが湧いて居ても手さへ洗へばそれですむと言つた樣な淸潔觀念では駄目である。そんな水ならば寧ろ洗はない方がどれだけ衛生的だか分らない。見えるところばかり淸潔にしたからとて其れだけで家が奇麗になつたとは言へない。見えない天井裏や床下に一層の注意が必要である。箪笥や書棚の裏や釣棚の上に一杯埃を貯めて置いて平氣で居るやうな掃除の仕方では、本當に家の淸潔が保たれて居るとは言へまい。疊の如きも一年一度の日光消毒だけでは充分安心は出來ないのである。

家を淸潔にするといふ事は居住者の心掛如何に因るは勿論であるが、同時に建設當初に於ける建設者の注意も亦大切である。家のどの部分も常に淸潔を保ち得る樣、掃除のし易い構造を工夫さる可きである。氣は付いて居てもか弱い女手などでは掃除の出來ない部分が多い。箪笥や書棚の如きも出來るだけ小部分の組立式で、何時でも自由に持ちはこびが出來る物を理想とする。重い卓子の如きは其脚に車をつけて、何時でも自由に位置を換へ得る樣に工夫する必要があらふと考へる。

◇

何でも自分の愛するものを人は大切にする。『住宅愛』は當然家を大切に取扱ふ事を教へる。家を其隅々まで清潔にする事も無論家を大切に考へる一つには相違ないが、併しそれだけで『住宅愛』は徹底したとは言へない。和風の家には破れ易いもの、汚れ易いもの、こわれ易いものが多い。襖にしても障子にしても疊にしても壁にしても、其他凡ての木部にしても同様である。出來上つた新築のほんの二三ヶ月は兎に角居住者にすがゝしい感じを與へるが、ぞんざいな居住者――借家人――に引つかゝると、もの、半歳もたゝない内に襖も障子も壁も破れや傷だらけで、柱や鴨居にはやたらと釘がうたれ手垢のあとがそこにもこゝにも見苦しい斑紋を現はす。破れ易いものや汚れ易いものが破れたり汚れたりする事に何の不思議はないと言へばそれまでだが、注意の仕方では破損を出來るだけ輕減し得る筈である。

『あばら家』と言ふ言葉程日本の下層階級の家をうまく言ひ現はした言葉はないと考へる。殆んど凡てが『あばら家』である。只さへ汚れ易くこわれ易い家なので有るから、其れを少しでも不注意に取扱つたらたまつた物ではない。其取扱ひの上に細心の注意が必要である。一面から考へると此問題は、かうした階級の家に對して其建設者の方からも其使用材料や構造に對する新らしい工夫が欲しいと考へるのが至當であるかも知れない。併し材料が何であらふと構造が何う進歩するとしても、依然居住者に本當の注意がなかつたならば其結果には大差はない。何とあつても根本的に『住宅愛』の精神から出發しなければ駄目だと信ずる。

家を飾り立てるといふ事は必ずしも批難す可き事ではないかも知れない。併し住宅裝飾の眞の意義は、只譯もなく無閑と飾り立てる事で無いのは明らかである。家具調度裝飾品が凡べて在る可き本當の位置に置かれて整然と保たるゝ調和其ものゝで有らねばならぬ。徒らに高價な物をならべ立てたからと言つて其れだけでは裝飾の意義をなさない。寧ろ手慣れた持ち合せの物を適當に按配するところに裝飾のアートは有る。床の間の飾り附けよりも先ず臺所道具の配列から考へて見たいので有る。戸棚の上の雜物や食料品の幷べ方にも巧拙は有り、見て以て最も心持のよい幷べ方は、同時に使用上にも最も便利で有る筈だ。人間がそれ〴〵必要の位置に置かれた時其能力を最もよく發揮する様に、家でも凡ての家具や調度が在る可き位置に置かれた時其價値が本當に知らるゝので有る。

◇

必要なものが欠けて居るのは無駄な物が餘分にあるのと同じ様に不便を感ずる。人間の生活には何が本當に必要で何が無駄で有るかを考へて見たいので有る。而して吾々は出來るだけ必要なものを充實すると共に、一面常に無駄な物を、努めて省く事に注意し度い。便利に都合よく暮すには、只間取がよいと言ふ計りではいけない。是非とも是れに伴なふ家具や調度を整へる必要が有るので有る。出來そこなつた間取の家でも左様した細心の注意によつて、多少なりとも其欠點を補ふ事が出來ると私は信ずるので有る。

暗い部屋も明るく、狭い部屋も廣く、硬い部屋も軟らかに感じさせ得るのは裝飾のアートである。『裝飾藝術の無用論』とか『無裝飾の裝飾』と言つた様な事も言はれては居るが、それは完全な物の上の話しで有つて、多數の家殊に出來合の住宅の如きは是れに適度な裝飾を加へて幾分なりとも住心地良くする必要がある。不都合な家をより都合よく、見苦しい家をより美くしくするのが裝飾技術である。

裝飾的趣味や技能の有る人と無い人とでは、全く同一の間取や構造の家でも其効果に就ては雲泥の相違が有る。斯うした趣味や技能は男子よりも寧ろ婦人に必要であるが、一般に吾國の婦人には左様した心掛けや教養が欠けて居る様である。此點は特に女子教育者の一考を煩し度い。凡ての家材道具や持ち合せの裝飾品を活かして使ふ事である。新規な物を買ひ整へるにしても其れは僅小の價格の物で充分間に合す事が出來る。所謂『民藝品』で充分なので有る。

◇

園藝趣味や讀書趣味の豐かな家は、常に其住宅に生々した新鮮な氣持をそへる事が出來る。花卉の飾られない部屋には生氣が無い。床の間、棚の上、卓上、窓際と何處にあつても時候々々の美くしい花卉程吾々の眼を樂しましめ心を慰める物はない。美くしい圖書も亦安價な裝飾品の一つである。花卉のすくない季節には其代用として隨所に飾る事が出來、吾人の眼と心に無限の好感を與へる。

高價な骨董的な書畫幅等は吾人に何の必要をも感じさせない。知人や友人の墨跡や暇な折りの自分自身の筆のすさびや子供の自由畫に餘人の感知し得ない興趣があるでは無いか。窓のカーテン、椅子張、クツシヨン、テーブルクロース、壁掛等專門の裝飾師を煩す迄もなく主婦の手藝で澤山である。棚の上の置物が無ければ小供が學校で造つて來た手藝品で充分目的を達し得るのである。家具の塗換への如きも出來合の塗料を買つて來て主婦自身の手でやつて見たいものである。

要するに本當な行き屆いた家の管理や活用は『住宅愛』の發露で有り度いのである。『母性愛』が不具の子供程かわゆく其教養に全力をつくす樣に、大多數の人が住む可く運命附けられて居る不都合な出來合の借家建築の上に輝やかしい不斷の『住宅愛』の發現を私は望んで止まないので有る。（了）

（昭和七、四、一三）

小住宅問題雜考

南信

庭を見る。晩春の陽がうららかに照り映え、木々の芽はのび、雜草は勢よくもえ出す。若々しい生命が地上のあらゆるものの上に光つて來る。

吾々の時代にも春が來つゝある。或は舊い文明に冬が來つゝあるといふ方が正しいかも知れぬ。大きな梧桐の葉——そういふ感じに似た古い文明、勢よく繁つて居た制度の葉が將に落ちんとする。その下からもえ出でんとする新らしい時代への準備の芽がふくらみかけて行く。そういふ時代に吾々は立つて居るのかも知れぬ。

そういふ芽の一つとして小住宅問題は存在する。私はそうも考へて居る。

小住宅の問題は關係する所が極めて廣汎であつて、これを一朝一夕に論ずることは絶對に不可能である。「建築と社會」が此の問題に就て特輯するといふので、稿を求められたのであるが、自分は此の問題に就てはむしろ門外漢であつて、或は甚だしい認識不足を曝露しないものでもない。此の點はあらかじめ御諒承を願つて置く次第である。

最初に小住宅といふものは如何なるものであるかといふ事を考へて置く必要がある。

小住宅といふ言葉は色々な意味を持つて居る。所謂週末住宅の如きもの、或は一種の茶室建築の如きもの、或は小市民が低利資金を借りて建てる住宅の如きもの。これらのものは一樣に小住宅である。私は假に是等の小住宅を個人主義的小住宅と名付けて置き度いと思ふが、その大小はあれ等しく所謂ブルジヨアイデオロギーの上に立脚する所のものである。

これ等の小住宅に就ても建築家の考慮を拂ふべき問題は多々存在する。然し是等の小住宅の持つ特性は建築者の主觀によつて個々別々であるといふ點に存在する。或者は日本風の建築でなければならないといふし、或者は印度風の建築が良いといふ、或者はアメリカ

風を、或者はゴシックを、或者は桃山式を……そしてそれが便利であれ不便であれ、合理的であれ不合理であれ、問題は唯好むか否かに懸るので、これ等のものに對して建築家は餘りに深入りする事を許されないのである。だから私はこれ等の小住宅に就て概念的な議論をするといふ事は無意味でもあり、不可能でもあると考へて居る。これは寧ろその場に立つた時考へれば良い事である。

小住宅として最も問題になるのは勤勞階級の住宅である。此の階級に屬するものは原則として自ら住宅を建築する能力を持たない。多くは借家の形式で企業家が建築した住宅に對し、建築費を償却して行くと同時に利潤を與へて行くのである。此の種の住宅の居住者は自らの嗜好によつて住宅の樣式を撰擇して行く餘裕と自由とを持たないといふ特性を持つ。私は假に此の種の住宅を社會主義的小住宅と名づける。

此の社會主義的小住宅の現狀はどうなつて居るかといふに、或る一二の例外を除いては、統制のない小企業家の自由に放任されて居る。その工費に於ても、家賃に於ても所謂需用と供給との經濟原則の上に立つ自由契約に依つて居て、企業家は居住者の居住の目的に適合するかどうかといふ事を考へるよりも、第一義的に彼等の企業が如何に多くの利潤を生み得るかと云ふ事に考慮を拂つて建築する。居住者も亦彼等の住宅が彼等の家族の生活に適合するか否かを考へるといふ事よりも、彼等の所得がその住宅の家賃を支拂ふのに充分であるかどうかに第一の考慮を置いて居住する。その結果として居住者は多くの場合、必要限度以下の住宅に滿足しなければならない狀態におかれてある。

勿論此の必要限度といふ事にも議論はある。如何なる目やすを以て必要限度とするかはゆるかせに斷定する事が出來ない重要な問題である。これは生活といふものゝ本質を確實に握つて、其の生活を遂行する上に無くてならないものの數量を定め、然る上にはつきりした限度を附すべきである。

が、何れにしても今日の小住宅に於てはその居住狀態が必要限度を遙に下つて居るといふ事は斷言しても差支無いと思ふ。

例へば睡眠といふ一つの問題を考へて見る。今日の貧困層の居住狀態を私ははつきり知らないのであるが、私の知つて居る或る家族は三帖と四帖半の二室を有する住宅に（住宅といふ言葉は少し變なのであるが）年寄夫婦と若い者夫婦とその二人の兄弟が居住して居る。七帖半に六人の家族であつて一帖四分の一に對して一人の居住者の割合になつて居る。これは勿論最惡の生活者ではないのであるから、その生活狀態も最惡の場合では無いと信ずる。或る時、或る紡績工場の寄宿舍を設計する爲めに、同種工場の寄宿舍の狀態を調べて見たが、その寢室の割合は寄宿人一人當り一帖半の疊數を有する樣になつて居た。こういふ例から見て、今日の下層住宅の廣さといふものは、一人當り疊數が一帖乃至一帖半になつて居りはしないだらうか。此の廣さは恐くは身體を橫へる爲の最低限度であつて、是を以て必要限度と定めて良いかどうかには非常に多くの問題がある。

人は呼吸をする。そして充分に呼吸しなければならない。これは生きる爲めに絕對に必要な事なのである。寢室の廣さは勿論身體を橫へるに充分な床の面積を必要とするけれども、同時に呼吸といふ生物學的な一つの現象を防害してはならない。然らば一人當り一帖半の寢室に於て充分に呼吸し得るであらうかどうか。自分の經驗としては窓を開くかどうかしない限り呼吸の困難を感ずる。

一體こういふ問題は衛生學者の論斷を待たなければならない事ではあるが、自分の知つたかぶりを許されるなれば、成人が一時間の呼吸に依つて排出する炭酸瓦斯は、烈しい勞働をしない時に於て約〇・六立方尺である。今日の衛生學はどういふ風に教へて居るか知らないけれども、空氣中に一萬分の六以上の炭酸瓦斯を含む時は衛生上危險であると私は聞いて居る。勿論炭酸瓦斯そのものゝ有害無害には議論があるとしても、炭酸瓦斯と同時に發生する人體排泄

物は可及的に避けなければならない。此の一萬分の六の炭酸瓦斯含有量を危險ならざる限度と假定するならば、普通清淨な空氣中にも約一萬分の四の炭酸瓦斯を含むものであるから、呼吸に依つて汚染される度合を一萬分の二としなければならない。成人一人が一時間に〇・六立方尺の炭酸瓦斯を排泄すれば、その一時間に汚染する空氣の量は三千立方尺になるわけである。然るに一帖半の室の有する空氣量は八尺の天井高さとすれば二百四十立方尺に過ぎない。此の空氣量は實に必要とされるものゝ十分の一以下でしか有り得ない。此の室に於て安全に呼吸する爲めには室内の空氣を一時間十回以上更新せねばならない。之は機械力に依らない限り殆ど不可能である。

一例を以てしても右の如き狀態にある。これを如何に改善し統制して行かなければならないかは、政治的に、社會的に、經濟的に、技術的にあらゆる方面から分析し、解剖し、考査し、決定して行かなければならない問題では無いかと思ふ。

ル・コルビュジエは住むといふ事は一つの生物學的現象であると言つた。住宅といふものは住む爲めの機械であると言つた。小住宅の問題を社會的に考査して行く場合には、此の言葉は金科玉條であらねばならない。

日本には七千萬の人口がある。或る無産團體の調査する所によれば年收一千圓以下の所謂無産大衆は九十六パーセントに達して居ると言ふ。これを以て眞なりとすれば、日本には六千五百萬以上の無産者を有することとなる。此の大衆が居住する住宅は少くとも一千萬戸以上に達するであらう。是等の家屋の壽命を五十年と見れば、年々新築されて行く住宅は二十萬戸を下らない。之を金額に見積つて一億圓を下るまい。此の大量に生産されて行く小住宅を統制すると否とは、有らゆる方面から見て大なる得失の分岐點である。

小住宅の問題は之を建築的に見て少くとも二つの重要な觀測點があると思ふ。その一つは必要最小限度の決定であり、他の一つは生産過程の合理化である。

最小限度の決定に關しては數年以來國際會議が開催され、着々研究が進められて居る相であるが、唯、甚だしく國情を異にする我國に於ては此の會議の決定は或はそのまま實際に役立たしめる事が出來ないかも知れぬ。吾々の風習を以てして住居空間を如何に決定したならば良いであらうか。比較的高溫高濕度な夏を有する吾々の氣候に對して如何なる建築構造が適合するか。等々の問題はすべて問題として殘されて居る。是等の問題に就ては、此の特輯號が必ずや多くの名論を集めるであらうと信ずるからそれにまつこととする。唯此の機會に當つていささか建築協會に對する不平の一つを漏すことを許していたゞき度い。

建築協會は住宅委員會といふものを作つて小住宅の研究をする事になつて居る。自分もその委員の末席を汚して居るのであるが、此の委員會の最初の一ケ年は家相の是非と言ふ問題に終始し、委員會の決定案として出したプランの第一の條件として家相を置いたと言ふ事である。

建築は一つの科學である。少くとも科學の上に立脚する技術である（と自分は考へて居る）。此の技術上の公式の決定に家相といふ迷信を無批判に取入れた事には大きな間違が無いとは言へない。若しこれが一つの賣品であつた場合には私は敢てこれを攻め樣とはしないが、いやしくも中外に指示せんとした規準である以上、私は絶對に科學的である事を要望するのである。

話は横道にそれた。も一度本題に立ち歸らなければならない。

私は今非常に面白い言葉を發見したのである。それはあらゆる生産形體は高き利潤と、高き勞銀と、安き販賣價格とを要求するといふ事である。建築も亦一つの生産形體に他ならない。特に私の言ふ社會的小建築に於ては此の一つの大原則の範圍を出でない事は明らかである。此の三つの相容れない要望を滿足せしめる唯一つの方法は能率の一途あるのみである。今日

の小住宅居住者が、居住上の最小限度の要求を滿足されないで居るといふ事は、居住者である所謂勤勞階級者の勞銀が少な過ぎる爲めであり、投資者の利潤が多きに過ぎる爲めであり、販賣價格が高きに過ぎる爲めである。今日の勤勞階級者の勞銀と投資者の利潤とを今日の狀態に止めて置くものとして、生活狀態を向上せしめる方法は建築生産費を低下せしめるよりない。此の建築費低減は如何にすれば行はれるか。

フォードは戰後物價指數が甚だしく上騰した時に當つて反對に生産費を低下せしめ得たといふ。今日の經濟組織下に於ては、唯大量生産のみがその目的を達し得るものであらう。建築に於ける大量生産は嚴密な規格の制定にまたなければならない。此の規格が如何に制定されなければならない。か、之は多くの技術家が團結して研究しなければならない問題である。今日の吾々の住宅も勿論或る程度の規格を持つては居る。然し建築の大部は現場加工に依つて行はれ一つの住宅の建築に少くとも二ケ月の日子を要し、現場從業員は坪當り二十人を下らない現狀にある是等の工程の或るものは、工場生産に移して生産費の低下を見る事が可能で有り得ると思はれる。例へば建具の如きものは、今日に於ても一部工場生産を行つて居る様であるが、一步進めてその枠類に及す事が出來るならば、現場に於ける造作工事の大部分を省略し得られる事は明らかである。若し然るとすれば生産費の幾部分かを低減し得ないかどうか。

次に建築材料の問題がある。今日に於て木材は必ずしも絶對の建築材料ではない。寧ろ都會地に於ける密集住宅に對しては、木材は最も不適當な材料でしかあり得ない。然るに尙ほ木材が主要な建築材料となつて居る所以のものは何と言つても工費が安くなるといふ點にあると考へられる。然し、例へば輕鐵骨構造を考へて見るのに、その建築手段の如何に依つては、木造建築に比して甚だしい騰貴を見ないですみはしないかと考へられる點がある。一例を擧げて見れば四吋角の米松の柱は四吋、七・七ポンドのアイビームと殆ど同量の垂直荷重に堪え得るが、その價格は約二倍半に過ぎない。又横材として巾四吋、セイ八吋の木梁は四吋、七・二五ポンドのチヤンネルと殆ど同量の等布荷重に堪える。そしてその價格の比は約一・二五倍に過ぎない。是等の點から考量して、骨格構造の費用は木材の場合と、鐵材の場合とを比較して一倍半前後の比率になりはしないかと思はれる。若し更に鐵材の自由な可構性を利用し、工場加工の範圍を廣くするならば、木材構造の費用と大差なき程度に低減し得るのではあるまいか。勿論これは自分の目分量であつて斷言は敢てしないが、研究の餘地は充分にあると思つて居る。

今日住宅は過剩であると見られて居るが、此の場合大量生産の事を考へると言ふ事は誠に時を得ない様に考へられるけれども、今日の過剩は甚だしい生活狀態の低下に原因して居るので、寧ろ救助を必要とするものであり、救助の目的に於ても生産費の低下は緊急の要務でなければならないと思はれる。

今日迄、所謂建築技術者は全く小住宅の問題を忘却し、小住宅は完全に下級建築勞働者に放任されて居た形である。小住宅は唯傳統と慣習との中に蝕ばまれて居る觀がある。今日これに新らしい生命を吹き込まない限り、吾々の小住宅は近く救ふべからざるものとなつて了はないものではない。

今日小住宅居住者の家族員數はどの位になつて居るか統計を有しないので不明であるが、小家族主義になつて居る今日の狀態に於ては、四人乃至五人の程度にありはしないかと思はれる。獨逸の衛生學者は四人の家族に對して四十平方米の居住面積を要求して居る相である。此の要求が日本に於ても肯定されるならば今日の社會狀態に於て如何なる建築が建築されなければならないであらうか。

今日の下級勞働者の收入は不幸にして一日二圓を出でない狀態にある。これらの斷定は正確な統計にまたなければならないけれど

住宅空地考

淺野繁

も、四人の家族を扶養する最低限度の收入を月五十圓と見る事は甚だしく妥當を缺いて居らない事と信ずる。月收五十圓としてその四分の一を住居費に支出し得るものとすれば、彼等の居住すべき最低限度の住宅、四十平方米の住宅に對して家賃として支拂ひ得べき費用は十二圓五十錢を出づる事は不可能である。

十二圓五十錢の家賃に對して如何程の建築費を支出し得べきかは吾々の問題ではないが若し償却年限を十ケ年とし、年八朱の利率を加算するものとし、土地に對する代償を家屋に對する代償の二分の一と假定すれば、建築費として支出し得べき金額は七百圓となる。これは居住面積一平方米に就いて十七圓五十錢となり、今日の經濟事情としても必ずしも不可能の數字ではない。唯今日の極めて原始的な住宅生産を、より能率的な統制下に置く事によつて居住者の幸福を高める事は吾々の要望にたへない事である。

言はんとする處をつくしては居ないが、夜はすでにふけた。筆を擱く事とする。

春も間もなく逝くであらう。若葉の日も東の間である。やがて五月雨の陰鬱な空を見る。吾々の料理室にはやがてなめくぢが這ひまはる時節が來る。吾々の寢床は蚤の饗宴場となる。此の不潔と不快とから解放されて、充分な日光と空氣とを享受し、清淨な乾燥した空間に於て大衆の生活が光明化されると考へる事は、何と言つても不愉快な事ではない。

住宅とは、外界の襲撃より人を保護して、充分安全に生活し得る建物たるべし、と言ふ定義の如く、生存に適する建物と言ふばかりでなく、人の生活の保護を元としておる點よりして、住宅の計劃には、次の五項目が考慮せらるべきである。

一、氣候風土
二、土質環境
三、建築材料
四、風俗習慣
五、趣味嗜好

此要項により、住宅の平面計劃の實行手段として次の四要素を擧げることが出來る。

一、獨立及隔離
二、眺望及方位
三、便利及簡潔
四、採光及通風

以上の如き基礎事項を條件として、住宅の各部の平面的配列及形態を圖解して見ると、大體に於て第一圖、第二圖の如きものを得る。勿論此等の圖表は、計劃に當つての大體のよりどころを示したものであり、實際の場合に當つては其實況に從つて細部の取扱ひは千差萬別である。

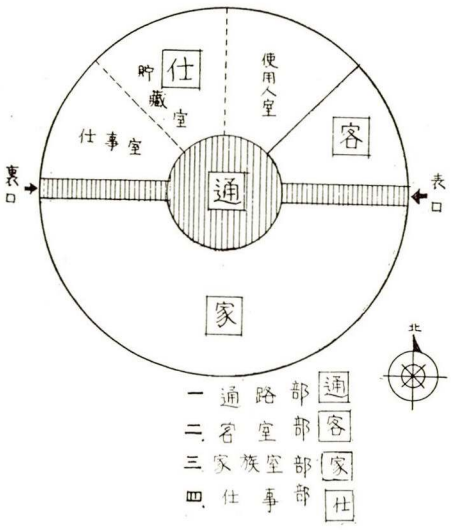
第一圖は住宅各部の配列狀況と、相互間の割合とを示したもので、平面計劃の大系を定めるに役立つものである。住宅内に於ける各種の室を、其性質の類似せるものを集めて、大別して見ると、次の四部門に分類し得る。

一、通路部——入口及廊下
二、客室部
三、家族室部
　　住居室及娯樂室
四、仕事室部——家庭内作業に關する部
　　A、仕事室
　　B、貯藏室
　　C、使用人室

以上の四部門を、各其機能に從ひ配列して見ると第一圖の如くなり、家族室部は住宅の中心となり最も良好なる位置におかれ、南に向つて建坪の約半分を之に與へる。客室部は東北の方向に置き約八分の一を、仕事室部は北より西北の方向に置き約八分の三を夫々

與へる。仕事室部は更に之を三分して各々が北より順次、使用人室、貯藏室、仕事室と言ふ順序に置かるべきである。通路部はこれ等の各室を夫々其獨立性を犯すことなく連結せしむるには、建物の中央部に廣間若しくは廊下を置いて、表及裏の出入口に拔け得らるると同時に、各室へ夫々他室を邪魔することなく達する様にすべきである。表に即ち正面玄關は客室部と家族室部との間に、裏口即ち勝手口、內玄關等は仕事室と家族室との間に置くを至當とする。

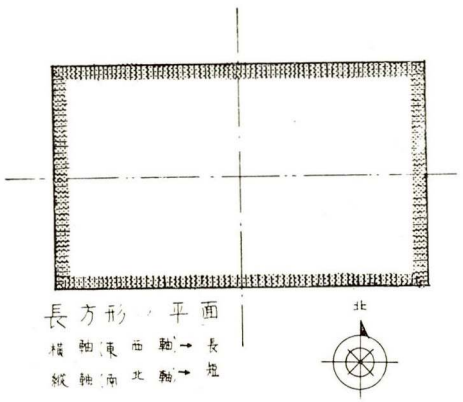
第一圖



彼様に考へて來ると建物の平面形は、どうしても第二圖に示す如く長方形となして、長軸を東西の方向に置くのを最も平面計劃の立てやすい形態となるのである。南からの最もよい光線を受ける面が多くなり、効果的な平面を得られるものである。（實例第一圖及第二圖參照）

次に考へる事は、敷地內に建物を如何に當てはめるかと言ふこと及空地と建物との面積の割合を如何にすべきか、と言ふことである。今回はこの問題に就いて稍詳しく

第二圖

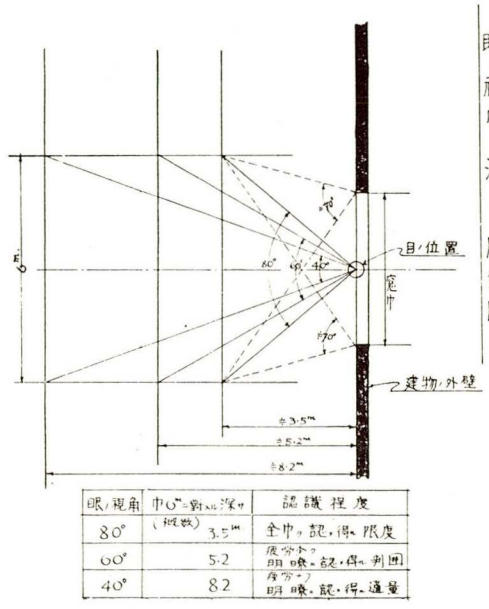


扱取つて見たいと思ふ。

住宅として建物の機能を充分に發揮するには、內部に於て、各室相互間の配列を良好ならしむべきは勿論であるが、更に外部に對し內外の關係を考慮して空地を如何に取るか即ち之が合理的に取扱はれたるとによる場合が多いのである。空地は廣い程よいにはちがひないが經濟方面よりして、常に其最小限度が考へられる。

今建物と空地との割合及其配列狀況を第三圖に示すごとく、四つの場合に付考へて見る。(1)は法令

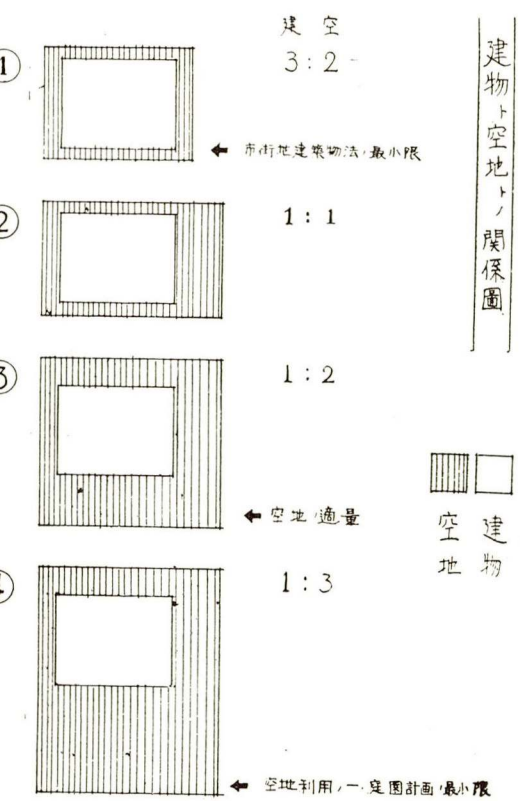
第四圖



眼ノ視角	中心ヨリ對象迄ノ深サ	認識程度
80°	(概數) 3.5m	全中ノ記憶ニ殘ル限度
60°	5.2	最モ明瞭ニ記憶ニ殘ル判圖
40°	8.2	最モ明瞭ニ記憶ニ殘ル通量

によりて規定せられてある最小限度で住宅として、空地は敷地の四割を殘す場合で圖を一見して明瞭なるごとく、空地は極めて少なく、寧ろ空地としての存在を認めがたい場合である。はたして之が生活に適合する最小限度として許し得るものであるかは、甚だ疑問である。(2)は敷地の半分の空地を有するもので、建物と空地が丁度一對一の割合となつたもの、(3)は建物の倍だけの空地を持つもの、即敷地の三分の二の空地あるとき、(4)は更に廣くなり、建物の三倍即敷

第三圖　建物ト空地トノ關係圖



地の四分の三だけの空地を有するものである。

次の各項に於て說明する空地としての各種の條件を滿足し、建物の機能を充分發揮せしむるには、少なくとも(3)の場合の如き空地を要求する。(1)の法令の定むる最小限度は不自由此上なく、更に此空地内に門をつくり、塀をめぐらすときは空地は殆どなくなる。(2)の場合でも、未だ不自由をまぬがれ得ない。(4)は庭園研究者方面で提案せるもので、住宅の空地を庭園としての一通りの計劃をなさんとするには、少なくともこれだけの空地を要求すると言ふのである。庭園計劃と言つた様に趣味的に考へる方はしばらくおき、こゝではそれぞれ空地を使用する目的から考察して、必要なだけの廣さを求めて見様と思ふのである。

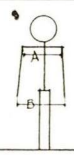
A　眺望として要求する空地の深さ

眼の視角を根據として考へて見た。この問題を定めるには勿論他に種々の條件もあらふが、それは暫くおき、生理的に疲勞なく眺め得る最小の深さを定めるには、眼の視角限度を根據とするのがよいと思ふ。視角限度以上に室の前景を開くことはよくない。眺望を目的とする庭は室から眺めて疲勞を感じない程度を欲する。近景は個々に之を眺めてもよろしく、從つて眼に入る範圍を狹く考へて差支へないが、遠景に於ては性質が或範圍を同時に眺むべきものなるが故に、眼球を廻轉することなしに一定巾を同時に眺め得ることが必要である。今最小深さと云ふ問題よりして、此遠景の位置を庭の最奥、即敷地境界線の位置に取り、同時に眺むべき巾に付いては之を六米と假定せり。此數字は、現在我國の住宅には居室としての最小、四疊半又は六疊間に付いて、窓を開き得る巾を三米とし其前庭と考へ得らるゝものは、約此巾の二倍とし、之が同時に眺め得らるゝことによりて、遠景の價値を生ずるものとせり。從て三米の二倍六米を得る。

次に眼の視角限度は八〇度で之より小なる角度に於て前記六米を含み得る深さを見出せばよいこと

第五圖　通路トシテ要求スル空地巾

I　人道ノミノ場合

一人体ノ巾		
① 自然ニ立ツ片		A（肩巾）47cm B（袖口ノ位置）60cm
② 片手ニ物ヲカヘタル片		C（最大巾）78cm
③ 両手ニ物ヲカヘタル片		D（最大巾）103cm
障害物ト人又ハ人ト人トノ間隔		10cm

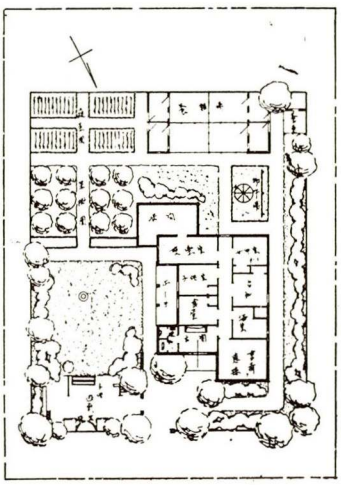
通路巾員		
	單線式	複線式
①	80cm	150cm
②	90	186
③	123	236

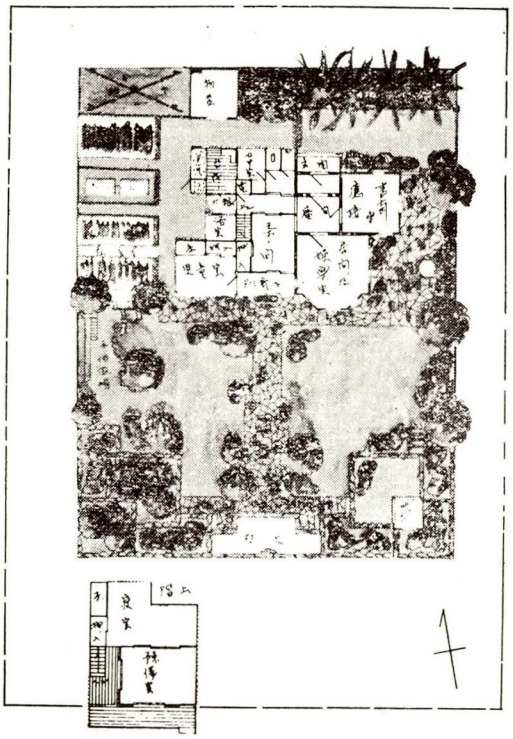
↑住宅ノ場合特ニ考慮ヲ要セザル範圍

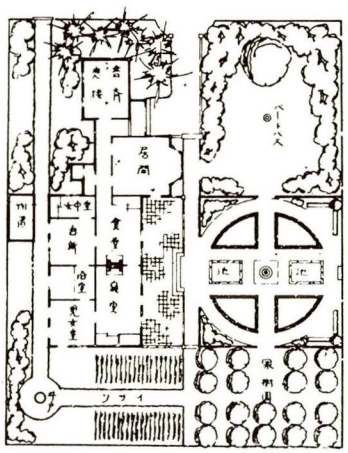
になる。然し八〇度は限度であつて此附近に於ては相當の疲勞を感ずる。疲勞なき角度としては四〇度前後多少の疲勞はあるが適量としては六〇度迄とされて居る。又窓より眺むる眼の位置に付いては、外壁の外面線にありとして窓巾の中央におく。之は同一距離に於て一定の巾を含む角は中央に於て最大、從つて同一角度に付此位置により見出す深さが、最小となるべきである（第四圖參照）

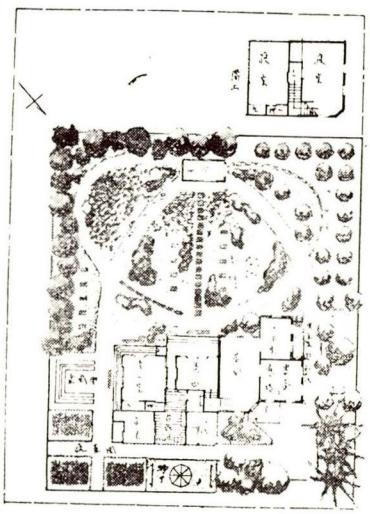
第四圖は前記三種の角度に對して、室の中央から六米を同時に、眺め得べき深さを示せるもので、八〇度の時は約三・五米、六〇度の時は約五・二米、四〇度の時は約八・二米となる。之によれば、庭として眺望を目的とする爲に、居室の前に與へる空地の深さは、少なくとも五米はなくてはならぬ。

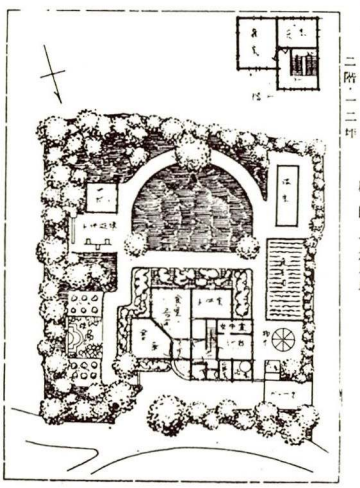
B　通路として要求する空地の巾











家の横の空地が往々にして、通行の用に供せらるゝことがある。此場合に於ても其目的に適するだけの幅員を必要とするもので、此問題を次の如く三つの場合に付考へて見る。

一、**人のみの通行の用に供せらるゝ場合**

二、**車（乳母車、手車、荷車、自轉車の類）の通行の用に供せらるゝ場合**

三、**自動車の通行の用に供せらるゝ場合**

第一の場合に付いては、最小住宅に於ても、しばゞ〳〵生ずる問題で、之を決定する寸法は、矢張人體の種々なる狀態に於ける巾を根本とすべきである。第五圖に示すものがそれで、何物も持たづ、自然の儘の姿勢で歩く場合、片手に抱へ得るだけの荷物を持つ場合、又之を兩手に持つ場合には、夫々寸法を異にする。最後に之等を組合せて、すり合を無視せる單線式の場合、（之は通路を頻繁に使用せざる場合）すり合を考へたる複線式の場合に付て最小限度の幅員を出せば、第五圖下表の通りである、其内普通住宅の場合、餘り考慮を要せざる、(2)及(3)の場合の複線式を除外しても、最小九〇糎となる。（掃除、物品運搬用の通路となりがちなれば、單線式であれば荷物をもつた場合を考へねばならぬ）更に交通頻繁ですり合を自由にせんとせば、一五〇糎を與へねばならぬ。故に如何なる場合でも一米以上を要求すると考ねばならぬ。

第二の場合に於て、乳母車、手車、自轉車のみの通路と考へるときは、第一の場合の幅員にて事足り得る。然し特に周圍に氣兼ねせずに此種の車を通さんとすれば一二〇糎以上を要求する。荷車の類（大八車、馬車、牛車等）に對しては、住宅内の通路としては、先づ考ふるに及ばず。

只中流以上の住宅に於て、自動車を所有し之が車庫に至る通路となる場合には、相當の幅員を要する。之は自動車の巾、及要求されたる左右の餘裕によりて決定すべきである。

自動車の巾（各種自動車寸法表より）

	トラック	乘用車
大	一、九五米	一、八〇米
中	一、七五	一、七〇
小	一、一六	一、四〇—一、五〇

左右の餘裕（最小限）

〇、五〇米

故に自動車通行用の幅員としては次の如し。

	單線式	複線式
大	二、九五米	五、四〇米
中	二、七五	五、〇〇 トラック
小	二、一六	三、八三
大	二、八〇	五、一〇
中	二、七〇	四、九〇 乘用車
小	二、四〇—二、五〇	四、三〇—四、五〇

住宅内に於ては、「トラック」は考へる必要なく、乘用車の最小のものを使用するとしても、單線式にして、最小限度として、二・五米を要求する。

故に通路として要求するものは普通の場合、一米以上、自動車路として二・五米以上の巾を要することとなる。

C　仕事場として要求する空地の廣さ

之は主として勝手口、浴室等の前の作業場及物干場として要求する場合である。

勝手口廻りは從來殊に空地に付いては、度外視され、建物内に計劃された臺所のみによりて、すべての仕事を爲すべく餘儀なくされる場合が多い。更に其臺所たるや、出來るだけ切りつめられて、單に料理に關する仕事のみを考へてつくられ甚だ狹小となり、洗濯等の重要なる家庭作業をなし得ない狀態である。彼様な料理以外の種々なる家庭作業は、同一建物内に其面積を與へることは割合不經濟となるを以つて、勝手口前の空地を利用して、附屬屋となして建築する方有利なる場合が多い。即勝手口の前に相當の空地を殘し置き、將來隨時、簡單なる上屋式の建築をなして、洗濯場、或は他の仕事場、雜具置場等となり、又雨天の際には、物干場にも兼用され得る。

彼様な作業場として要求する廣さは次の寸法を根據とすべきである。

洗濯場

洗濯桶　徑六〇糎

作業場　約一平方米（人の占むる面積）

洗上げ臺　長六〇糎、巾四〇糎

總面積（巾　一、五米　深　二、〇米

物干場

竹竿式（巾　四米　深　一米（竹竿三本を平行に並べ得る事）

「物干に使用する竹竿は長約三・五米あり、普通の家庭にては之を三本程使用する」

此兩者を兼ねて勝手口前の空地を使用するとせば、空地の深さは最小二米、此範圍の長さが最小四米を要求する。更に之に隣接して物置をつくり得る餘地を殘すべきである。

以上は作業上としての空地であるが、之と同時に考ふべきは、物干場である。

日照を利用する洗濯物の乾燥は、庶民階級にめぐまれたる最も經濟的の方法である。此場合の乾燥の形式は次の三種が現在普通につかはれてをる。

一、竹竿式（從來の方法）

二、フレーム式（屋上物干臺につかわれる形式）

三、廻轉式（傘を開いたる如きもの）

之に要する面積は、日射角度と、周圍の狀況とに影響さるゝ事多しと言へども、今此二者に對しては最も好條件の位置にあるものとして作業と物件の要求する面積のみより其廣さを求むるものとする。（日射方向が惡いか、周圍に高い障害物でもあれば、それ等の影をさけるべき更に多くの空地を要求する）

一、竹竿式【A】

巾　深

四、米〇〇　一米（竹竿の廻轉の自由を有せざるもの）

（支柱を高くし竹竿を三段に懸るものとす）

二、竹竿式【B】

巾　深

四、米〇〇　四、米〇〇（竹竿の廻轉の自由を有するもの）

三、フレーム式

巾　深

四、米〇〇　四、米〇〇

（フレームの面積　二米五角

竹の長さ　三、米〇―三、米五）

四、廻轉式　徑四、米〇〇の圓形

以上は日當りよき場所を要求するを以て、勝手口前の作業場面が日當り惡しき場合には他の面に於て之を取り、其隅は、之等の干物を取り込む爲の廻轉に要する深さを與へねばならぬ。（之は對角線の方向に付竹竿の長、即四米）勝手口は第一圖に示せる如く仕事室が、北面する場合多きを以つて北に向ふ事が多い。又南は家族室部となりて眺望用に供せられ、干物をすることは之を妨害しやすき爲め普通採用されない。從つて干場としては西の方向が多く用ひられる。

故に勝手口廻りの以上の要求として與へる空地の深さは、作業場として二米以上、干場として四米以上を必要とする。

干場の下の、作業に邪魔にならぬところは、きりつめれば小なる農園として利用する事が出來る。

結語

彼樣に考へ來る時は、趣味、嗜好を度外視して、建物平面形の機能を發揮せしむるだけの必要なる眞の空地は、建物の四方に於て相當與へなければならぬことになる。第一圖に於ける住宅各部門の配列狀況に從へば、南は眺望用として五米以上、（時には東にも之を要求することあり）北及西は仕事場として、二米乃至四米以上を與へる。平面形の或物によれば或一方が以上のいづれの目的にも供せられざることあれども、其場合としても、通路となり得る樣一米以上を與へねばならない。

斯くして第三圖(3)の場合程度の空地、即建物面積に對して二倍以上の空地を要求する。

更に趣味的に庭園をつくり、農園をつくり、運動場をつくるに至つては、第四圖(4)の如きもの、或は其以上の空地を與へねばならぬ。之等空地の利用に就いては、本稿二十九頁に載錄せる、各種の實例を參照せられたし。

（七、五、一九記）

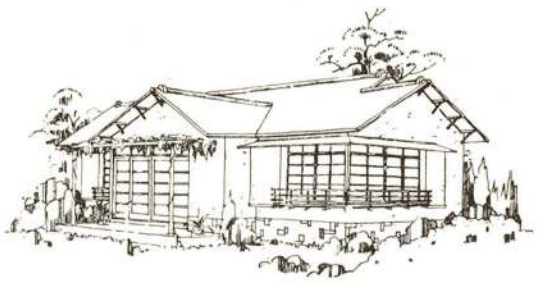
週末安息（ウィクエンド・メリー！）の家（ハウス）の試作

松本儀八

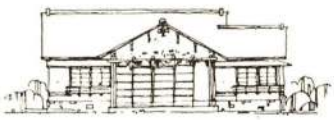
過群的大都市の生活線から、心身のクリーニングとして都會地と程遠からぬ爽かな郊外の地へ、週末から次の週末への活動力の涵養の爲め、土曜日の午後から日曜へかけて打寛ぐ事の出來る家、そして又避暑、避寒の爲めの家にもと云つた様なわけで、昨年晩秋から今春へかけて試作してみた十二軒の家について、最近色んな人々の批評を仰いでみると、其結果は建物の出來榮の良い悪いや、週末安息の家としては斯様なものであらねばならぬなど、理窟つぽい主張などを寧ろ超越して、人の好く家と、好かれない家とが如何にも明瞭に色別けされたのには聊か意外の感を深ふしたのである。

（本頁と次頁に數種の例を掲けることにした）

週末安息の家A型



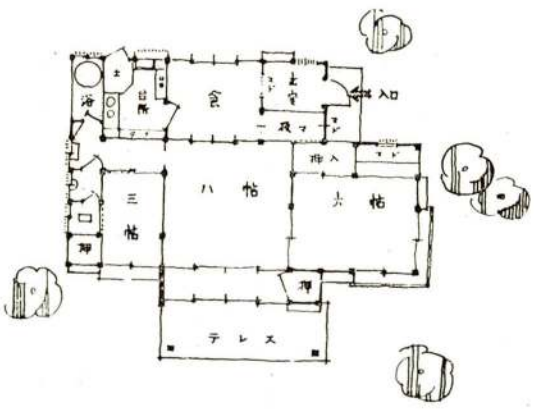
透視圖



正面



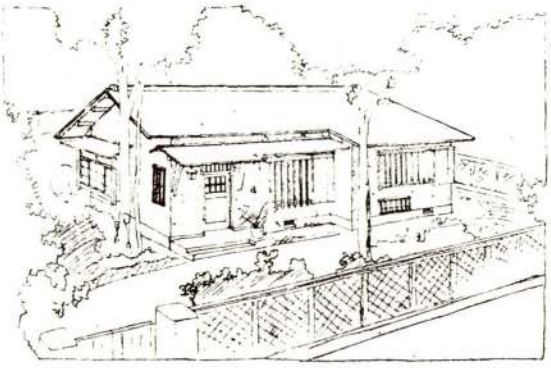
玄關出入口



以上週末安息の家の數種を示したのに過ぎないが中にも比較的受けのいゝ人好のするのはA型である。

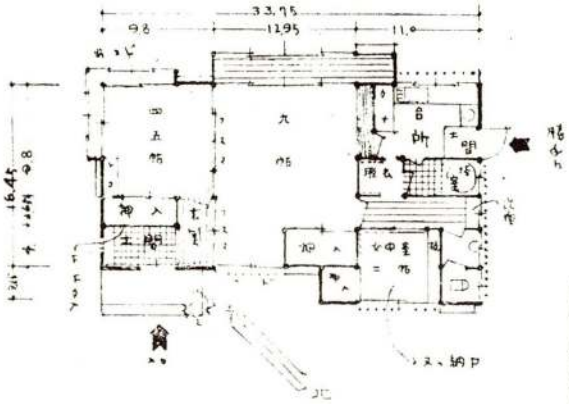
好かれる家の共通的な條件

一、間數は少しでも室の大いもの
一、室と室との仕切建具を外せば大きな室として使へるもの
一、椅子式の室よりも疊式の室
一、外觀和風よりも洋風味のものそしてあまりに尖端的（ヒダン）でないもの
一、建坪二十坪見當で平家建のもの
一、週末の家とは云ひ條臺所廁との設備など相當便利なものを要求さるゝ
一、家の周圍にコダワリのない場所



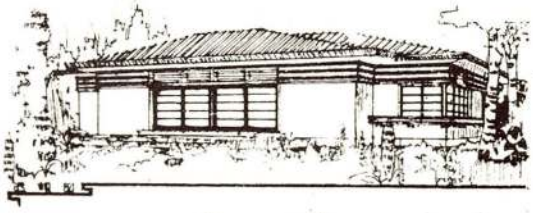
透　視　圖



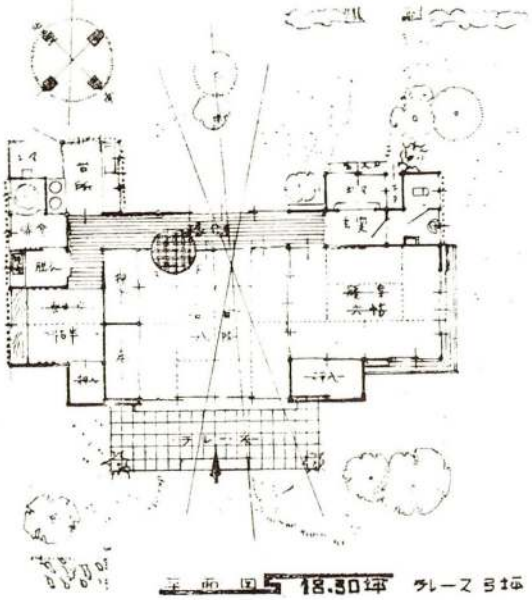


週末安息の家B型

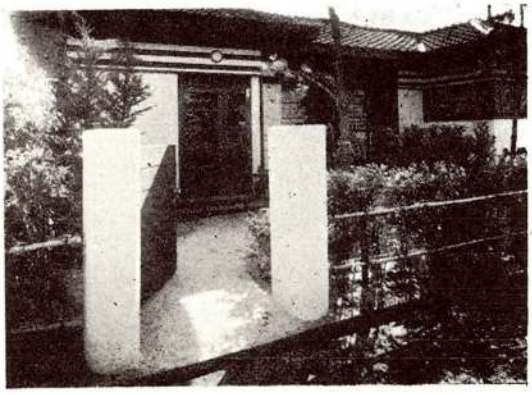
週末安息の家C型



正　　面



平面図 1:30



不燃質小住宅の新構造法

岡田孝男

内容

一、小住宅に適する不燃質材料と工法
二、グロピウスの小住宅工法其一
三、グロピウスの小住宅工法其二
四、コルビユジエの小住宅工法
五、ルツクハルト兄弟の小住宅工法
六、ライトの小住宅工法
七、ムツヘの鋼製住宅工法
八、結論

一、小住宅に適する不燃質材料と工法

建築の構造法には木造もあれば鐵筋コンクリート造もあるが建築の大小、高低の規模によつて各々その適する構造法がある。例へば平家や二階建の程度ならば木造でも出來るが四階五階になると木造では不利で鐵筋コンクリート造が有利となる。又三十階四十階の建築となると鐵筋コンクリート造よりも鐵骨造のコンクリート被覆の方が有利となると云ふ風である。

又もう一面から云ふと建物の建つ數によつてもその適する構造法が定まつて來るであらう。例へば一軒建てる場合と、同一のものを五百軒建てる場合とでは、自づからその構造法が違ふ。一軒建てるには手で刻み人手で建てる方法もよいが、數百數千とまとまつた數の同一プランの家を建てる場合には、機械を使つて同一物を多量に生産しそれを組み立てる方がよいと云ふことになる。この數による構造法の選定は、日本ではまだ問題になつて居ないが近き將來には問題となるであらうと思ふ。

二階又はせいぜい三階建の小住宅構造法として考へられる方法は

一、木造眞壁造
二、木造大壁造
三、煉瓦造
四、中空煉瓦及ブロック造
五、鐵筋コンクリート造
六、鐵骨コンクリート造

等が考へられる。

一は云ふまでもなく眞壁の和風住宅で二は木骨にラス張りモルタル又は漆喰塗の洋風住宅である。そして現在日本に建ちつゝある住宅の殆んど全部が、この二つの構造法で出來て居る。ただ耐震耐火が望まれる場合にのみ五の鐵筋コンクリート造が用ひられる。三の煉瓦造と四の中空煉瓦及ブロック造は耐震的に缺陷ありとして近頃では殆んど用ひられぬ。六の鐵骨コンクリート造は鐵筋コンクリート造と同じ目的に用ひられるが、小住宅では工費が高くなるからあまり用ひられぬ。

そこで木造の方はしばらく措くとして耐震耐火耐久的の小住宅建築法としては、現在の日本では鐵筋コンクリート鑄造式に限られて居るかの觀があるがこの外には適當な構造法は無いであらうか。

勿論鐵筋コンクリート造は耐火耐震的構造としては理想的のものであつて、大建築にも盛んに用ひられて居るが小住宅に用ひられるこの工法は大建築に行はれる方法をそのまゝ小規模にしたにすぎないきらひがある。

もう少し簡便な工法はないであらうか。

この點に關して大戰後の獨逸で盛んに用ひられた鐵骨の架構にコンクリートブロックを組み合した工法をここに考へて見たい。

獨逸では大戰後の小住宅經營に當つて各都市の郊外に市營又は組合經營の多數の住宅群を造つた。普通にジードルングと呼ばれるのはこれである。二階又は三階のコンクリート造長屋住宅でこれが規則正しく並列し、同一プラン又は相似プランの數十より數百の戸數を一群とし中央煖房裝置、水道下水、ガス、電氣其他の諸設備から調理、洗濯にいたるまで、共同經營して利益のあるものはすべて共同でやり、合理的に生活して居

る。かゝる二階又は三階の耐久的長屋の建築にあたり建築の大さ及數の關係から特殊な工法が採用された。各ジードルングによつて違ふが、或はコンクリート中空ブロツクの積み上げたもの、普通の煉瓦を積んだもの、或は鐵骨の柱をたて鐵骨の梁を取つけて、その間にコンクリート板を保持するもの等後に述べる様に種々な工法が試みられて居る。そのうちの三四を次に紹介したい。

勿論このジードルングの經營は專ら經濟的條件から出發して居て要は安く建て且つ安つよく住まうと云ふのであるが、それに應じて採用された工法には二つの前提條件がついて居るのである。

（一）小住宅でせいぜい三階迄の建物

（二）同一プラン又はよく似たプランの家を數百數千とまとまつて計劃しそれが順次に完成される。

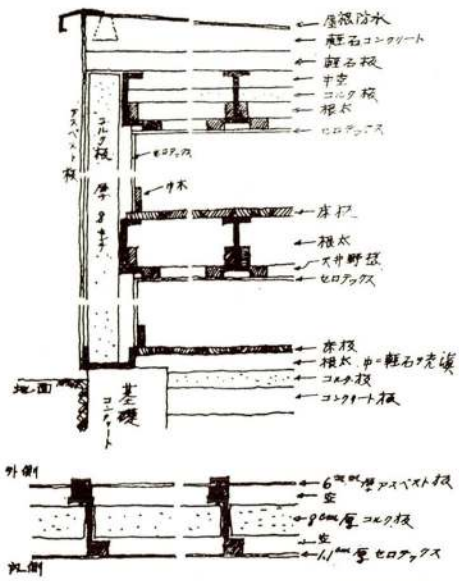
この條件に從つて、

（一）三階位だから構造が容易で各構造のメンバーは小さくてすむ。從つて運搬にも組立にも容易である。

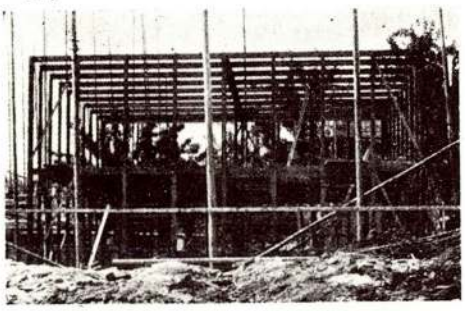
（二）同一プランであれば同一サイズの建築材料が數多く用ひられるから機械的に大量製產しこれを現場へ送つて組立てる。結局材料も工賃も合理的に低廉となる。

と云ふのがその特長である。

因に云ふがこのジードルングは大戰以前にもあつた。しかし大戰以前のジードルングは大戰後のとは非常に趣を異にして居た。大戰以前のものは道路を曲線形につけ面白い形に土地を區劃して、そこへ單獨の家屋を建て、垣をめぐらし、各家が單獨で暮すと云ふやり方であつたが、大戰後は第八圖の如く土地を細長いブロツクに區劃し二階又は三階の長屋を規則正しく數百の戶數が共同して設備を持ち合理的の生活をする様になつた日本では今一度、獨逸の大戰前の郊外住宅經營と同じことをやつて居る。郊外敷地を五十坪とか百坪とかに區劃し、各人が單獨な家を各々趣味に從つて建て塀をめぐらし、井戶を掘り給水のタンクを持つと云つたやり方である。こう云



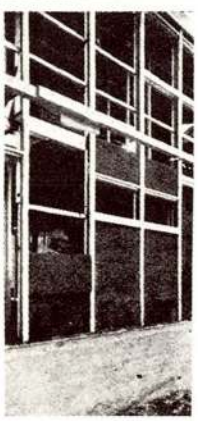
第一圖　グロピウスの工法其一　ストツツトガルトの小住宅構造詳細



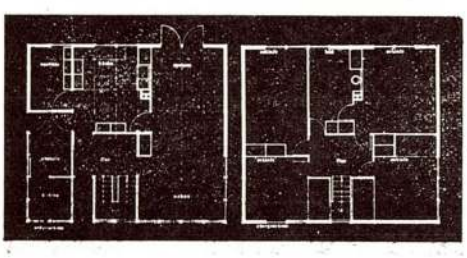
第二圖　グロピウスの工法其一　ストツツトガルトの小住宅鐵骨架構



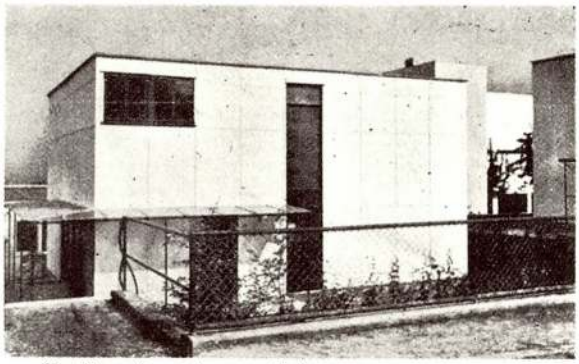
第四圖　グロピウスの工法其一
同　右　事工根屋宅住



第三圖　グロピウスの工法　其一　ストツツトガルトの小住宅壁のコルク板取付



第五圖　グロピウスの工法其一　ストツツトガルトの小住宅プラン



第六圖　グロピウスの工法其一
ストツツトガルトの小住宅外觀

ふやり方は今しばらくのことで、だんだん時が進めば獨逸のやつて居る様な合理的共同生活に變つて行くのではあるまいか。既に行きつまつた郊外住宅の經營法も、その邊へ轉向するのではないかとも思はれる。

二、グロピウスの小住宅工法　其一

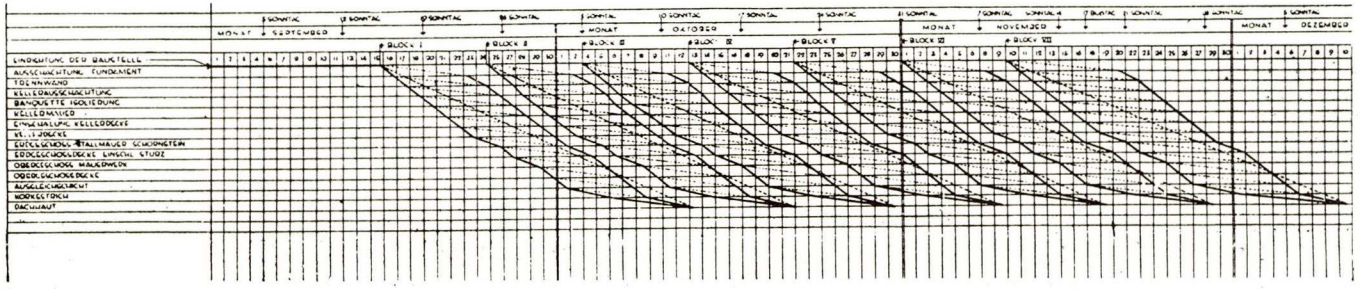
グロピウス（Walter Gropius 1883年生れ）は曾つてデツサウ市のバウハウスの首領としてその令名を唱はれて居たが、最近ではベルリンで建築事務所を開いて居る。新興建築界の驍將でケルンの工場、バウハウス校舎等の傑作を持ち著書に"International architekture"があり、所謂インターナショナル建築の提唱者であるが、彼はストウツトガルト住宅展に出品した小住宅に新しい工法を試みた。この工法は鐵骨で柱と梁を造り、壁にはコルク板を用ひたものでその詳細を述べると第一圖の如く、先づ二五センチ巾の基礎コンクリートを外壁に沿ふて打ち廻はす。その上へ一二〇×五〇×一〇ミリ位のチヤンネルを上むけに乘せる。それに一二〇×五〇×一〇ミリ位のZ形鋼の柱を一〇六センチ間隔に建てる。梁は外壁の柱に沿ふ所は一二〇×五〇×一〇ミリのチヤンネルを柱に取りつけ、室内の柱から柱に架する大梁は一二〇×五〇×一〇ミリのI形鋼を架け渡す。これで鐵骨のIとZと匚の同じ大さのもので柱、土臺、梁が出來たわけである。次に外壁は長一〇〇センチ、巾五〇センチ、厚八センチのコルク加工板（Hochwertig gepressten Expansitkorkplatten）を柱と柱の間へ入れてアスファルトで接合し、その外へ六ミリのアスベスト板（Asbestschieferplatten）を打ちつけ目板で押へ、又室内に面する方へはセロテツクスを張る。一階床は地盤上にコンクリート板をおき、次にコルク板を敷きその上へ根太をおいて床板を張る。根太と根太との間には輕石が充塡してある。二階床はI又は匚形大梁の間に木の根太をおき、それに床板を打ちつける。屋根は屋根梁の匚又はIの間へ根太を渡しその上へコルク板を乘せ、更に輕石コンクリートの床版を乘せてその上を輕石コンクリート打とし防水工事が施こしてある。天井はいづれも二階根太下端へ野縁を打ちつけそれにセロテツクスが張つてある。窓は二重のステイールサツシュ。で結局この工法によると壁は一五センチ厚に仕上り床は約一八センチ厚に仕上ることになる。

第二圖はその鐵骨柱と梁が建つたところ、第三圖は壁のコルク板を取りつけて居るところ、第四圖は屋根の輕石コンクリート板をモルタルでつけて居るところである。然してこの工法に適する様にプランは第五圖の如く、すべて一〇六センチメートルの倍數をとつて室の大きさを定めて居る。第六圖は出來上りの外觀でアスベスト板を張り上げたところ、縦と横にある線條はアスベスト板の接合部を押へた目板である。

三、グロピウスの小住宅工法　其二

グロピウスがデツサウ市郊外の市營長屋建設にあたつて採用した方法は先づ二五×二五×五〇センチの大さのコンクリートブロックを造り、これを積み上げて各家と家との隔壁を作り、梁は鐵筋コンクリートで造りそれに床をかける方法である。

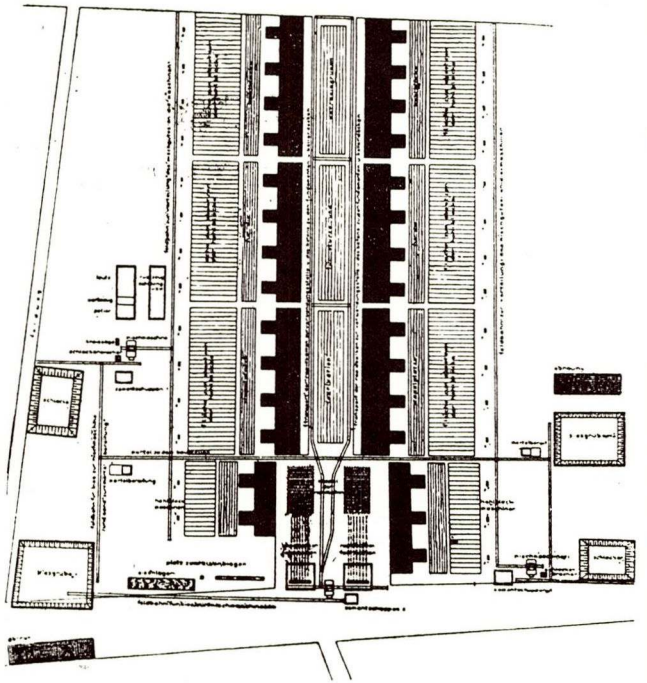
この市營長屋は八戸建六棟と四戸建一棟と六戸建一棟であるが、グロピウスはこれを七つに分ち、その一棟宛を順次に建設して行つた。而して一棟（八戸長屋）を建てるにも先づ基礎掘方をなし各家の隔壁を積み、地下室（小部分）の掘方をなし、その壁と床を打ち、一階の床を打ち、一階の隔壁を積み上げ、梁を鐵筋コンクリートで架



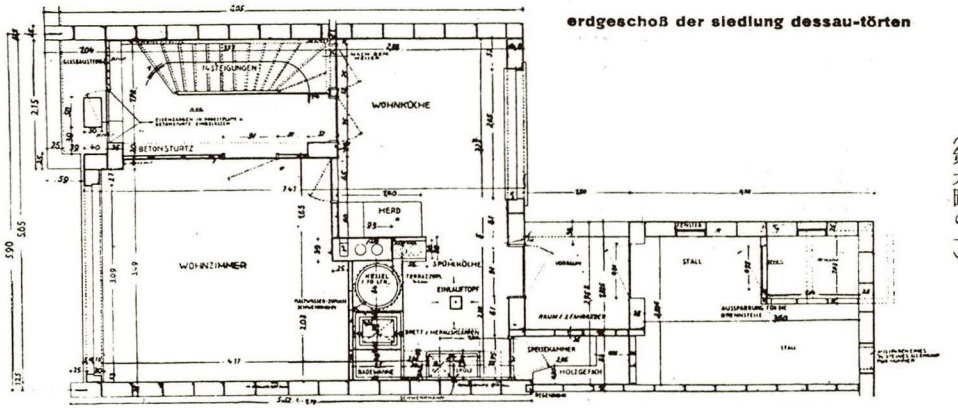
第七圖　グロピウスの工法其二
デッサウのジードルング建築工程表

第九圖　グロピウスの工法其二
デッサウのジードルングの住宅プラン

第八圖　グロピウスの工法其二
デッサウのジードルング配置圖

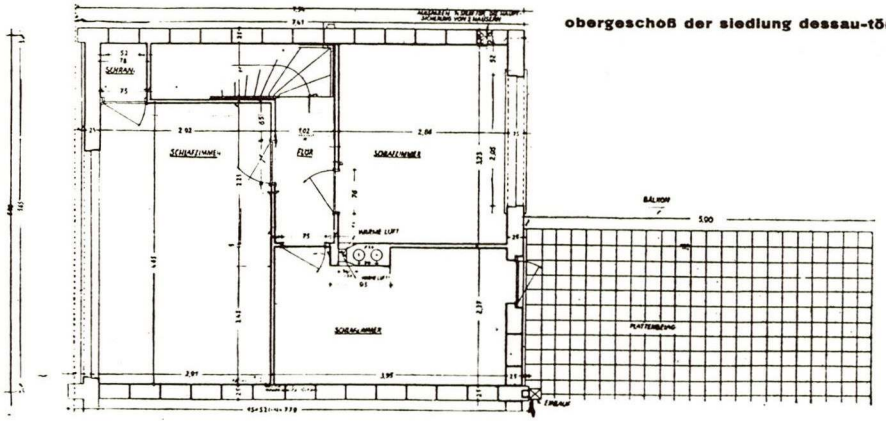


einrichtung der baustelle siedlung dessau-törten



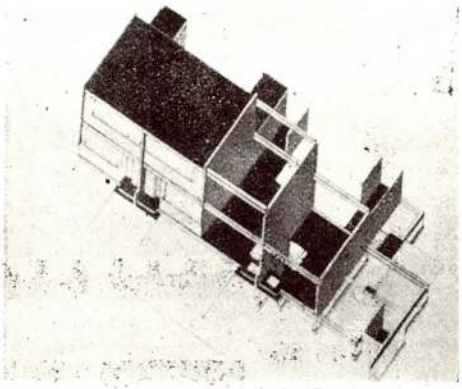
erdgeschoß der siedlung dessau-törten

（第九圖の一）



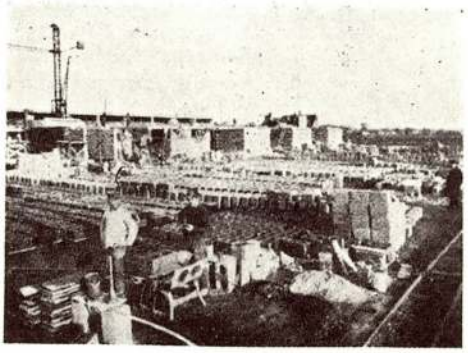
obergeschoß der siedlung dessau-törten

（第九圖の二）



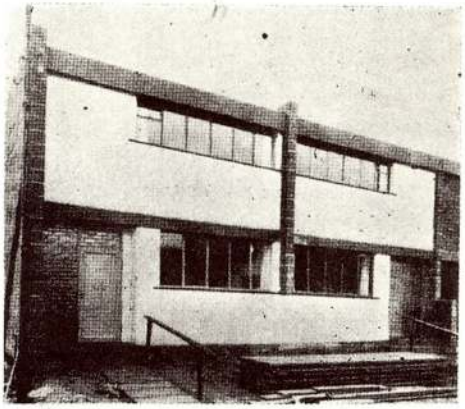
第十圖　グロピウスの工法其二
デッサウのジードルング構造順序

渡し、二階床を造り、二階壁を積み、屋根梁を渡し、屋根を架す、等の順序に各工程を分ち（各工程が同一日數で出來る様に分ける）一棟を二十三日乃至三十日で建て終る様な工程表を作つて居る。第七圖はこの工程表であるが、第一の棟は九月十五日に基礎掘方を始め、十月十二日に屋根仕舞をして居るし、第二の棟は九月二十五日から十月二十一日、第三の棟は十月四日から三十日迄と云ふ風に、互に順序よくなつて居る。だから假に基礎掘方の職工を例にとつて見ると第一の棟では九月十五日から二十三日迄、第二の棟では二十四日から十月の二日迄と云ふ様に少しの手待もなく次から次へと仕事を進めて行かれる。他の部の工事もすべてこの調子である。



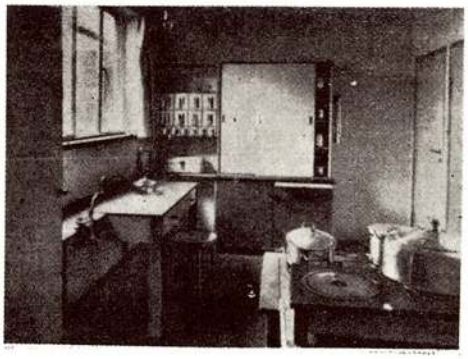
第十一圖　グロピウスの工法其二
デッサウのジードルング建築中

かくして各部の仕事を連續的にやつて比較的少數の職工を間斷なく働かせ、八棟五十八戸分の小住宅を僅かに八十五日で終る様な計劃をたてゝ居る。建設の實際にあたつて果してこの工程表通り行つたかどうかは分らぬが同一プラン若くは相似たプランの小住宅を數多く建設する場合、一つの組を次から次へと間斷なく働かすればいかに無駄がなく、速に從つて安く、多くの家を建て得るかの好い例であらう。



第十二圖　グロピウスの工法其二
デッサウのジードルング外觀

丁度フォード工場で自動車をベルトシステムで造り、ビクター會社工場で蓄音器を造る様に小住宅の連續的大量製產と云ふことになる。この問題は日本の住宅界ではまだあまり問題になつて居ないが獨佛和殊に獨逸では既に盛んに實行されて居る。即ち獨りデッサウのジードルングのみでなく、フランクフルトのジードルングでもベルリンのジードルングでも、みなこの方法でやつて居る所である。



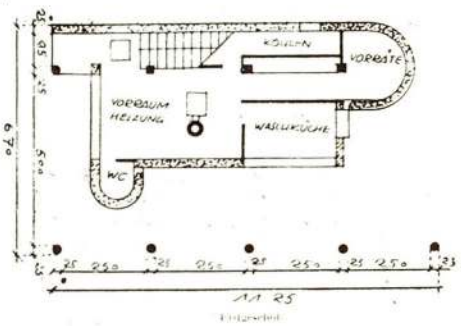
第十三圖　グロピウスの工法其二
デッサウ・ジードルングの內部

考ふべきことであらう。

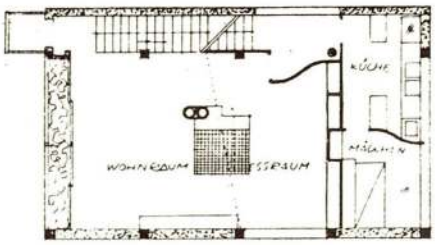
第八圖はデッサウのジードルングの配置圖、第九圖はそのプラン。第十圖は構造順序を示すコンクリートのホローブロックの壁へ鐵筋コンクリート造の梁を架して居る第十一圖は建築中、第十二圖は出來上り外觀、第十三圖はその內部を示す。

四、コルビユジエの小住宅工法

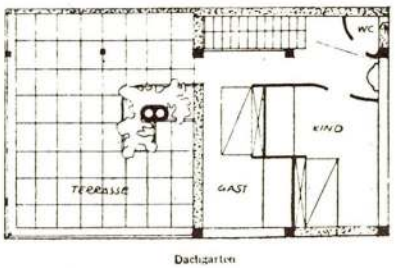
コルビュジエ（Le Corbusier 1887年生）はピエル・ジヤンネレ Pierre Jeanneret と共同でパリ



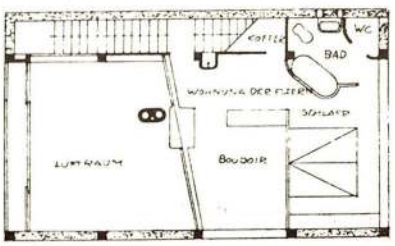
第十四圖 (1)コルビュジエの工法ストツツトガルトの小住宅第一の家のプラン第一階



第十四圖 (2) 二階プラン



第十四圖 (3) 三階プラン

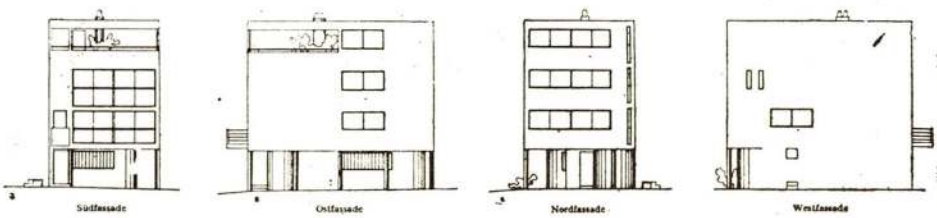


第十四圖 (4) 屋上プラン



第十五圖 コルビュジエの工法ストツツトガルトの住宅第一の家の外觀

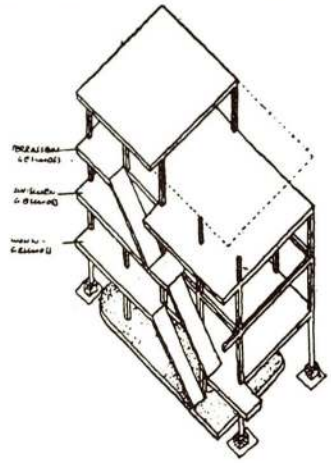
Fassaden zum Einfamilienhaus

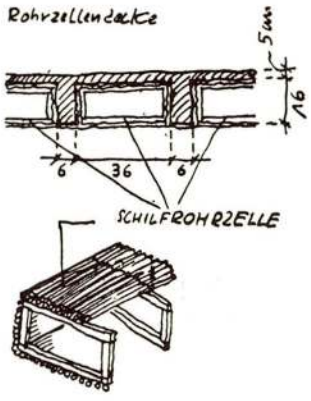


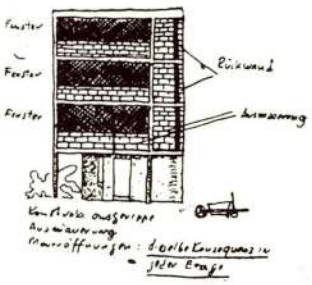
第十六圖 コルビュジエの工法ストツツトガルトの住宅第一の家エレベーション

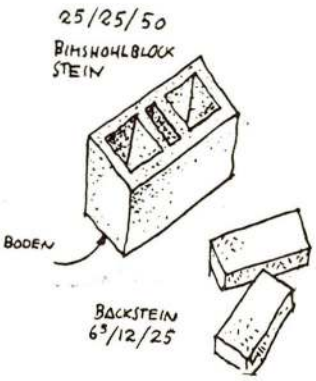
で建築事務所を經營して居る。多くの小住宅の作があり、設計としてパリの高層建築都市案、國際聯盟會館案、ソビエツトロシヤ中央會館案がある。著書は Vers une Architecture, L'art Decoratif d'aujourd'hui, 等數種ある。なほ作品主張の大略は Le Corbusier und Pierae Jeanneret 1930にまとまつて見える）はこの住宅の連續的生産の主唱者である。建築の規格を統一し、それを工業的に大量生産し、連續的に組み立てて行くこと。今迄の建築家はある建築それ一つに對する問題で終始して居たが、彼は多くの建築に對する標準形とその大量生産を問題に掲げ種々研究して居る。「若しも住宅問題及それの組立方法の問題が丁度サツシュを研究する様に研究されれば、多くの家は立ち所に進化するだらう。そして家が若しもサツシュを作る様に、連續的に工業的に生産される様になれば、思ひもよらぬ形ではあるが、しかし健康的な、確固たる形が發達するであらう」と云つて居るが、これ等のことを述べて居ると限りがないからここでは彼がス

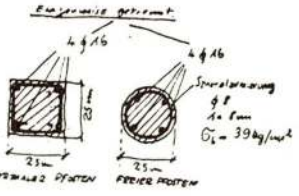
第十七圖　コルビユジエの工法　ストツツトガルトの小住宅の構造詳細

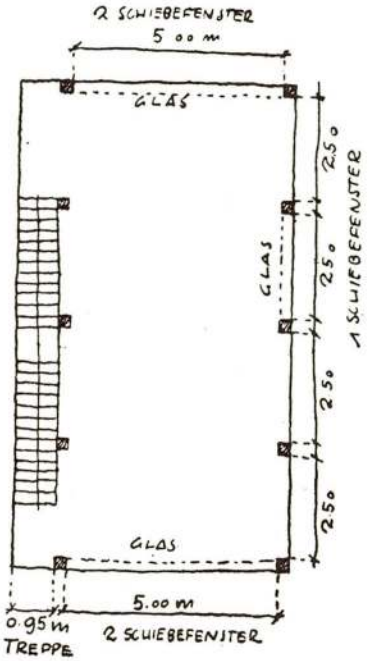


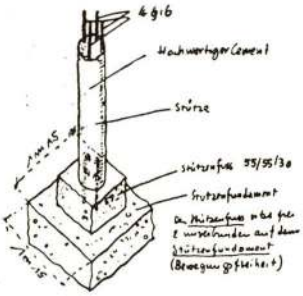












トウツトガルト住宅展に試みた構造法だけを述べる。

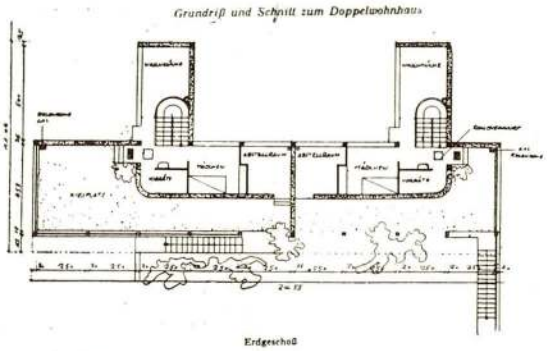
コルビユジエはストウツトガルト住宅展で二軒の小住宅を出品して居る。そのうち第一の家は第十四圖のプランに見らるる通り柱の眞々を東西二七五センチ、南北五二五センチにとり柱の大さを二五センチ角及二五センチ徑の丸に採つて居る。即ち柱と柱の內法は二五〇センチとその倍數たる五〇〇センチになる。

先づ基礎の捨コンクリートを柱下は一一五センチ角、高さ三〇センチに打ち、その上へ五五センチ角高さ三〇センチの基礎コンクリートを打つ、而して壁附柱は二五センチ角とし獨立柱は二五センチ徑の丸柱とし一六ミリの鐵筋四本に八ミリのフープが用ひられて居る。

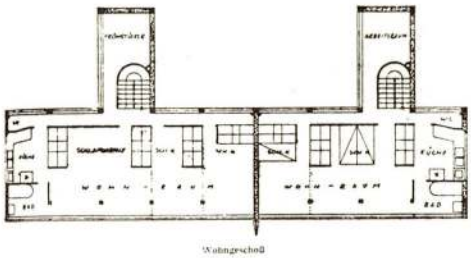
梁は同じく二五センチ角の鐵筋コンクリート梁として柱にとりつけ、つまり鐵筋コンクリートの架構を造る。然る後柱と梁の間へ二五×二五×五〇センチの輕石コンクリートホローブロックを充填した構造法である。（第十七圖參照）

第二の家は二戸建住宅である、大體第一の家と同じい工法を用ひ鐵筋コンクリート造二五センチ角の柱と梁を架け渡しその間へ、ホローブロックを充填してあるが、唯南側へ並んだ獨立柱の一列は二〇〇×七〇ミリのチヤンネルを腹合せとして立て、梁の接合部はチヤンネルの一部に穴をあけて鐵筋が指し通してある。（第二十一圖參照）

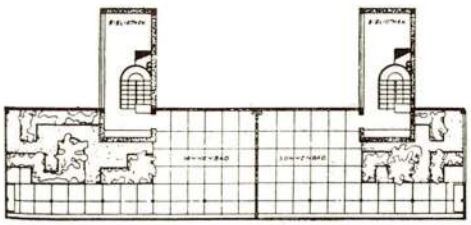
屋根はコンクリート打の上へ防



第十八圖 (A) コルビュジエの工法
ストツツトガルトの二戸建住宅 階プラン

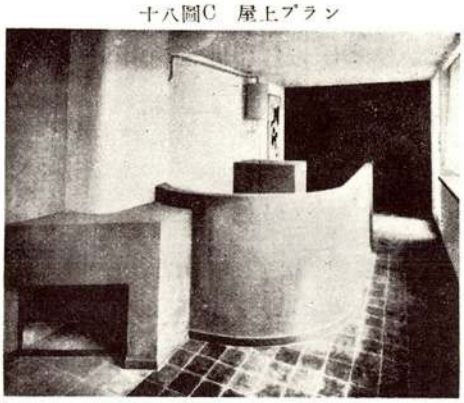


十八圖B 二階プラン



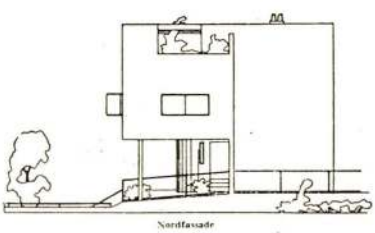
十八圖C 屋上プラン



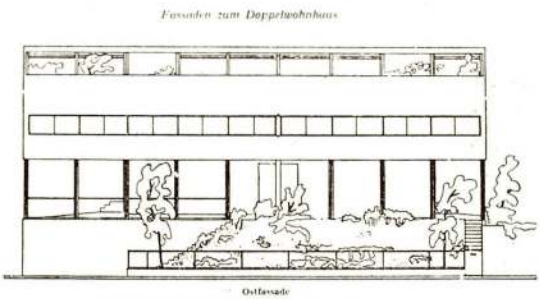


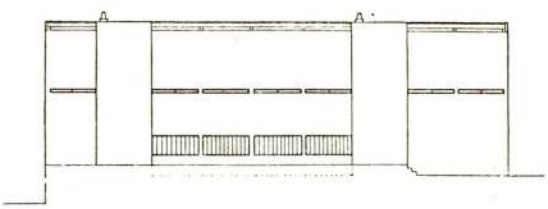
第十九圖 コルビュジエの工法 ストツツトガルトの二戸建住宅外観と内部





(第二十圖の一)





(第二十圖の二)

第二十圖 コルビュジエの工法 ストツツトガルトの二戸建住宅 エレベーション

水層を施こし、厚四センチの砂利層をおき更にその上へ八〇センチ角厚四センチのコンクリート板を並べてある。然してこのコンクリート板の目地は大きくあけ、そこへ芝草を植えて陸屋根の乾燥にそなへかた〳〵生氣を與へてある。

窓は一一〇センチ×二五〇センチを標準形の單位としこれを或は横に連續させ、或は縦に重ねて種々の大さの窓として居る。窓ガラスは一枚ガラスを二重に入れてある。

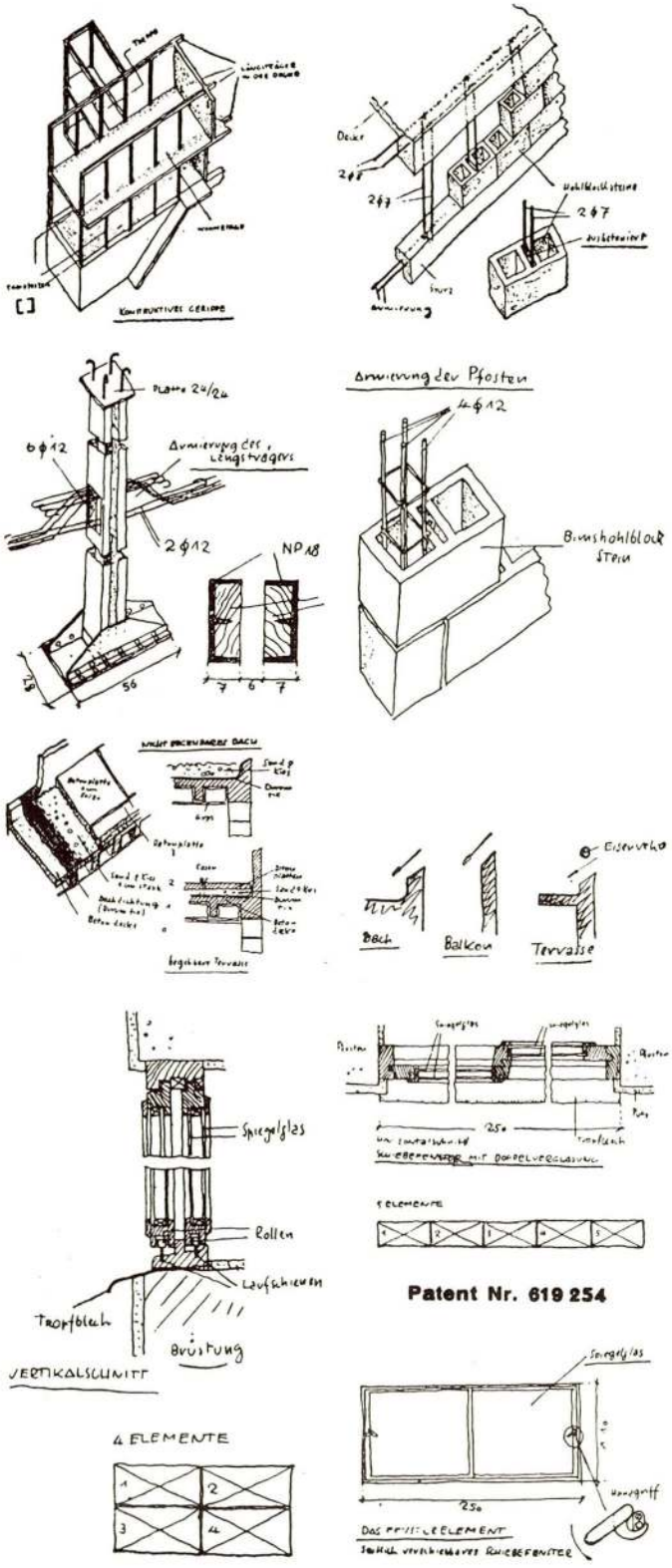
第十四圖は第一の家のプランである。右上が一階で左上が二階、中の上が三階、その下が屋上階のプランである。これに見られる通り柱と柱の内法を二五〇センチ及五〇〇センチに定め柱を二五センチ角及二五センチ丸としてホローブロック二五×二五×五〇センチの充塡に便にしてある。

第十五圖はその家の外觀第十六圖はそのエレベーションを示す。

第十七圖は構造の詳細を示す圖で二五センチの柱には一六ミリ徑の鐵筋四本が入れられフープは八ミリ徑のものを八センチ間隔に入れてある。輕石コンクリートのブロックは三つの穴があり、重量の輕減に役立つ。補足材として六・五×一二×二五センチの煉瓦を使つて居る。床版の下端には孤を卷いて熱の傳導を防いである。

第十八圖は第二の家即ちストツトガルト住宅展に出品した二戸建住宅のプランである。Aはその一階プラン、Bは二階プラン、Cは屋根階のプランである。ここでは柱の内法は二五〇センチと四五三

第二十一圖　コルビュジエの工法ストツトガルトの二戸建住宅構造詳細



センチにとつてある。

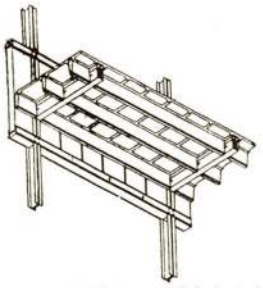
第十九圖はその二戸建住宅の外觀と内部を示し

第二十圖はその二戸建住宅のエレベーションを示す。

第二十一圖は構造の詳細を書いたものでチヤンネル二つ合せの獨立柱やそれを指し通した梁の鐵筋が見える。又標準窓の大さ一一〇センチ×二五〇センチが横に連續した所や縱横にひろがつた所も描いてある。

五、ルツクハルトの小住宅工法

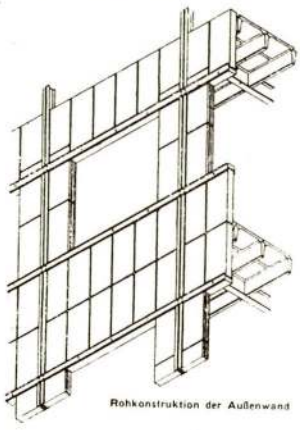
ルツクハルト兄弟はアルフオンスアンカーと共にベルリンに建築事務所を持つ新鋭の青年建築家である。ジードルングの設計に特殊の工法を工夫し鐵骨の柱及梁の架構にコンクリート板を組合せる方



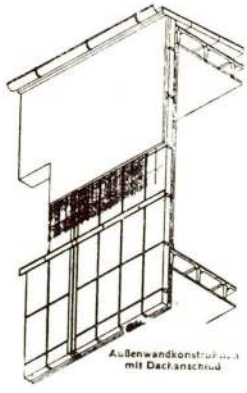


第二十三圖　ルツクハルトの工法
根太と床版の取合せ及仕上

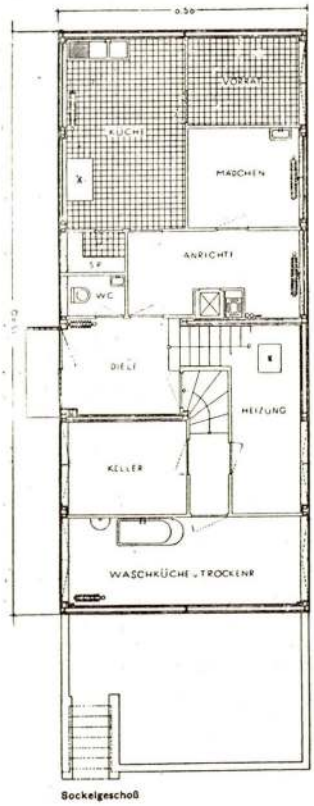
（二十二圖の一）



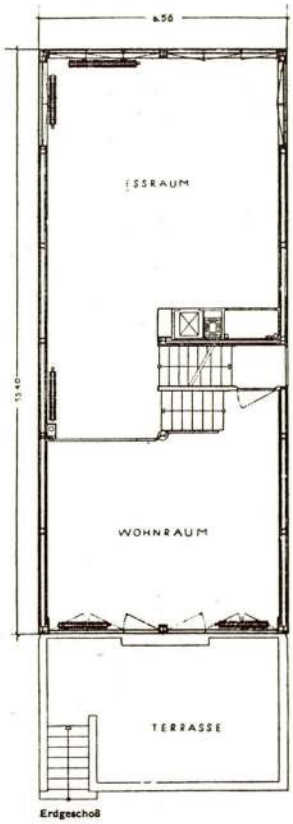
第二十二圖の（一）　ルツクハルトの工法　柱及壁版の組合せ及仕上



（二十二圖の二）



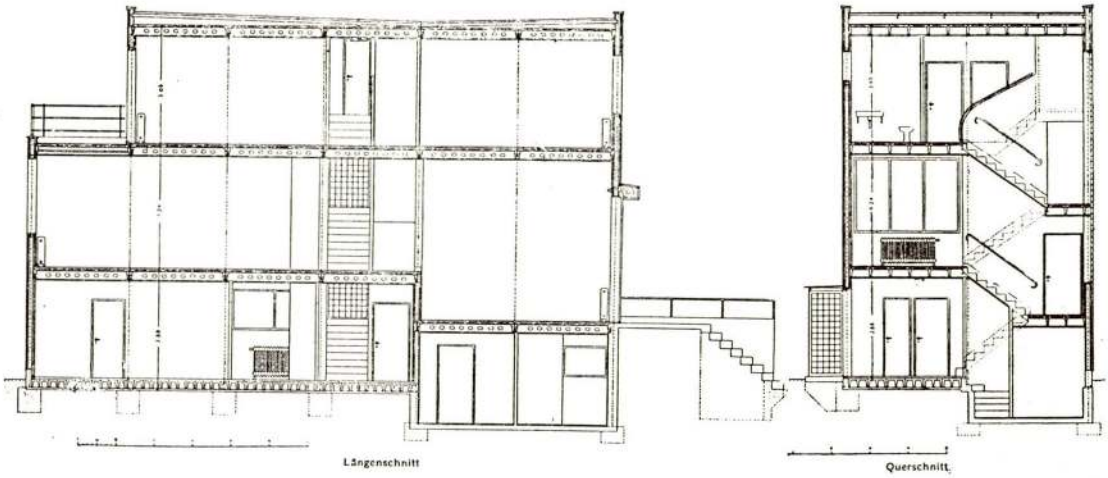
第二十四圖の（一）　ルツクハルトの工法　ダーレムの小住宅プラン



第二十四圖の（二）



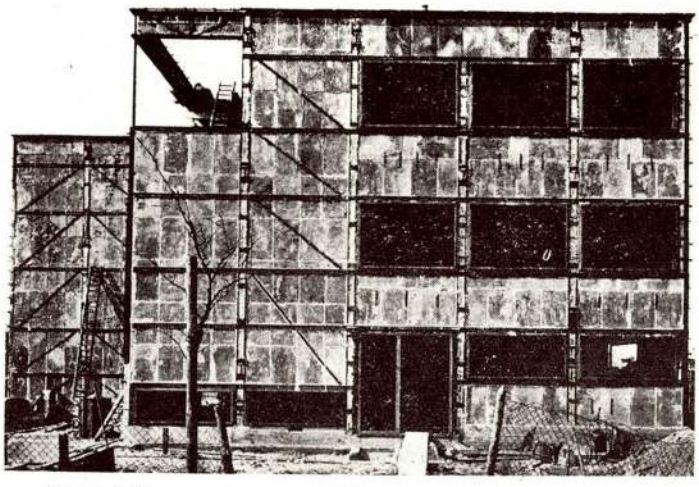
第二十四圖の（三）



第二十五圖　ルツクハルトの工法　ダーレムの小住宅斷面

法を採用した。

先づ柱を二五〇センチ間隔に建てる。この柱は一〇〇×五〇×一〇ミリのチヤンネルを腹合せにした柱であつて、この柱に梁として二〇〇×八〇×一〇ミリ位のI型梁を取つけ外壁廻りの壁梁として二〇〇×八〇×一〇ミリ位のチヤンネルを內側から柱へ取つける。これで鐵骨の架構が出來たわけであるが、この架構の間に輕石コンクリート板（約五五×八二×一〇センチの大さ）を縱にならべ、更にこれが倒れない様にチヤンネルで內外から押へてある。この押へチヤンネルは床とは無關係で、ただコンクリート板の倒れるのを防ぐ役と及架構の強さを強める役に立つ。又所々に筋違を入れてある。

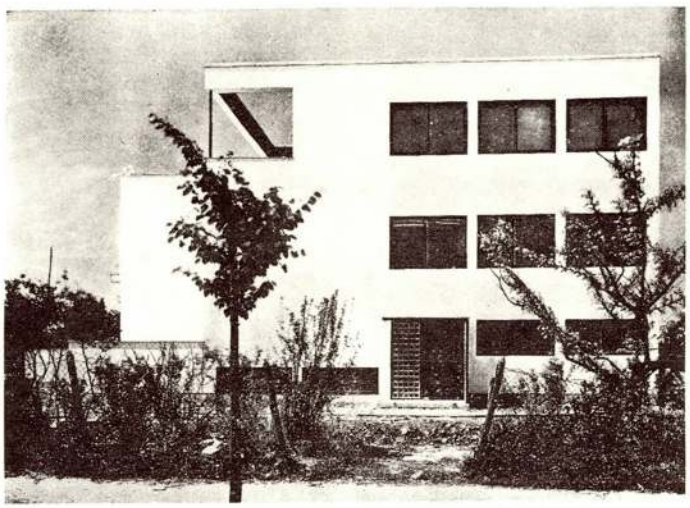


第二十六圖　ルツクハルトの工法　ダーレムの小住宅

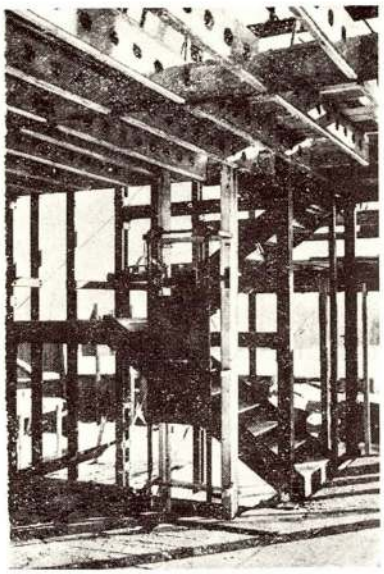
I型梁の間にはコンクリートでカストした根太（大さは長さ二五〇センチ高さ二五センチ巾上端六センチ下端三センチ位）を架け渡し、この根太の上へコンクリートの床版が乘せてある。根太は中軸に沿ふて穴をあけ重量を輕減してあるが、これと大梁の取つきの所は、大梁のI又は匚の懷へ根太を入れ込んで乘せ、更に左右へ動かない様にコンクリート板の振止がIに沿ふて入れてある。又床コンクリート版にも緣をつけて、根太を押えると同時にその移動を防ぐ役をさせてある。

こうして外壁と床が出來てから壁の外部へはメタルラスを張つてモルタル塗仕上をなし、內部は漆喰仕上がしてある。

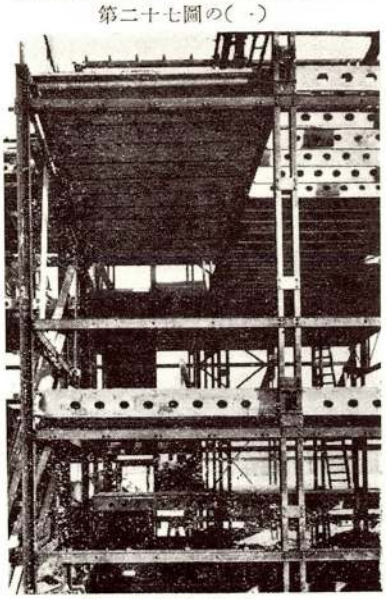
第二十二圖の上の方はチヤンネル二つ合せの柱が立ち輕石コンクリート板が規則正しく柱の間につめられそれを內外からチヤンネルの水平材で押えて居るところ、及コンクリートでカストした根太とコンクリート床版を組み合せたと



第二十八圖　ルツクハルトの工法　ダーレムの住宅外觀



第二十七圖の(一)



第二十七圖の(二)

第二十七圖　ルツクハルトの工法
ダーレムの小住宅の構造詳細

ころを示す。下の方は、外壁にメタルラスを張りモルタル仕上をする所及内部漆喰壁及屋根仕上を示す。

第二十三圖の上の方はI型鋼梁にコンクリートカストの根太が取りつくところ及根太に床版が組み合ふところを示す。I型鋼梁と根太の接合部にはコンクリート板の振れ止めがI型鋼梁に沿ふて入れてある。下の方は内壁及天井仕上を示す。天井は根太の下端に豫め木をつけておいて、それに漆喰下地を打つける様になつて居る。

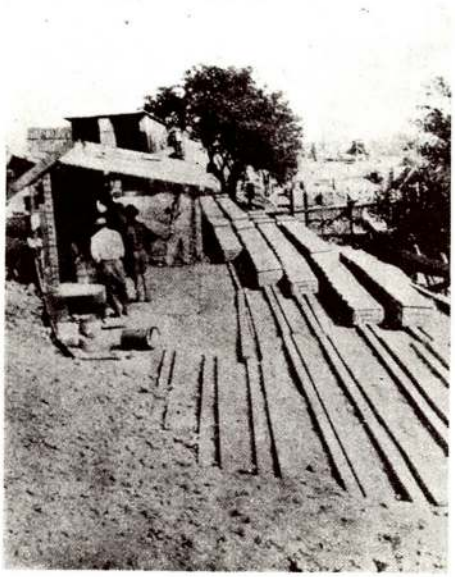
第二十四圖はこの家のプラン、第二十五圖はセクション、第二十六圖は建設中の狀況、第二十七圖はその詳細である。柱にI型鋼梁及匚型壁梁の取つけ及コンクリート根太の取つけを示す。

第二十八圖は出來上りの外觀である。この家の外觀でも又コルビユジエ作の家の外觀でもグロピウス作の夫でもすべて壁の表面に凸凹がなくフラツトな壁でいかにもスカツとした所があるが、これは別にかくしやうと思つてしたものでなく、柱及梁の架構にブロツクを充填する構造法の方から自然に出た形である。即ちカストブロツク乃至カストプレート工法から必然的に出る外觀であつて、この外觀を普通の假枠を使ふ鐵筋コンクリート構造法（鑄造式）で眞似てやるのは構造的必然性を越えて多分に裝飾的意味が加はつて來ると筆者は解釋して居る

六、ライトの小住宅工法

ライト（Frank Lloyd Wright）はアメリカの西海岸地方に於て數多くの住宅を作つて有名であり日本に於ても東京の帝國ホテルの設計者として廣く知られた名匠である。ライトが帝國ホテルを建てて後アメリカへ歸つてすぐの時代に多くの小住宅に試みた新しい工法にセメントブロツク工法と云ふのがある

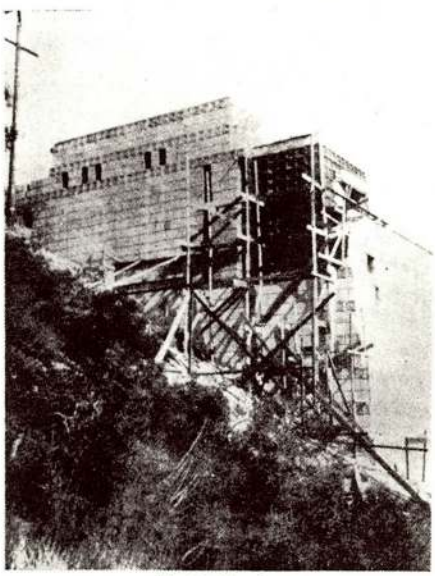
これは第二十九圖に見られる通り、四〇×四〇×八・七五センチの大さのアルミニユーム型に入れて抜いたモルタルのカストプレートを積んで中空の二重壁を作る方法である。プレートの接合のとこ



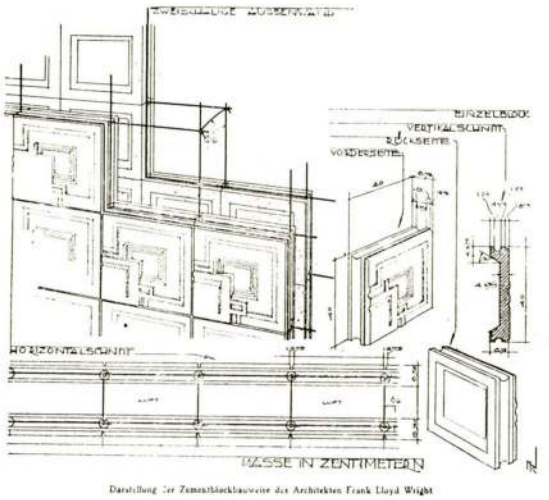
第三十圖の(一)

第三十圖　ライトの工法

エニス邸の建築中(1～3)及出來上つたミラード邸(4)



第三十圖の(二)



第二十九圖　ライトの工法・セメントブロック法の詳細

ろへは六ミリの鐵筋を一本宛挿入しモルタルで詰め、又所々で六ミリ鐵筋を以つて二重壁間を聯結してあるこの鑄型にあらかじめ紋様を彫刻しておけば、カストプレートの表面にも紋様が浮き出て來る。これを調子よく積めば甚だ面白い結果を見られるのは第三十圖の通りである。

ライトはこのカストプレートを手際よく積みかさねて、そのまゝの表面で仕上るこれまで述べた獨乙や佛蘭西で行はれる様にブロツクを積んで更にその外表面をモルタルやスタツコで塗り又は室内側をシツクイで塗り仕上する様な事をしない。彼は單一材料を單一工法で（Einheits material in ein Einheitssystem）と主唱して居るが、これは今迄の家が、煉瓦を積みシツクイを塗り、タイルを張り、石を敷き、メタルラスを張り、木羽目をつける等、材料の多様性を持つて居たのを、セメントと砂と鋼と、ガラスの極めて小數の材料に迄單化し、又今迄の家で假枠を組んで鐵筋を立てコンクリートを流して假枠をはずし、更に表面にシツクイを塗りタイルを貼ると云ふ様な構造道程の復雜性を持つて居たのをただブロツクにカストしてこれを手際よく積んで行き、床も同じカストブロツクで張り、その表面はそのまゝ仕上表面とすると云ふ様に構造の種類順序の單化を主唱して居るのである。その主張の良否はここでは問題にしないが建築的潔癖の持主たるライトの工法として興味を感ずるものである。住宅の實際に於ても既にエニス邸、ストール邸、フリーマン邸、ミラード邸等に實施され、設計としてはサクラメント附近のタホー湖畔の建築群シエラマドレ山の建築群等にこの工法を應用して好い結果を得て居る。

第二十九圖はライトのセメントブロツク建築工法の詳細を示すもので、ブロツクを積んで二重壁にし、中空として、六ミリの鐵筋で連結する様になつて居る。

第三十圖はエニス邸の建築中の寫眞とミラード邸の出來上りである。紋樣のついたカストブレートが巧に積まれた所に注目されたい。第三十一圖はその詳細である。第三十二圖はフリーマン邸の寫眞第三十三圖はこの工法を用ひた設計案である。

七、ムツヘ及パウリツクの小住宅工法

最後にムツヘ及パウリツク（Georg Muche und Richard Paulick）共作の鋼製住宅を紹介したい。この兩人は共にデツサウ市のバウハウスにあつてグロピウス指導のもとに研究して居た人であるが數千年以來の手造の小住宅に代ふるに工場で製產された鋼製の小住宅を僅か六日乃至九日で組み上げやうと企て小住宅建築界に一つの革命をもたらすものとして、この小住宅を試作した第三十四圖の如く、コンクリート基礎の上へ一〇〇×五〇ミリのI形柱を一五〇センチおきに立て、その柱へ同じ一〇〇×五〇ミリのI形梁を取りつけて架構を作る。そして外壁は三ミリの鋼板を目板で押えてボルトでI形柱及I梁に取りつけ、鋼板と目板の間にはラバロイドを敷いて密着をよくしてある。外部の鋼板と六センチの空間をおいて二センチ厚の或種の纖維板（Torfoleumplatten 日本で云ふツンドラ樣の板らしい）を取つけ、更にその內側へ五センチ厚の鑛滓入石膏板（Gipsschlackendielen）を取つけ、その表面が漆喰仕上となつて居る。かくすれば熱の逃避率は七二センチの煉瓦壁と同樣であるそうである。

屋根は三センチの鑛滓入石膏板の上へ二センチのツンドラ樣板をおき、その上が少し中空になつて居て更に陸屋根のコンクリートが打つてある。

天井は漆喰仕上であるが、更に天井及內壁にセロテツクスを張ればより好い結果を得るだらうと云つて居る。

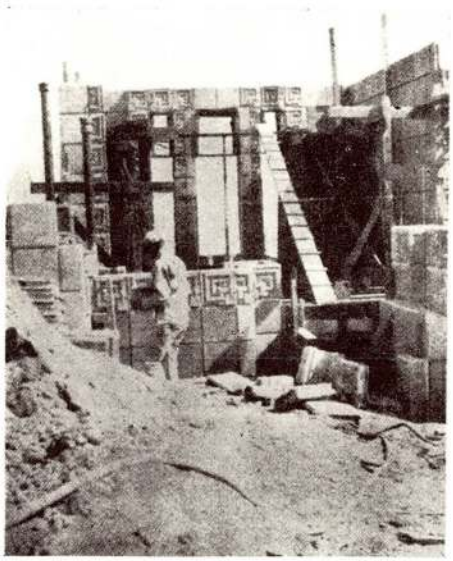
全體のプランはやはり柱や壁板の關係上一五〇センチを單位として室の廣さはその倍數にとつてある。

第三十四圖はこの家のプランとセクションの詳細を示す。第三十五圖はその出來上り外觀である。

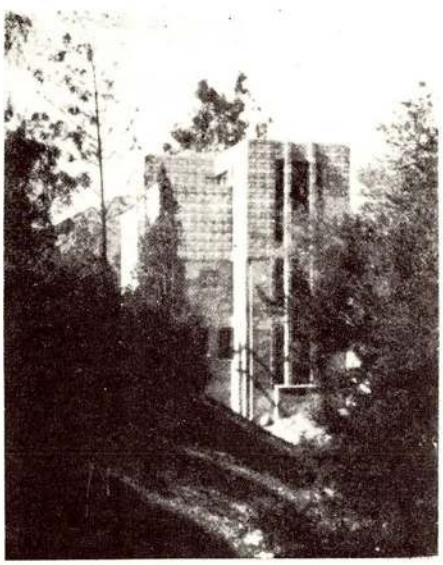
八、結論

以上獨佛米に行はれて居る小住宅工法の數種を述べたが、最後にこの工法が日本に招來出來るか否か考へて見たい。

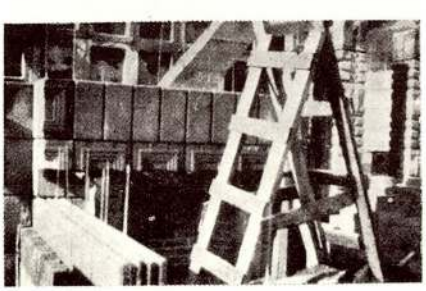
第一に考ふべきことは耐震的効果如何と云ふことである。この工法は一見したところ地震に對して



第三十圖の（三）



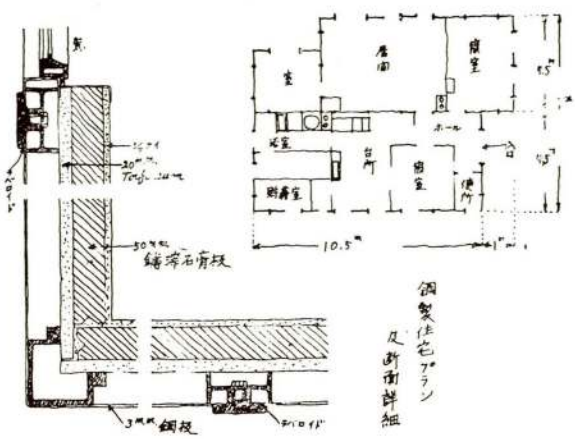
第三十圖の（四）



第三十一圖　ライトの工法
中築建邸ルーストル



第三十二圖ライトの工法・フリーマン邸



第三十四圖　ムツへの工法

甚だ弱い様に思はれる。これは獨佛あたりで地震の心配がなくその點に考慮が拂はれてないからであらうと思ふ。

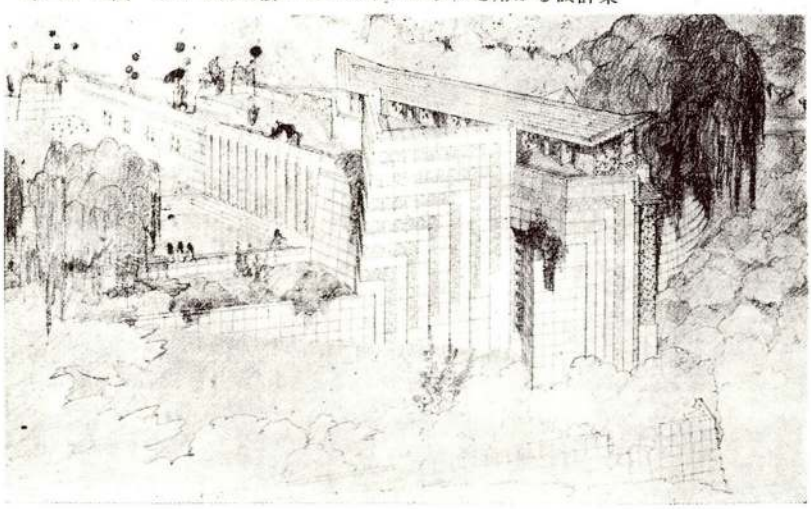
第二の點は耐久的か否かと云ふ點である。鐵骨が錆びて力を失ひ終には架構が弱くなつて崩壊するのではあるまいかと思はれるが、これも程度問題で正常の狀態でさえあれば二十年や三十年は大丈夫の様に思はれる、勿論正確な實驗をしてからでないと云へないが鐵橋や、鐵道のレールのことを思へば先づ心配はあるまい。



第三十五圖　ムツへの工法爭製家屋の外觀

鐵骨の架構の代りに鐵筋コンクリートの架構とすればこの心配は全然なくなる筆者も三年前にこの方法を工夫したことがある。それは柱を二五×二五センチ、梁を二五×二五センチと定め、柱間を一二五センチとし、壁體は五センチ×一〇〇センチ×五〇センチのコンクリート板としこれ等を組み合せる方法であつた。柱は厚三センチのモルタル型を兩方から合して柱形とする様にし、鐵筋を組んだ後に前後からこのモルタルの型板を合はせてその中へコンクリートを流し込み、同時に壁のコンクリート板を柱と柱の間へはさみこむ。梁は二五×二五センチの大さの型板をモルタル厚三センチで造り柱や壁

第三十三圖　ライトの工法・セメントブロックを用ふる設計案



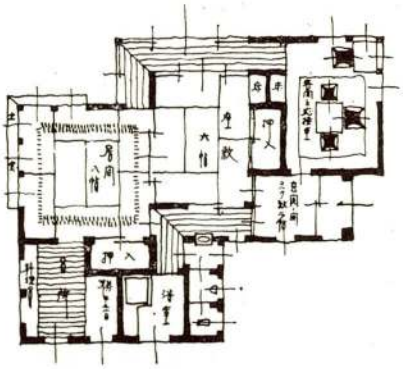
生活最少限度の住宅研究

中村義雄

生活最少限度の住宅を研究することは、現代の社會に於て最も重大にして必要なことであり我等の最大な義務と考へてゐる。

此種の小住宅を研究するには舊來の住宅の如き虚榮的な精神を離れて最も純な氣持ちで科學的に合法的にやらねばならない。此の科學的には衛生上の問題と耐火耐震等の構造上のことと經濟的には建築費とこれに對する維持費、場所道路關係交通上のことを考慮し充分立體的に研究する必要がある。

現代の我れ〳〵の住宅は休養、安息、慰安のホームと云ふばかりでなく、社交上の一種のクラブの類似行爲をしたり、或ひは料理屋の如く宿屋の様なことを家庭でする爲めに、常に住宅らしい住宅が出來て來ない、これは目的外れのことに利用し過ぎるからで、これを切り離し、眞の住宅を考へることは此の種の目的たる生活最少限度の小住宅となるのである。





板の上へこの型板を並べて後鐵筋を入れコンクリートを流し込む二階床はコンクリートの薄板一〇〇×一〇〇×三センチを並べその上へ鐵筋を組んで小梁無しスラブに打つ方法で主として木の假枠を用ひずに速に工事を進めて行く目的でジードルング計劃に採用したものであるが實施して居ないから結果を語る資格はない。

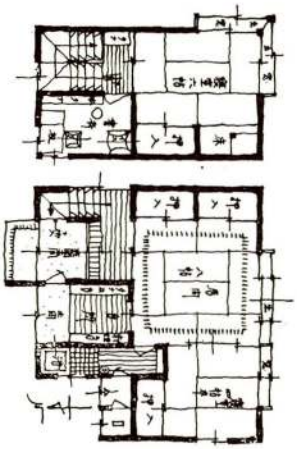
第三の點は夏の防暑、冬の防寒の方から云ふ熱の傳導度如何と云ふ問題である。これはセロテツクスを張つたり、コルク板を使つたり輕石コンクリート板を用ひれば普通の鐵筋コンクリート造シツクイ仕上よりも好結果をもたらすであらうと思はれる。

グロピウスのストツツトガルトの住宅にあつては壁の熱傳導度は0.38 K cal/m² h °C屋根の熱傳導度は 0.565 K cal/m² h °Cだと云ふし又ルツクハルトのダーレムの住宅に於ては壁の熱傳導度は三八センチの煉瓦壁兩面シツクイ仕上のものより好結果だと報告してある。

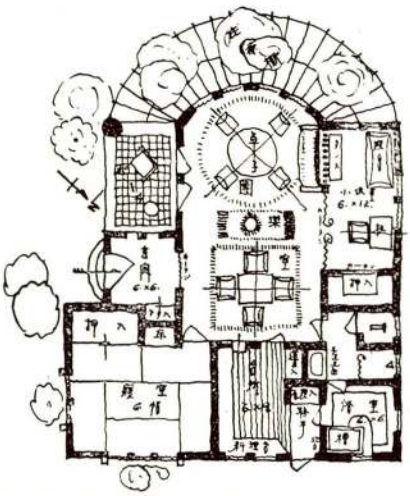
ムツヘの鋼製住宅に於てもその壁は七二・五センチの煉瓦壁と同じ結果を得て居ると報告してあるこの防暑防寒の點では好結果のわけである。

第四の點は工費が低廉なりや否や。この點が本工法の死活の分れる所であるが數多く同一住宅を造る場合は普通の鐵筋コンクリート造の假枠を用ふる方法より有利なるは事實である。しかしこれもどの程度に安くなり、何軒以上から有利になるか詳細の研究にまつ所が多いのは勿論である。

最後に獨乙のジードルングの如きものが日本に起り得るか、即ち共同生活に日本人が適するや否やその經營が日本に適するか否か、これも將來に屬することであるが必ずしも不可能ではないと思はれる。（完）







生活の最少限度にも色々あるが、私は中産階級―特にサラリーマン級―の最も必要にして、合法的な小住宅を云ふ考へで、これを學問的に研究するばかりでなしに實際的に、これを實行する考へを書くこととする。

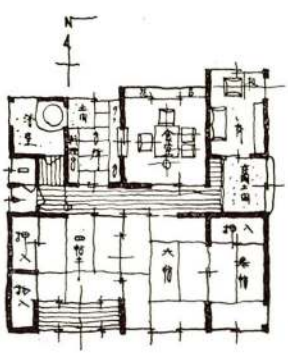
生活最少限度の小住宅とはどんな大きさの家かと云へば、私は假りに一家に夫婦と小供のある家庭で十五坪以上二十五坪位以内、其の工費千五百から二千五百圓前後の家と假定をしておく、郊外の長屋住宅大體十五圓位から卅圓迄の家賃の住宅と同一のものであると考へるが、長家は營利を目的に建てた家であるから其の住宅としての色々の點を滿足せしめて居ない。

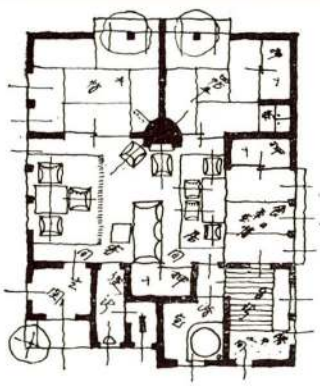
これは一寸脫線的なことではあるが、私の常に考へてゐることは、假りに貸家長屋廿圓の家賃に住む人は年に二百四十圓の支拂を知らずの間に行つてゐる。これを五年間すれば利子共千三百圓となるが、近頃の様な物價の安い時は、これで家が出來ると思ふ。五年間の支拂高で自分の家が出來るのであるから、大いに此點考へねばならないことゝ思つてゐる。

◇

一般に自分の家を造る時は餘程の金の出來た時にのみ作る可きものでなく、貯蓄の出來得る準備の爲めに先ず家を造る可きものと思ふ。此の時に必要な住宅は最少限度の住宅である。

私は少し極端な生活改造論者であるが、夫婦丈けなれば女中は勿論室數も二室位以上は不必要のことゝ思つてゐる。借家では人の家であるから色々の不自由もあるが、其の代り不必要のことも多く、生活も何んとなく物足りなく感じながら日を送つてゐる人が大部分







である此種の人も此點大いに考へてほしい。

一、生活最少限度にはこれだけは必要

一、生活最少限度にはこれは不必要

此の二項目に就て必要のことは日當りの良い家族團欒室六帖乃至八帖位一個と寢室四帖半又は六帖一個、一坪の臺所と一坪乃至半坪の便所一個、一間乃至一間半の押入一個、半坪の浴室一個、これだけは是非必要のことで、子供があれば日當りの良い四帖半又は六帖の子供勉强室兼寢室は必要缺くことが出來ない。これ以上は趣味の點道樂の點で、生活には直接關係はないが、小さい床の間の一つ位は必要かも知れない。

不必要の點に就ては應接室、客室、長い廊下、大きい床の間、廣い玄關等である。

◇

構造上と外觀と材料に就てこれを考へて見ると構造上からは基礎の幅を出來るだけ廣く、「コンクリート」して丈夫なる基礎を作ること、柱を細かく筋違を土地の風の方向を考へて充分入れる必要がある。天井の高い家は氣持は良いが工費も重なり、風とか地震には幾分弱くする。冬は室の温りも遲く不經濟此上もない、先ず七尺五寸から八尺位迄にしたい、然し床下の高さは二尺以上必要かと思ふ、これは誰れでも知つてゐることであるが、出來るだけ要所は金物で締め付けてほしい。私の云ふ構造上の最少限度の小住宅になると非常に武骨な住宅の樣に見へることになるが、一寸した手法に依り見た所軟かくすること即ち趣味化しなければならない。

外觀の點に就ては、氣取ること、無理をせぬことが第一で、出來た平面を意匠化することである。よく郊外で見る住宅は大てい此點に就て私の意見と相反してゐる家が多い。恰好の良い家は氣取過ぎてゐる無理をしてゐる。構造上も風雨の關係を無視してゐる家も時々見受ける。時には無理に一部分外觀を洋式として日本式の家に續けて居るのがある。そればかりでなく、瓦の色迄變へて葺いてゐるのがあるが、これは一般に借手が多いと云ふから不思議と常に思ふ。

◇

生活最少限度の住宅は私の式で行けば、是非洋式にしたい。構造上の見地より盜難の點は洋式は堅牢で戸締も良く出來る、近來は外部を洋式にして內部を日本式にするのが多くなつて來てゐる。また工費の點でも材料の幾分惡いものを使用するも差支ないから此種の住宅には必要のことである。窓とか出入口には必ず庇を付けることは日本の風土に適するばかりでなく、これに依り外觀の體裁も變化あつて良いと思ふ。

材料の點に就ては舊來の木材選定主義を是非捨てゝ行き度い。近頃は米材より惡い內地材の方が幾分安いからこれを利用して行くこと、必要以外の大きな材料を無理に使はず、全體の木材相互に力の分布を充分考慮して組立てゝ行き度いと思ふ。屋根瓦の類は一定の色(斑點濃淡差支ない)として色分けは禁物である。高い箱棟も感心出來ない最も從順な氣取らない振らない樣にしたい。

ペンキを使ふ場所を少し位は、オイルステイン色付程度にしておき度い。

◇

結局は生活第一主義に依つて他人に見せる爲めの住宅でないと云ふことゝ氣取らず飾らず、一寸見てよいより永久に味のある家を作ることが必要で、椅子式、疊式何れにてもよく、現代としては二重にならない範圍內に於て混用なし、例へば子供等は椅子寢室式にして、其他は疊式にするのも良い方法の一つである。

挿圖の平面圖は是非一度見て戴き度い、幾分大小はあるが、最少限度の住宅として、私の常に實行してゐる式の平面であり、皆其の趣が變つてゐると思ふ。

實用安價小住宅の研究

渡邊金藏

住宅を建築せんとすれば凡そ幾坪の敷地を必要とするか、又敷地の形はどんな取方が良いかと云ふ事は家を造る人々には必ず起る疑問であるが、家の前にも後にも庭を用意すると云ふ事になれば、敷地は長方形にして大分廣いものが必要となる。

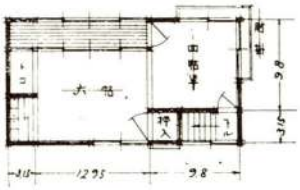
従來日本住宅の敷地は正方形であつたが、近頃長方形とする傾向があるが、これは敷地利用上最も好き事である。

その敷地の取り方は奥行は間口の二倍以上二倍半位を普通とするも、それ以上に細長く取る事は又不便を生ずる故約二倍位を最も適當とする。

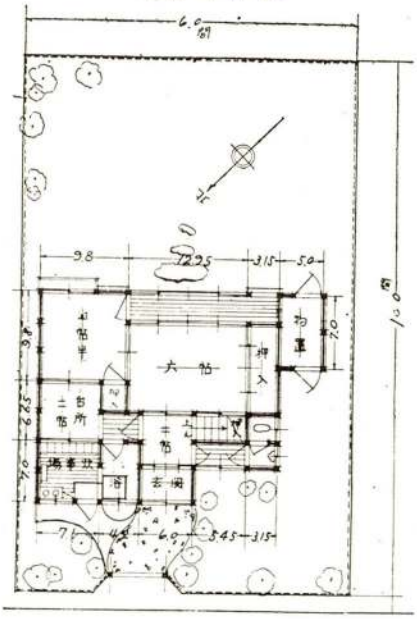
近頃都市の住宅として設計する場合は、間口六間奥行十間（六十坪）より今少しゆつくりとした中流以上の住宅では間口八間奥行十三間（百四坪）位に取るのが普通である。

敷地の選定に當つては交通の便不便、市場や醫師の有無、環境の良し惡し等と云ふが如き事も注意せねばなりません。

先ず敷地の選定が終れば建物の大さ及配置である建物の大さは敷地の約三割位が最も適當である。一寸考へて見れば七割の空地は廣過ぎる様に思はれますけれ共、實際に家を建てゝ見ると軒の出等が出て決して廣い空地は空きません。次ぎに建物の配置でありますが、六大都市には市街地建築物法規が適用せられて自分の家を自分勝手に建てる譯に行かぬ様になつて色々と法規の制限がある。例へば軒高の制限（木造ならば九米突以下）とか、廣さの制限（建物は敷地の六割以内）とか、道路の制限（九尺以上の道路にして其の敷地は建築線に接して居なければ建物を建築する事は出來ぬ）とか、窓の廣さ及び高さの制限（採光面積窓や入口の總面積は座敷の面積の一割以上）等と云ふ如く色々と制限がある。これは主として衛生及保安上からの取締りであるからこれ等は建築主としても將來十分心得べきことである。



二階平面圖



一階平面圖

實用小住宅平面圖

一、圖面說明

一、敷地坪數　六十坪

一、建　坪　一階十六坪八三
　　二階九坪三
　　延坪二十六坪一合三勺

一、建築工事費　二千圓也
（附帶工事費共疊建具付一式）

工事概要大略

木造二階建屋根瓦葺
此建坪　十六坪八三
　二階　九坪三
合計延坪　二十六坪一合三勺

一、軒高地盤線より軒桁峠迄で二十尺
五寸屋根四寸五分勾配寄棟造り軒出
柱眞より二尺三寸、階下簷は晒野地

銅板一文字葺き仕上げ基礎は土臺下まで「コンクリート」打人造石洗出し仕上げ外部窓上端迄で羽目板及一部杉皮張り並に小波形鐵板ペンキ塗り仕上とす

一、玄關は布板天井張り土間は色入人造石研出し四半目地切仕上げ腰は人造巾木引廻し色入漆喰壁塗り仕上げとす

一、客間及居間の天井は竿縁天井、板は米杉柾板張り其他の室は米杉柾板張り客室及居間の壁は鶯色砂壁仕上げ其他の室は黃色漆喰塗り仕上げとし廊下、板間及炊事場、便所等は白漆喰塗り仕上げとし炊事場及浴室は窓下端迄で煉瓦積み仕上げ炊事場床は床板張り腰は色「モルタル」鏝磨き塗り浴室は腰タイル張り天井はジョーゴ形天井にして上部は石綿パイプ取付排氣せしむ天井下部には樋型露受けを附し腰より上部は油入色漆喰塗仕上げ窓の上部には天井下端より五寸位の廻轉式湯氣抜裝置を施すものとす

一、便所は大正便所とし臭氣抜を附す

一、二階客間には疊上ばより高七寸内法の引違ひ掃出し窓を附し夏期に於ける夜間通風の要に供す

一、床天井は鏡板天井、疊床とし床脇には違棚及地袋天袋を附す

一、窓上庇は腕木庇にして棰木は皮付丸太使用小舞打ち杉錆皮葺き青竹押へ「ワラビ」繩結びとす

一、肘掛けは切抜隙かし張り手摺付とす

一、臺所設備、窓下には調理臺及冷藏庫取付け而して調理臺下は器具入とす竈は瓦斯竈を取付くるものとす

一、門は冠木門にして周圍に高塀を取設くるものとす

一、其他排水設備等は完全に施工するものとす

一、電燈設備及給水工事は別途工事とす

以上

衛生方面に就て　敷地の選定にも第一土地が高燥であるか否かを見ねばならぬ――若し排水の悪い様な濕地に家を建てると永久に病人が絶へない、室内が濕ぽいと云ふ事が一番人體に有害である。特に風邪に罹り易いから間取りの方法等に就ても特に注意せねばならぬ。そして糞便及下水の處理、採光、空氣の流通、塵芥處理、床下の消毒、在來日本疊の改良等をなして常に消毒をし易くする事とか、又便所の臭氣を防止し衛生的設備を完備する事が必要である。

庭園に就て　敷地選定にも充分の考慮が必要である。折角樹木が澤山自生して居る土地を買乍ら家を建てる時にはこれを切り拂つて建築をなし而して家が出來てから高い金を出して植木屋に庭木の注文をする。これは度々見受ける事ですが、この位不經濟な又愚かなやり方はないのである。凡そ自然木位風情の良きものはない。松一本でも雜木一本でもうまく利用して自分の家を配置すればよい。若し邪魔になる様であれば一時他に移植するがよい。自然木の庭木位感じのよきものはない。

一般世間の人は庭木と云へば松か櫻か檜等に限る様に考へて居られると思ふが、庭木として雜木例へば「エノキ、ムク、クヌギ、ナラ、ケヤキ、センダン、ハゼ等の大木を利用するも一寸面白いものである。

最少限度住宅として（各部分の例）

家の大さを定めるには、家族一人當りを標準として五坪の割合で用意すれば十分である。この五坪の内三坪が居間や客間と云ふ如き直接住居の用に供せらるゝものとなり、殘りの二坪が便所や臺所。押入。階段。納屋と云ふが如き間接住居の用に供する場所となる。故に家族五人の人は延坪二十五坪の建物が必要となる。其の二十五坪の延坪を以て一階と二階の略平面圖を作製し一階十六坪、二階九坪位となれば其敷地は一階建坪の三倍半乃至五倍を標準とする。これにて計算すれば自分の家が凡そどの位のものであれば充分であるかゞ分かる。又敷地は五十六坪乃至八十坪のものを用意すれば先づ足りると云ふ事がすぐ分る。（完）

（五十六頁より續く）

來るだけコムパクトに一個體に纏めたもので、使用中は第八圖の如くなり、使用後は第七圖の如く全部密閉し得る様になつた極めて重寶なものであるが、これはアメリカのキツチエネツトや或はクツキング・キヤビネツト等と同様に、小住宅向と言ふよりも、寧ろ週末住宅やサンマー・ハウス等に好適なものだと思ふ。

――一九三二・五・一五――

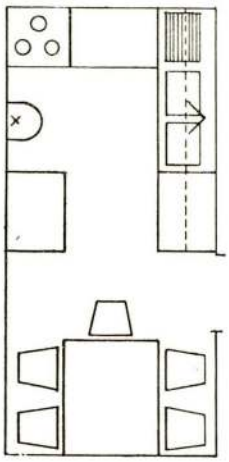
小住宅の台所に就いて

新名種夫

×××

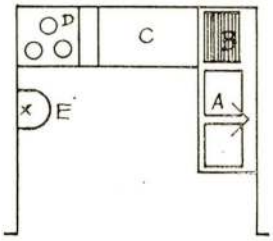
小住宅（延坪三〇坪程度までの住宅はこの中に含めてよいと思ふ）の臺所として考ふべき根本問題は、唯一つ、衛生的に且能率よく食事を處理すると言ふことである。

主婦達は臺所に於て作業中にも、子供の世話をしなければならないこともあるであらう。隣家の奥さんと應對しなければならないこともあるだらう。だが、それ等は原則として、寧ろ臺所に於てなされることを避けるべきことであつて、臺所設計の要素にはなり得ない。



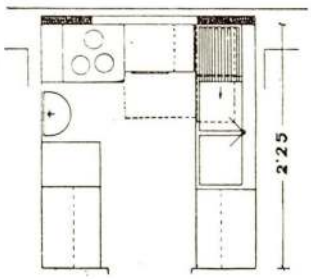
22

第一圖



21

第二圖



23 Küche „R¹⁵". 4,5 qm. Grundriß und Ansichten.
Plans et vues.

第三圖

アメリカやスエーデンの小住宅では、臺所の一隅に食卓と數個の椅子とを置いて、そこで食事が出來る樣にして居るが（第一圖）、この行方には、

一、居室の方へ食物の臭氣が浸入しないこと、

二、食卓への食物運搬竝にその跡始末の勞力が省けること

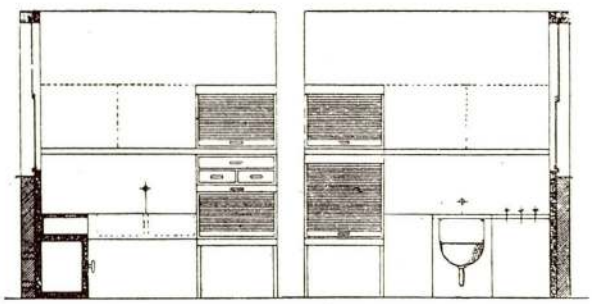
三、主婦が食事中にも窯の火に目を配ることが出來ること

等の利益があり、我國でも最近此の方法が大分行はれて來た樣であるが、自分としては、此の方法が家族特に主婦に、食事中も打ちくつろいだ感じを與へないと言ふ點で、決して歡迎すべきものでないと思つて居る。

臺所は食前には食物の調理を、そして食後には食器の跡始末を、衛生的に且能率よく行ふ以外の場所であるべきではない。

×××

一般に小住宅に於て、居室寢室等長時間使用される室の面積を增加する爲に、臺所、洗濯場、浴室、洗面所、便所等一時的使用の部分に對して、その機能を增せない限、否或場合には節約と同時に却つてその機能をよりよく發揮させる爲に、能ふ限りその面積を節約する



/ Kitchen "R¹⁵". 4,5 metres square. Plans and Sketches. / Cuisine «R¹⁵». 4,5

第四圖

様努力することは當然の傾向である。

臺所はそれ等のもの、中で比較的長時間使用される場所であり、且浴室、便所、洗濯場等と異り、種々なる臺所用具の配置を必要とする故に、その面積の節約には可成の工夫が必要であるが、巧なる臺所用具の配置と相俟つて行はれた臺所面積の節約は、無秩序な廣い臺所の場合よりも却つて勞力と時間との節約になり、更に節約された臺所面積に對する建築費の節約となる。

だが、飽くまで臺所用具その物の改良とその配置の改善とにスタートすべきであつて、その點を忽にして、臺所の改良、臺所面積の節約、調理能率の增進を求めるのは源を清めずして河清を願ふものに等しいと思ふ。

×××

小住宅の臺所として求むべき要點は、結局、調理に要する最少限度のスペイスと、臺所用具の適當なる配置と、能率よき用具の構造とに歸着する。

以下是等に就いて、ベルリンの建築家フーゴ・ヘーリング氏の圖例に從つて、簡略に述べて見る。

第二圖は調理の際に、出來る限り歩行する距離を少くする様工夫されたプランの一例である。Aは流し、Bは水切板、Cは調理臺、Dは電氣又は瓦斯レンヂ、Eは手洗鉢である。小住宅の臺所用具としては大略これ等のもので盡きる。

（水切板は常に流しの左にある方が使用に便利であるから、設計の際に右側にならない様に注意を要する）これ等の臺所用具は全部、既成のものが衛生器具商、家具屋、百貨店等に賣出されて居るから、手頃なものを選んで圖の如く配置した方が安くもあり便利でもある。これで臺所の調理作業に對する膳立は出來上つたわけだ。

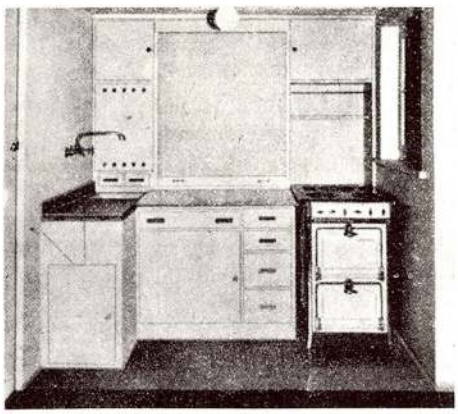
殘るのは食器及調理用器具を入れる戸棚で、この適當な大さのものを殘つたスペイスに都合よく配置すれば、小住宅の臺所の設備は完備したと言つてよい。

國立高層建築竝住宅經濟研究會（獨逸）の發表に依れば、簡單な小住宅の臺所に必要な戸棚の容積は、合計一・一立方米となつて居る。且戸棚には奥行の異つたものが二つ必要で、一つは奥行三〇糎、今一つは奥行五〇糎が適當である。奥行三〇糎のものは直徑二六糎位までのコップや皿等を入れ、五〇糎のものは鍋壺等の調理用具を入れる爲のものである。

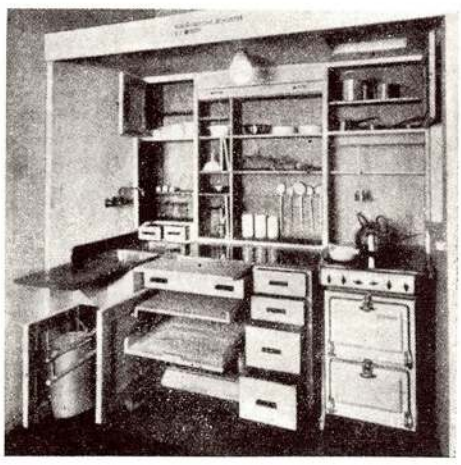
第五圖



第七圖



第八圖



奥行の淺いものは流しや水切り板の上方、仕事の邪魔にならない高さに棚を作つておいて、その上に置き、奥行の深いものはその下方、殘つた適當なスペイスにこれを置く。

第二圖に是等の戸棚を配置したものが第三圖及第四圖であるが、延坪三〇坪位までの小住宅の臺所は、此のプランで過不足なく料理の目的が達せられると思ふ。

第四圖上部の點線は奥行の淺い食器戸棚を、必要に應じて、臺所の兩側壁面に夫々三個まで增加し得ることを示したものである。

奥行の深い戸棚の代りに、第五圖の如く戸棚兼調理臺とでも言ふべきものを置き、その上を調理臺に利用すると一層便利である。(此の戸棚の後方に換氣孔を設けて、外氣が直接に流通する樣にしておけば更によい)

かくして完全に配置せられた臺所では、兩側合計六個の食器戸棚(夫々五〇糎×七五糎×三〇糎)と二個の調理用具戸棚(夫々七五糎×七五糎×五〇糎)とを有することになり、その容積合計約一・二四立方米、前記の國立研究會發表の一・二立方米に比して遙に大なる容積を有することとなる。

戸棚を建築工事と一諸に、臺所に取附けることが屢々行はれる。例へばフランクフルトの住宅地に於ける臺所などはその例であり、我國でも新しい住宅には大分此の方法が行はれて來たが、最近は大量生産に依つて、家具が木造のみならず鋼鐵でも、非常に安く製作される樣になつたから、第四圖の如く、既製品の寸法に合ふ樣に豫め置く場所のみを作つておいて、必要に應じて既製品を買つて据付ける樣にした方が便利だと思ふ。

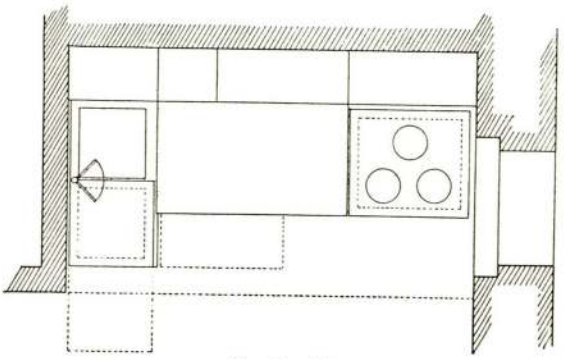
以上の配置の如くすれば、我々は僅かに二米×二米二五即ち四・五平方米(約一坪三五)の台所面積を有すれば、過不足なく調理の目的が達せられる。この程度の台所が、小住宅の台所として、最も適當且便利なものではないかと思ふ。

若し此の台所を擴張して、アメリカや、スエーデンに於けるが如く、台所で食事が出來る樣にすれば、第一圖の如く約八平方米の面積を有する台所が得られ、又同じプリンシプルを今少し敷衍すれば、第九圖の如く約七平方米の床面積を有し、女中一人を使ふ程度の家庭の台所が出來上る。

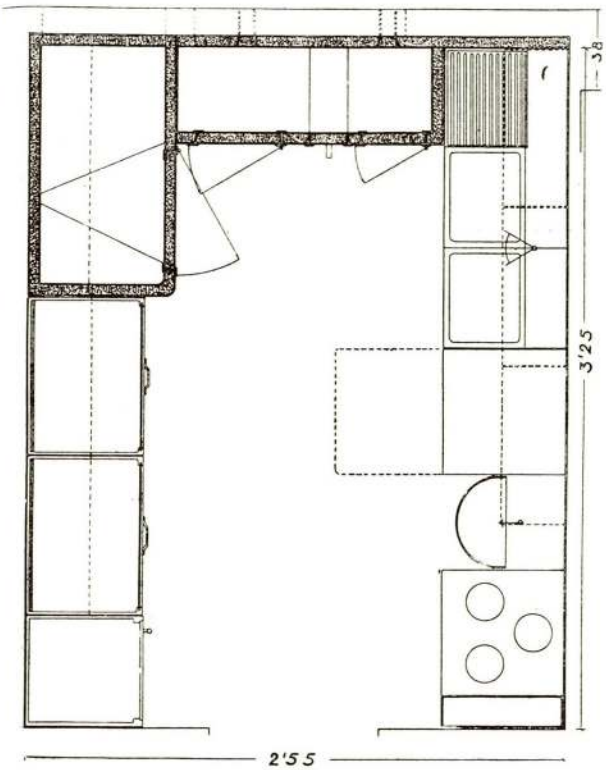
若し、更に小なる面積に台所をコンデンスせんとするならば、フランツ・シュスターの提案した小住宅の簡易台所がある(第六圖、第七圖、第八圖)これは調理台、流し、レンヂ、食器戸棚等を、出

——(以下五十三頁へ續く)——

第六圖



第七圖



1



3



4



5

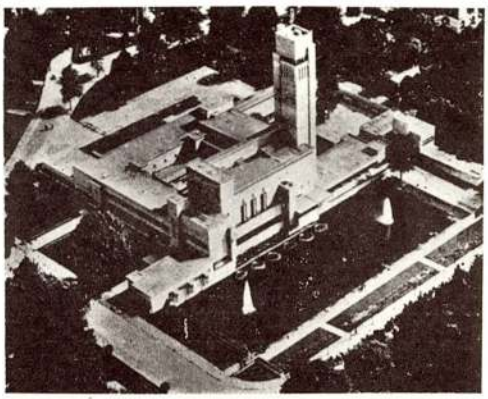


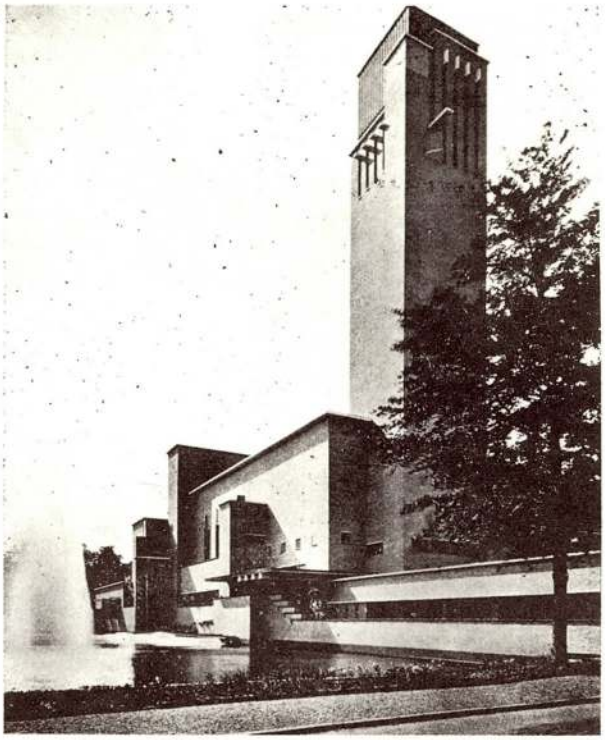
2

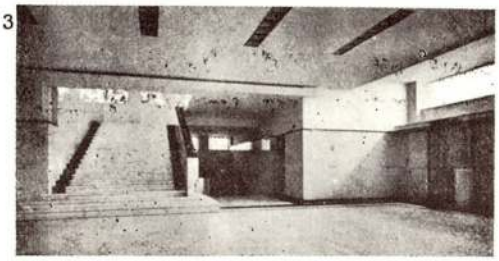


1 外　觀　　2 營業室　　3 社長室　　4 ブロンズ扉　　5 營業室より支配人を

英國　倫敦ナシヨナル・プロビンシアル銀行　　設　計　　サー・エドウイン・クーパー氏

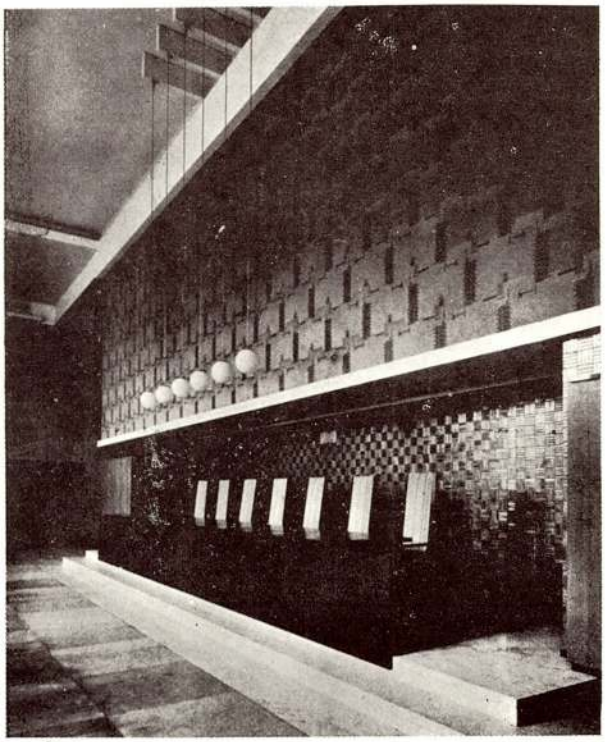












1～2 外　觀　　3 廣　間　　4 市長私室　　5～6 市參事會室

和蘭　ヒルベルサム市廳舍　　設　計　　ウイリアム・デュードック氏

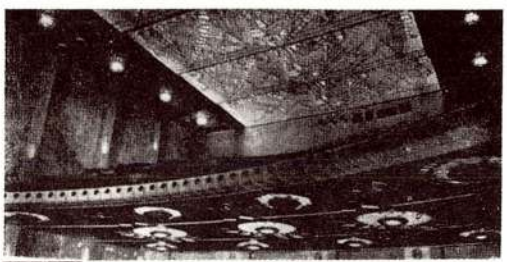
1



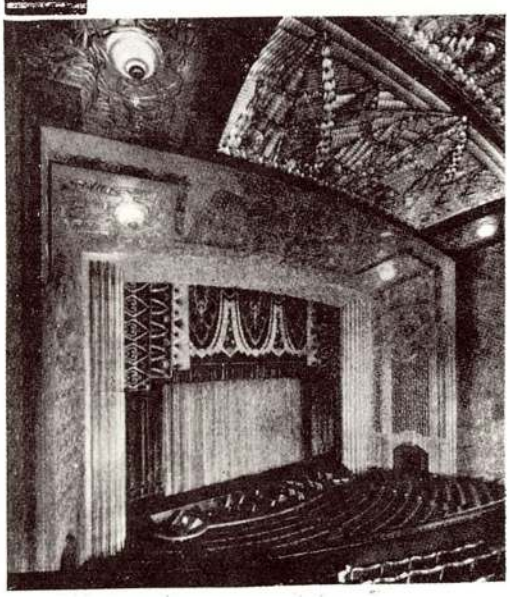
2



3



4



1 獨逸　ミユンヘン・アパートメント

設　計　オトー・オルランド・クルツ氏

2~4 米國　加州・オークランド, 新パラマウント劇場

設　計　ミツラー＋プリューゲル兩氏

1	絕版	住宅懸賞圖案集	全アート紙 四六倍版	定價 壹圓 送料 十二錢
2	初版	婦人の住宅知識	四六版	定價 壹圓 送料 十二錢
3	初版	世界最近建築圖集	全アート紙 四六版	定價 五拾錢 送料 八錢
4	三版	學校建築圖集	四六倍版	定價 壹圓 送料 十八錢
5	新刊	最近建築懸賞圖集	全アート紙 四六倍版	定價 七拾錢 送料 十錢
6	新刊	市街地建築物法令	菊半截版	定價 五拾錢 送料 四錢

賣捌 丸善本支店 柳々堂書店

社團法人 日本建築協會發行

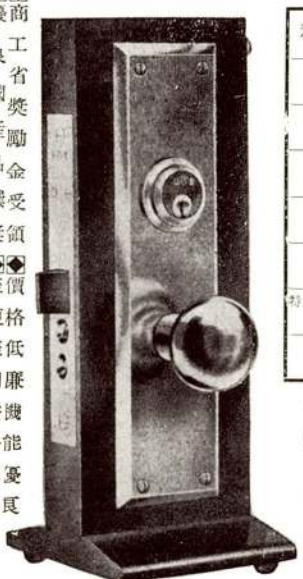
大阪・北區・朝日ビル 405

振替口座大阪 39975

純國產日金印 **シリンダー錠**

シリンダー錠の種類及寸法

◆商工省奬勵金受領
◆優良國產品撰奬
◆價格低廉機能優良
◆至便至利安全無比



種類	ケース 長	ケース 巾	ケース 深	バックセット		フロント 長	フロント 巾
501	145m/m	92m/m	29m/m	63m/m	2½″	203m/m	32m/m 1¼″
502	〃	94m/m	19m/m	67m/m	2⅝″	〃	25m/m 1″
503	106m/m	70m/m	16m/m	50.5m/m	2″	148m/m	22m/m ⅞″
504	145m/m	94m/m	19m/m	67m/m	2⅝″	203m/m	25m/m 1″
505	〃	92m/m	20m/m	63m/m	2½″	〃	32m/m 1¼″
特殊安全裝置 505	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
1002	108m/m	86m/m	19m/m	〃	〃	152m/m	25m/m 1″

特徴及用途

◆合鍵絶無、盗難除完全
生命財産の安全無類
◆ボタン一つの作用にては外部より鍵無くしては開扉不能なるも内部よりは鍵を用ひずして開扉自由なる故地震火事等の非常時に安全且便利至極
◆貸事務室、アパートメント、ホテル、住宅玄關、應接室用として絶好必須
◆不體裁なる棒鍵に代ふるに美麗高雅なるニッケル製鍵となる
◆五〇四號は特殊裝置を施し安全の上にも更に安全の構造となつて居りますから重要玄關用として天籟の福音マスター鍵に御希望に應じます



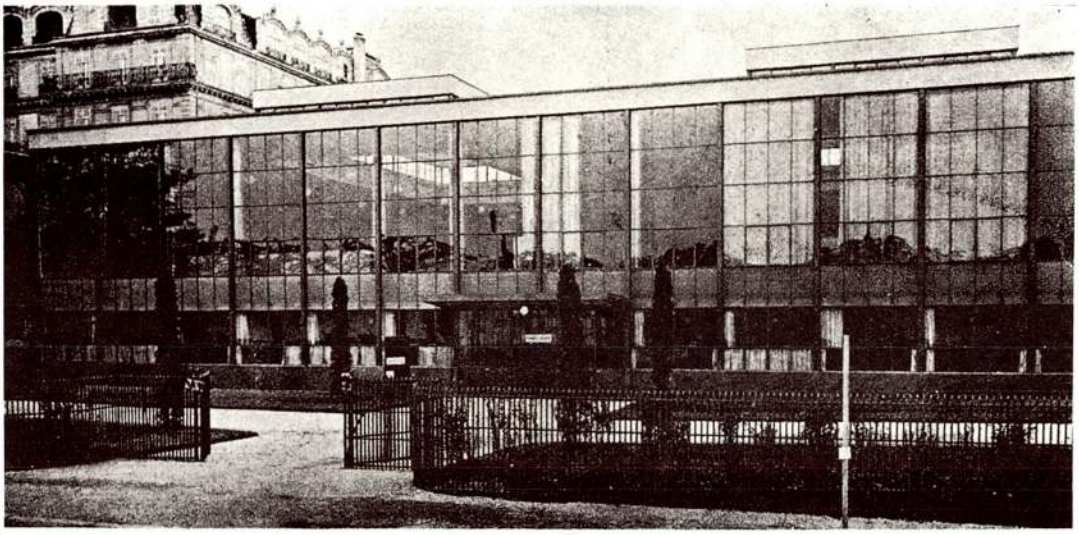


本社 大阪市西淀川區大仁東二丁目
電話土佐堀(44)五五番二八五〇番
五八六番四一〇六番

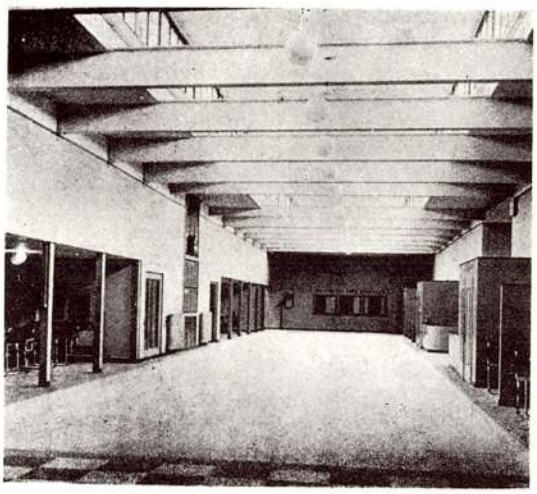
出張所 東京市丸ノ内有樂町報知ビル
電話丸ノ内(23)四九七二番
三六〇四番

日本金具株式會社

1



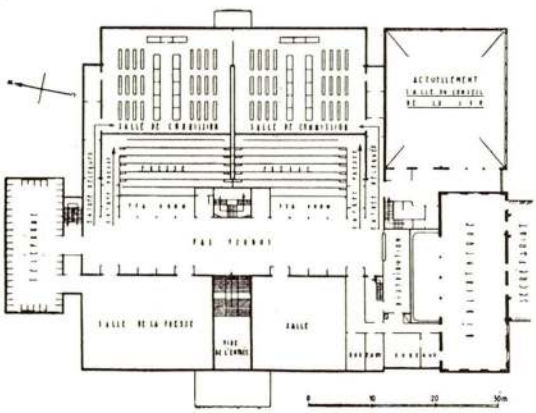
2



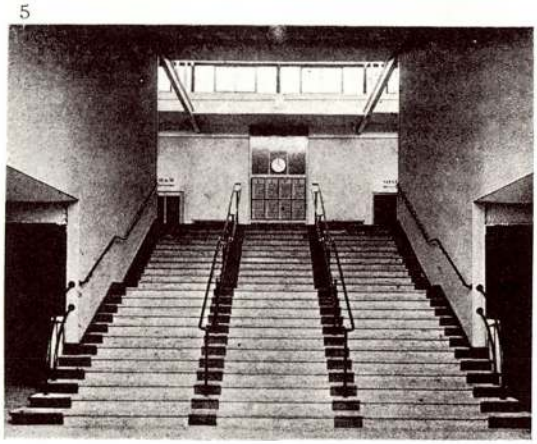
3



4



5



1 正面外觀　2 廣間及休憩室　3 會議室　5 階　段

瑞西　ジユネーブ　軍縮會議所　　設　計　グイヨンネー氏

ヨーギヨーセメント

品質均一優良　輸送至便

ヨーギヨー高級セメント

早期高強度　脱枠迅速



登録商標

LION BRAND

資本金　五百万円　年産　貳百廿万樽

大阪窯業セメント株式會社

大阪市北区堂島濱通二丁目
北自一一〇至一一三番

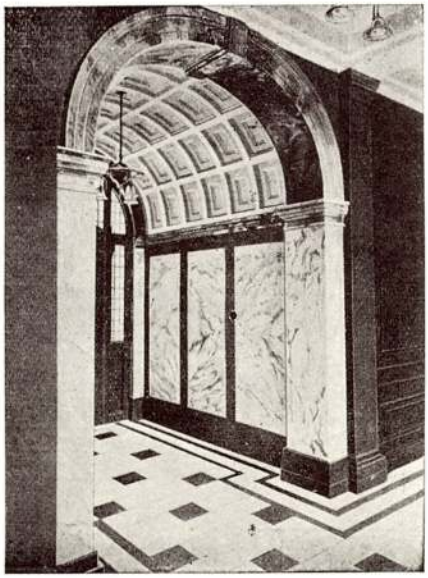
工場　大阪市港区南恩加島町

電話　桜川一一七七二六〇九二八四三

東京出張所　東京市神田区表猿楽町

DUNLOP RUBBER FLOORING





弊社製ゴム床敷は既に數多の官衙、會社、汽船並に諸家庭に敷込まれ、快適なる其の感じは御使用家各位の御滿足御賞讃を得つゝあります。
御必要に應じ何時にても社員を派し詳細に亘り御要求事項を御説明申上げます。

神戸市脇之濱

ダンロップ護謨（極東）株式會社

各地出張所

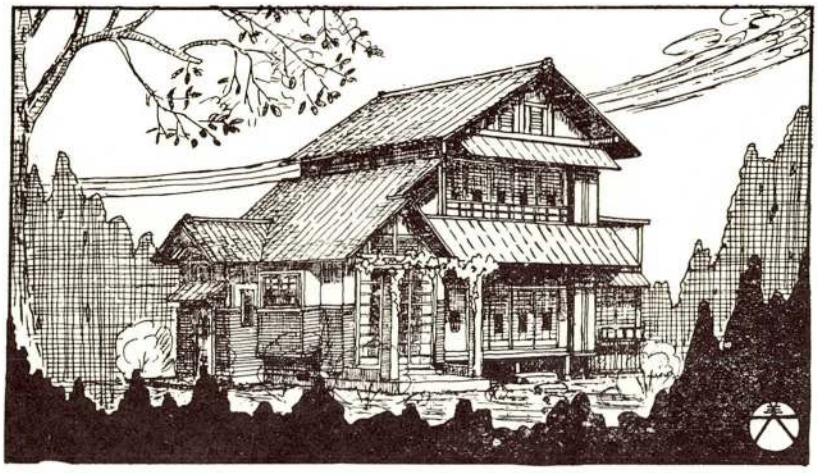
ダンロップ護謨床敷

婦人創作の住宅案

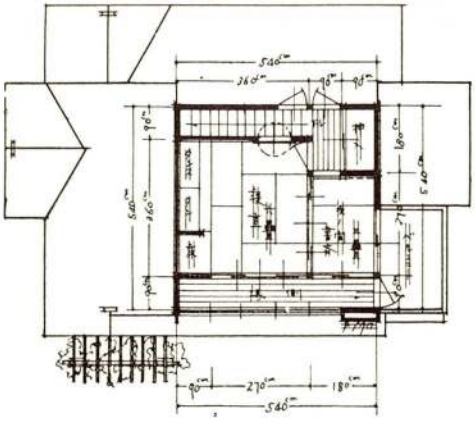
一審査員評

こんどの本會小住宅設計圖案に應募された裡に婦人の案と思はれるものが四五あつた樣に見受けた。恁うした懸賞募集に御婦人の方が應募せられたと云ふことは誠に斯界に珍らしいことであり、將來斯界發達進歩の上にも住宅問題解決の上にも異常なる効果のあつた點に於て、今回の懸賞が一段と意義

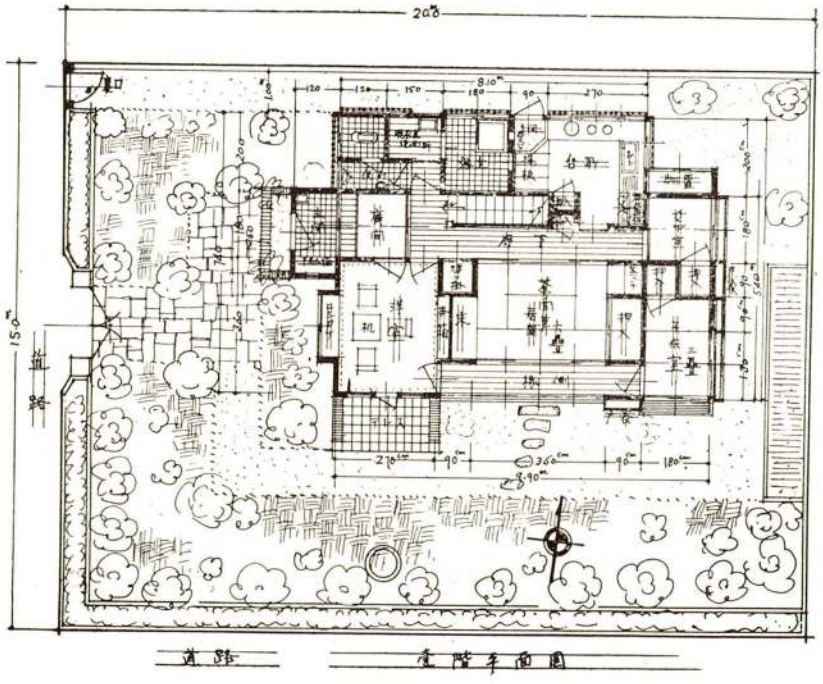
透視圖



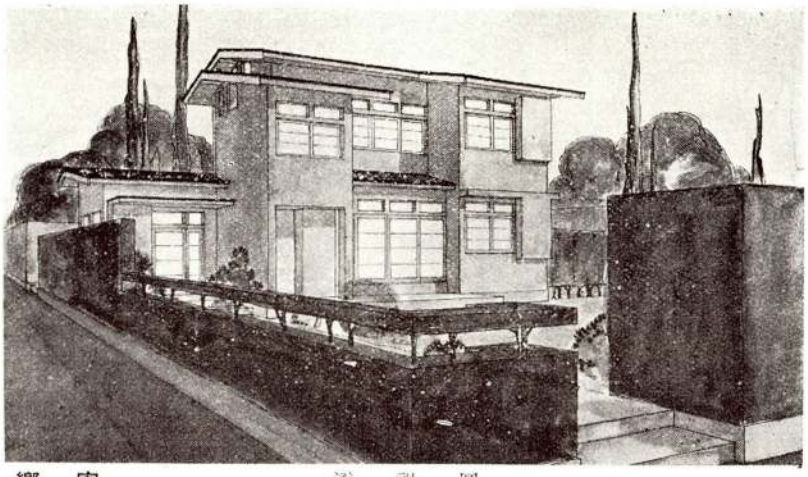
敷地面積
300 平方米
建物延面積
100 平方米



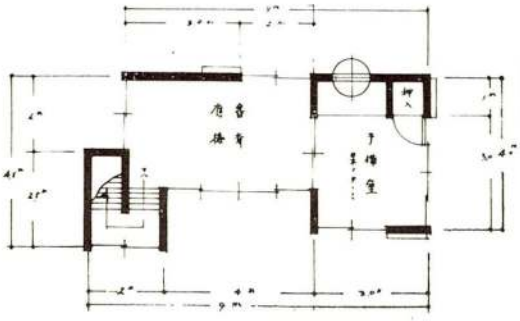
美案



道路　　建物平面圖

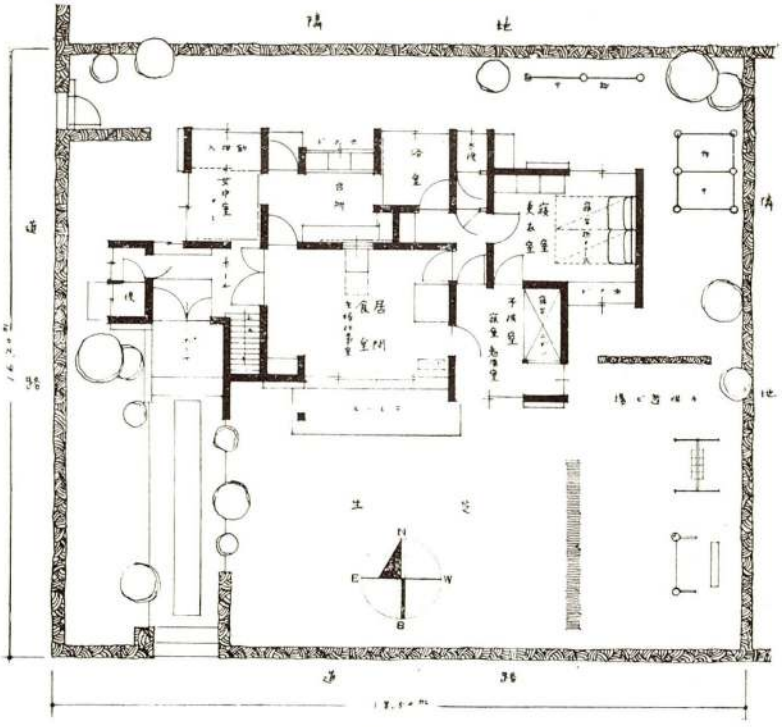


響案　透視圖



二階平面圖

敷地坪數
299.7平方米
建物坪數
100.0平方米
一階坪數
70.0平方米
二階坪數
30.0平方米



一階平面

のあつたことを嬉ぶものであります。

唯だ不幸にして御一名の入選者を得なかつたことではありますが、これは決して御婦人方の不名譽を意味するものでは無く、返つて建築家の本職の者をして一層發奮努力せしむる點に偉大なる効果を齎らしたものと考へまして讀者諸君の御參考迄に御婦人應募者中の二、三案を掲載させていたゞき、且つ極く概要的な批評を致すことゝいたしました。

暗號「響」「美」案共圖面も相當立派にかゝれてあり、御苦心の跡も認められるのでありますが、「響」案に就て申しますと、實用安價の生活要求案として斯の程度迄で洋化すると云ふとは、日本の現狀に於て一考を要するのではないでせうか、プランの上では一階で臺所と居間とのダイレクト、コンミュニケション、子供室、寢室、浴室及居間間の連絡方法、階段の構造に大きな無理がある點等に御考慮の餘地が存するでせう。「美」案は在來普通にあり來りな平面計劃で新味に乏しい點が幾重にも遺憾な御考案であつた。（了）

小住宅設計概要書（住宅委員會立案）

日本建築協會住宅委員會

――こゝに掲載の小住宅設計概要書は前掲小住宅設計圖案三案の設計概要書であつて本會住宅委員會の研究成案のものであります――

基礎工事

一、割栗石を厚五寸内外入れ搗き固めること但し地盤良き場所に在りては却て入れさるを可とす

一、基礎はコンクリート打とし地上は土臺下迄打上げ壁厚は仕上六寸根入一尺五寸位とす

一、床下及土間はコンクリート打とし厚は何れも三寸とす

一、床束下は玉石据付地盤惡しき時はコンクリート基礎とす

一、布石は石及コンクリート打洗出し仕上げとす

一、沓石は石又は人造石洗出し仕上げとす

木材工事

一、土臺は檜とし柱と同寸とす

一、燃土臺は檜三寸角とす

一、柱は日本檜又は米栂とし寸法は三寸五分角位とす

一、桁は米松又は米栂とす

一、胴差は米松とす

一、小屋梁は日本松、母屋及束は杉丸太又は杉押角とす

一、小屋燃梁は米松三寸五分角とす

一、小屋貫は四一貫とし欠打及筋違打とす

一、棰は日本松又は米松山二寸角とす

一、面戸板は棰と同材とし適當の位置に銅織網張通風孔を設くるものとす

一、軒長押は杉四寸長押とす

一、角木は米松とす

一、棰形は米松厚八分とし流れにより巾を定むるものとす

一、野地板は北海松六分板又は杉六分板張とし化粧裏板は杉四分板張、同上野地は木摺打とす

一、大引及束は杉丸太とし半間間に掛け床板一寸板(正七分)とす

一、一階床束足元は檜大胴縁縦横に打付くるものとす

一、筋違は杉中割又は三寸五分角三ツ割とし成可く表れざる所に取付くるものとす

一、壁貫杉四一貫とす

一、二階床組、籠桁は半間まに架渡し床板は厚正七分巾六寸以上本實張とす

一、二階床燃梁は米松三寸五分角とす

一、二階床梁の梁間大なるときは振止として梁下端に杉中割を打付くるものとす

一、椽側上は丸桁又は角桁とし甲州張又は布張或は小舞化粧とし棰は海布丸太又は角棰大面取とし棰間一間五本送り内外とす

一、棰掛は米松又は米栂材とす

一、椽桁の二間半以上持放しのときは桔木を入るゝものとす

一、敷居は日本松又は米栂とす

一、鴨居は米栂とす

一、長押は米栂とす

一、疊寄せ及付鴨居は米栂とす

一、天井廻縁及竿縁は米杉又は米栂とし天井板は米杉杢出し、柾又は日本杉とす同鈎木及野縁は杉大寸とす

一、洋間の天井はタイガーボード或はライオンボード張とし水性ペンキ塗とす

一、床脇地板及棚廻りは鹽地又は栃とし床柱は磨丸太及赤松、床框は張物落掛は米杉又は日本杉、天井板はベニヤ一枚板張とす

一、浴室天井は勾配天井とし天井板は亞鉛引鐵板又は石綿板張下部に樋形を造り滴り受けとし尚上部より通氣ダクトを以て外部に導くものとす

一、炊事場天井は平椽又は打上とし板は石綿板、タイガーボード或はシーリングメタル張ペンキ塗とす

一、玄關土間天井は板天井、塗天井、竹又は簀天井とす

一、玄關式臺、階段及階段廻り胴差は米栂とす

一、椽側及廊下床根太は米松山二寸角一間五本送り板は米栂厚正六分本實

張とす
一、裏所板間は樅八分板張必要に應し一部揚板を設くるものとす
一、押入床根太は米松山二寸角一尺二寸間内外とし板は杉六分板張、中棚框は米松中割、根太及床板は前記同材とす
一、場所に依り押入鴨居上に襖立天袋棚を設け材料は前項同様とす
一、玄關下駄棚は米樅とす
一、外部羽目は杉燒板(四分板)竪張、杉皮張(下地杉四分板張)亞鉛引小浪板張(ペンキ塗)、米松荒木竪張(六分板)とす
一、庇は米松又は米樅とす
一、濡椽は米松又は米樅とし場所により床板の間に竹を挾むものとす
一、手摺及戸袋は米松又は米樅とす
一、各小窓格子は米樅又は鐵格子を取付くるものとす

屋根工事

一、屋根は淡路又は明石瓦一等品とし葺は亞鉛引鐵板葺、ペンキ塗、土居葺は機械扮二寸二分足とす

左官工事

一、壁は眞壁塗とし下地間渡は女竹、掻竹は男竹京割とす
一、上塗は座敷を砂壁其の他は色漆喰塗とす
一、浴室壁は油漆喰又は防水劑入色モルタル塗とす
一、炊事場土間の腰廻りは防水劑入モルタル塗とす
一、外部腰壁は人造石洗出及モルタル刷毛引とし羽目上小壁は油漆喰塗とす
一、土間は玄關を人造石研出又は洗出とし炊事場はモルタル塗とす
一、浴室腰、小便所前及床の一部はタイル張とし浴室床はセメントタイル敷とす
一、屋根漆喰は風油漆喰塗とす

鐓工事

一、樋廻、水切及庇屋根は廿八番亞鉛引鐵板を使用し樋受は亞鉛鍍金のものとす
一、防鼠は鐵板又は鐵網張とす
一、谷板は銅板十オンス付とす

鐵物工事

一、軸及小屋鐵物はボールト及短册鐵物を使用するものとす
一、床下空氣拔格子は鑄鐵製出來合品を使用し内部銅網張とし其の位置は隅の通風に留意し配置するものとす
一、腰タイル及モルタルの下地はラス張とす
一、庇、肘掛及出窓下には下り止め鐵物を使用するものとす

敷物工事

一、疊は機械床備後表二配程度とす
一、床は疊床とす
一、疊及押入の床板下にはタールフエルトを使用するものとす

塗師工事

一、木部の石、コンクリートに接着及一階床下全部並に外部荒木の羽目板は防腐劑塗とす
一、窓鐵格子、床下空氣拔鐵物、晒屋根、樋廻、臭突、溜板、シーリングメタル等はペンキ塗とす
一、軸及小屋鐵物はコールタール燒塗とす
一、タンガーボード類は水性ペンキ塗とす
一、玄關、階段及座敷廻りの木部はカセール塗とす

建具工事

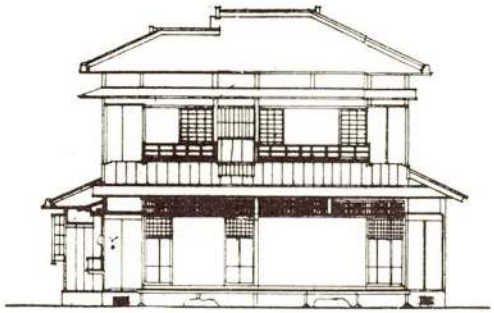
一、玄關格子戸及硝子障子は米檜、紙張障子は米杉、板戸類の框は米檜、板は米杉、襖は中等品を使用するものとす
一、建具金物ハレール(雨戸溝金)及車を眞鍮製とし締金物其他適當に具備するものとす

雜工事

一、煙突は石綿煙突を使用し木部よりは相當の距離を置き取付くるものとす

外周附帶工事

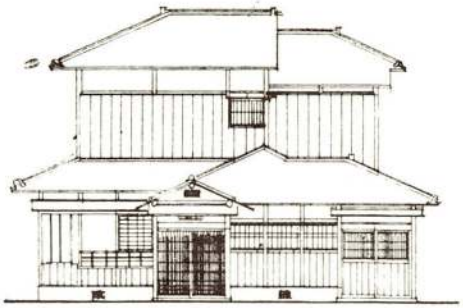
一、排水土管は樂掛とし溜桝は煉瓦半枚積モルタル塗木蓋付、溝緣石は龍山石、底はコンクリートモルタル塗溝中溜桝蓋は鑄鐵簀蓋を附し門前通路(表溝上共)コンクリート洗出仕上とす
一、門は屋形門(瓦葺或は銅板葺)又は丸太柱立とし戸は格子戸又は板戸とす
一、塀は腰コンクリート打豆砂利洗出半土壼柱(二間三ツ割建)笠木及無目は米樅又は米松材とし板は杉雨面燒胴緣は米松大三寸、控柱は檜丸太(二間間)、雁振葺、木部は總て防腐劑塗とす、但し場所に依り生垣、金網柵、小浪板張、目隙張とし木部は荒木とし防腐劑塗とす
一、物干は丸太建とし物置は約半坪のものを設くるものとす
一、井戸屋形は丸太建とし井戸は徑二尺五寸コンクリート側入れ、井戸屋形の屋根は浪板葺とす但し右は必要に應じ設くるものとす(以上)



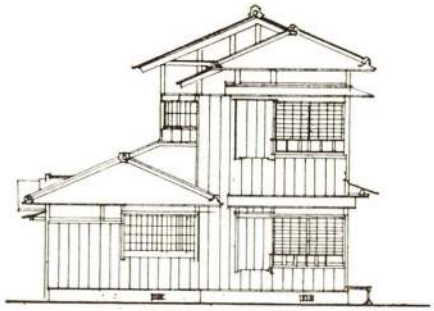
南面



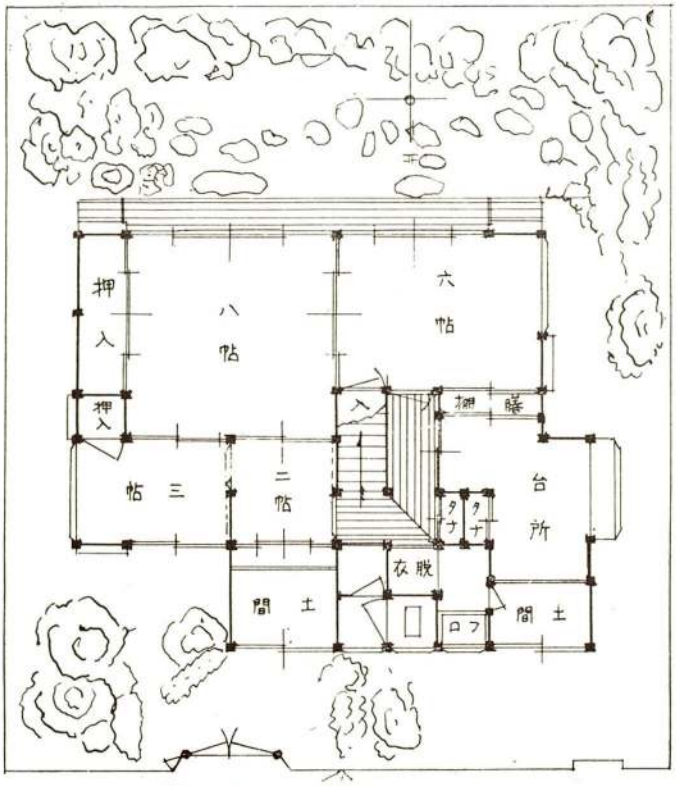
東面



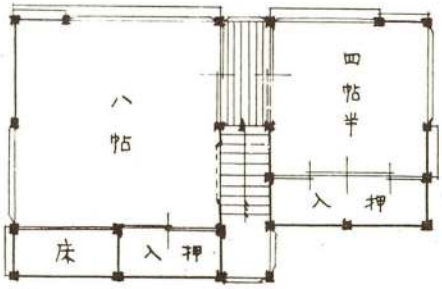
北面



西面



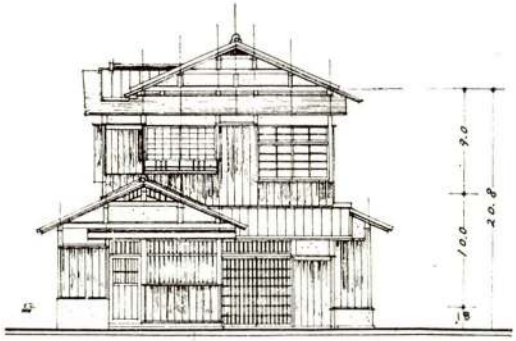
第一案　一階平面図



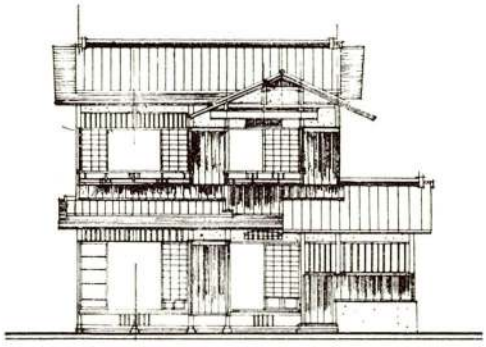
第一案　二階平面図

敷地　五十六坪
一階　十七坪五合
二階　九坪二合五勺
延坪　二十七坪七合五勺

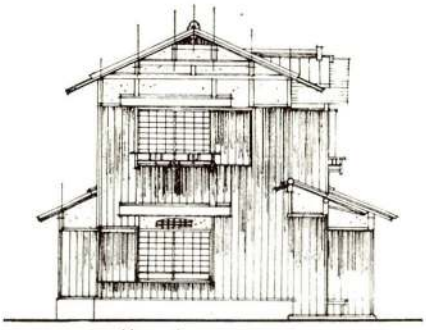
小住宅設計圖案（第一案）（日本建築協會住宅委員會立案）



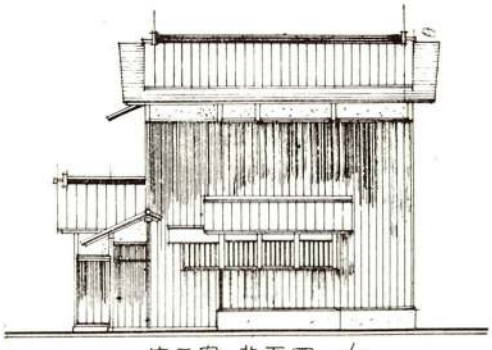
第二案 東正面図 1/100



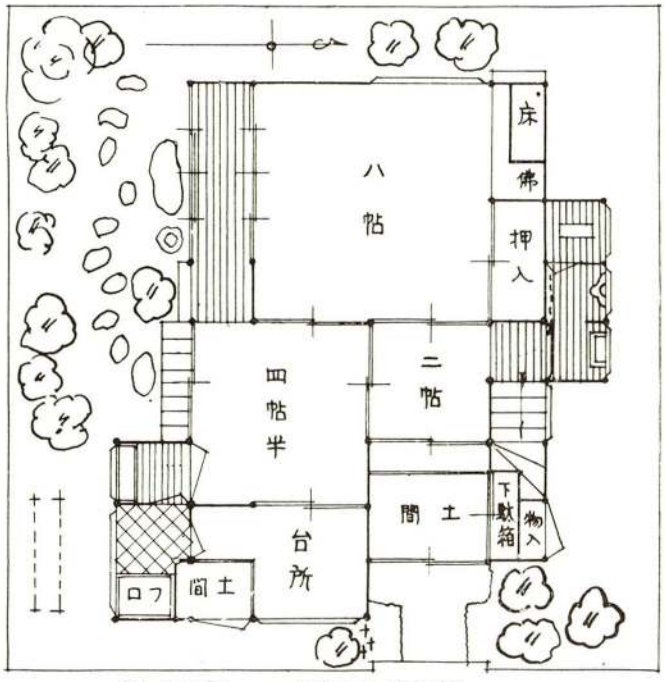
第二案 南面図 1/100



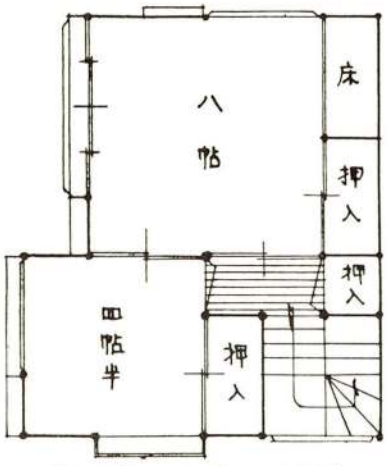
第二案 西面図 1/100



第二案 北面図 1/100



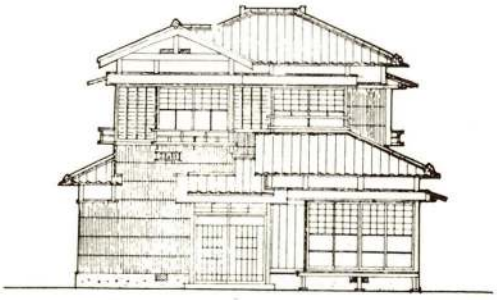
第二案 一階平面図



第二案 二階平面図

敷地	三十六坪
一階	十四坪四合一勺
二階	九坪五合
延坪	二十三坪九合一勺

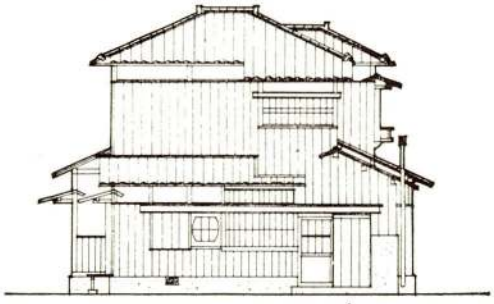
小住宅設計圖案（第二案）（日本建築協會住宅委員會立案）



第三案　南面姿図 1/100



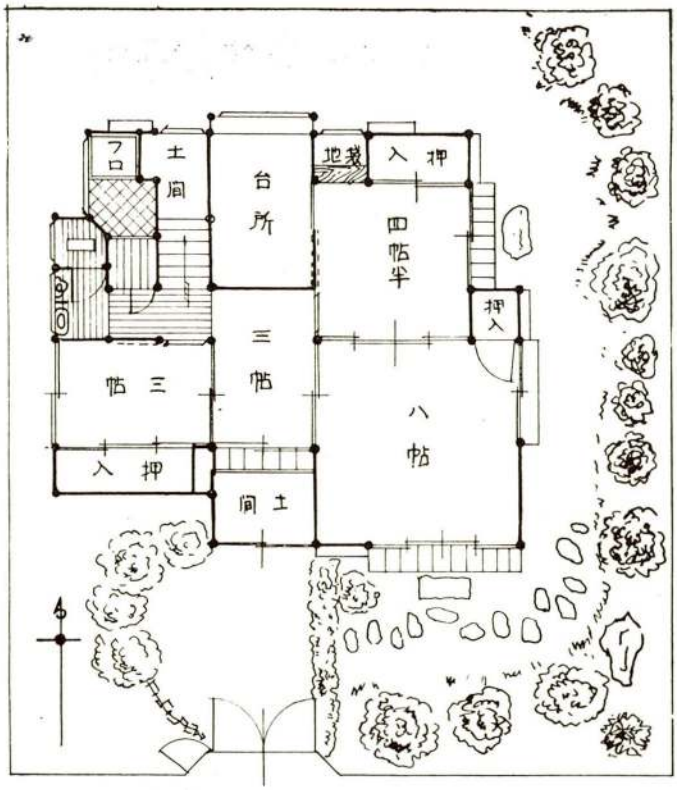
第三案　東面姿図 1/100



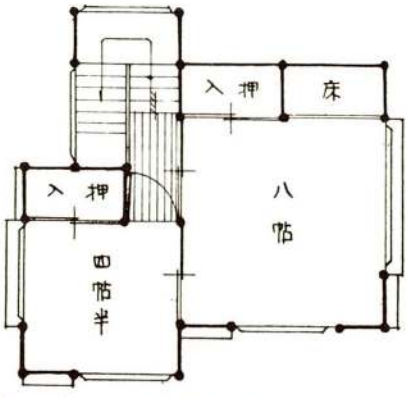
第三案　北面姿図 1/100



第三案　西面姿図 1/100



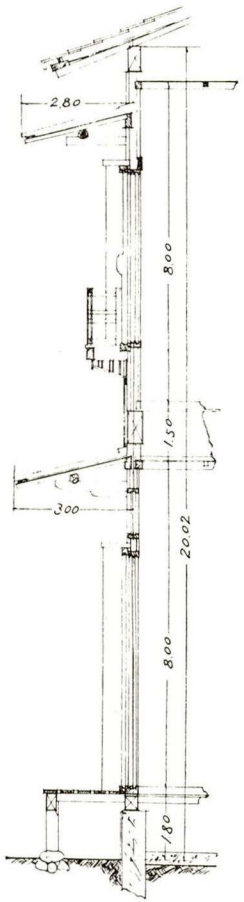
第三案　一階平面図



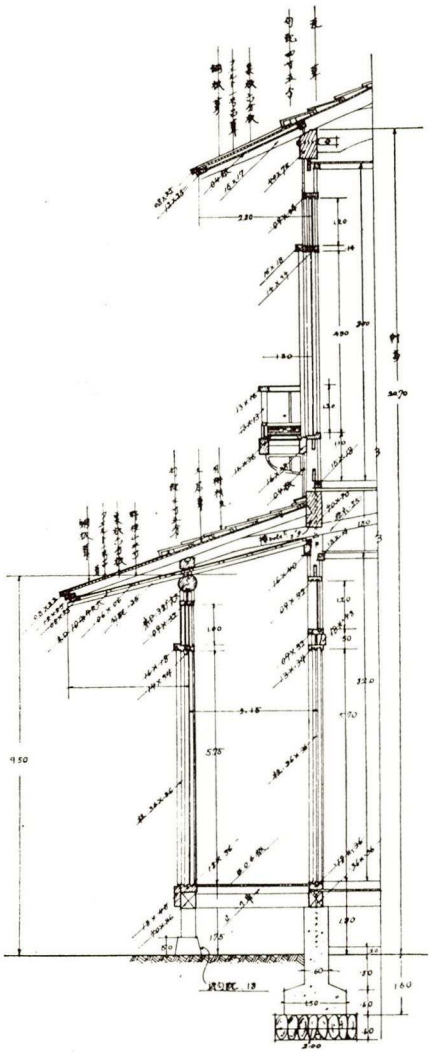
第三案　二階平面図

敷地	五十六坪
一階	十六坪六合
二階	九坪五合
延坪	二十六坪一合

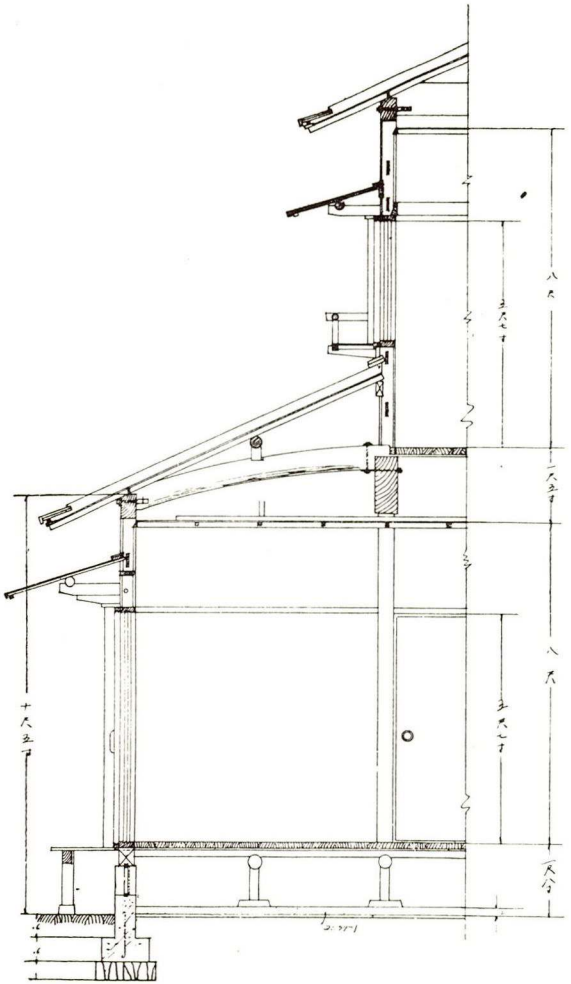
小住宅設計圖案（第三案）（**日本建築協會住宅委員會立案**）



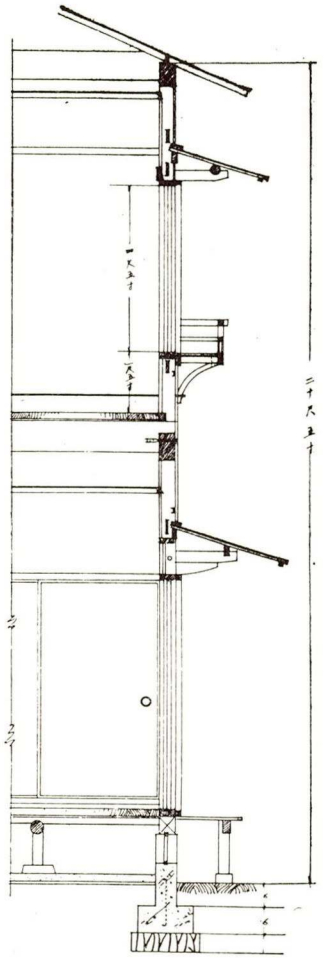
第一案矩計圖



第二案矩計圖



第三案矩計圖



小住宅設計第一・二・三圖案矩計圖（日本建築協會住宅委員會立案）

（前三頁參照）

岐阜愛知兩縣下に於ける古建築解說（下）

工學博士　天沼俊一

はしがき

前號のつづきではあるが、これだけ單獨に讀んでも判るやうにしておいたつもりである。ここでは熱田神宮に始り、甚目寺に終るのであるが、寺院六・神社二の建築を五十六の圖に示した。

終りにつけた「圖版解說の後に記す」と題した一文は、極端に繁簡當を得ぬものだが、「ないよりはいい」といふ程度のもので、何もなしでおくのも餘り體をなさぬから、大部分はほんの簡單につけておいたのである。ただそのうち永保寺開山堂禮堂の懸魚については、豫てから考へてゐたことを、此機會に記した迄のことである。

昭和七年五月五日

目錄

愛知縣

熱田神宮鎭皇門……第五十九・第六十圖
熱田神宮海上門……第六十一圖より第六十三圖まで
○七ッ寺塔婆（三重塔）……第六十四圖
七ッ寺本堂……第六十五圖より第六十九圖まで
七ッ寺本堂須彌壇……第七十圖より第七十二圖まで
性高院表門（四脚門）……第七十三圖より第八十一圖まで
高岳院本門（藥醫門）……第八十二圖より第八十六圖まで
觀音寺塔婆（多寶塔）……第八十七・第八十八圖
天恩寺佛殿……第八十九圖より第九十五圖まで
天恩寺佛殿須彌壇……第九十六圖より第百○一圖まで
天恩寺山門……第百○二圖より第百○六圖まで
知立神社塔婆（多寶塔）……第百○七圖より第百十一圖まで
甚目寺南大門（樓門）……第百十二圖より第百十四圖まで



上。第五十九圖　熱田神宮鎭皇門全景
下。第六十圖　同　南妻

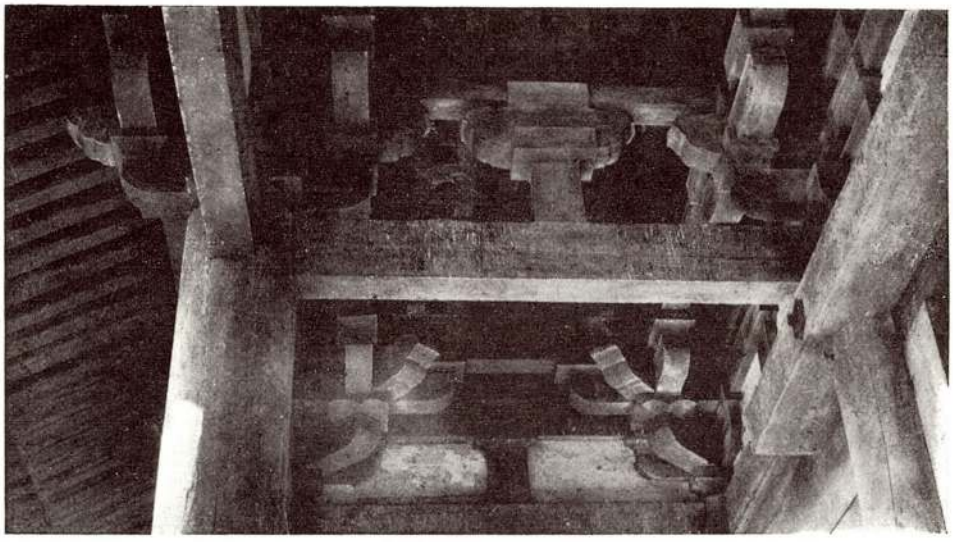
（昭和七年一月四日）
（昭和七年二月十九日）



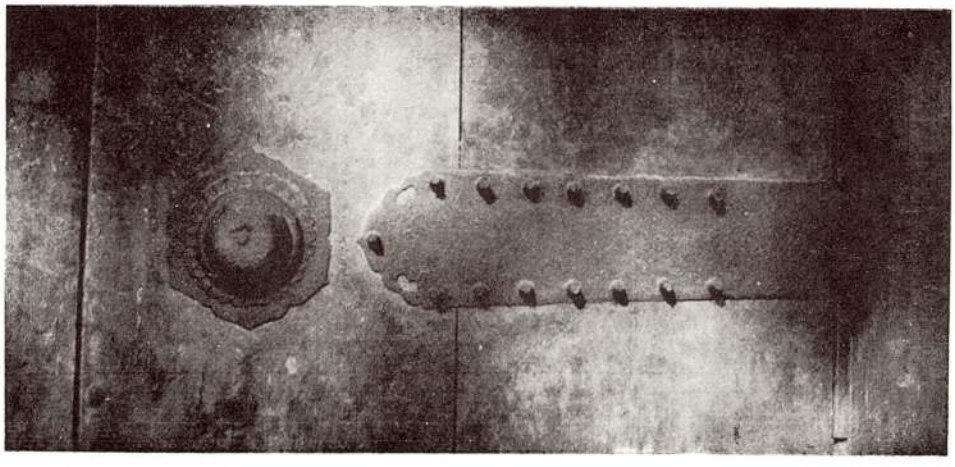
上圖に於いて上層中央の門の花頭窓及椽勾欄が中央の部分だけきれてゐること、下圖に於いては東の間に出入口を設けたる點に注意せよ。殊に上層の花頭窓は、毎年五月五日の祭禮の時神輿を樓上に安置するために、かうしたのださうであるが、ただそれだけなら、花頭にしないでもいい筈である。元來花頭窓は佛寺建築專用のもので、鎌倉時代に支那（次次頁へ）



第六十一圖　熱田神宮海上門全景



第六十二圖　同天井廻り



第六十三圖　同扉金具

（以上三圖共昭和七年一月四日）

（前前頁より）から入つてきたものらしいが、後には汎く應用され、遂には神社建築にも用ひらるる様になつたが、さう多くの例はなく、私の知つてゐるのは、仙臺市大崎八幡神社拜殿とこれとだけである。かういふ點に於いて、これは洵に珍らしい例と思ふ。

第五十九圖に薄ぼんやり見えてゐるが、下層中の間虹梁の上に桐唐草の入つた大蟇股がのつてゐる。二つあるが二つとも少しも古いところがない。のみならず普通桃山のと大分形式を異にしてゐるので疑問が起きた。私の調べた程度では、修理のとき、何もなかつたところへ、推定してかういふ形の、かういふ意匠のを入れたのださうである。それで判つた。あんなのはめつたにあるまいと思はれる。だから見學の際には、さういふ點を注意するとよからう。

第六十一圖は海上門の全形。元龜二年織田信長の改築といふ。天井及裏板は黑塗、其他全體赤く塗つた八脚門だが、中中しつかりして形もよろしい。柱太く枓栱出組で組入天井。本柱と控柱とを繋げる貫の中央には、第六十二圖に於いてみる如く間枓束を立て、花肘木を含ませ、更に其上に枓を一個おき、其枓で天井廻緣に相當するところの、天井境の水平材を支へてゐる。花肘木をこんなところへ用ひたのが、變つてゐて面白いと思ふのである。

板扉には、八双金物と四列五行に、六葉座附鐵製飾金具を打つてある。第六十三圖に其一を示しておいたが、座と上の圓形金具との間に菊座の如きものを入れてあるのは、時代の降つてゐることを物語るものである。奈良時代の饅頭金物（唐招提寺金堂法隆寺經樓等）は平安に入りて六葉座附のものとなり（鳳凰堂中堂）、鎌倉（海住山寺五重塔）・室町（興福寺東金堂）になつても同樣なのがあり、それがそつくり桃山へ入り（第六十三圖）、更に江戸（京都市妙法院東南門）迄入つたのだから、これは偶ま桃山の一例を提供してゐるのである。中中よくできてゐる。尤も四葉座のは平安時代に初り、六葉座のより遙に賞用されて今日に及んでゐることを忘れてはいけない。



上。第六十四圖　七寺三重塔（昭和七年一月四日）

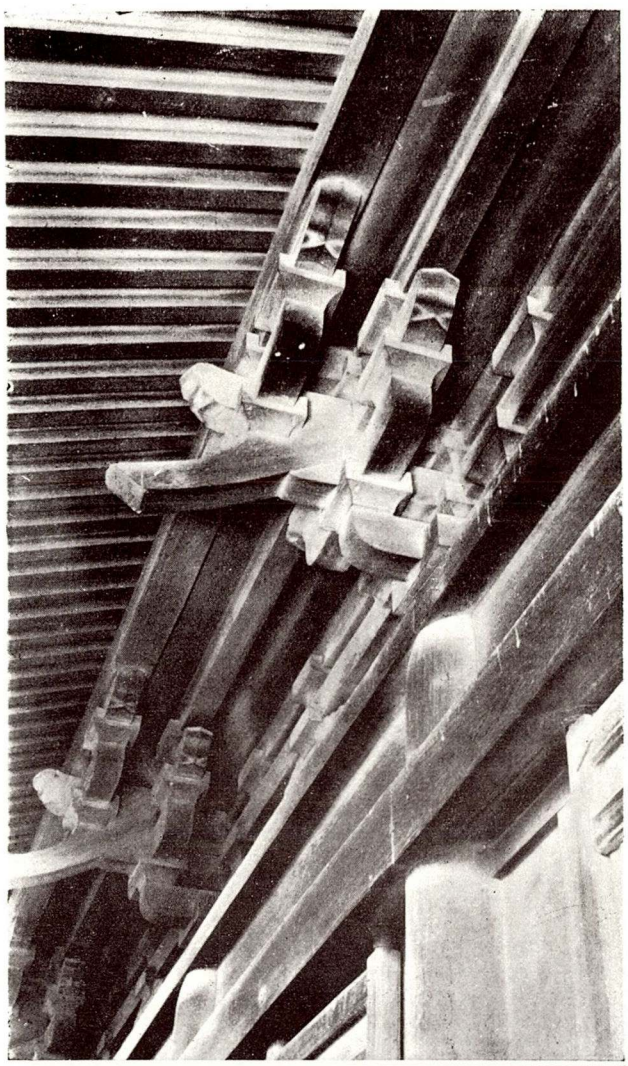
下。第六十五圖　七寺本堂正面（昭和七年二月二十一日）

七寺（ナナツデラ）は元來他所から移轉したもので、其當時はさうでなかつたらうが、今ではあたりに家が一ぱいに建ち、せせこましく隘分窮屈になつてしまつてゐる。三重塔も本堂の椽の上からでないと、うまく寫眞がとれぬ。これは西面で、一月四日午后とつた寫眞。江戸時代のものだから、先づ遠方から敬意を表しておいてもよからう。但し市中目貫の場所だから、いい目標になつてゐる。

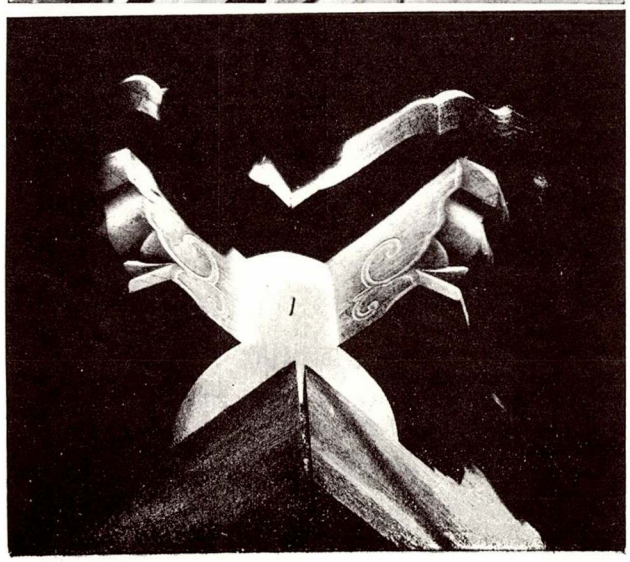
下圖は本堂で東面してたつてゐるから、二月二十一日の朝九時頃にとつたのである。朝でないと到底駄目である。集つてくる子供や大供を漸くのことで逐ひ拂つて、ともかくも四注本瓦葺であることを見せたのが此寫眞である。



上。　第六十六圖　七寺本堂軒枓栱　（昭和七年二月二十一日）

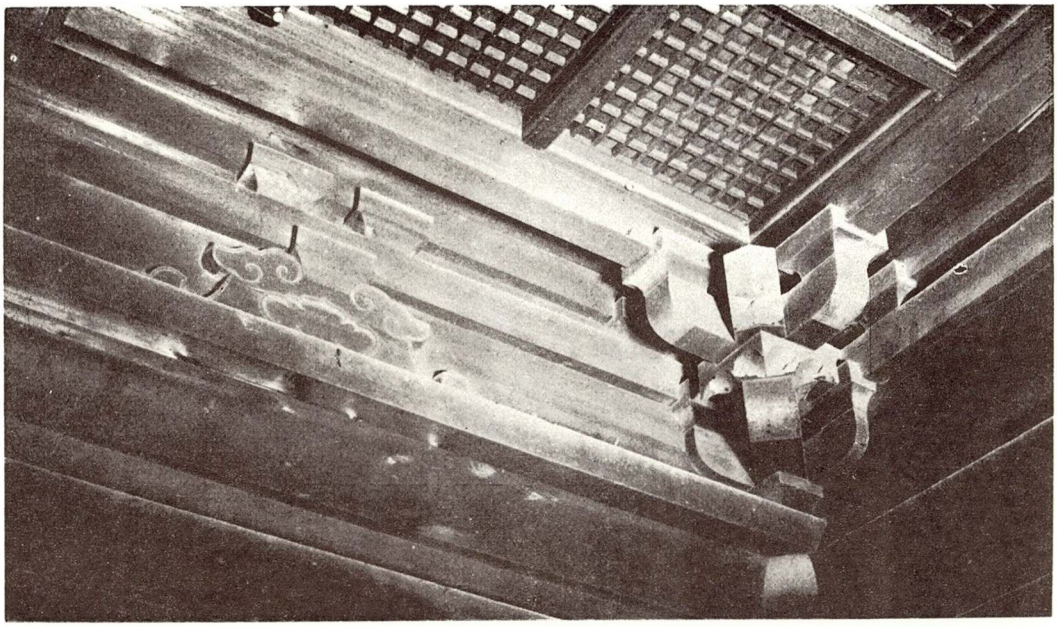


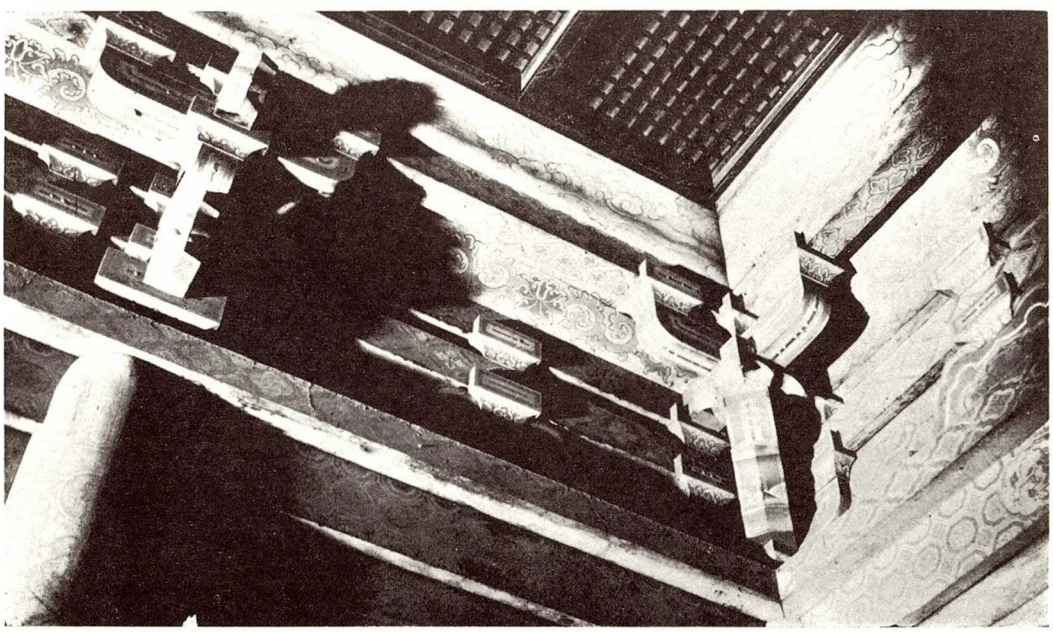
下。　第六十七圖　同隅蹇轉及木鼻　（昭和七年一月四日）



五間五面單層四注造本瓦葺、周圍に椽があり、正面に一間の向拜を附す。枓栱唐様で手挟もある。本柱は圓く、尾垂を入れた二手先の枓栱は向拜と同様に唐様で、枓栱間に板蟇股を入れてある。柱には上部に粽があり、型の如く蹇轉・木鼻があるが、枝輪は蛇腹になつて居ない。さうして垂は普通の繁垂で、扇にはしてない（上下圖）。和唐混淆の有様は單にこの二枚の寫眞からでもよく判るであらう。

尙ほ上圖に於いては、出入口の扉が、棧唐戸になつてゐるところが、僅かであるが右下に見えてゐる。下圖では蹇轉の遊離端のくりかたが、桃山以上の懸魚の先きに間間現はれてゐる——江戸時代では總ての場合といつてもいい位——形と同じであることと、木鼻の鎬のとり方が特殊で、まるで舌をだしてゐる様なところに注意すべきである。

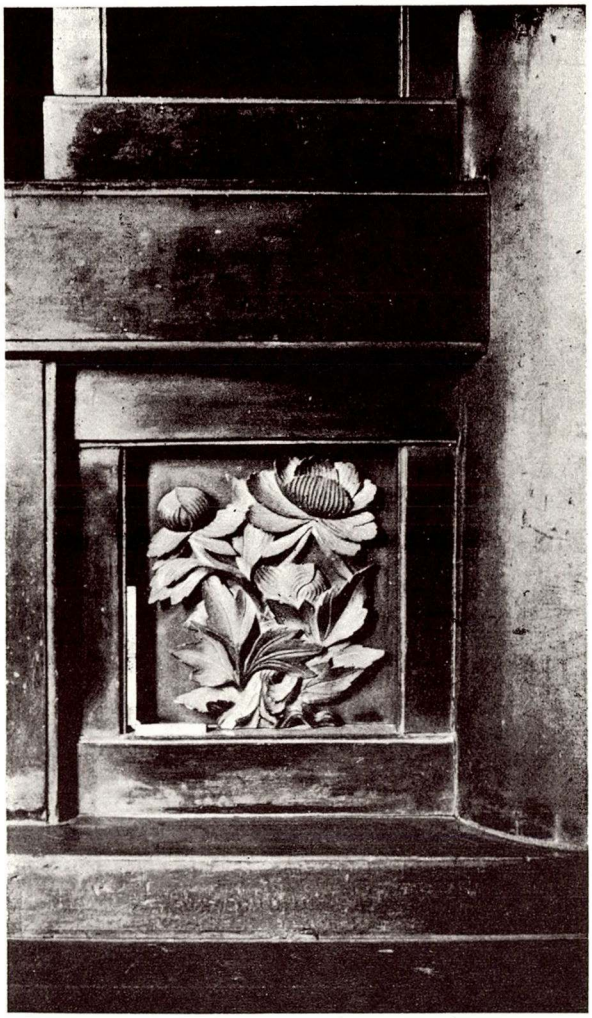




上。第六十八圖　七寺本堂外陣天井廻　（昭和七年二月二十一日）

下。第六十九圖　同　　內陣天井廻　（同）

上圖は外陣內部西南隅を見たとこであるが，臺輪が側通りだけにあつて，內外陣境にはないから，氣がつくと變な氣がしなくもないが，注意しなければそれまでで，大して目立たない。下圖は同じく內陣の西南隅のところを見たのである。極彩色で甚だ美しい。內陣は折上小組格天井であるが，折上の部分が蛇腹になつてゐないため，少しく異つて見えてゐる。尙ほ其上に，大枡からでた木鼻は，丁度肘木の直ぐ下にあるので，この所も亦異樣の觀がある。內外陣共枓栱間蟇股。

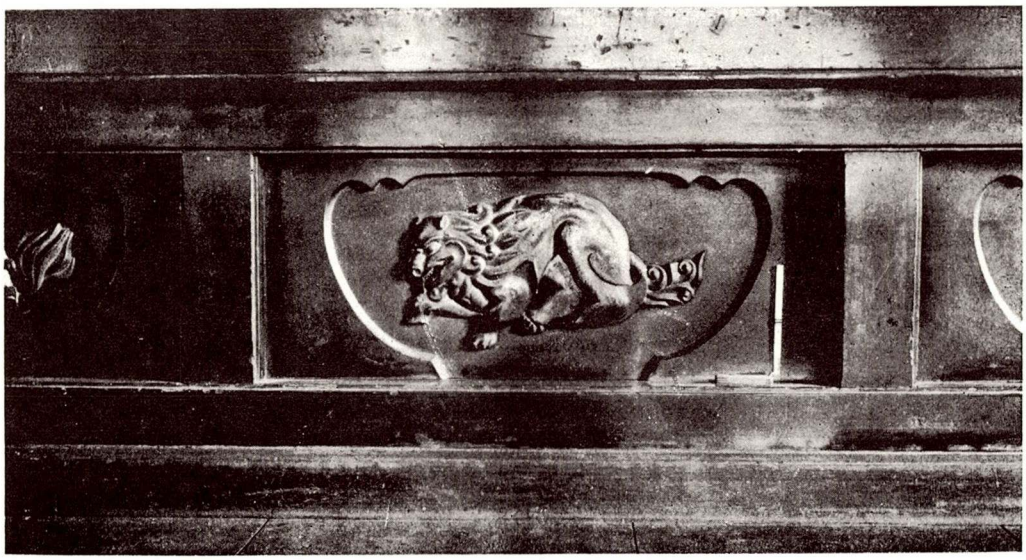


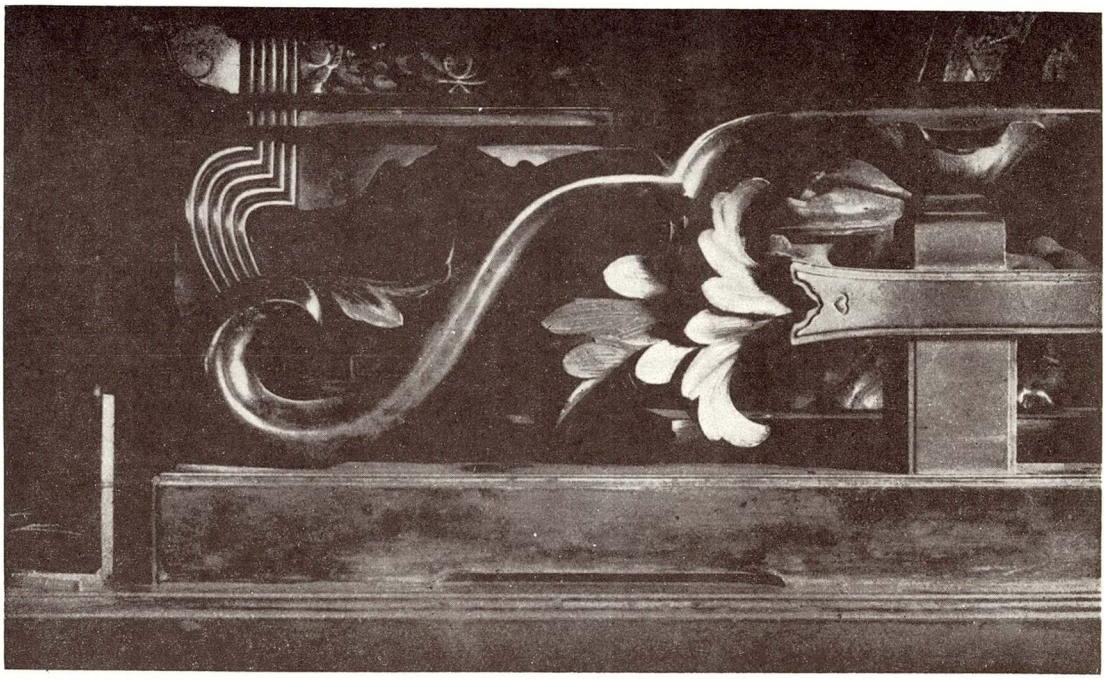
下。第七十圖　同須彌壇正面格狹間及獅子　（昭和七年一月四日）

上。第七十一圖　同　側面牡丹　（同）

須彌壇の格狹間は正面に十、側面に三、何れも薄肉彫の唐獅子が入れてあるが、一つづつ姿勢は異なつてゐる。獅子の一例を下圖にだしておいたが、此は桃山時代でよからうけれども、格狹間の形は非常によく、どうも鎌倉位ありさうに思はれる。古い須彌壇の地覆・葛・束・羽目板の格狹間等をつかひ、獅子と側面の一部の餘つたところへ牡丹を入れたのではないだらうか、といふ氣がする。側面の柱から前の半端のところへ牡丹を入れたのはうまい考へである。全部黑漆、面朱漆塗。

（上圖は束、下圖は羽目に沿ひて立てるは曲尺の約五寸（六吋））





第七十二圖　七寺本堂須彌壇勾欄一部　（昭和七年一月四日）

（左方に立てるは曲尺の約五寸(六吋)）。

前圖に揭げた須彌壇の上に，此圖の如き勾欄がついてゐる。ここには現はれてゐぬが，隅には擬寶珠がたち，それに近いところの通栴は上が枓で，謂はゆる「枓束」になつてゐるが，其遊離端に近いところのは下に臺のついた「蓮葉束」にしてある。架木は一つ茨をつくつて蕨手に終り，そこから葉が逆にでて其上端についてゐる。

此と同じ手法は，最古と迄はいかなくとも，恐らく古い方では一二を爭ひ得るのではないかと思はれるところの，當麻寺曼荼羅堂の須彌壇勾欄に於いてみるところで，其葉は下を向いて架木についてゐるから，多少不自然に見えるかも知れぬが，これはいい工合に上に反つてゐるだけの差で，いつ迄も同一手法が用ひられてゐるのである。

平桁は古いのは架木に平行して，地覆の上について消滅してゐるが，新しくなると其先から若葉だの蓮花蕾葉等をだすので，いろいろの形にしてある。これ等は八双金物——入八双——から考へた様な形にして澤山の葉をだしてある。

地覆は全く不必要だのに，ほんの飾りのためか水くりをつけてある。つまらぬ事をしたものである。

要するに時代をよく現はした和唐混淆勾欄の好例といへる。

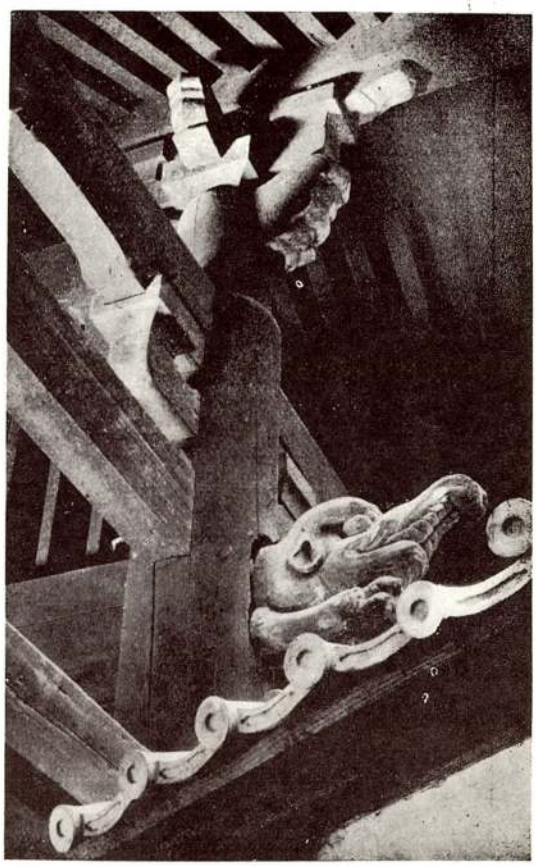


第七十三圖　性高院表門正面　（昭和七年二月十九日）

性高院は名古屋市中區門前町にあるが，大通りから露路を入つたやうなところだから，少しばかり判りにくい　七寺から三四町位と記憶してゐるから，そこからききながら歩いて行けば，割合にわけなく行ける。最初一月四日に行つたときは，うまく寫眞がとれなかつたので，二月十九日にここの寫眞をとるのを一番の目的として，名古屋へつくなり直に行き，此寫眞以下九枚寫した。だから日附は何れも二月十九日のばかりだが，見學の順序からここにだしたのである。

丹塗の小さな四脚門で，切妻造本瓦葺。本柱の上の方に貫を通し（飛貫），頭貫に當るところに虹梁を架渡し，此貫と虹梁との間に表裏で全く意匠を異にせる大蟇股を入れ，其虹梁と化粧棟木との間には，小さな板蟇股が入れてあり（第七十九圖），更に本柱と控柱の軒桁とを結びつくるために繋虹梁を用ひてあるが，其繋虹梁から上は急に本柱の太さが減じてある（第七十四•五•六圖）。それから本柱からでてゐる大蟇股ののつてゐる貫の木鼻は，獏か何か知らぬが，これも亦餘程變つた形をしてゐる。要するに大分獨創的意匠の下に計劃されたものである。

慶長十五年清洲城から移建したものといふ。



上。第七十四圖　性高院表門本柱上部　其一
下。第七十五圖　同　　其二

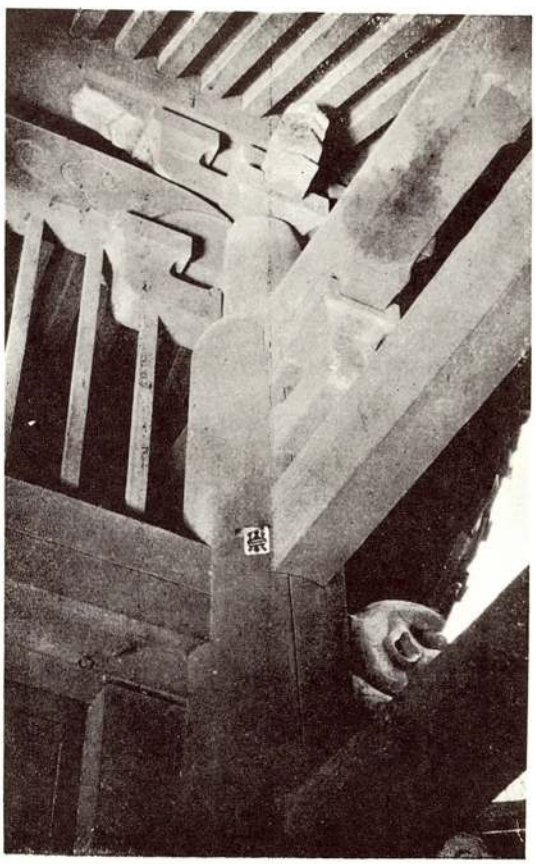
（昭和七年二月十九日）

本柱の上方を通れる貫の頭は、柱より外に特別の木鼻をだしてゐる。前肢は虎の如く、牙があり眼もまるく球の様で、鼻も先づ長い方だから、これは或は獏のつもりかも知れぬ。とにかく隨分變つた木鼻で、著しく眼についてゐる。

其貫と段違ひに、控柱との間に貫を通し、其上は挿肘木に枡をのせ、其上の繋虹梁を支へてゐるが、此虹梁の上端の（上へ）（下より）ところ邊から、本柱は一段細くなつてゐる。かかる形式は京都附近では餘り見受けぬやうで、私共は異様に思ふが、名古屋邊にはさう珍らしくないやうである。

其細くなつた本柱の一番上のところ、即ち頭貫に相當するところに、また虹梁を入れ、本柱上には三枡を置いて化粧棟木を受けさせてある。かうかくと甚だ以て判りにくいが、此二圖をみれば自然に判つてくるだらうと思ふ。

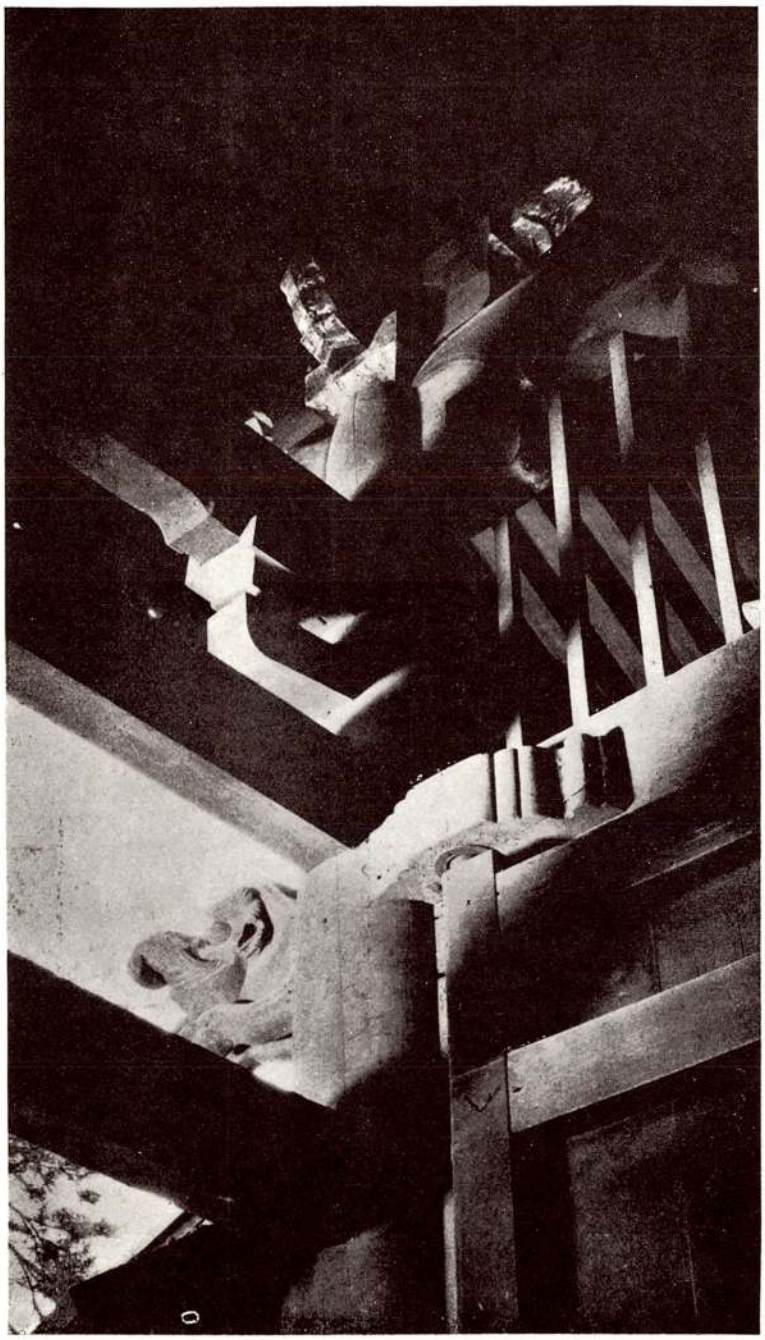
私にはこの構架式が甚だ面白く思へたのである。



第七十六圖　同本柱上部を内部より見る

（昭和七年二月十九日）

前圖と同じ柱を門の内側、即ち門を入つたところからみたので、前頁で解說をした獏頭か何かついてゐる貫の内面へ藥座をとりつけ、其貫の下に楣、柱に沿ひて方立があり、其藥座に扉を吊込んだところがよく判るであらう。扉は裏にだけ桟を打ち、表は板だけ見えてゐる。だからこれは板唐戸の部類に入れることができる筈である。前頁の二圖と此圖と見比べるならば、本柱上の大枓から、門に直角にでてゐる木鼻は、單に裝飾のためといふことも知れる。



扉上の貫と虹梁下端との間があくものだから、そこの間に疎に四角な格子を入れてあるのも、裏の方から見れば、扉の桟を傳ひて容易にのり越えるのを防ぐ一手段とみることもできやう。

上。第七十七圖　性高院表門木鼻　其一　（昭和七年二月十九日）

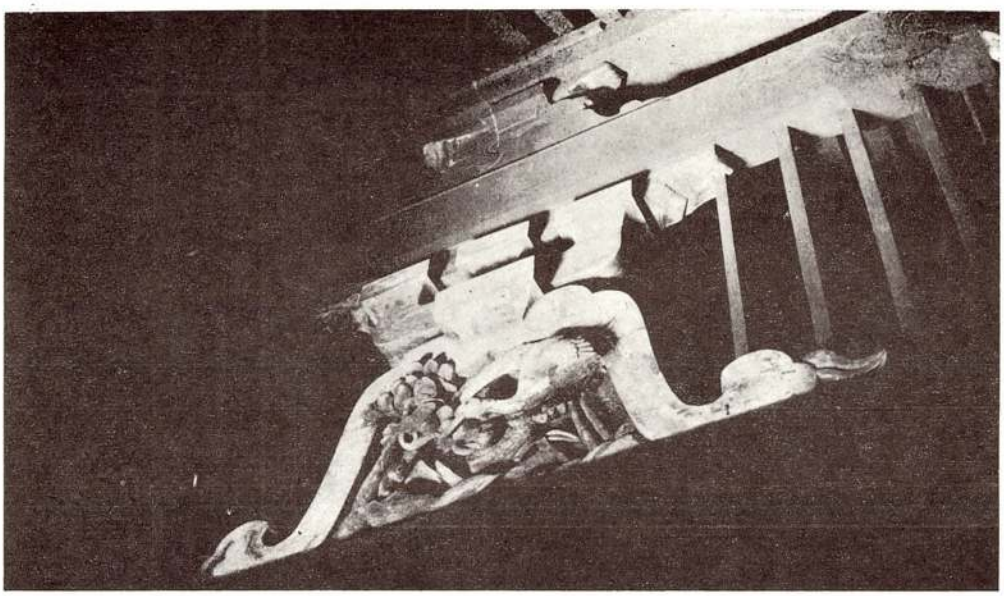
下。第七十八圖　同　其二　（同）

前頁及前前頁に見えてゐる木鼻を大きくしたので、先づ珍種に屬すとみられやう。京都附近で類例を求むれば、大德寺唐門の大瓶束の結綿で、あれは下を向いてゐるが、鼻が可なり長く、あれが横を向き前肢を揃えるとこれになる可能性がある。兩方共桃山だから似てゐるのであらう。

下圖に於いては、本柱の細くなるところからでてゐる蜜虹梁は、控柱上部の軒桁をつないでゐることが、よく現はれてゐる（右端上方）。







第七十九圖　同本柱貫上中央蟇股二種（昭和七年二月十九日）

本柱の上の方に貫を通し，柱頭には虹梁を架渡してあるが――第七十四・七十五・七十六圖參照――其間が可なりあいてゐるから，後ろから扉の棧を傳つて上るか，或は表から梯子をかけて此貫まで達すれば，容易に出入ができる。だから其貫の中央に裝飾兼荷重受として大蟇股を置いた兩方の所に，たてにある間隔に　　割合に細い木を間をあけて　　柵の如くに並べたのは，裝飾と用心とを兼ねたのかも知れぬ。既に第七十六圖の解說に書いた通り，扉の裏の棧を傳はれば，容易にのり越し得るからである。併しながら事實のり越すとすれば，袖塀の屋根を越した方が樂かも知れぬが，あけ放しも變だから，先づこんな事にしたのであらう。

此大蟇股の意匠は洵に面白い。鶴と龜とはめでたい動物，鶴は千年龜は萬年と，此時分既にいつてゐたかどうか知らぬが，どうも確かにめでたいものとしてつけたらしく，それに松と竹とを配したので，いつもかく通り，松竹梅と揃ふのには，まだ少し許り早いから，それで梅が缺けてゐるのであらうと思ふ。

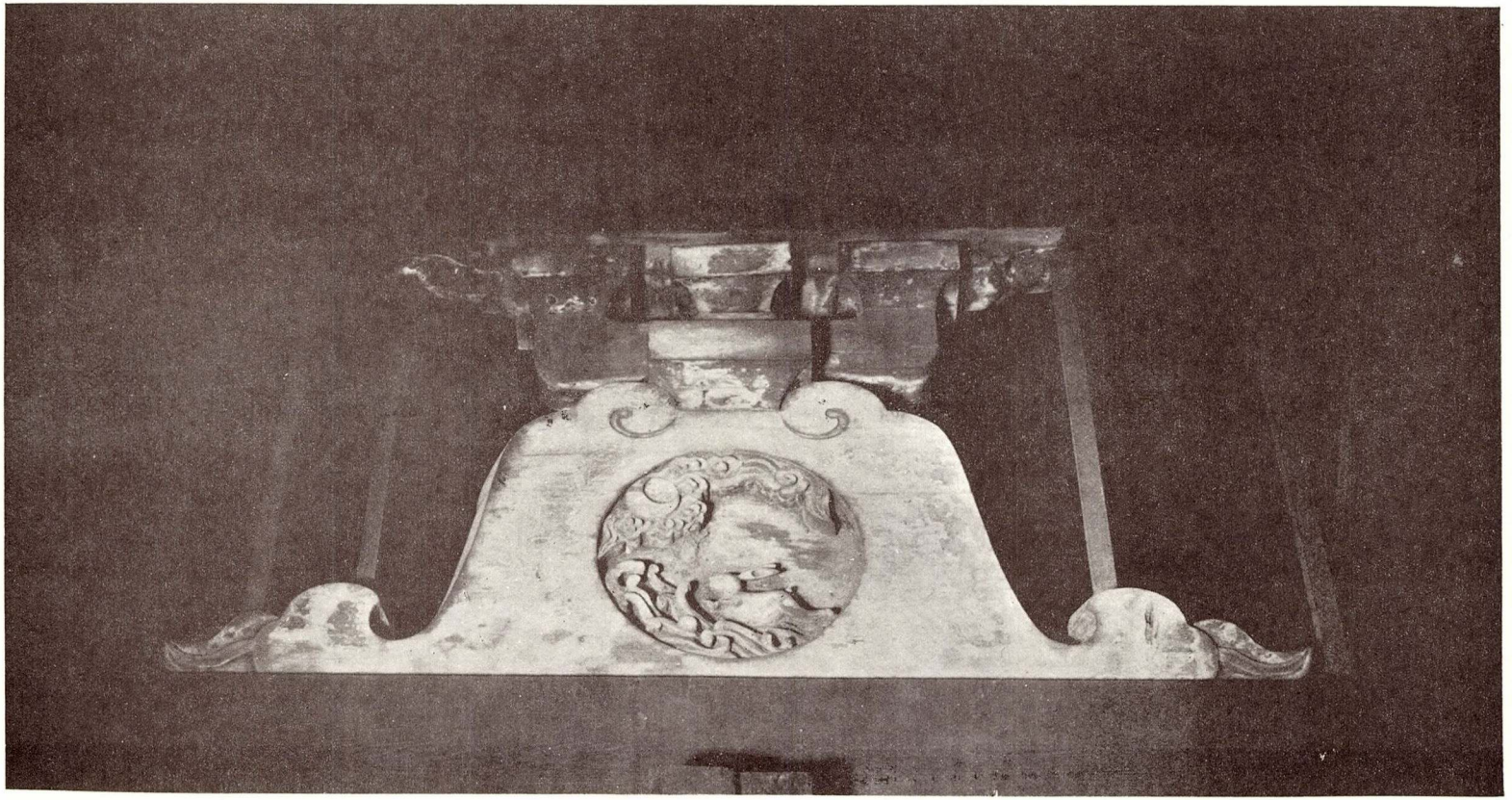
然るに其裏は，第八十一圖の如く，上に雲と月下に浪と兎を圓形の輪廓に入れてある。此蟇股は表面は單にほりしづめただけで，くり拔いてはないが，くり抜きの意味をよく表し，裏は板にしてあるが，かういふ取扱方は珍らしいと思ふ。大概はどちらか片一方で，板なら板，刳抜なら刳抜ときまつたものである。

第八十圖　性高院表門**桂貫**上中央大蟇股正面　（昭和七年二月十九日）



前圖の蟇股を正面からみたもの。右上の鶴•左下の**龜**•右下の竹•左上の松とに注意せよ。つまり謂はゆるめでたいものをほつたのである。大きくて今は白色だから，上の方でも割合に目立つてゐる。

第八十一圖　同裏面（昭和七年二月十九日）



裏面の方は板墓股にしてあり，中央を圓く凹め，下に浪に兎・上に雲に月を，此圓形の中にほつてある。板墓股の中央に圓く菊花等をだしたのは桃山から江戸にかけて他に例もある。室町時代と認められる石燈籠の火袋の模様に月に兎がある。また浪に兎は園城寺（三井寺）金堂の墓股の一にあつたと記憶する。だから此墓股にかかる模様がつけてあつても，それは當然といへる」



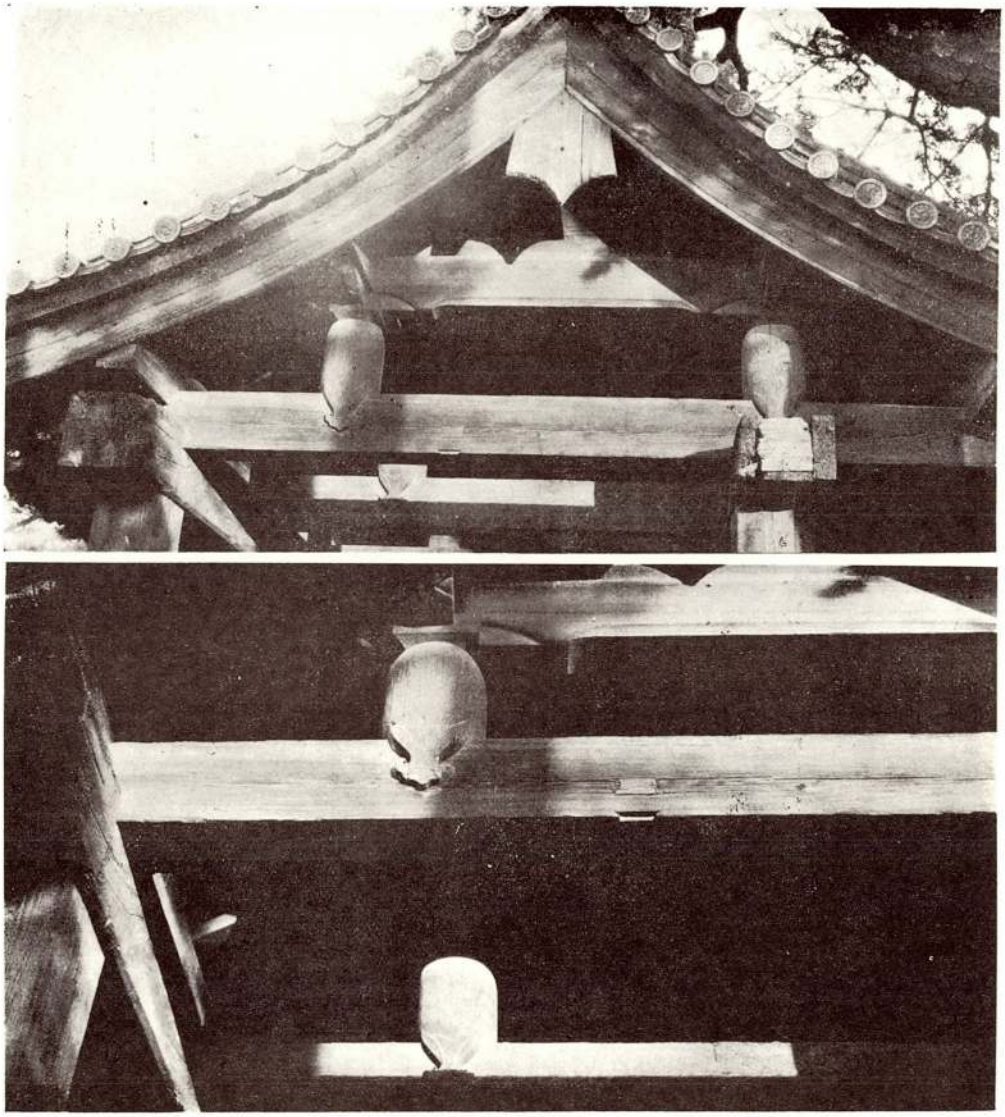
上。第八十二圖　高岳院本門一部　（昭和七年二月二十一日）

下。第八十三圖　同　天井　（同）

三間一戸藥醫門で、中の間特に廣く、柱は總て四角で黒く塗つてある。性高院の門と同じく清洲城から移建したといふ。大きな重厚なもので、如何にも城門として相應しい。

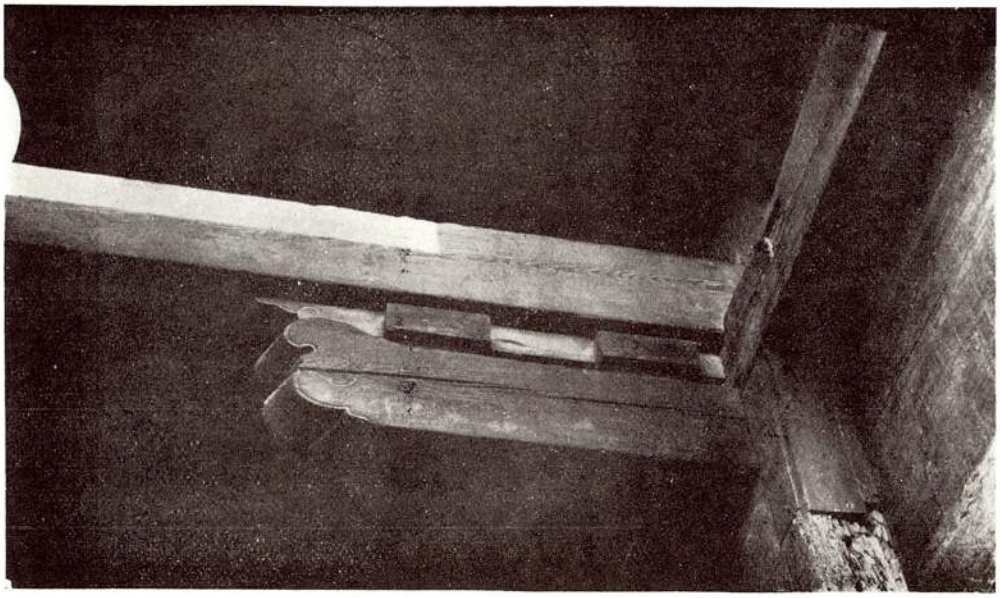
下圖は此門の天井の一部で、大きな繋梁の上に叢束を立て、繪樣肘木を含ませて天井廻椽を支へ、竿椽天井をはつたところを見せたので、當初からとしてもいいやうである。





上。第八十四圖　同西妻（昭和七年一日四日）
下。第八十五圖　同部分　（同）

上圖は殆んど西妻全部（東妻同斷），下圖は其一部で主として大瓶束をみせたつもりである。東側は餘地がないが，西側には築山のやうなものがあり，夕方日が一ぱい當つてゐるとき，そこへ登れば容易に寫眞はとれる。新しいのに大瓶束は洵によくできて居り，結綿等も持つていつてくつつけた樣ではなく，古式を帶びて，束の終りが自然にかうなつたやうであり，また破風拜みの梅鉢懸魚もよく調和がとれ，如何にも堂堂として，よく適してゐる點に注意せよ。



第八十六圖　高岳院本門木鼻（昭和七年一月四日）

此は第八十二圖，正面中央出入口の西側即ち向つて左手の大きな四角な柱の上のところを，門を入つてからみたものである。つまり此四角な柱から腕木が水平にでて，其上にある間隔に枓が二つ乘り，其枓で繪樣肘木――實肘木の樣な薄い四角な肘木――を支へ，更に其肘木で大きな梁を支へてゐるが，此大きな梁は本柱と控柱上にのれる桁とを連絡してゐるもので，前圖に見えてゐる二つの大瓶束のうち，下の方のは即ちこの梁の上にのつてゐるので，此圖の左上方に眞白い曲線が少し見えてゐるのが即ち此である。

勿論時代が新しいのだから，木鼻の曲線等は大して締りがなく，從て形はよくない。併しながら此木鼻は扉の正面の方にも出て，短いから一つだが同じ樣に枓をおき，其上の梁の鼻の延びたところを受けてゐる。本柱の上に當るところには，それだからやはり大瓶束がおいてある。さうして妻に於いては，此等二つの大瓶束の上に袖切と眉とある虹梁をのせ，其中央に大きな板蟇股がおいてあること，第八十四圖に於いてみるが如くである。

要するに此門は木割太く，枓栱其他建築彫刻の用ひ方も亦特殊で，城郭建築の一部として最も相應しいものである。國寶に指定された最初のものださうで，洵に莊重な建築である。

上。

第八十七圖　觀音塔婆全形

下。

第八十八圖　同　內部來迎柱上枓栱

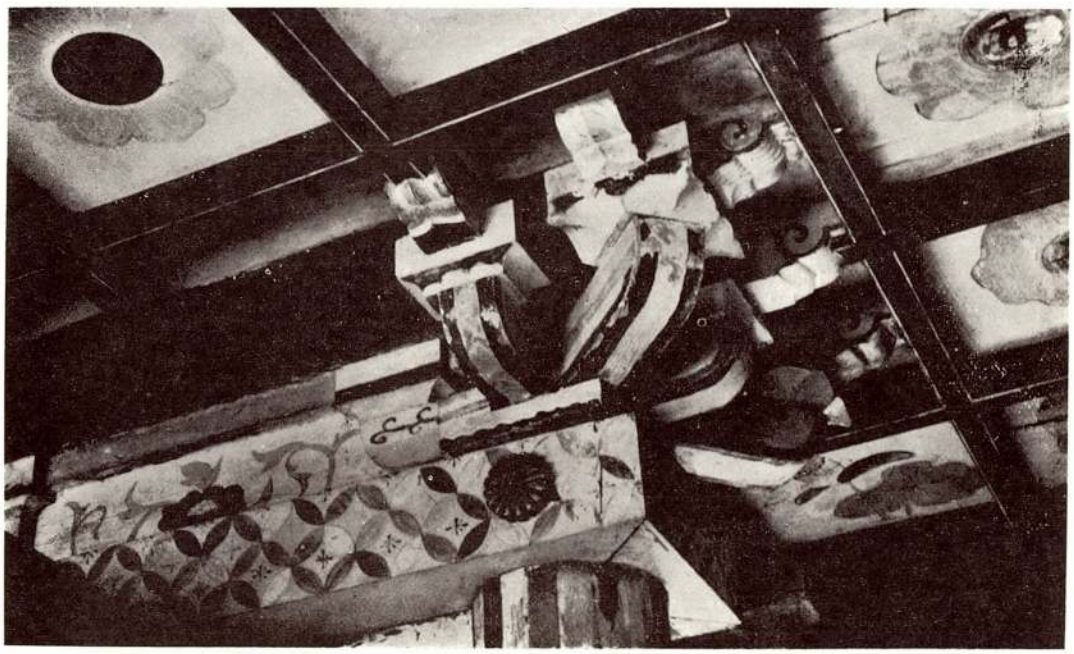
（昭和七年一月四日）

（同）



多寶塔が可なり澤山で、少し鼻についてきたかも知れぬが、此は初重中の間が特に廣く、枓栱出組、枓栱間中央蟇股左右間枓束。上層椽勾欄は、椽が圓いから從て勾欄も圓く、從て初めも終りもないのが普通であるのに、此は其途中に寶珠柱がたててある點が普通と變つてゐるのである。

それから枓栱は下層和樣上層唐樣、從て隅木も上唐下和。それであるのに勾欄腰組は和樣といつた樣な折衷樣である。初重內部は下圖の如く來迎柱は圓。柱上枓栱圖の如く唐樣出組で特殊なり。下層柱六寸四分角の面八分、比例1／8。





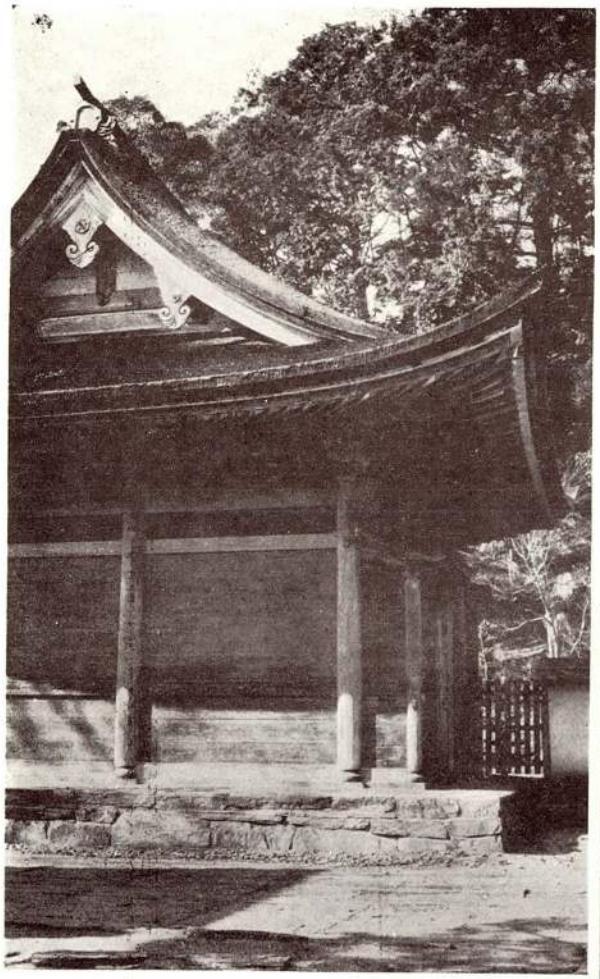
第八十九圖　天恩寺佛殿全景

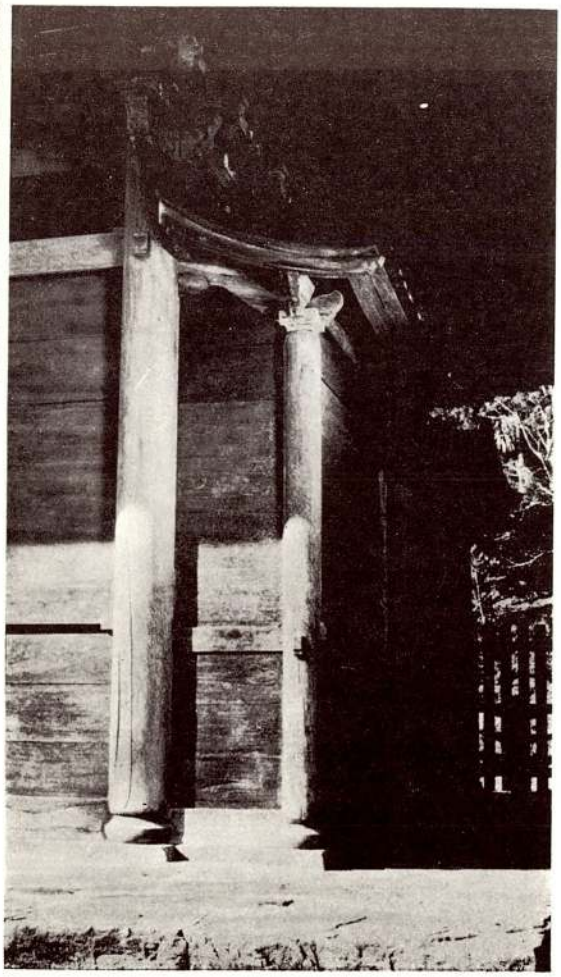
（昭和七年一月五日）

上。第九十圖　同側面一部　（昭和七年一月五日）

現在でこそ此建物の側面は、かく立派にできてゐるが、修理前の寫眞でみると、まるで何にもなくなつてゐたので、よくこの様に推定復原ができたものと、敬服にたえぬ次第である。屋根がとれてしまつて假屋根では、全くみる影もない。古社寺修理の有難さはここにある。第二十四乃至第三十一圖にかいた定光寺本堂等も、早くかういふ風に修理される事を希望する。

併しながら、妻の蟇懸魚と箱棟の棟木の出方については、多少の愚見がある。即ち私は室町時代にはまだこの様にまでなつてゐなかつたらうと思つてゐるのである。



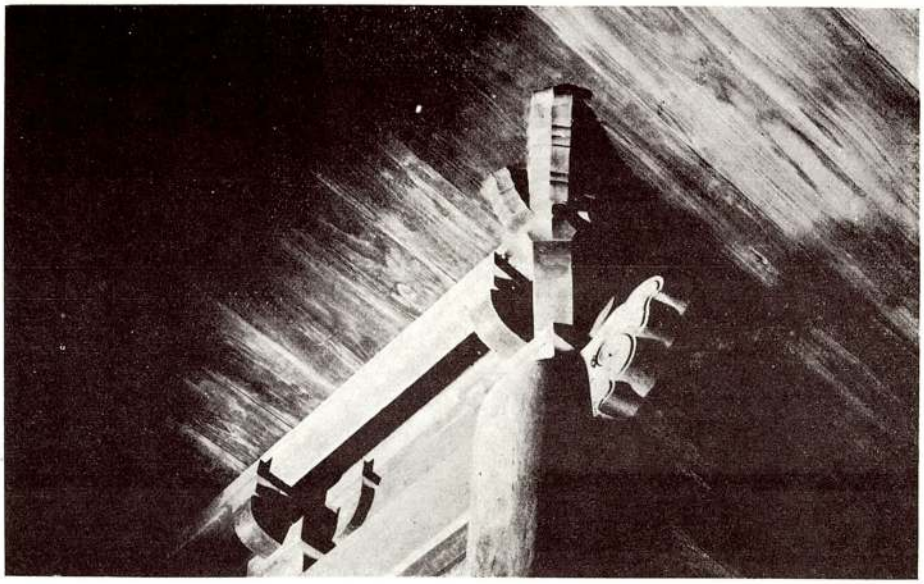


下。第九十一圖　同脇壇側面　（昭和七年一月五日）

此は脇壇を外部からみたところで、特殊の形をしてゐる海老虹梁を幾分大きく見せるためと、縋破風を用ひて、此部分へ屋根をかけ、後面兩脇間から突出せしめた變つた構造法を採用してゐるところを見せたのである。

本柱から海老虹梁をだす場合には、普通なら挿肘木をだし、枓を一つのせ、それで袖切のところを受けさせるのであるが、これは虹梁の下端に繪様をくりだし、それで受けてゐる如くに見せてゐるので、獨創的意匠といへると思ふ。





上。第九十二圖　天恩寺佛殿內部枓栱（昭和七年一月五日）

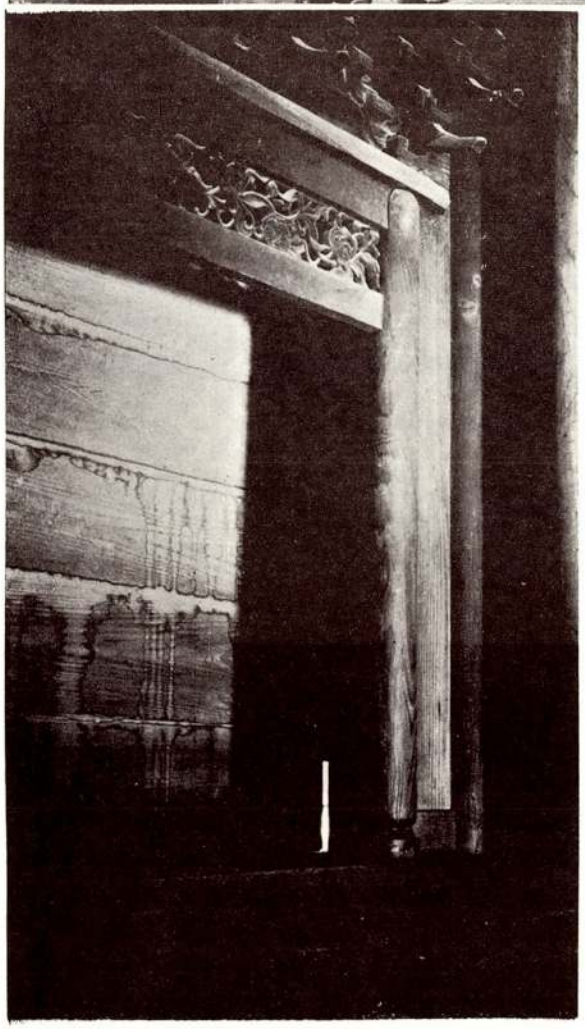
下。第九十三圖　同　　來迎柱上枓栱　　（同）

內部周圍は枓栱が出組の詰組で，通肘木兼天井廻緣を支へてゐるほか，あとは一面の平たい鏡天井で至極さつぱりしてゐる。一層平たければ平たいで，寵も何もない方がいいと思ふ。

下圖は須彌壇後方，來迎柱上のところのおさまりで，頭貫に大きな木鼻を附けたのが兩方にでてゐるだけで，臺輪を用ひてない。さうして大枓から 45° に肘木をだして鬼枓をのせ，尙隅行に一種のくり形をもつた木鼻をだしてゐるが，いろいろ異なつた彫刻を其面につけてある。其他三枓を詰組にして上部をうまくおさめてゐる事圖の如し。



上。



（昭和七年一月五日）

（下に立てるは曲尺の約五寸（六吋）・同）

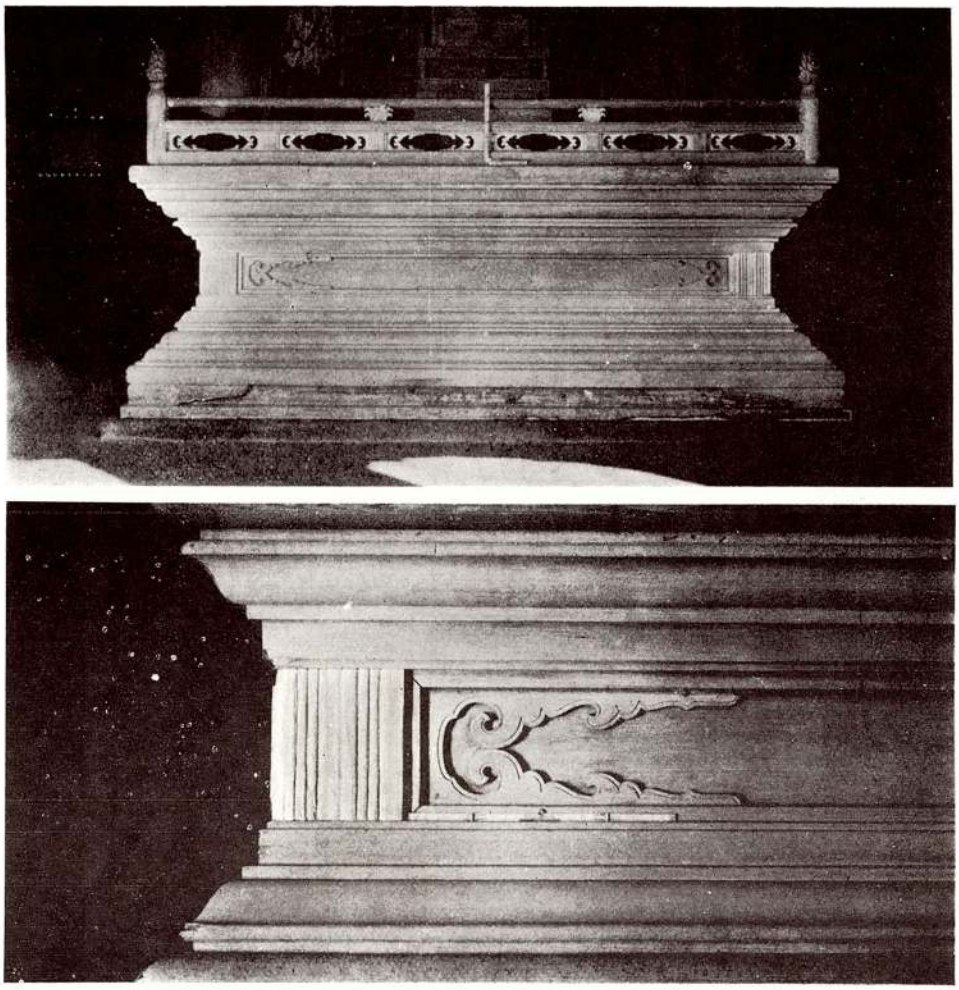
第九十四圖　同右脇壇部分

下。

第九十五圖　同左脇壇部分

佛殿其物の枓栱は出組だのに、脇壇のはもつと込み入つて二手先になつてゐる。其上の「雲角」は相不變懸魚を逆にしたやうであるが、ほり込みが極く淺いから、どうも目立たない。第八圖に揭げた永保寺開山堂合の間のの様に、はつきりとうち抜いた方が明瞭でよからう。

飛貫と頭貫との間、欄間といつてもよからうが、そこの透彫は上が蓮唐草で下は牡丹唐草、こんなところで餘り氣のつく人は專門家以外にさう大してなからうに、かうやつて變化を求めてゐる。



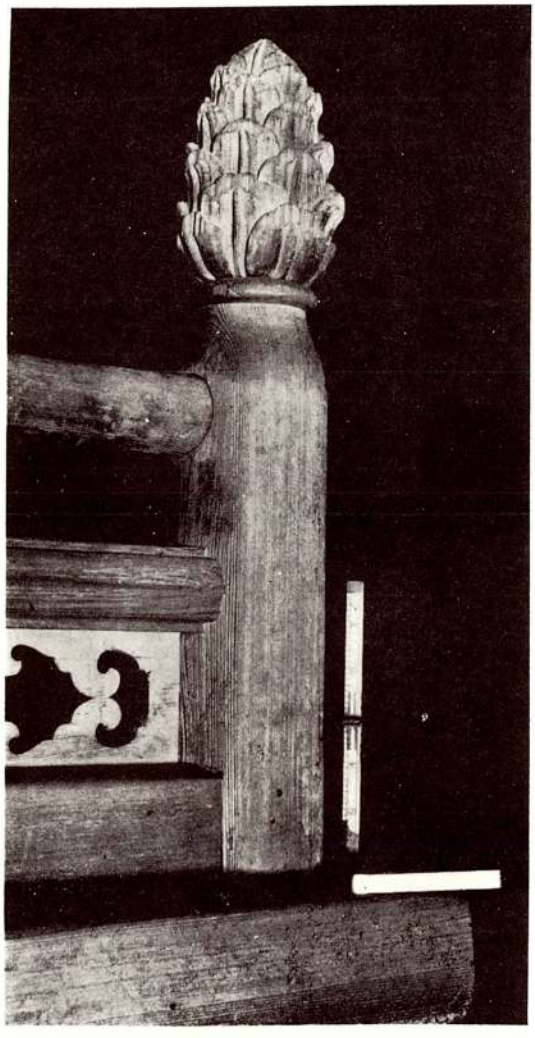
上。第九十六圖　天思寺佛殿須彌壇正面　（昭和七年一月五日）

下。第九十七圖　同　　一部　　（同）

（上圖壇上中央に立てるは曲尺の約五寸（六吋・下圖繰形下に平たくあるは曲尺の約一尺（一呎））

上圖は須彌壇正面の全形で，先づこれなら唐様の典型的の壇といへる。第四十二圖の性海寺のは，上下繰形の間に格狭間の入る餘地があり，そこにそれが入つてゐたから，折衷様であるが，この場合は間も狭く，そこには兩端に水母の様な飾が入れてある。

此壇は型の如く下に「脚」があり，上下に同じ様なくり形を繰返してゐる。「ギリシヤ」あたりの古典建築に用ひられた「フィレット」と「サイマ・レクタ」の様なものとが上下に三つもくり返されてゐるのだから，大概澤山である　間の羽目板の兩端に入れてある飾りは，これをたてるとタコクラゲの様であるが，京都市東福寺の建物等に用ひられてゐる懸魚の鰭等にあるところの，天竺様本鼻を二つ續けた様なもので，此時代にこの様な形は當然あり得る。勾欄に注意せよ。此形は勾欄の地覆平桁間にも入れてある。



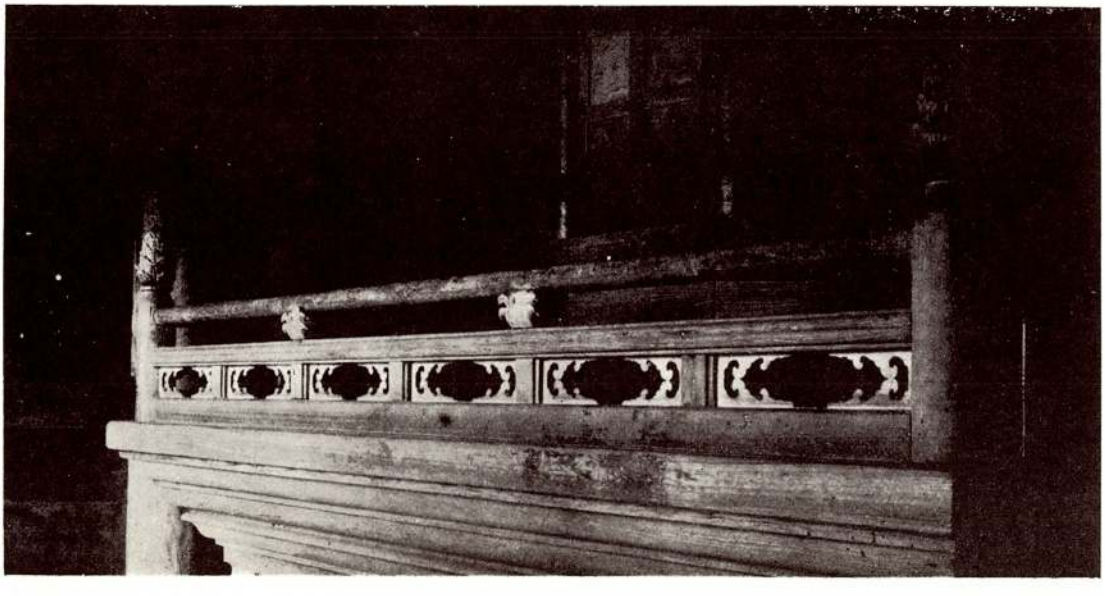
下。第九十八圖　同正面勾欄詳細（昭和七年一月五日）

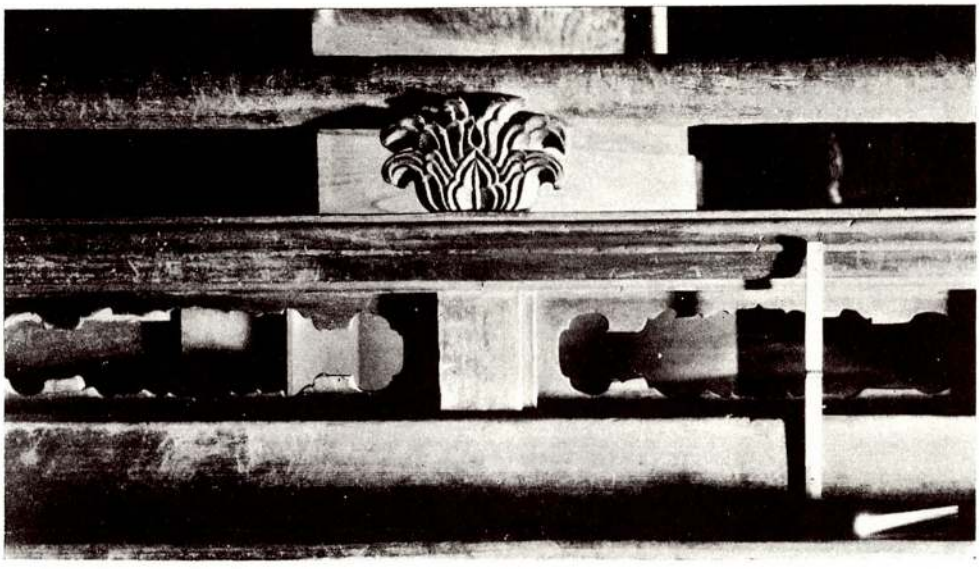
上。第九十九圖　同　親柱（同）

（上下圖共親柱の右に立てるは曲尺の約五寸（六吋））

下圖は勾欄だけを大きく寫したので　親柱の途中に二つある通栓にあたる束の上部の葉を斜にみたところが寫つてゐるから、その奥行もこれでわかるし、親柱の體裁も、前頁の圖よりいくらかよく判るであらう。いろいろ變つてゐて甚だ面白いのである。

上圖は親柱だけを大きく見せたので、殆んど他に類例のない形式のものを、できるだけ大きくしたのである。柱の上の方が自然に細くなり、蓮花とは思へぬ様な長い蕾が上を向いてゐる。廣島縣瀨戸田所在向上寺三重塔初重須彌壇勾欄の親柱と共に、珍らしい方の一對であらう



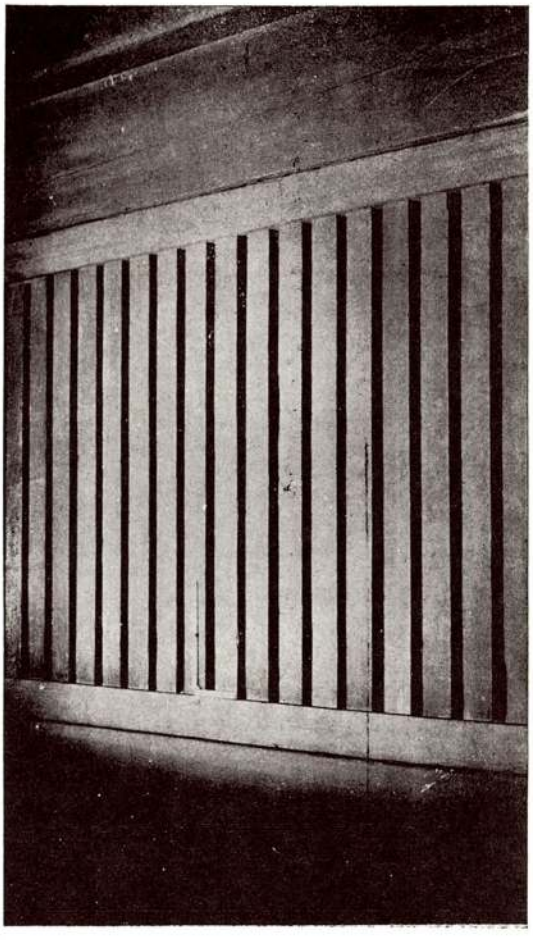


上。第百圖　天恩寺佛殿須彌壇側面通栭詳細

（勾欄に沿ひて立てるは曲尺の約五寸（六吋）・昭和七年一日五日）

下。第百〇一圖　同　須彌壇背面下部連子一部

（昭和七年一月五日）



上圖は第九十六・第九十九圖等に小さく見えてゐる勾欄の通栭を大きくしたもので、元來唐様のは蓮葉であるべきのが、この場合に於いては、全體が葉になつてしまつてゐる。而も其葉は牡丹と寶相花の葉との間位のところで、餘程變つた珍らしいもので、此場合には寶珠柱上の飾が花で、これが葉のつもりであらう。

下圖は須彌壇下の通風をよくするのと裝飾を兼ねたもので、果して最初から此通りであつたのなら、此亦珍らしいものの一と考へられる。



第百〇二圖　天恩寺山門全景　（昭和七年一月五日）

此は山門といふ名で登錄されてゐるが，蟇股のくるべきところに大瓶束が立つてゐる藥醫門といつたやうな，可なり面白くできてゐるものである。ただ屋根の棧瓦葺が少しく氣になるので，これさへどうかなつてゐたら中分はあるまい。どこかで私は高麗門である樣にかいたものを見たやうに思ふが私共はかういふ形式のは高麗門とは言はない。高麗門は本柱上に切妻造の屋根をかけ，控柱上には本屋より少しく下に夫れと直角に，小さい屋根をかけたもので，つまり上から見れば棟が「冂」の如くな，つてゐるのをいふ樣に心得てゐる。

此寫眞に於いて，左方に見えてゐるのは併殿の左側面で，後ろに見えてゐるのは本堂である。つまり門は境內の殆んどまん中に建つてゐるので，あつても無くてもいい所にある。だからどうせ初めからここにあつたのではなく，他所から移したのかも知れぬ。

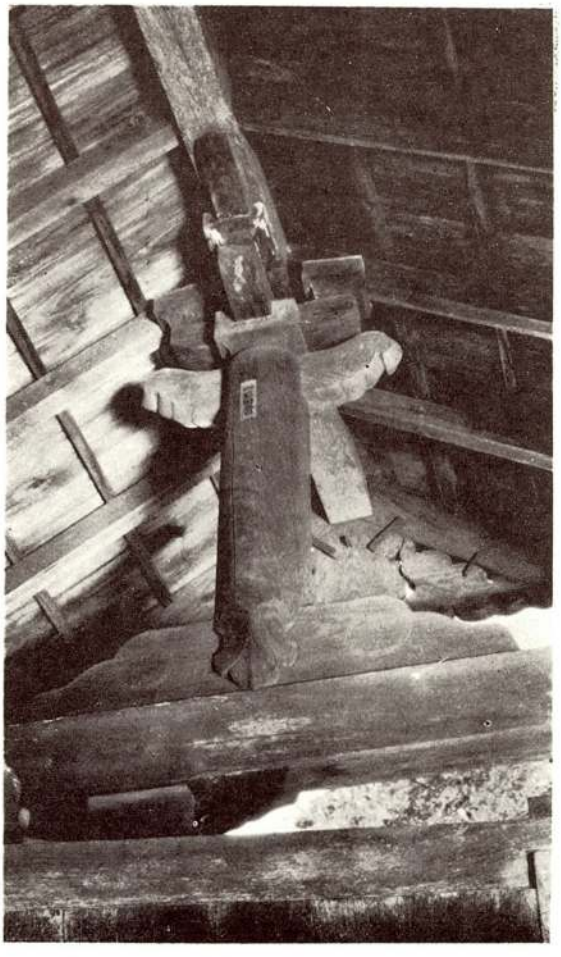
斯る小型の門であるが，構造及び細部の手法は頗る面白く，腕木があつたり大瓶束があつたり，又左右面で彫刻を異にせる手挾を用ひたり，先端に木鼻式の繪樣をつけた疎垂を並べたり，いろいろ興味のあるところが多い。その詳細は以下の四圖に揭げて解說を附しておく。

上。第百〇三圖　天恩寺山門正面腕木及手挟外側
（昭和七年一月五日）



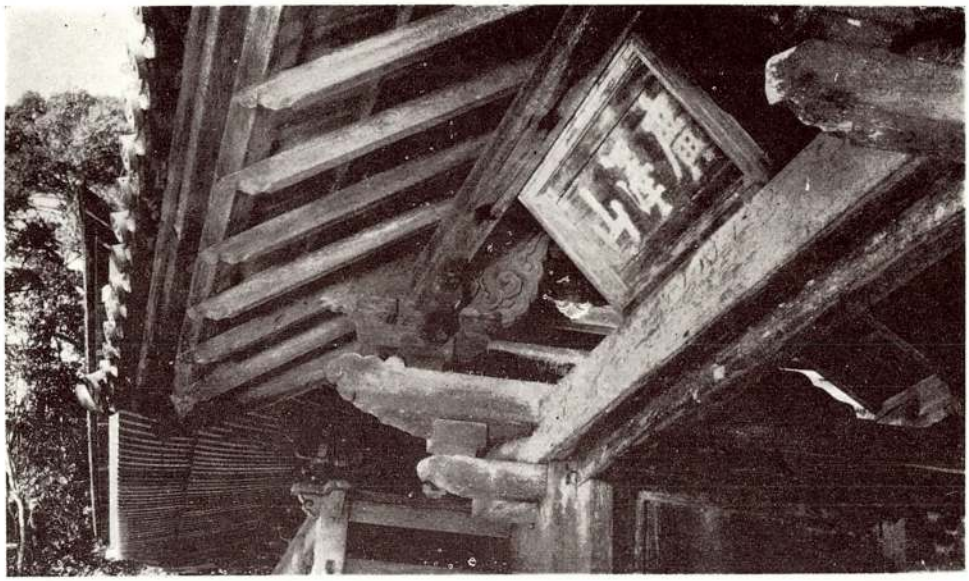
此は本柱の上の外の方に向つたところ、即ち本柱上及冠木上から、正面の方にでた腕木と、其上の三枡及手挟を見せたものである。まことに面白い組方をしたもので、上の腕木の上に肘木を直角に組んだ三枡をおき、桁桁と手挟とを支へしめたところは、頗る手際がよろしい。手挟も外面と内面と彫刻が異なり、外面の方は此寫眞に見えてゐる如く簡單である。

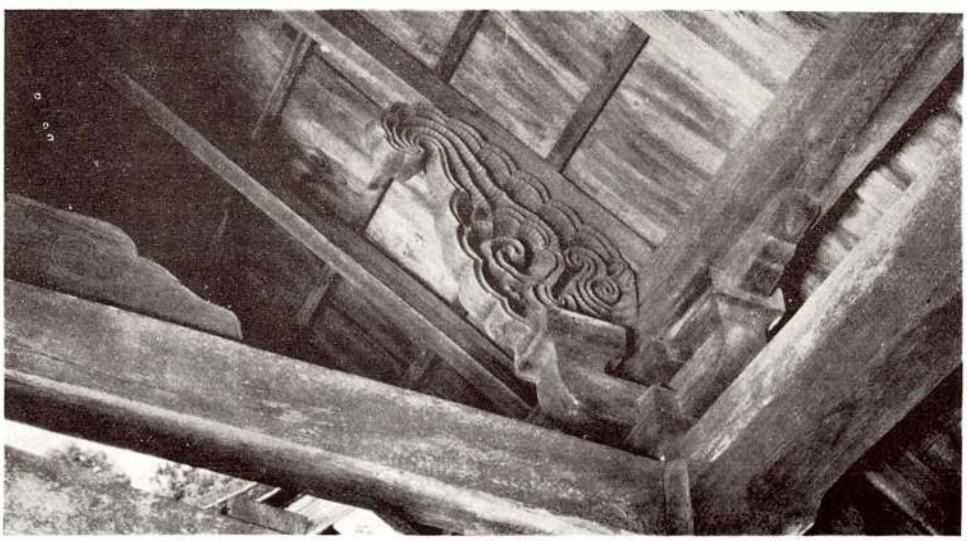
下。第百〇四圖　同妻大瓶束
（同年同月同日）



上圖の上の腕木は、丁度控柱の頭貫の延びたものである。即ち下圖でいへば下の方に見えてゐる水平材であるが、其中央部に繪様肘木をひつくり返した様なものを置き、其上に大瓶束を立て、それの上の三枡で化粧棟木を受けさしてあること圖の如し。

大瓶束下部の手法は、奈良東大寺大湯屋の背面妻の虹梁上の夫れの如くで、室町頃に行はれた一手法であるといへやう。





上。第百〇五圖　同正面－部　昭和七年一月五日）

下。第百〇六圖　同背面手挟內側　（同）

上圖は正面軒を全體に見たもので，第百〇三圖にでてゐる下の腕木は右上に見えてゐる。だから寫眞中央のは右側面控柱頭貫の先の腕木で，其手挟側面の彫刻は下圖のと同じ事が看取できやう。即ち內面は若葉，外面は渦文をつけたものだといふことが判る。

下圖は第百〇四圖のつづきで，大瓶束下の木片の右端が此圖の左端に見え，控柱上に三枓をのせて手挟をおき，內面には若葉を刻み，又控柱間には上部に虹梁を架渡してあることがよく知れるであらう。總て蟇股木鼻裏の點に注意せよ。

第百〇七圖　知立神社塔婆遠望



本年一月五日と二月十九日と、二度此神社に參拜したが、境内はいつも美しく掃除が行届き、廣びろとして如何にも心地がいい。殊に古式の鳥居の間から、多寶塔の眺めは、一種特別の感を與へずにはおかない。

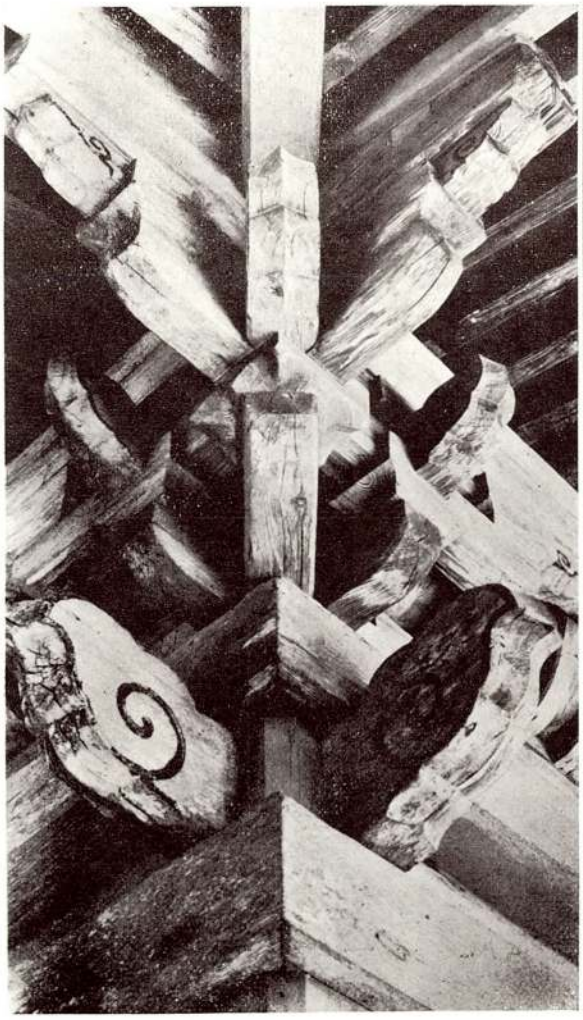
（昭和七年二月十九日）



上。第百〇八圖　同全景　（昭和七年二月十九日）

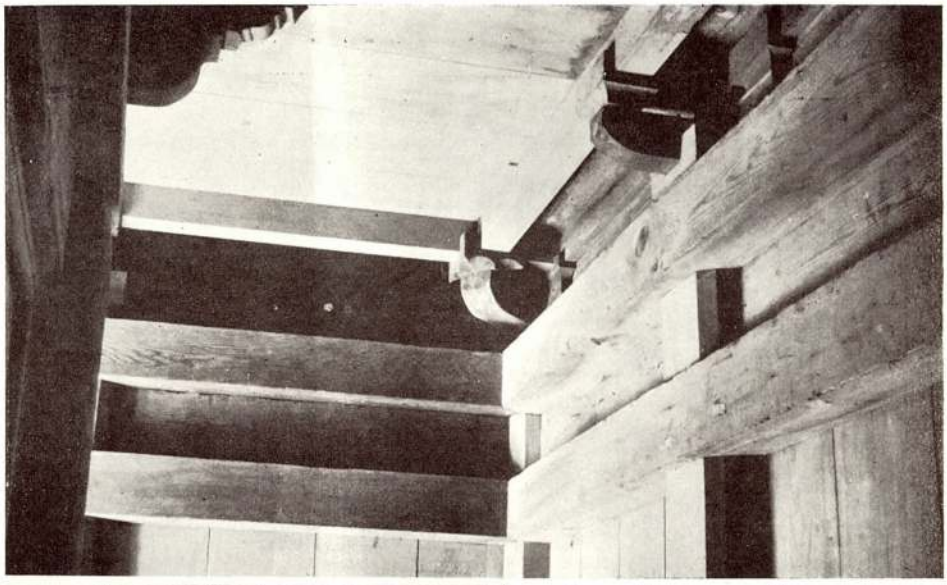
修理後は正正堂堂と、此附近稀れに見るところのいい形の多寶塔に復原してあること、此圖をみて知るべし。此位にひどくなつてゐると、修理の際に思ふ存分いい形につくり上げる事ができるから反て始末によろしい。

此も亦、正面兩脇の間に盲連子が入つてゐるだけで、あとは總て板壁、出入口も正面中央の間だけ。下層方柱一邊六寸九分五厘、面見付八分五厘、其比約1/8.2。永正六年の再建と傳ふるが、其位でよささうである。



下。第百〇九圖　同初重隅枓栱　（同）

上圖の眼に最も近い隅を大きく寫したもの。此位大きくすると、寫眞の上でも木材のあらび方で後補のところが判るであらう。木鼻のうち、殊に頭貫の鼻がのびだしすぎて、長すぎて形がよくない所や、卷枓が長手で、木口の幅が一割減どころでないことがよく見えるであらう。卷枓が思つたより長いのは、室町時代に間間ある手法で、ここばかりではないが、すべてこの細部は洵によく室町時代の樣式を發揮してゐるのである。





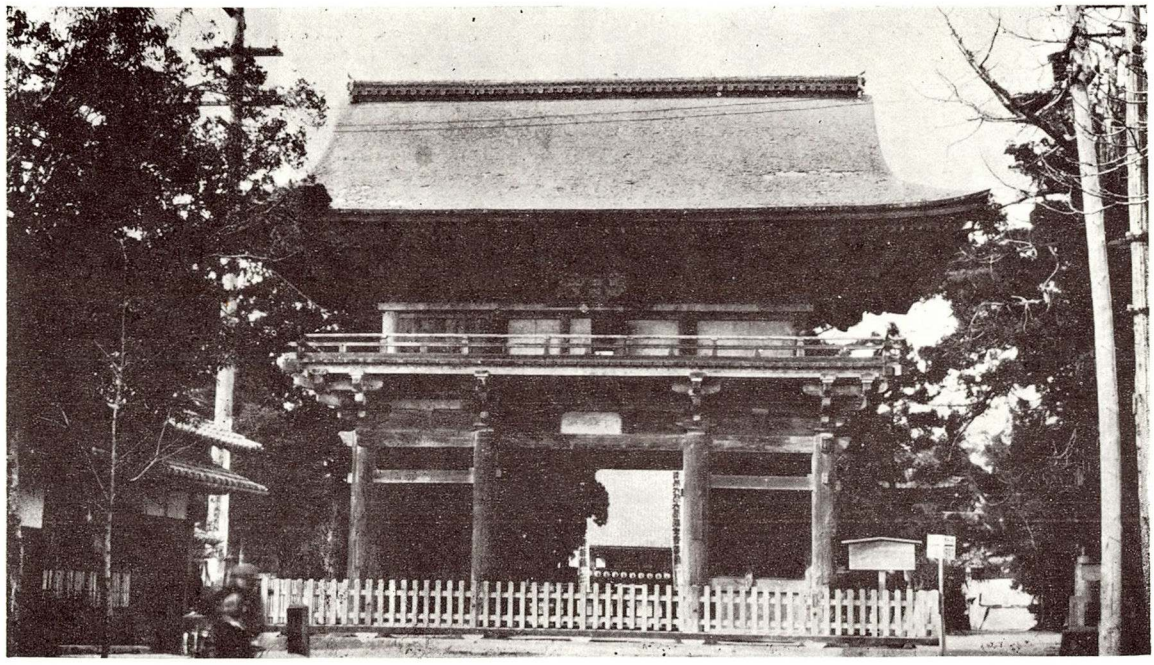
上。第百十圖　地立神社塔婆初重內部天井廻　（昭和七年二月十九日）

下。第百十一圖　同　來迎柱上枓栱　（同）

（大枓上に立てるは曲尺の約五寸（六吋））

上圖は須彌壇裏から天井の一部をみたところで、側柱上大枓より肘木をだして枓をおき、其枓で通肘木兼天井廻椽を支へ、あとは一面の鏡天井をはつてあるが、此天井は全部後補である。

側柱が總て大面取の角柱であるのに、下圖の來迎柱は唐様の圓柱で、頭貫も木鼻も、共に其様式手法をよく現し、また第百〇九圖の如く、初重內外共枓栱和様であるのに、これが總て唐様なる事を注意せよ。但しこの様なのは他にも例はある。



上。　第百十二圖　甚目寺南大門正面

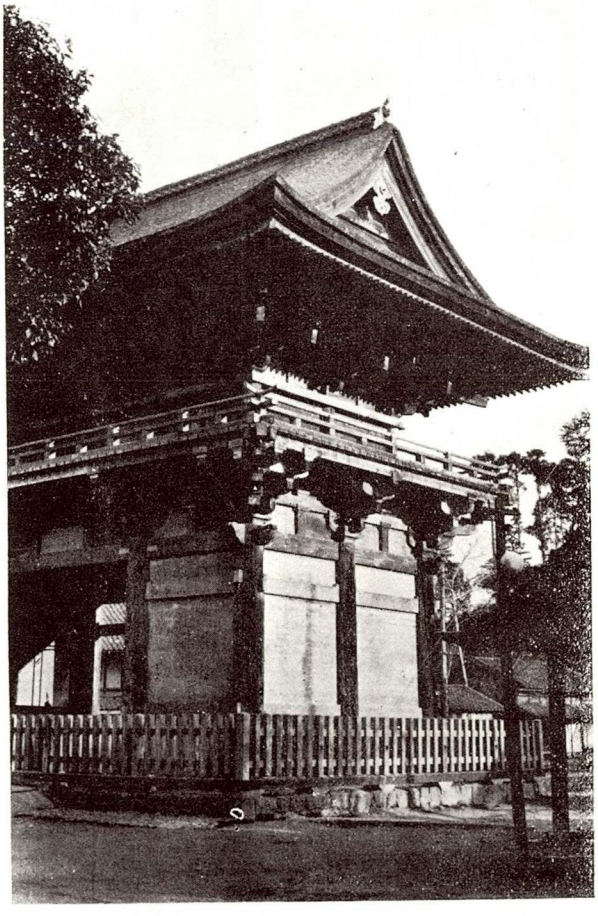
下。　第百十三圖　同　側面

（昭和七年二月二十日）

（同）

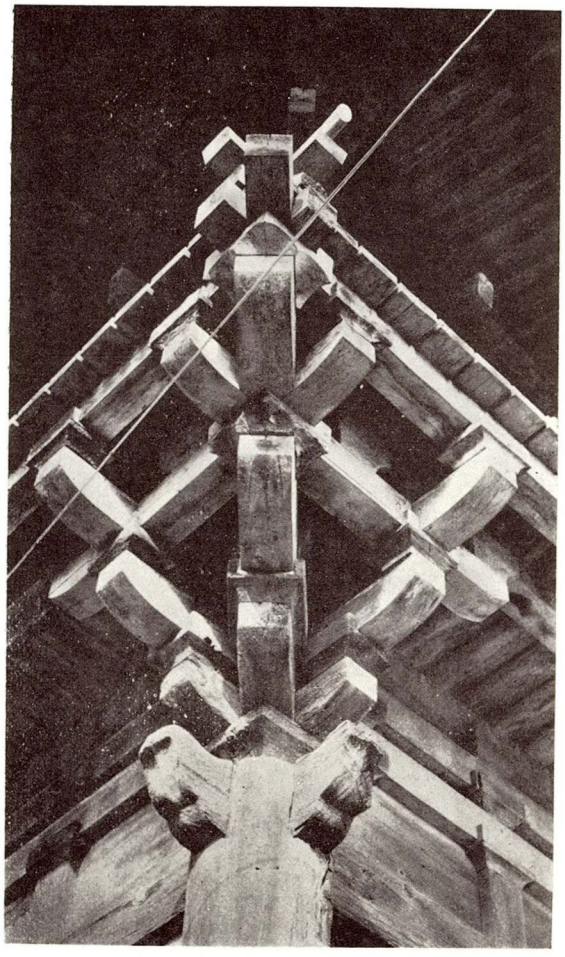
三間一戸の樓門は、どこにあつても此形で、きまりきつたものである。だから餘程變つた意匠でない限り、どうも私にはさう珍らしいとも思へぬし、よくも思へない。

然るに此門は、中の間が特に廣く、枓栱間は間枓束になつてゐるが、其束が中の間に、上下層共二本づつ入つてゐるのが目立つ。尤もかかる手法は慈照寺銀閣の上層にもあるので、室町時代にはよく用ひられたのかも知れぬが、氣になる。蔓巴後補。懸魚同斷。上層肘木唐様、下層和様（次圖參照）。



第百十四圖　甚目寺南大門棟下隅柱上枓栱詳細

（昭和七年二月二十日）



此圖は下層の西南隅の見上げで、即ち第百十二圖の左端、第百十三圖の右端に當る。寫眞でみても氣のつくことは、頭貫の鼻が割合にいい形をしてゐることで、第百〇九圖や第百十一圖等と比べてみれば、遙に簡單ではあるが、形に於いて比較にならぬことが判るであらう。

どの書物をみても、皆建久七年の再建とかいてあるが、上層東中央柱の南北通貫に用ひてあつた楔に、「二王門は建久七年之造營也……」とあつたのからでたのか、或は他に文書でもあつたのか、それは知らない。尙ほ上層は枓栱三手先で、軒天井・軒枝輪を備へてゐるが、これは慶長年間の改造との事である。下層は寫眞の如く總て和樣だのに、上層は唐樣で、尾垂は和樣である。だから若し上下層共建久再建のままとすれば　唐樣の影響が餘りに早すぎ、少しく解釋に苦しむ次第であるが、後世の改築とすれば其邊は甚だ始末によろしくなる。

又正保三年七月七日の墨書銘に「……今度修理は大破所三重目ノ大輪ヨリ棟迄ヲ……者也」とあるが、大切の所がよめぬ。或は正保に全部臺輪以上をかへたのかと思つて、下から雙眼鏡でみたが、どうもはつきり判らなかつた。今はこれ位にとどめ、詳細は更に他日の好機を待つことにした。ゆつくり上迄登つてみなければ、下からでは駄目である。

圖版解說の後に記す

以上私は岐阜愛知二縣下の國寶及非國寶建築に就き、其一部の寫眞を揭げて、それに簡單な解說をつけておいたが、棟數は岐阜で四、愛知で二十一、合計百十四圖に及んでゐる。名稱なり寫眞なりについて、短い說明をつけたのでは、新しいものに【日本古美術案內】、古いのに【日本古建築菁華】がある。併しながら前者は殆んど圖なく、後者は一棟一圖で而も全景又は一部分だから、圖の上では了解しにくい點もあるので、既に國寶に指定されてあつても、珍らしいと思ふものは圖を餘計入れ、指定されてなくとも重要と考へたものも同樣に取扱ひ、書物にかいてある樣な事は成るべくさういふものに讓り、餘りかかれてゐぬ樣なことを多くかいてみたつもりである。

これだけの建築、それにつけて美術工藝品や佛像等を拜觀見學して歩いたのに、總計七日かかつた。といつたところで一日は朝から夕迄の意味ではない。見學の時間は極く短いので二十分位から、長い方でも五時間を出ない。尙ほ一ヶ所から次へ移るに要した時間もこの中に入つてゐる。例へば京都を朝たつて永保寺まで行くには半日以上かかるが、歸る時も同じだから、つまり一日以上汽車で費したことになる。だから七日かかつたといつても、正味にしたら知れたものである。

かかる短時間に、寫眞をとつたり心覺を手帳に控へたりできたのは、全く各社寺で得た便宜によつたのであつたが、今年の一月と二月と名古屋方面を見學した際は、不圖した事が原因で、名古屋新聞主筆小林橘川氏と、愛知縣廳社寺兵事課主事小栗鐵次郎氏とが、特にいろいろ斡旋せられた結果である。即ち小林氏は自動車で次から次へと導かれ、小栗氏は社寺との交涉に當られたので、どこでも自由に開放されたからであつた。單獨で出かけたのでは、此半分も覺束なかつたことはいふ迄もない。

初めの方に揭げた永保寺の寫眞は、友人岡崎守藏氏の原版を拜借したのが多い。同氏が素人寫眞師としての技倆は拔群である上に、機械は優等品だから、できた寫眞に申分のある筈はない。去る昭和三年九月中旬、同好者數名と共にあの寺へ出かけ、途中定光寺へよつて夕刻着、一泊して翌早朝より寫眞にかかつたが、當時私の目的は限定してゐたので、さういふ極く一部分の寫眞だけとり、一般のには手が廻らなかつたが、その時岡崎氏のつくつた優秀なる原板、及びそれ等の原版より引伸ばされた懸魚とか手挾とかいふものの寫眞で、今回の不足を補ふことができた。又第九圖は名古屋市立工藝學校教諭淺野清氏の寄贈で、同校教諭木下利久氏の撮影にかかり、淺野氏を介し撮影者の承諾を得て揭載する事を得たのである。さうしてともかくも既記の標題の下に、無滯一通り記すことができたのであつた。

茲に右記の五氏に對し、深厚なる謝意と敬意とを表す。

＊　＊　＊　＊　＊

今回は一つ一つの建物に就き、いつもの様に解説をかきかねたので、まるで書帖の様になり、頗る非學術的のものができ上つてしまつた。こんなもので貴重な紙面をふさげるのは、愈不都合かも知れぬが、寫眞はできるだけ餘計にとつておかなければ、萬一の事があつたとき、いくら後悔しても及ばぬのである。

つい此間（昭和七年四月三日）焼けた醍醐寺五大堂の例でみても、最早再び目のあたりみる事はできぬではないか。誰だつて焼けるのを待つてゐるものはないが、物が木造である以上、ほんの僅かのことから、飛んだ大事が起らぬとも限らぬ。あの建物は私が山上へ登るたびに、或は寫眞をとり、或は飾金具の拓本をつくつたりしておいたが、まだ佛像の寫眞に迄及ばなかつた。併し建築の主要なる部分、殊に内部外陣の複雑なる構造は、二ヶ所も三ヶ所も寫しておいたが、あんな事から最早今日でも數枚の「フキルム」に、世にあつた時の俤を偲ぶのみである。無論そんな事があつては大變だし、ある筈もあるまいが、萬一焼けでもしたときは、このうちの寫眞だつてどの位やくに立つか判らぬ。だから餘り文句をいつて貰ひ度くないのである。解説を讀むのが面倒なら讀まないでもよろしい。多少でも素養があれば、繪だけみれば直に判る筈だし、また全く素養がなくとも、いいものは誰がみてもいいのだから、眺めてゐるうちに自然其よさが了解できてくるであらう。

＊　＊　＊　＊　＊

左に寫眞に掲げた各建築及び美術及び工藝品、又は掲げぬのでも優秀なものは、彫刻等も入れて、後の見學者のために注意すべき點を一通り書いておく。順序はやはり圖の順、即ち私の見學した順にしておいた。

永保寺

岐阜縣可兒郡豐岡町長瀬

開山堂。

全形及細部。禮堂懸魚。窓。合の間の板墓股（アヒノマとは「相の間」「合の間」等とかくが、ほんとうは「間の間」即ちアヒダノ間といふ意味かも知れぬ。ここでは「合」の字をあてておいた）既に第五圖の解説にほんの一行だが書いた様に、禮堂の懸魚は全く特殊で、餘程變つてゐる。見様が悪かつたかも知らぬが、右側のものに古いのが二つばかりあり、且つ鰭もよかつたと記憶してゐる。あの圖のは、だから丁度古いところがでてゐるのである。

此所に挿入した凸版の圖は、丁度第五圖左下に見えてゐる降懸魚で、あの寫眞版には先きがきれてゐるが、あれは製版屋がけしからんので、原稿にはたしかにだしておいたどころではなく、まだ下が二分程餘つてゐたのに、勝手にあの様にしてしまつたため、筆者の意志通りのものができなかつたのは遺憾である。大事なところを切つてしまつたのである。

此懸魚の摺本に、斷面が入れてなかつたものだから、それから作つた圖にも、同様の缺點がある。のみなら



永保寺開山堂禮堂右側面降懸魚

昭和七年五月一日指本より製圖 ㊞

○上下鰭の裏面は、事實は方向が此と反對にするのであるが、見易い樣に特に裏返しにかいておいたのである。

ず上につけてある五葉（五瓣だから「五葉」とかいたので、勿論六葉が最も普通である。最少は「三葉」、次は「四葉」だが此は六葉の次に多い。それから八葉。最多は牡丹の花で「多葉」。）もすつてなかつたためそれも亦ぬいて了ふより仕方がなくなつた。それから厚みもかいてない。併しこれ等は今のまに合はぬのだから他日好機を得たときかき直すつもりでゐる。かく不完全だけれども懸魚其物と鰭との形はよく判るであらう。

此懸魚も鰭も、當初のものらしいが、果してさうなら隨分形式が變つてゐる。先づ第一に其面にできてゐる多くの線に注意せよ。これが桃山以降大に流行した謂はゆる蕪懸魚（カブラゲギョ）の原型ではあるまいかと思ふ。原型といへない迄も、少なくとも千篇一律の猪目懸魚で行づまり、困つてゐた際、これだけ唐様の濃厚な、純唐様といつてもいい位なところへ板蟇股をうまく應用した様な頭のいい建築家は、懸魚のできた元の忍冬時代に戻つた次第でもあるまいが、圖でみる如く一點より曲線形に放射せる線を以てその面に幾分の變化を與へたが、ただそれだけでは區別がつかぬから、一方の肉を薄く削ぎとり、そこにいくらかの差をつけた。これが蕪懸魚になつたと考へるのはあながち無稽でもあるまい。さうして此は刳抜蟇股程流行せずに室町時代を通り、次の桃山へきて大にはやりだしたのであらう。中央の猪目のところへ總ての曲線が集まつてくれば、例へば京都市豐國神社唐門の夫れと同じになる筈である。

次は鰭であるが、室町時代にこれ位發達してゐるのは、寡聞のせいでみた事がない。これは全く特別の場合と考へてよろしい。物には何でも除外例といふものがあるから、苦しくなつてくると、その方へ逃げるのは一番樂なやうである。この鰭をよくみると、鎌倉時代の小さい社殿の脇障子欄間の彫刻などに、間間かういつたのがある。此はいやに大きいが、性質はその種類である。それでみると、たまには文和頃にかかる種類のがあつても敢て不思議はないが、とにかく珍らしいものである。

他が簡單だのに、ここだけ詳しすぎるが、除外例としてかういふものも存在し得るといふことを、此機會に一應說明しておいたのである。

第九十圖の解說にもかいた通り、蕪懸魚のあんなのができたり、美事に發達した大きな鰭が一般に用ひられたりしたのはやはり桃山からとしていいのであるまいか。此懸魚は前から疑問で、今でももう一度見直さぬ以上、やはり同じ疑問をもつてゐる。或は見直しても判らぬかも知れぬが、とにかく今の場合は除外例としておく。

和樣唐樣の折衷建築なること。

一。礎盤なきこと。

二。椽のあること。

三。化粧棰全部を缺けること。

四。枓栱唐樣なるも詰組ならず。

觀音堂。

五。床板敷なること。

日吉神社　岐阜縣安八郡神戸町

全形。三重目に勾欄を缺けるところ。初重枓栱木鼻扉、内部須彌壇等。大して古くはないが或は塔と同時即ち桃山時代位ありさうである。枓栱勾欄等に注意の事。

塔婆。　地藏及十一面觀音、小型なるが平安時代の優秀作。こんな所にこんなものがあるかといふ感のするもの。

本殿。　石獅一對。本殿前にあり。

彫刻。　（右）不破河内守光治造立

工藝品。　（左）天正五丁丑季五月吉日

の刻銘あり。但しさう大して傑作とは思へない。

定光寺　東春日井郡品野町沓掛

本堂。　上層切妻造なるも、あれは假屋根をかけてあるので、當初のものでない。修理の際は當然復原されるべきもの。脇壇。

須彌壇、殊に其勾欄。

福壽院　一宮市須ヶ崎町

塔婆。　多寶塔なるも周圍の椽及上層勾欄を缺く。未成？

目錄に室町とある。その通りであらうが室町の極く末、桃山との境位のところか。といふ疑がある。夫れは第20頁の解說の終りに書いた樣に、方柱の一邊と面との割合が約1/10で、室町のものとしては面が少に失してゐる。併し單にそれだけの事で時代を下げるのは早計かも知れぬ。住職の談話のうちに、故大槻文彦博士は、【康富日記】のうちに、嘉吉二年九月に修理したといふ記事があるのを見出されたさうで、現物も室町時代のものだから、嘉吉かも知れぬといふ說をたてた人もあるさうだとかいふのがあつた。

總て物には除外例があるのだから、嘉吉に1/10の割をもつた柱がないとはいへぬ。少し削り足りないか又は削り過ぎれば1/10は愚か1/14にも、或は反對に1/6にもならぬとは限らぬ。けれどもそこは大概きまりがあり普通なら1/6位は鎌倉1/14は江戸とみてよろしい。鎌倉末から室町へかけては約1/8、室町末から桃山へかけては約1/10。いふ迄もなく事實「約」で、大きいのも小さいのもある。

寺傳では元龜二年にできたとあるが、普通の時代區分法によると、これは室町の極終りである。足利氏の沒落が天正元年で、その年は桃山に入れていいのである。元龜二年にできたといふのは、確かかどうか少しも調べてゐない。寺傳とか社傳とかいふものにいい加減のものが多いのだから、充分調査してみなければ何だか判つたものではないが、面の割が小さいのだから此傳も考慮する必要はあると思ふ。嘉吉二年と元龜二年では百三十年の差がある。もつと考へてからでないと勿論きめられぬが、今のところ元龜說は決して捨てたものではないと思つてゐる。

妙興寺　中嶋郡大和村妙興寺

貞治五年後光嚴天皇の勅願と傳ふ。枓栱及木鼻。後補の個所。

全形及細部。特殊の形式に注意せよ。とにかく柱が四方から少しく內方に轉び、從つて壁もさうなつてゐるが同じく切妻迄で單層で、一方に花頭窓がついてゐるのなら、少しばかり時代は新しいが、京都市建仁寺にある。尤も建仁寺には二つ鐘樓があるが、此方には室町時代の大型の頗る上等な吊鐘が下がつてゐる。旁旁これは大に目立つてゐる。だからこの樣式をもつたのが他に全くないのではないが、珍らしい事は確かである。殊に妙興寺のは、途中に椽を廻らしてあるのだから、尙更珍らしいとしてよからう。

下層が白壁のは、奈良の新藥師寺に實物、國寶桑實寺緣起に繪にかいたのがある。あれで上層も白壁になれば、丁度これの樣になるのだが、そこ迄にはなつてゐない。だから私は今類例を見出しかねてゐるのである。

梵鐘。全形・撞座・龍頭及び銘文（永和二年）。

勅使門。

鐘樓。

工藝品。

塔婆。

本堂。

性海寺　中嶋郡稻澤町大塚

上層軸部細きに失す（全體との比例よくなし）。殊に銅瓦葺が氣になる。枓栱・木鼻・蟇股「殊に蟇股の形が面白い」（古美術案內）とあるが、私のみたところでは別に面白くはない、寧ろ普通である。ただ脚內に入れてある牡丹の花の藥が、特に內部に落込ましてあるのが、他に見受けない取扱である。それと少し背が不足であつたためか、上の方にあげてある。元より全く裝飾のためだから、かうしても少しも影響はない。

堂の建築に就ては、外部は新しいが、內部天井廻り及須彌壇後方柱間壁書等は注目に値す。

須彌壇及勾欄。其上の厨子（寶塔）。

＊　＊　＊　＊　＊

【性海寺代譜】（第四十四世法漸筆）

……中嶋郡守民部太輔長谷部深政……深政自慶獲所憑依爲中興大壇越營造本堂（漸按實紹法印作本堂上梁文古堂者建長四年所建也蓋紹師據中興上梁文古文）灌頂堂護摩堂寶塔之屬復聞于朝鷹司皇后令旨寺益增重

【尾州中嶋郡大塚山性海寺來由記】（元祿十二年十月、第四十三世額景筆）

……本堂寶塔蓋中興之日所建立也特本堂傾斜勢巨仍實紹勵力營興慶安中更新棟宇至其龕塔須彌壇（一世亮元修治塗飾）壁板（塔背）天井者用故厥嗟乎古之精嚴可見於此矣其餘院室慶長元和之間所營……

＊　＊　＊　＊　＊

此等の文書は悉く信を置き難いかも知れぬが、様式から鎌倉としてよろしいと思ふところへ、「建長四年所建之」とあるのだから、先づ差支はないと考へられる。それから須彌壇や龕塔は、寛文の初めに修治塗飾したとあるのでみると、須彌壇に新しい飾金具が打つてあつたり（後補の分）、寶塔の扉の散八双が新しかつたりするのは、或は寛文の仕事かも知れぬ。

本堂内安置の諸彫刻。寶藏内聖徳太子立像。

五輪塔（木彫漆塗。今剝落甚だしく元の色彩などはよく判らぬ）。様式上鎌倉時代と推定し得。正面に打つけてある飾梵字は左右相對せしめてあるのは珍らしい。地輪の梵字だけに涅槃點がかけてゐるのはどういふ次第か、そこはどうも素人で判斷がつかない。

彫刻。工藝品。

鐘。刻銘あるも年號なし。下帶に唐草を陽鑄す。銘に曰く

願諸賢聖
同入道場
願諸惡趣
俱時苦離
尾陽性海寺
信濃椽國次作

此鐘は乳の間（乳三列三行にある）の左右にも、簡單な唐草がついてゐる。元寇の時に祈つたといふ寺傳だそうだが、弘安迄は少しむつかしい様に思はれた。

萬德寺　中嶋郡稻澤町長野

徳治二年の造立といふ。様式上からは少し後れて室町のもの。正面の扉は永く開放のままにしておいたもの

塔婆。

か。此邊の多寶塔は正面中央に出入口があるのみで、あとは窓も何もないのが多い。此も亦其一。上下層の釣合よろし。

長光寺　中嶋郡大里村六角堂

應保元年創立、永享七年再建といふ。

科栱・棰・扉。

周圍一間通り（外陣）吹放しのところ。

本尊鑄鐵地藏立像。臺座上に銘文を鑄出してあるが判讀不能

鰐口。銘文を刻す。

奉寄進鰐口尾刕中嶋郡六角堂長光寺

大檀越埴原加賀守植安　竝女施主同京中將殿敬白

と兩方に刻し、其間に

天正十一　六月吉日

道春　輝光作

慶秀

とある。

本遠寺（ホンノンジ）　名古屋市南區熱田田中町

樓門。

三間一戸の樓門。中央出入口上蟇股に種類多し。即ち正背面の分は「雲」、正背面の裏の分は「板蟇股の脚に若葉附」、本柱上のは「象に雲」の透彫。

大棟の兩端に鯱を上げてあるが、全部浪からできてゐる。

熱田神宮　名古屋市南區熱田神宮坂町

鎭皇門。

三間一戸の樓門なるも、中央出入口上部に桐唐草を入れた蟇股を入れてある。桐及唐草の形式は實に珍らしいが、これは修理の時入れたものだといふ。古い所が一つもないので、少しく注意してみるならば、誰人も疑問を起すであらう。

上層中の間に花頭窓を入る。神社建築に佛寺建築の要素たる此種の窓を用ひた例は餘りないやうで、私は仙

臺市大崎八幡神社拜殿にあるのを知つてゐるだけである。

海上門。　上層南側東の間だけが出入口にしてあつて、板唐戸が吊込んであるのも亦、變つた例である。

八脚門であるが、出入口兩側の柱上部、本柱と控柱との間の間斗束上の花肘木に注意せよ。

板扉に打てる六葉座の飾金具は古式なり。

七寺（ナナツデラ）　名古屋市中區門前町

塔婆。　三重塔で江戸時代。

本堂。　全形及細部。

內陣天井廻・須彌壇・勾欄

外陣及外部斗栱間墓股（第六十八圖參照）は、肩のところに變な形のものがでてゐる。墓股だから變に思ふだらうが、束とするとさうでもあるまい。かかる種類の墓股は、古いところでは鎌倉末からあり（奈良縣生駒郡、添御縣坐神社本殿（ソフノミアガタニイマスジンジャ）、室町のものにもある（京都市伏見區日野、法界寺本堂（康正二年））。ただ極めて例が少ないだけのことである。故に桃山にあつてもよろしいので、此時代の發明ではない。江戸時代に入りては可なり流行したらしく、隨所實例に乏しくない。

彫刻。　本尊阿彌陀及兩脇侍（平安末玉眼）・二天立像。

玉眼は普通鎌倉以後であるが、中尊寺の一字金輪や此は、平安末で玉眼なので、其方面に心がけてゐる人は皆知つてゐる筈である。

工藝品。　唐櫃、それの繪。

性高院　名古屋市中區門前町

表門。　四脚門。細部（慕股・木鼻等）。

本柱が上の方で急に細くなつてゐるのが私は珍らしいと思つた。近畿のみならず、つい見出さなかつたのに、去る一月四日初めてここでみたが（第七十四・七十五・七十六圖）、其後二月行つたとき他でもみた。だから或はこれも亦例のこの邊の地方色の一つかも知れぬ。別段細くする必要がないのにさうしてあるのだから、先づほんの習慣位のところではないかと思ふ。

高岳院　名古屋市東區高岳町

本門。　三間一戸の大規模の藥醫門。全形及細部に注意せよ。

同じく正面にあるのに、性高院では「表門」といひ、ここでは「本門」としてある。やつかい至極である。清洲城から移したといふが、如何にも城門らしい堅固で重厚で莊重な、かかる種類の形容詞をあるだけ並べてみればいいと思ふ様な門で、全部黒塗。門が立派で本堂の方は氣の毒。

觀音寺　名古屋市南區荒子町

塔婆。　觀音寺といつてきいても、そこいらの人には判らない。「荒子の觀音」といへば直に通じる。

彫刻。　多寶塔。内外科栱等の細部。

圓空上人作と傳ふる農民藝術的彫刻。本堂内に無數にあり。薄き木片に施せる一刀彫の如く、極めて粗に顔面のみをほつたものが多く、木食上人式の彫刻を簡易化せる如く、一種の風格を備ふ。見逃すべからざるもの。

天恩寺　額田郡豊富村片寄

佛殿。　佛殿の修理は今より二十年前に行はれたと思ふが、「現今切妻造棧瓦葺」とかいた近頃出版の書物もあるが、これはたしかに誤りで、實物を見ずに何か古いかいたものを寫した結果であらう。外部では脇壇の上部の虹梁内部では脇壇欄間、須彌壇等。特に其勾欄親柱及通栫。

山門。　屋根の棧瓦葺は甚だ物足らぬが、細部全體は甚だ面白い。

池立神社　碧海郡知立町

塔婆。　文庫又は神庫といふ。

此も亦、前記の書物に「今は屋根が入母屋造であるが云々」とあるが、前同様机の上で書いたと見えて、とうの昔しに修理完了し、失はれてゐた相輪も立派に復原ができて「今は立派な多寶塔で」ある。今でも社務所に修理前の寫眞を藏してゐるが、それによると初重は普通の多寶塔であつたが、上層は圓形の平面に臨時に屋根をかけてゐるから、隨分不思議な形をしてゐる。聞くところによると、明治の初年神佛分離の際、危く破壞されやうとしたのを、知立文庫といふ額を急造して掲げ、塔婆ではなくて文庫だと言張り、難を免れたといふことである。見學の際は社務所でこの修理前の寫眞を一見すれば、興味の深いものがあらう。

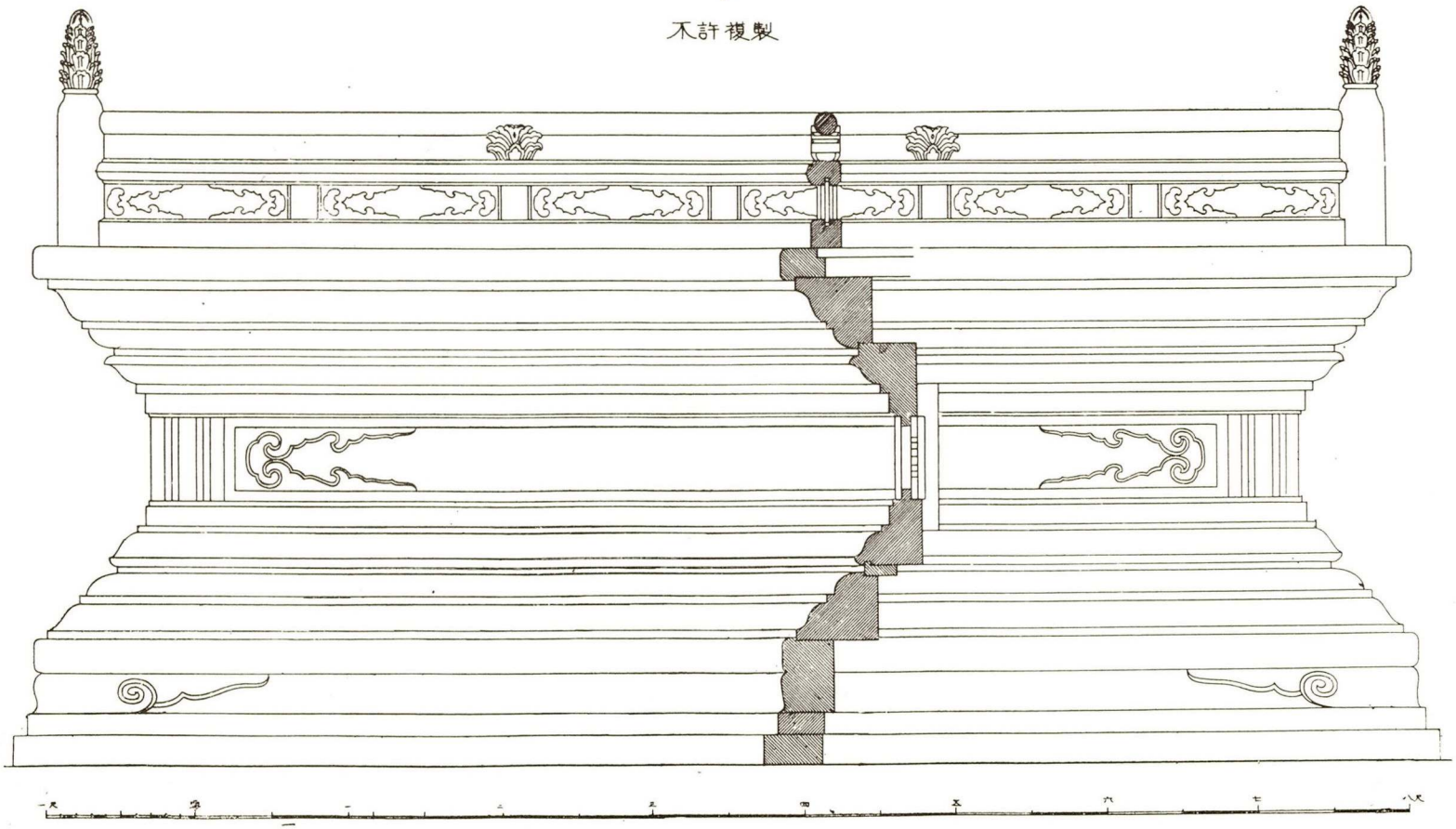
内外部科栱・來迎柱上等に注意せよ。

工藝品。　鰐口。鐵製、徑約七寸七分、普通の形式。中央に八葉の蓮花文を刻すつもりが、いい加減に割つていつたせ

愛知縣額田郡豐富村・天恩寺佛殿須彌壇正立面及斷面圖

昭和七壬申歲・㊞・五月四日製圖・晴

不許複製



いか九瓣になつてゐる。銘は陽鑄で、最外區に

尾張國池鯉鮒大明神奉懸寛永十五戊刁年

筑前國林太良右衛門尉正利

さうして中區に

三月吉日

とある。寛永十五年の干支の「戊刀」はいよ〳〵もなく「戊寅」で、「寅」を「刀」とかいたのは、いくらでもある。

此鰐口は本年二月二十日夜、東京より名古屋へ來た某氏が某骨董商から買得するところとなつたが、今其所在を知らぬ。私は名古屋市の旅宿で、今買つてきたといつて見せられたので、これだけの事を知つてゐるのである。

石燈。竿に「池鯉鮒大明神」と刻したもの一對、神社へ曲る道の兩側にたつ。新しいものだが、江戸時代を偲ぶに足る。

甚目寺　海部郡甚目寺村

南大門。

三間一戸の樓門。中の間特に廣く、そこには上下層共間斗束が二本入れてある。

此門建久七年の再建で、「上層は慶長年間に改築したといふ」と【日本古美術案內】にかいてある。どこからでたのか知らぬが、果して其通りなら都合のいいことがある。下から双眼鏡でみたのでは慶長頃かどう判らぬが、實は下層が和樣で上層は唐樣だから、全體が當初のままとすると、それでは唐樣の影響が餘りに早過ぎて大に疑問が起るのである。

瓦。

奈良前期と思はれる疏瓦の完全な立派な標本が唯一個ある。他は平瓦か圓瓦の破片のみ。明治三十五年五月八日、樓門西南及西面中央より出土したさうだから、確かではあるが、此完全な疏瓦の出土した個所ははつきりしない。唯一つのものが二所からでた筈はあり得ない。

上層東中央柱の南北通貫に使用したといふことが書いてある楔に左の銘が墨書してある。

二王門は建久七年之造營也

今度屋根葺替幷屋根下地

修覆終

天正十八年八月吉日當主僧延瑜代

あとは全部正保年間のものばかりだが、其一例として次のがある

仁王門御□修理雖有年號者未智初立年號者……
今度修理ハ大破[所][三]重目ノ大輪ヨリ棟迄ヲ
……者也正保三年七月七日　宥旺法師

右文中「大輪」は「臺輪」のこと。

彫刻。

塔頭法華院本尊聖觀音立像。天衣と足先とは後補のことは確かであるが、顔面も亦變つてゐるのではないかと思ふ。胴體は平安初期ではないかと私に考へてゐる。

（昭和七年五月五日稿了）

追記

五月十一日用事のため長野縣下伊那郡飯田町へ向ふ汽車のうちで、鐵道省發行の【日本案内記】中部篇を讀んでゐたところ、不圖本遠寺の記事中

中央冠木の上の蟇股は兩端花形となり、雲上に有翼の象を現はした優秀な作である。また前後虹梁の上の蟇股は雲花形より成る變形で頗る珍しい。

とあるのを見出した。私はこの彫刻を今年一月四日に行つたとき、同行者にもみて貰ひ、私自身もよくみたつもりか何かで、「雲に獅子」と思つたのであつた。此蟇股は保護のため鐵網で覆ふてあつたが、室町時代のこれ位のものを、その様にまでしないでもよからうと、實は考へてゐたけれども、「羽象」とあれば、尤も千萬のことで、どうしても見直さなければならぬ。そこで漸くのことで、十五日京都へ歸る途中、中央線の汽車が後三・三五に名古屋につくのと、東海道下りの二三等急行が五・一四にでるのとの間、一・四〇を利用して觀に行つた。

問題の蟇股の表も裏も夫れ夫れ三個所から、雙眼鏡でよくみたところ、脚内の彫刻は「雲と動物」で、其動物は「獅子ではない」事は確かであつた。獅子とみたのは私の誤りで、從つて第三十六頁第五十七・五十八圖の解説に、「雲に獅子」とかいたのは取消さねばならなくなつた。此動物は牙が生へてゐて鼻がいやに長い。もう少し短かければ「獏」かも知れぬが、例へ鼻の先が少し缺けてゐても、この位長ければ「象」とみた方がよささうである。

此「象」の頭の毛は、唐獅子の夫れの如く螺旋狀に卷き、前肢の臂のところに少しばかり裝飾の毛があり、又尾は長くして本から五つに分れ、前の方に曲つて胴の半分位まで來てゐる。肩のところに圓盤でほつた様な、全體としては渦文型の雲があり、他にも頭の脇や身體の下に雲があるだけで、又復觀察のしやうがよくなかつたか知らぬが、羽は見出せなかつた。將來好機を得たとき、梯子でもかけてゆつくり見直し、ほんとうの事を確める迄は、どうも「羽象」説に贊成しにくい。今の所私は「象に雲」としておきたいのである。

次に「前後虹梁上の蟇股は雲花形より成る……」とあるが、これは新熟語らしく、私はこの名を知らぬ。私共はこの様なのを「板蟇股」と呼んでゐる。室町時代に普通の形で、別段珍らしくもないが、ただ變つたところをいへば、脚の先に若葉がついてゐる點で、即ち蟇股脚端葉化の

一例に過ぎぬのである。だからこの書物の様に「頗る珍らしい」とするのは、少し誇張に過ぎる嫌がなくもないと思ふ（昭和七年五月十七日）。

正誤表

頁	行	誤	正
25	上より七	（第四十二・四十四・四十五・四十六圖）	（第四十六・四十八・四十九・五十圖）
23	上より九	大型のを	大型のの
31	右より七	棰は扉	棰は扇
33	上より二・三	第二十九圖……及百〇八圖	第二十一圖……及百〇九圖

談話室(3)

のない美も勿論ある。裸體美はそれだ。性にカモフラージユされない同性の裸體にも素晴らしい美はある。が一方裸體醜の場合でも衣裝の力を借りて出現せしめた美形にも仲々捨て難いものが多い。

建築屋は或る程度迄自惚んと商賣にならんかも分らん。が然しどうも一般に自惚が餘りひど過ぎる樣だ。好き嫌ひは勿論人によつて相異するが、よくもまあ斯樣なものを建てよつたなと思はれる樣なものがあつちにもころり、こつちにもころりとある。その中には自分では終に拙さを認識することの出來ないで終つて居るものもあるだらうが中には御本人は設計圖を造り上げて居る時にはとても自慢であつたが建物が出來上つてがつかりして居るものもあるに違ひない。建築醜これはまことにその生みの親の建築家の面汚しだ。おのがじし創作にかゝる建築醜にはひどく心を傷められるものだ。然し乍ら喜び給へこの建築醜は多くの場合裸體醜なのだ。だから裸作醜には衣裝の力をかりるとそこに美形を出現せしめることが出來る。衣裝とは何ぞ。曰く植樹。

一體全體建築屋には木を植えると云ふ事を知らん人が多い。如何に植樹に無智であるかを一寸と曝露してやらうか。或る大學の先生の家を見て御覽うじ。綠氣がすつからかんなくて何のことはない造船所のやうだ　或る市町村の課長さんの家は丸い窓や多角の窓だけでこれは家具工場だ。或る府縣廳の課長さんの永年苦心のあげくが炭團干場ときてゐる。或る事務所の所長さんの家にいたつては鉛室かグラバー塔と云ふところかね。由來建築家であり乍ら自分で家を持つて居る人は至つて少ない。その少ない人の家が件の如し。何故どんどん森の樣になる迄木を植えないのだらうか。堺筋や御堂筋に建つ事務所の樣なもの迄三四間後退さして迄も木を植えといふのではないが、その他の場所に建つものには住宅は勿論學校、工場總てのものにどしどし植えるべきだ。木は建築醜を隱して吳れる。それだけでない更に木は建築美を彌が上にも增して吳れる。木は建築屋の同情者であり、味方である。建築の非を被ひ建築の美を吹聽して吳れる。賤が伏家と云へばいと詩的であり、俳的であり、牧歌的である。が良く考へて見て吳れ給へ。賤が伏家が詩的になり、俳的になり、牧歌的になる爲めには、その背景に如何に綠がどつさり盛られて居るかを。賤が伏家から綠をとつてこれを町に持つて來ると何んと呼ぶかを知つてますかね。これを人は貧民窟と云ふ。今の建築屋は大學の先生を初めとし賤が伏屋をよう建てないで貧民窟を建てる者ばかりだ。

損にならんから次の事實を牢記して居て吳れ給へ。大阪の北郊である土地會社が山を切り開いて住宅地を造つて賣り出した。所が會社が當初に無理算段して建てた家以外にとんと家を建てゝ吳れる人が殖えない。一方大阪の南郊で或る土地會社が矢張山を開いて土地だけを賣り出した。所が一年半程で二百戶程建つた。そしてまだぐんどん增して居る。近く全部建ち塞がることになつて居る。この一方は大損失であるのに一方は丸儲けときて居る。この盛衰のいわれは頗る簡單だ。前者は山の木を丸坊主にして赤裸の土地を提供した。後者の土地には亭々たる松が數萬株植つて居たのである。

木を植え。木を植え。これが井池の蛙の建築キヤムペーンの一つだ。

談話室が先月から紙上で開かれ非常な好評を受けて居ります。會員の皆樣の談話室です。御暇の時に話を御寄せ願ひます。建築論結構感想結構、協會改革案結構、社會世相感結構ゴンツプ、和歌俳句、漫畫、漫文一切大歡迎いたします。が餘り長いと他の皆樣は迷惑されますから手頃な所でアイスクリームでも飮みながらの氣分のものを御願ひいたします。

（編輯子）

談話室（2）

れた譯なのです。現に滿蒙建國に際しても土木家なり其の方面の學者は着々と研究もし、實地の調査も行はれてゐるにかゝはらず、建築家なり其の學者は誰れが、何れ丈けの研究を進め實地の調査を行つてゐられるだらうか、建築界へのインフレーションは何つの時に？誰れの手を待つの？、少くとも吾々協會員の諸君は一度は考へて貰は無くてはならない大問題ぢや無いだらう？

不易・流行

鷲尾九郎

建築に限つた事ではないが何か變つたもの新しいものが出ると一應は何だ彼だと批評の對象になる。そして大衆的の結論は結局『好き』『嫌ひ』か、さもなくば『解る』『解らぬ』の二つに歸着する。

『解らぬ』といふのは全然無智か、何だか自分達の見透し得ない境地がその奥にあるらしいといふ多少の敬意を懐疑でボカして居るか、或は批評の價値なきものだといふ高踏的侮蔑の針を眞綿に包んだ言葉かである。

『解る』といふのは本當に理解して居るか、ボンヤリながら自分で作り上げた境地に無理に引つ張り込んで居るか、唯、新しいといふ目先の變化にまどはされて無條件に禮讃する言葉かである。

あの男は話せる……と言ふ批評は實はあの男を踏臺にして自分がその上にのしかゝつて來る自家擁護だと言つた人がある。味のある言葉だと思ふ。

そこで芭蕉の言葉を想ふ。千歳不易、一時流行。

これは時の宗匠仲間では隨分喧ましく論議されたものだ相である。ところが

芭蕉の『唐崎の松は花より朧にて』といふ句が當時の月並連中には何としても呑み込めなんだといふ。朧にてのにてが解らぬのである。朧かなら難なく解る。蕪村の句が蕪村以前の者に解らぬのも新傾向の句を舊派の人達が異端の如く見るのも同じ事である。それは流行に眩惑され、そこに謬着し、これが型式化して、不易に盲目になつて居るからである。『解らぬ』といふのは結局謬着し型式化したものゝ内にその天地を求めるからで生命の脈動は不易であるところに立つたら少くも正しい理解の第一歩と言へよう。

建築でも同じ事が言へると思ふ。

猿にも衣裳

井池の蛙

二度びつくりと云ふ言葉がある。

向ふを行くのは素晴しく窈窕たる美人だ。襟足が透き徹る様に美しくて、その上に撫肩と來て居る。腰の邊の豊かな曲線美。それは實に魅力に溢れたものだ。色多い男を惱殺するには文字通り効果百パーセントである。恍惚とばかりに心を奪はれてつい跡を追ふ。春風のなごやかなまにまに、閑雅かに歩く姿を藤の花とはよく云ふたものである。いつしか男の足だから追ひ越す。擦れ違ひさまに何と良い香水の匂ふことよ。オー俺は幸せな男だなと喜んで見る。所が一歩前へ出て振り返つて彼女の顔を覗いたとする。彼は最初彼の女を見付けた時に素敵な美人だとびつくりして今二度目のびつくりをした。豫想にはずれた御面相の持ち主で彼女はあつたのである。まことに氣の毒だが百年の戀が一瞬にして醒め果した様な感じで彼はどやしつけられて仕舞つた。こう云つたフエノメナは勿論皆様既に度々御經驗の筈だ。所がよく考へて御覽うじ。この場合の彼女は決して女中さんの様な風采ではなかつた筈だ。彼女はきつと令嬢風に着飾つて居つたに違ひない。餘りに立派に着飾つて居るのでついその衣裳に自分が俘虜になつてしまつてゐたのだ。衣裳がどれだけ猿を引き立たしめることよ。

猿にも衣裳

この簡單な眞理を解することの出來ない建築屋が隨分どつさり居る。そんじよそこらの建築屋は大方この衣裳の哲學をマスターして居ない。衣裝

談話室 (1)

犬は地震を豫知したか

南　　信

その頃私は一匹の仔犬を飼つて居た。此の先生甚だ愛嬌者で、時々すばらしく非常識な行動をやる。

雨あがりの或る日、庭でかみつく様に吠えて居る。見れば濕つた地面から立ち昇る湯氣に妖怪こざんなれといふしぐさである。

或日は又、ふざけちらしたあげく、仙人掌の鉢をひつくり返して、刺でお尻をつゝつかれたものか、やけくそに倒れた鉢をおどしつけて居た事もある。

此の仔犬が地震を豫知したといふ話。

プライベートの事を申し述べて恐れ入るが、小供の居ない私の家で、動物は家族の一員である權利を持つて居る。此の仔犬も家族の一員らしく、家族と一緒に食卓を圍んで、食物の分前を頂戴しなければ承知しない。

多分城の崎の地震の時であつたかと思ふが、こうした夕食の後の少時を此の仔犬と戲れて居たものである。その時、甚だ尾篭な話であるが、我輩朗らかな一發の瓦斯を爆發させた。仔犬は聞き慣れない爆音に驚異の目を見張つて居たが、やがてその實體を研究して見やうといふ様に我輩のズボンを嗅ぎまはり、その臭氣にへきえきしたものか尻尾を卷いて臆病な流目をしながら室の片隅に小さくなつてしまつた。いかにもやるせなげなその表情の可笑しさに笑ひこけて居ると、時を移さずあの地震である。すつかり度膽を抜かれた吾々は火鉢をかゝへて表へ飛び出すといふ狼狽方であつたが、仔犬も勿論生れて始めて此の異變にぶつつかつて、殆ど腰を抜かした形になつて居る。

思ふに、動物といふものは時として異狀な感覺を持つて居るものである。我輩の瓦斯に恐れをなしてのあの表情か、此の大地震を豫知してのそれか、私は非常な興味と疑惑とを持たせられたのである。

話はそれまでである。が其の後も私は屢々瓦斯を發する。其の度に彼仔犬はその時の驚怖の表情を繰り返す。時としては唇を以て擬音を作る事に依つてさへ、彼は臆病な流目を投げながら、尻尾を股の間に狹んで物蔭に小さくうづくまつてしまふ様になつた。彼は此の爆音によつて臭氣を豫感するのか、それとも地震の恐怖を連想するのか、私は未だ解決を得ないで居る。

それ以來此の犬が惡戲にふけつて、我輩の小言を聞き入れない時は、此の擬音を發する習慣になつた。彼はどんな興味の對稱がある時でも、例へば隣の鷄を追ひまはして居る時でさへも、此の擬音に逢へば苦もなも尻尾を卷いてかしこまつてしまふ。

屁の音が、犬と我輩との間の一つの言葉になつてしまつたのだ。

甚だ尾篭な話で恐れ入ります。

建築界のインフレーションの研究

古塚正治

時節柄我々建築家の方面にもインフレーション政策が必要な問題だと考へてゐる。いつの日、誰れが云つたか忘れて終つたが、大體今迄での日本の建築界一主として設計家や學者を指してゐる一の先輩が方針を誤つた爲めに今日の様うな不況時代に遭遇して、其の深刻さが殊更にひどいのでは無いだろう？。實際今日土木家諸君の仕事として怪まない仕事の領分の内に、實は我々建築家の純然たる領域に屬すべき幾多の仕事の種類が包含され盡され終つてゐる仕末ではない？　都市計劃と云ひ都市の橋梁と云ひ、都市の水道衛生問題と云はず、歩道や道路の計劃も凡てが土木事業と考へる以上に建築的により多くの關係が深い。諸君がやれ藝術家だ、何んだ？彼だ？云つてゐる間に實踐第一主義の土木家の諸君に油揚げをカツ攫らは

本號に限り特價八拾錢

「建築と社會」定價表

毎月1回1日發行

冊數	定價	郵稅
1冊	50錢	2錢
12冊	6圓	24錢

廣告掲載料金

普通	1頁	1回	15.00
普通	½頁	1回	8.00
普通（前附第1頁）	1頁	1回	45.00
普通（前附第2頁）	1頁	1回	40.00
普通（後附第1及最終頁）	1頁	1回	25.00
アート（中揷）	½頁	1回	20.00
表紙2	1頁	1回	60.00
表紙3	1頁	1回	45.00
表紙4	1頁	1回	80.00
建築事務所錄	1欄	1回	1.50
（建築關係業者案內）	1欄	1回	5.00
紹介欄	1欄	1回	0.50

御注文

御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます郵券代用は一割增、代金引換はお斷り致します。

昭和7年5月27日印刷
昭和7年6月1日發行　（第15輯第5號）

發行・編輯印刷人　鷹取陽
兵庫縣武庫郡今津町浦風56番地

印刷所　大阪活版所
大阪市東區內淡路町1丁目7番地

發行所　別團法人 日本建築協會
大阪市西區土佐堀通1ノ1大同ビル
電話土佐堀 4265番
振替口座大阪39975番

特約販賣店　柳々堂書店
大阪市西區京町堀羽子板橋北
電話土佐堀 2440番
振替口座大阪 22084番

禁轉載

本誌に掲載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

編輯後記

▷本號も思ひの外賑やかなものになりました。增大號とせざるを得ない樣になりました。紋章と實用小住宅の懸賞發表を卷頭に飾ることに致します

▷紋章は局限された小天地に不自由な圖案で難かしいものでありましたらうに仲々優秀なものが澤山集つたそうです。何れ當協會の紋章として決定を見る日も近いことでしやう

▷メートル法による實用安價小住宅の懸賞は大成功を納めました。應募圖案實に341通に達し優良なものが澤山ありました。從來の小住宅懸賞中の壓卷でありませう。當協會の趣旨をよく支持して力作を寄せられた應募諸兄に感謝申します。審査は嚴正を極めました。然し選の當落はこれを以て最後と云ひ得ません尙將來の大成を切に期待いたします。當協會としましても應募諸兄の努力を空しく埋沒せしむるに忍びず何等かの方法で、少なくとも水準以上の作品を世上に發表してその勞に酬ゐたい考であります。

▷特輯記事は各れも斯界の大家の卓說を網羅いたしました點で編輯子は自信を有して居りますまだ載せたい記事も澤山ありますが已むを得ず次の機會に割愛しました

▷天沼博士の「岐阜愛知の古建築解說」を本號に續いて戴きました。博士の玉稿も本誌に大分積りまして優に一冊の單行本をなす量に至りました。纏めて世に出せば確かに斯界を利するものであります、機を得て是非同博士に御願して見たいと編輯子は兼々思つて居ります

▷來月號から愈左書橫組に變ります。特輯は新建築研究としまして大阪城、第四師團司令部、綿業會館を詳細に紹介したいと考へます。內容の飛躍、體裁の改進、刮目し來月の本誌を待たれよと言ひたい氣がいたします

▷弟分の建築俱樂部も順調に生育してゐます。第十五週年記念事業も追々と具體化して來ました。

耐火建築には賃貸權が高きが故を以て高率の家屋稅を課せしめて之を敢て顧みないと云ふ現象であり兩者の間は眞に懸隔も甚だしと云はざるを得ない、故に平時に災害を思ふて今の間に家屋稅其の他建築物の諸稅の徵收に就ては大いに反省ありて行政に最も忠實に責任を果すが爲に斷然其の構造に依り多寡を更めて決せらるゝことを希望して止まない次第である。

尙最後に國難一度到るの際如何に我國の都市が外國の都市に比して危險に曝されて居るかを示すならば、アメリカの飛行機の機能が我國に比して非常に惡く技量又頗る拙劣と見て我大阪市を爆撃機の燒夷彈で完全に燒失されるのに敵機十臺と燒夷彈二十玨あれば足りる。

然るにアメリカのニューヨーク市のマンハツタン區のみを爆彈で居住の用に堪へ得ざる迄破壞する爲には實に一萬臺の爆撃機と二萬玨の爆彈とを要するのである。

斯く迄に我國の都市が耐火建築に欠乏して居ることは牢記されねばならない。（了）

本號執筆者紹介

（五十音順）

天沼俊一	工學博士、京都帝國大學教授「岐阜愛知兩縣下に於ける古建築解說」（下）の執筆者
淺野繁	神戸高等工業學校教授、名古屋高工卒業『住宅空地考』の執筆者
岡田孝男	工學士、京大建築學科卒業、三越大阪支店住宅部に在勤せらる『不然質小住宅の新構造法』の執筆者
葛野壯一郎	工學士、東大建築學科卒業、本會住宅委員會委員長、葛野建築事務所主にして『住宅愛』の執筆者
新名種夫	工學士、京大建築學科卒業、大阪市技師にして大阪市建築課に在勤『小住宅の臺所』の執筆者
中村義雄	中村建築事務所主にして『生活最小限度の住宅研究』の執筆者
藤井厚二	工學博士、京都帝國大學教授『メートル法に依る住宅の設計に就いて』の執筆者
松本儀八	京都高等工藝學校卒業、住宅部長として大林組に在勤せらる『週末安息の家の試作』の執筆者
南信	工學士、東大建築學科卒業、ライト氏派建築家として著名、南建築事務所主にして『小住宅問題雜考』の執筆者
渡邊金藏	大阪市建築課に在勤せられ『實用安價小住宅の研究』の執筆者

正誤表

本誌第五月號（第十五輯第五號）の落藤氏御執筆の「市街地建築物施行規則の內構造强度に關する改正條文に就いて」中下記の通正誤す。

29頁下段ポルトランドセメント規格試驗表中
誤　試驗片ハ立方體（斷面積各面二五平方糎）
正　試驗片ハ立方體（斷面積各面五〇平方糎）

34頁下段四行目第百十三條ノ三は第百十二條ノ三の誤

37頁上段終より四行目第百十三條ノ三は第百十二條ノ三の誤

41頁上段終より八行目第九十四條（鐵筋コンクリートの假構規定）は第九十三條の誤

轉居先不明者御尋ね

下記の協會員の住所或は勤務先御存じの方は事務所へ御一報下さる樣御願いたします。

會員（地方在住）	福永　收三君
同	錦織喜代治君
同	朝香　茂君
普通賛助員	小西松太郎君

hard sound bricks, stone, or other hard and incombustible materials

尙又同 Building Rule Rules with respect to New Chinese Buildings の十六條に依ると

In every row of buildings a fire wall shall be built at least every 60 feet, and in the case of corner lots this distance shall be not more than 75 feet measured round the corner

之等の Municipal Council の Building Rules は施行されて既に十數年爾後總ての建築物は此の規定の適用を受けて構造されて來て居るのであつて耐火構造は既に上海の習慣である、依て租界外に於ても此の習慣に依つて建築され我々が新聞紙等の寫眞で見る如き閘北が出來上つたのである、此の Building Rules こそ彼の國を非常に有利な地位に立たしめた最も大きな原因をなすものであつた。

飜つて我國の市街地建築物法を見る

我國の法規にも耐火措置に關する規定及防火地區に關する規定が備つて居る、よしんば其の耐火措置は甚だ微溫的であり防火地區は文字通り僅額の地であるにしても規定としては一應形だけは兎も角出來て居る

然るに實際出來上る建物を見ると耐火建築は量に於て質に於て上海との間に餘りに逕庭の甚だしいのに驚く

之は全く社會一般が耐火建築に對する認識を欠除せる爲であつて各自の建築物を耐火的に構造せしむる事に就て無關心なる者が通常である爲であつて之に對しては勉めて耐火思想の發揚を要するものと考へらるゝのである、而も此の方法に關しては之を種々擧げ得られるのであるが行政當局に於てはあらゆる機會を利し指導鞭韃せらるべきであると考へられる

然るに現在の行政一般に於て此の耐火建築の思想を發揚せしむるに支障を起さしむるが如き場合尠しとせない

其の最も甚だしい一例は建築物に賦課する諸稅の徵收に際し耐火建築を全く虐待される一事である

最近家屋稅は賃貸價格を標準として賦課される事になり賃貸料の高低に應じ稅率を高低せしめるものであつて一見頗る公平なるが如きである、併し乍ら之を耐火建築の側より見れば特に木造の場合よりも多額の建築費を支出し居るを以て採算上木造よりも高い賃貸料を要することになるものであつて決して木造の場合よりも暴利を貪るものではない、故に賃貸料が高いが故に耐火建築は現在では高率の稅金を徵收されて居るが夫れは全く無意義なることである

同一の建築費で出來上つた建物であつて一方が他方より高い賃貸料を取る場合は當然高い家屋稅を支拂ふべきであるが、基礎となる建築費が既に相違する場合には其の相違する建築費を無視して賃貸料のみで稅率を決定することは無謀も甚だしと云はざるを得ない

都市の災害の程度が輕微であつた時分は未だ建築物の構造に就ては左程考慮を要しないのであるが今日の如く震災火災、特に國防に就て深甚の考慮を要する場合には建築物の構造如何は重大問題である、故に前の時代にあつては高額の支出をして耐火建築をなしたものには一種の資本稅乃至贅澤稅として高率を課する事が出來ても今日では耐火建築は最も奬勵せらるべきであつて、安價であり一般的ではあるが木造建築は危險なるが故に最も排斥せらるべきであるが故に都市行政の立場よりして最早耐火建築を贅澤視するが如き思想を根本より排擊する事を要し木造建築をこそ危險視し其の絕滅を期すべきである

以上の如き意味に於て現行の如き家屋稅徵收には至急考慮を必要とし耐火建築には奬勵の爲に大減稅を、木造には高率の禁止稅を課し都市災害に備ふることは爲政者として最も必要なる手段とせられねばならない。

曩に關東大震火災に際し帝都並に横濱を耐火的に復興せしむる爲に政府は民間の建築に對し延坪當りに就て金五十圓宛補助をなすことに決し總計金二千萬圓の豫算を準備し目下尙之を支出中である。

其の外政府は建築助成會社を興さしめ夫れに耐火建築を建てることを奬めしめる等種々手を盡す所があつた。

斯くの如く災害地には俄かに色々對策を講じ居るが其の都市に關しては大災害を起す迄は全く無關心であるかの如くである、而も夫れのみならず

規を以てその內氣の機械的換氣若くは他の衛生設備を取締ることは理想論であり、到底行はれ得ないものであるが公衆用建築物中劇場、映畵館、一定定員以上の集會堂、百貨店及び地階に居室を有し規定の換氣窓を有せざる場合更に將來を考慮する時は地下街地下商店等は今少し完備せる法規により且つ有効に取締る必要あるものと考へられる

如何なる規定により取締るか、市街地建築物法に於ては施行規則第二十條の但書即但し之に代るべき適當なる換氣裝置ある時はこの限にあらず、この適當なる換氣裝置につきて各地方につきて適當なる規定をその細則中に具體的に明示されなければ効果を擧げ得ない、即ちその建築物の用途その他につきて每時間の換氣量及び炭酸瓦斯恕限量を規定し、これを有効に保持すべく、シカゴ市のごとく定期試驗の制も望ましきものである。

劇場、映畵館、百貨店等につきては、市街地建築物法第十四條、特殊建築物につきては現在耐火構造規則のみなる場合、今にわかにこれ等に衛生設備の規則を規定するが困難であるならば少くも興業場取締規則、劇場取締規則等の地方令によつて現在取締なきものは新たに取締を設け、不完全なるものは更に具體的にかつ有効に取締方法を講ずべきである。

警視廳の興業場及び興業取締規則による換氣煖房に關する取締効果如何は今之を知り得ないが大阪府劇場取締及び觀物場並遊覽所取締規則の如き原始的なる取締にては到底實績を擧げることは不可能であり、之等は當然警視廳のそれ或はそれ以上に具體的に即ち換氣量、炭酸瓦斯蓄積恕限量を明示し一定定員を有するものにつきては溫濕度につきても取締り、かつ之を有効に保持せしめる様に改正すべきである。

我が市街地建築物法においては施行規則において換氣窓は室面積の二十分の一とし天井高は七尺とし數字を以て規定している。充分に効果をあげんとすれば我が國のごとく、適當なる換氣設備單なる煖房裝置をなすべしのみにて數字を以て標準を示さぬ時は効果は疑はしく、この點はシカゴ市ニューヨーク市その他の如く適當に標準を示すことを要するものである。

今回の試驗は尙充分にあらずこれ等の結果をもつて總てを律することが輕率であり、諸外國のこれに關する法規も充分多方面にわたりて調査せるものにあらず不滿足なるものであるが我が國に於ても大都市に於ては鐵筋コンクリート造建築が多く行はれる様になり地下一階は勿論、地下二階三階まで使用さるゝ狀態にあり更に地下鐵道開通と同時に地下街、地下商店　の待望も漸く盛なるものがあり、これ等は適當なる衛生設備の條件を具備せしめて初めて可能ならしむべきは當然の趨勢であり、この具體的標準及びこれに關する法規の如きは只に衛生問題、建築問題に關するのみならず一般都市問題關係者の當然關心をもつべき問題でありこれに關しては各方面より問題を呈せら內氣汚染措置の改善に資せらるゝこと希望するものである。

以上

耐火構造家屋の諸稅率に關する意見

這般の上海事件に際し我陸戰隊が市街戰に於て想像された行動を充分とれなかつた事に就ては色々の原因を數へられる事が出來るのであらうが其中一般には全く氣付かれずして而も特に刮目されねばならない原因は彼の地の建物が煉瓦造以上の耐火建築であつたことである。

いくら砲擊しても、火災を起さしめても煉瓦造の殘骸が何時迄も敵の要壘となり我軍の砲擊のバリケードとなつたのである。

彼の地の建築物が耐火的に構造されて居た事は防禦する彼にとつては眞に幸をなし我軍に於ては眞に邪魔物であつた事を知るのである。

何が斯の如く上海に耐火建築を櫛比せしめたかに就ては次の如き事實を知らねばならない、即

Shanghai Municipal Council の Building Rules の中 Rules with respect to New Foreign Building の the 1st schedule に依ると

Every new building, unless otherwise sanctioned in accordance with these rules, shall be enclosed with walls constructed of good

集會場、展覽會場等）第4c種（映畫舘寄席等）第4p種（競馬場、野球場、競技場及スタンド等）及第5種（劇場）建築物にして今後建築せらるゝものに於て觀覽席として使用せらるゝ如何なる室及び第8種（學校）建築物に於て今後建築せらるゝものに於ける教室又は集會室として使用せらるゝ如何なる室の空氣と雖、かゝるオーデイトリアム、教室、及び集會室の定員一人につき毎時間少くとも1500立方呎を換氣することを要す。

b. 今後建築せらるゝ第7種 百貨店）建築物に於て公衆用床面に於ては空氣は次の如き割合にて供給することを要す。

地階に於ては毎一時間毎一人につき　2000立方呎

第一階～第三階　同　同　1500立方呎

第四階以上同　同　同　1300立方呎

c. 第7種建築物の換氣計算につき床面上の人員決定のため次の規準をおく。

地階に於ては壁體、階段、エレベーターを除きて　各人につき　20平方呎

第一階～第二階同　同　50平方呎

第三階　同　同　60平方呎

第四階以上　同　同　80平方呎

d. 食料品の百貨店及び料理店に於ては壁體階段、エレベーターを除きて各人につき40平方呎とす

e. オーデイトリアム、教室、集會室又は第7種建築物にして公衆床面に於ては10 00分中の空氣に於て10分の酸化炭素を超過せしむべからず、この測定は床面上2呎半より8呎までの個所に於て行はるゝ、かゝる室の溫度は人工的に煖房されたる時に68度Fを超過せしむべからず、濕度は55度未滿又は80度を超過せしむべからず。

f. 号に於ては第4種、第5種、建築物中1916年3月13日前に建築されたものは以上の規定より多少緩なる規定によらしむる様變更を命じ、炭酸瓦斯量$\frac{1.2}{1000}$まで認めている。

中略

k. 工場又は作業場として建築せられ又は用途を變更せられる建築物に於ては、後に除外するものの外は、就業人員一人につき毎時間少くも1500立方呎の空氣を換氣をなさしむべし

m. 工場又は作業場として今後建築せられ、又は用途變更せられたる建築物に於ては後に除外するものの他は空氣中にある炭酸瓦斯量は前者1000分中後者10分を超過せしむべからず

o. 前條の規定は貯藏庫、製作過程が障害をうくる個處又は製作過程が炭酸瓦斯の多量を發生せしむる場合には適用せず

但しかゝる室の空氣が居室者の健康に有害とせられたる場合この限にあらず

更に定期檢査料罰金制度を規定している即ち

第933條c　定期檢査料

公衆及び准公衆用建築に於ける機械的換氣設備の定期（各年）檢査は設備が適當に作用するか否やを試驗すべく、建築監督官により施行せらる

各年檢査の檢査料は毎分處理される空氣1000立方呎又はその端數毎に50セントとす

かゝる檢査料は毎年三月一日迄に市の金庫に豫め納入すべし

第933條d　罰金

本節の各規定を犯し又は一致せざる個人、團體は各違犯につき5弗以上200弗以下の罰金に處せらるべし

かゝる違犯の繼續される各日は獨立せる違犯と看做さる

以上シカゴ市の如きは最も詳細に規定せるものであるが之れも建築法規中に加へられたるは當初のことではなくその節は第24—A節換氣となし、この條項のごときも第933a條のごとく第二十四節第993條に附加して挿入せられたるものなるを知ることが出來る、建築物法施行中必要を認めて加へられたるものである。

最後に我が國に於ては如何に處置するか、勿論氣候風土も歐米とは異り、經濟狀態その他種々事情を考慮する時は外國の例をそのまゝ適用することは出來ないのは勿論であるが法規によらんとする時先づ如何なる建築物に適用せしむるか住居建築物特に將來を豫想する時はテネメントハウスを考慮することは有意義ではあるが此處には公衆用建築物につきてのみ考察すれば既に各方面に於て行はれたる試驗の結果によるもすべての公衆用建築物は或る時期特に冬期に於ては炭酸瓦斯は恕限量を超過することあり夏日に於ては濕度溫度が適當ならざるは事實であるが、これ等のすべてを法

第九號、客席には天井を設くべし且つその高さは二階以上にありては床上端より廻緣下端まで七尺以上とし平屋建にありては床上端より廻緣下端まで十二尺以上とす但し平屋建にありては客席の中央上部に於て梁間尺度の五分の一以上を有する二重屋根の空氣抜窓を設くべし

第十一號、棧敷の後方及び通路の外側は床上端より高さ內法五尺七寸以上を總掃除となし鴨居上は高さ八寸以上の空氣抜窓を設くべし、後略

大阪府觀物場及遊覽取締規則につきて見る時は

第二十條の二の中

第五號「フイルム」の映寫--時間以內毎に五分以上の休憩時間を置き其の間に換氣、採光をなすこと

等何れも原始的なる規定あるのみである。

病院につきては警視廳に於ては病院産院取締規則につきて見るに

第十條、病院又は産院の構造設備は左の制限によるべし

但し建物の構造又は土地の狀況により之を斟酌することあるべし

第十号、診療に必要なる施設及採光換氣、その他衛生上適當なる設備をなすこと

以上の如き取締により警視廳管內興業場內の內氣の實狀はとにかく、大阪府に於て實績の上らざるは當然の結果である。

この空氣汚染を如何に處置すべきか、これを法規によるとせば如何なる方法によりて規定するやこれにつきて考察する前に更に外國の關係法規を見れば、これは、一般住宅及びテネヤントハウス等にも及ぶべきであるが此處に於ては今回の實驗も主として公衆用建築物に限られたのであり、公衆用建物に對する法規調査であるが、然かも之れに對しては伊東恒治氏の「建築衛生設備に關する法規に就いて」(昭和七年二月、三月建築學研究)によるも主として詳細に規定してあるのは米國である。歐洲諸國では未だ規定が備へられない狀態である。

こゝに米國の中に於て代表的のものとして、シカゴ市及びニユーヨーク市の換氣設備に關する法規をその建築法規中より摘譯し考察の對照とする

先づニユーヨーク市では Building Code of the City of New York 中の Article 7. Light ahd Ventilation の節に規定されてあるが、これは1916年3月14日より施行せられたものであり

第130條の Rooms in residence Building は居室の最小限を規定してある以外は我が國のと大差なく省略し

事務所建築以下を見る時は

第131條、Business Building (事務所建築)

本節に於て別段の定めあるものを除きては今後建築される總ての事務所建築の各室は勞働法によつて特に規定されたる室を除くの外は道路廣場又は本節の規定に一致するが如き裏庭に直接に開放され得る窓により換氣さるゝにあらざれば外氣に直接換氣さるゝ室へ欄間窓又は他の類似の方法によるか又は內氣中の炭酸瓦斯量が$\frac{1}{1000}$未滿たるべき方法よりなる適當なる換氣方法を設備することを要す

但し本規定は酒類釀造場、充電室又は炭酸瓦斯の多量が該室の用途上必要不可缺の隨伴物たるが如き室又は全然倉庫に使用さるゝ室は此の限りにあらず

尙本條規定は各居住者につき有効氣積500立方呎を超過する室には適用せず

第132條、公衆用建築物(Pnblic Building)の各室

本節及び他の法令によりて別段の規定あるものを除きては今後建築さるゝ總ての公衆用建築物の各室は積極的換氣の適當なる設備にして使用中は床面積の每平方呎につき每分新鮮にして汚染せられざる空氣の二立方呎を供給するが如きものを設備することを要す、但しかゝる室の有効體積が每居住者につき1000立方呎を超へたるが如く且つ道路廣場又は規定の裏庭に直接面して窓を有するが如き場合はこの限りにあらず

以上に見るごとく大凡供給空氣量を規定し更に炭酸瓦斯量$\frac{1}{1000}$以下を標準としていることを知る。

更にシカゴ市につきて見るに

Building Ordinances of the City of Chicago の換氣の節に

第933a條、建築物內の換氣

第4b種(ダンスホール、宴會場、スケートリンク

なく窓開放をなす場合は、炭酸瓦斯蓄積量は恕限量を超過せざらしむるを得るも、煖房裝置あり換氣裝置なき場合又は不充分なる場合には炭酸瓦斯恕限量を超過する場合は各用途の公衆建築物に實例あり、特に劇場、映畵舘の如きは適當なる設備不完備の時は冬期は炭酸瓦斯恕限量超過夏日は溫濕度超過し遺憾とする狀態なり。

然して次に此等の建築物內氣の汚染を取締るべき現行法規の如何を見る時は

先づ我が國に於て市街地建築物法につきて見る時は

一般建築物につきては法第十二條、主務大臣は建築物の構造設備又は敷地に關し衛生上又は保安上必要なる規定を設くることを得。

特殊建築物につきては

法第十四條、主務大臣は、學校、集會場、劇場、旅舘、工場、倉庫、病院、市場、屠場、火葬場其の他命令を以て指定する特種建築物の位置構造、設備又は敷地に關し必要なる規定を設くることを得。

何れによるも構造設備に關して衛生上必要なる規定を設け得るものであるが、現在では一般建築物の屋內空氣に關しては法第十二條によつて施行規則第十九條に採光の規定及び第二十條に於て

居室に於ては直接外氣に面して室面積の二十分の一以上に相當する面積を開放し得べからしむべし但し之に代るべき適當なる換氣裝置ある時はこの限りにあらず。

とあるのみで特殊建築物にては耐火構造規則あるのみにて衛生設備に關しては何等の規定をみない狀態である。

採光換氣に關しては以上の如く規則第十九條、第二十條のみであるが但書の適當なる換氣設備の云々に關しては警視廳及び各地方廳に於て細則を以つて具體的に規定せるものは未だなく只警視廳に於ては內規として一時間三回の換氣設備と定めている樣に聞くのみである。

映畵舘、百貨店等二十條による換氣窓を有しかつ之を有効に保持しつゝ前述の如き衛生上憂慮すべき結果を現實に發見し得るにあつても規定の餘りに劃一的にして不充分なるを知ることが出來るのである。

次に市街地建築物法以外の特殊建築物に關する地方取締規則につきて見るに一般興業場に關しては警視廳に於ては興業場及興業取締規則中

第二十三條、地階を設くる時は適當に濕防設備を施し且つ換氣設備をなすべし但しその用途により支障なしと認むる時はこの限りにあらず

第三十二條、前略觀定員1500人以上の劇場なる時は中略舞臺上部には自働的開放裝置を有する換氣口、其の他適當なる換氣設備をなすべし

第四十二條、客席には換氣筒又は機械的換氣裝置を設くべし但しその構造又は規模により支障なしと認むる時は此の限りにあらず

第四十三條、觀客定員1500人以上の劇場は適當なる煖房裝置を爲すべし

大阪府の劇場取締規則につきてみる時は

第十五條構造制限の中

六、某　座（木造）　試驗期日　昭和7年3月14日

階別	室名	人員	氣容	試驗時間	溫度(C)	濕度(%)	炭酸瓦斯(‰)	備考
			立方米	午後 時分				
1階	正面前方	700	1390	4.00	14.0	65	0.942	人員は推定觀客全部のものなり氣容は全體なり
〃	右特等席	〃	〃	3.50	〃	〃	0.791	
〃	左特等席	〃	〃	4.15	〃	〃	1.017	
〃	正面後方	〃	〃	4.30	—	—	1.098	
2階	一等席中央	〃	〃	3.30	16.0	57	1.568	
〃	一等席右方	〃	〃	3.35	〃	〃	0.764	

七、某小學校　試驗期日　昭和7年3月15日

階別	室名	人員	氣容	試驗時間	溫度(C)	濕度(%)	炭酸瓦斯(‰)	備考
			立方米	午後 時分				
1階	理科室	60	400	2.15	10.0	54	0.470	凡て授業終了の頃檢體を採集す
〃	職員室	15	360	1.50	14.5	51	0.533	
〃	六年女竹組	41	250	1.10	10.0	54	0.476	
〃	6年男梅組	47	250	1.15	10.0	51	0.497	
2階	3年女竹組	59	230	1.20	9.9	52	0.719	
〃	4年女松組	44	250	1.23	10.0	54	0.589	
3階	2年男松組	46	230	1.35	10.8	48	0.467	
〃	裁縫室	41	330	1.30	11.2	49	0.627	

以上

試驗は何れも、ウイークデイ、にして特に混雜せる場合にあらず、時間も一時半より三時までの限られたる範圍に偏したるうらみありたり。

この結果に見るも映畵館等に於ては炭酸瓦斯量の恕限量を超過することは殆んど確定せる事實である(五)の某座の如く、不完全ながら換氣裝置のあるものに於ても亦恕限量を超過す、百貨店にては、比較的閑散なる時は恕限量以下なるも容の混雜時には恕限量を超過することを知る兩百貨店の中後者は曾つて衛生試驗所にて大正15年末試驗せるものにてその結果は既出のごとく冬期の恕限量超過を豫想せるものであつたが今回の試驗によれば超過せるは一ケ所に過ぎざりしは該百貨店が新館增築と同時に換氣設備に改善を加へたるによると比較的閑散時なりしためと思はる。

事務所、學校は今回の試驗にては少くも炭酸瓦斯量にては恕限量を超過せるものなく成績良好なりしが兩ビルデイング中後者は最新のエヤコンデイショニング裝置を設備せるものなるが後者に於ては事務室よりも廊下に於て炭酸瓦斯量多きに比して前者にては廊下よりも事務室內の方蓄積量多きは後者が汚染空氣を廊下に導き排氣する裝置を有するがためならん。

溫度、濕度につきては、百貨店、事務所に於ては溫度に比して濕度不足す只(4)の某ビルデイングは溫度他より高く溫度、濕度の關係可なるが如し。

映畵館に於ては、煖房裝置ある(五)の某座は一階に於て可なれども三階において溫度やゝ低し煖房裝置なき(六)の某座に於ては溫度不足す、某小學校に於ても溫度は甚しく不足す。

之を要するに冬期に於ても煖房裝置

三、某ビルデイング 試驗期日 昭和7年3月9日

階別	室名	人員	氣容	試驗時間	溫度(C)	濕度(%)	炭酸瓦斯(%)	備考
			立方米	午後 時分				
地階	食堂	30	1000	2.55	18.2	43	0.487	
1階	カフエー	20	700	2.40	—	—	0.556	
1階	入口廊下	20	—	3.05	15.0	44	0.573	
3階	廊下	—	—	2.25	17.5	43	0.303	
4階	〃	—	—	2.20	18.0	41	0.514	
6階	事務室	20	330	2.10	—	—	0.831	
6階	廊下	—	—	2.00	19.0	39	0.686	
7階	ホテル控室	4	250	1.35	18.0	41	0.469	
7階	ホテル寢室	空室	160	1.45	—	—	0.365	
8階	廊下	—	—	1.50	18.2	41	0.508	
9階	娛樂部休憩室	20	600	1.30	18.0	50	0.538	

四、某ビルデイング 試驗期日 昭和7年3月10日

階別	室名	人員	氣容	試驗時間	溫度(C)	濕度(%)	炭酸瓦斯(%)	備考
			立方米	午後 時分				
地下階	機械室	10	9092	3.00	22.4	46	0.713	
〃上	食堂	40	7850	2.55	21.5	44	0.866	
1階	入口	50	2900	2.50	21.2	43	0.552	溫濕度は食堂前のもの
2階	賣場	70	18465	2.30	22.0	42	0.654	
4階	空室	—	1353	2.20	20.0	43	0.513	
5階	休憩所	60	4974	2.15	21.0	40	0.638	
7階	內廊下	—	—	2.00	21.0	47	0.735	
8階	廊下	—	—	1.50	20.0	52	0.923	
9階	事務室	2	3315	1.45	—	—	0.648	
10階	食堂	50	6540	2.35	19.0	57	0.625	
10階	食堂廊間	8	1434	3.05	—	—	0.653	

五、某　座 試驗期日 昭和7年3月11日

階別	室名	人員	氣容	試驗時間	溫度(C)	濕度(%)	炭酸瓦斯(%)	備考
			立方米	午後 時分				
1階	後方	700	5500	3.00	—	—	0.844	
〃	中央	—	〃	3.05	19.8	55	1.229	
〃	後方	—	〃	4.00	—	—	0.954	
〃	中央	—	〃	4.10	—	—	1.081	
2階	右方	150	〃	2.30	18.0	67	0.815	
〃	左方	—	〃	2.35	18.2	65	1.496	
3階	右方	200	〃	1.50	16.0	69	1.157	
〃	中央	—	〃	1.55	17.0	79	1.137	
〃	左方	—	〃	2.00	16.8	65	1.390	

4. 細菌類結果引用省略

2. 大阪市內某廳舍地下室食堂

大正15年12月より昭和2年1月の間の試驗

食堂(入口は開放して他は窓全部閉鎖)の炭酸瓦斯蓄積量

閑散時(午前九時) 平均 0.508%

滿員時(午後一時) 〃 1.189%

賄室(排氣裝置あり)の同上

	午前十時	午後二時	午後三時
排氣裝置不回轉	0.750‰	1.173‰	——
同上を十一時より二時まで運轉	0.791‰	0.769‰	1.009‰

食堂賄室の溫濕度

	乾球溫度	濕球溫度	比濕	
食堂平均	20.0F	59F	52%	好適
賄室平均	28.4F	75F	64%	好適範圍外

3. 大阪市內小學校

冬期煖房裝置なき木造及鐵筋コンクリート造教室に於て授業45分間の炭酸瓦斯及び溫濕度上昇を測定

結論 14教室に就き5〜10回施行せる實驗成績を平均するに授業45分後に於ける該教室の內氣中の炭酸瓦斯量は1‰超過、木造教室にては最大2.9‰平均1.4‰鐵筋コンクリート教室にては最大2.7‰平均1.4‰なり、今炭酸瓦斯恕限量を1‰として一人當所要空氣氣積を算出しこの値を實驗値と比較するに供試教室は何れも收容兒童過密の狀態にあるを知る、而して小學校教室に於ける兒童一人當りの氣積は各學年に應じて大體此の如く定むるを事とす(但し毎時換氣三回內外としたる場合)

即ち

1.2年 教室 5立方米

3.4年 〃 6立方米

5.6年 〃 7立方米 とす。

授業45分間の濕度上昇は木造教室にあつては平均 3.0 度、鐵筋コンクリート造教室にあつては 2.0度、濕度上昇は木造教室にては平均 8%、鐵筋コンクリート造教室にては7%

尙報告されたるものに

某紡績工場

打綿工場	炭酸瓦斯蓄積量	0.50‰
梳綿工場	〃	1.02‰
混綿工場	〃	0.99‰
織機工場	〃	1.29‰

帝國議會(第五十議會)

議場(最高)	炭酸瓦斯蓄積量	1.30‰
傍聽席	〃	1.36‰

東京市內に於ける劇場

總て 1‰ 超過、最高 3.77‰

その他國民衛生誌上には多くの結果を見るを得れども以上にとゞめ次に本協會が大阪市衛生試驗所に依頼し委員立會調査せし結果は次の如きものである;

一、某百貨店 試驗期日 昭和7年3月9日

階別	室名	人員	氣容	試驗時間	溫度(℃)	濕度(%)	炭酸瓦斯(‰)	備考
			立方米	午後 時分				
8階	食堂	300	6550	1.30	18.0	42	0.766	
7階	〃	300	6440	1.35	18.0	43	0.818	
6階	賣場	200	6400	1.45	18.5	49	0.537	
5階	〃	200	6400	1.55	19.5	50	0.786	
4階	〃	150	6400	2.05	18.5	44	0.506	
3階	〃	200	6210	2.15	18.5	44	0.848	
2階	〃	300	5050	2.20	18.5	47	1.087	玩具賣場、客の混雜甚だし
1階	ホール	300	12800	2.30	16.0	40	0.460	
地階	賣場	250	6400	2.35	16.5	41	0.510	

二、某百貨店 試驗期日 昭和4年3月10日

階別	室名	人員	氣容	試驗時間	溫度(℃)	濕度(%)	炭酸瓦斯(‰)	備考
			立方米	午後 時分				
地階	買上品渡場	70	1440	3.20	16.5	38	0.433	
1階	舊館賣場	—	10000	3.10	15.5	41	0.479	
2階	〃	—	6800	3.05	20.0	46	0.463	
3階	〃	—	6800	2.50	20.0	52	0.828	催物のため客混雜す
4階	新館賣場	—	2580	2.40	19.0	52	0.559	
5階	舊館賣場	—	9800	2.25	18.5	52	0.752	運動具、既製品、洋服の賣場
6階	〃	—	2940	2.10	18.0	51	0.577	
7階	新館食堂	230	1560	2.00	17.0	41	1.018	
屋上	遊戲場	—	—	1.45	—	—	0.391	

本稿は全國都市問題會議第三回總會に際し會議の議題「都市の汚物處理並に汚染防止に就て」並に「市町村民の負擔並に市町村の稅制問題」に對し日本建築協會より提出せる意見書である

都市建築物內空氣の汚染狀態及び其の措置に關する制度に就きて

都市に於ける空氣汚染は通常所謂外氣汚染を謂ひ、煤煙、自動車よりの排氣等の防止が考察せられるのであるが現代都市の構成を考うる時はその重要なる部分を占むる建築物內の空氣の汚染は外氣のそれと同樣に考察せらるべきものであり、殊に現代生活の主要部分は建築物內又は交通機關內の生活であり、この傾向が益々不可避的に助長されんとする時に於ては、內氣の汚染問題は都市汚染問題上の重要なる一部分を占むるものと言はねばならない。

大阪市の如き外氣の良好ならずとされたる都市に於てすら、問題にすべきは寧ろ建築物特に鐵コンクリート造公衆用建築物內の空氣の一層不良なる狀態であるとは阪大の梶原助敎授も歸朝後主唱せられたるところであり（昭和七年一月大阪朝日紙上に於ける氏の小論）、日本建築協會法制委員會に於ても大阪市に於ける主なる公衆用建築物內氣の汚染狀態を調査し之れと過去における各方面の調査の結果を合せ考へ、更に之が汚染の措置に關する制度を考察すべく、內外の關係法規の調査を試みたるものである。

先づ內氣汚染狀態を試驗するに當つて如何なる事項につきてなすべきかは問題であるが現在では炭酸瓦斯蓄積量、溫濕度及冷却率を測定するのが衛生上の見地より妥當とされている、この中、炭酸瓦斯量は直接にして有害とするペツテンコーフエルの說は現在は信じられていない樣であるが居住者の呼氣、濕氣、喫煙、燃料の燃燒又は飛塵、細菌によつて室內空氣は絕へず汚染せられその汚染程度は炭酸瓦斯の蓄積量によつて代表せしめて判定する指針とされている、普通空氣中には 0.3‰～0.4‰ 含んでいるものを室內にては、1‰ 以上は衛生上不良とされている、よつてこれを測定すれば細菌數塵埃量の測定は必ずしも必要とされていない、溫濕度及冷却率につきてはヘルマンの學說によるフリユツケの實驗以來唱へられたる最近の學說により居住者の不快感、能率の減退又は病的症狀の原因として最も重要なる因子は空氣の化學的性狀の變化よりもむしろ溫濕度の變化に重きを置くべきものとし、好適溫濕度は大體溫度18度C、64度F、濕度65%とされている、冷却率は、レオナルド・ヒルにより考案せられたる、カタ寒暖計により測定されるものにして、冷却率 H＝4.25 前後を居住者の快感域內とされている。

今回の試驗に於ては、これ等の中で冷却率の測定は種々の事情により中止し、炭酸瓦斯蓄積量及び溫度濕溫の測定のみに止めたのである、その結果を得る前に過去の內氣汚染の試驗結果を大阪市衛生試驗所の報告書その他より三、四の個所を參照すれば、

1. **大阪市內某百貨店**（鐵筋コンクリート六階建）

1. 炭酸瓦斯蓄積量

大正15年8月平均 0.79‰ 午後8時六階に於て 1.145‰ 他は忽限量以下試驗は盛夏中なりしため周圍の窓を開放し且つ各階共送風裝置により淸淨空氣を送り地下室は窓を存せざる故特に排氣換氣裝置を設けある故に上の成績を得たるも各季四圍の窓を常に閉鎖し淸淨空氣の輸送をも行はざる時は尙多量の蓄積を見ることは想像し得らるると、

2. 溫濕度平均　乾球溫度　濕球溫度　比濕
87度　82度　78%
（比濕は地階に於ては88%）

3. 塵埃量（結果引用省略）

5月16日到着

5月11日奉天にて　森本藤吉

拜啓此度は永らく欠席いたします事を御斷り申上ます只今奉天に參り居ります一寸繪ハガキを一枚失礼致します

會員動靜

入會者

會員

中尾愛三郎君　東區味原町99(大林組)

下阪　重福君　港區東田中町4ノ94ノ1（關西石材株式會社）

神足　繁雄君　東成區大今里町637（大阪府警察部建築課）

出崎　四郎君　神戸市加納町3ノ70(小笠原建築事務所)

柳原　義平君　東淀川區元今里南通3(竹中工務店)

同(地方在住)

笠井駒之助君　和歌山市湊292(竹本建築事務所)

特別賛助員

河合　好吉君　北區絹笠町大江ビル野澤商店内

藤井　盈次君　東淀川區中津南通4ノ4(藤井盈次製作所)

原田　熙君　府下千里山桃園町413(南滿鑛業株式會社大阪出張所)

高坂信次郎君　北區南森町29天滿ビル日刊工業タイムス

普通賛助員

井川忠三郎君　東成區北清水町994(間組大阪支店)

川村　雅彦君　北區中之島5ノ30佐藤合名會社内

荒武　磐君　北區澤上江町3ノ41尾方下(大阪商工學校)

小早川美武君　西成區玉出本通1ノ53(龜井商店)

田中　績君　堺市大濱北町1(大阪窒業セメント株式會社兼大阪窒業株式會社)

藤生　阪藏君　港區南八幡屋町1ノ167ノ1(高尾銅器合名會社)

原田　千歳君　住吉區昭昭町中2ノ8(東洋建材時報社)

桃井　正之君　西宮市千歳町35松司電氣商會内

門谷　修君　北區紅梅町114(株式會社大林組)

八百　登三君　住吉區松崎町2(龜井商店)

松本　正香君　北區中ノ島5花屋松本シナ方(日刊工業新聞社)

依田　勇夫君　此花區大開町2ノ36

筒井　秀雄君　港區南安治川通2ノ17

山崎　英一君　港區池島町2ノ92福持方(鴻池組)

山邊　政吉君　久留米市東櫛原町宮ノ脇(昭和興業株式會社建築部)

西村　正一君　東淀川區中津南通3ノ35

川床　靜雄君　住吉區松田町2ノ18

長澤喜代造君　北區南同心町1ノ19(鴻池組)

荒川　利一君　西成區粉濱仲之町2ノ12（本間建築相談所）

菅谷　六郎君　兵庫縣川邊郡立花村塚口（東洋リノリューム株式會社）

末廣小太郎君　港區八幡屋元町1ノ279（扇屋製作所營業部自營）

桑原　俊作君　西區京町堀通1明治ビル3階（桑原商事合資會社）

形山　義喜君　此花區酉島町36(鴻池組)

退會者

會員　伊藤正文君

普通賛助員　佐藤恒君、牧元淳男君

轉勤轉居

會員

高橋　榮治君　市内住吉區阿部野筋2ノ70

工藤榮治郎君　府下豐能郡池田町字建石町2011

東畑　謙三君　兵庫縣御影町郡家　岩井方

津田　敏雄君　兵庫縣武庫郡精道村芦屋字開森173

川上　要君　府下泉北郡高石町羽衣

戸松　茂君　市外小阪町中小阪462

田土　春一君　神戸市葺合區北本町通3ノ25

古林　秀雄君　府下豐能郡豐中町櫻塚9

中澤誠一郎君　大阪府警察部建築課長

同(地方在住)

長瀬　幸一君　臺北市大正町1ノ4

古川　豐君　久留米市津福本町501

井上　新二君　愛知縣警察部建築課長

特別賛助員

城口　龜吉君　東京市神田區千代田町18

刀禰　英彦君　東區北濱4ノ14　佳住屋商店

山内　洋磨君　神戸市灘區德井大和町159

普通賛助員

近藤　正夫君　朝鮮忠清南道大田邑春日町3ノ35

岡本豐次郎君　此花區春日出町199ノ2日本染料製造株式會社增築清水組作業所

高橋　茂君　神戸市灘區八幡了造7

井上彌太郎君　福井市外志比口荒橋　小林辰藏方

樋渡　純良君　宮崎市別府町宮崎縣廳舍新築場大林組出張所

前田佐太郎君　府下三島郡吹田町3227

安田　正治君　京都府何鹿郡綾部町本町7

奥野　敏男君　朝鮮大邱府中央通　掛塚建築設計事務所

小川　光一君　此花區上福島北2ノ38

1 午前8時30分湊町驛集合、同50分發列車にて出發
1 龜ノ瀨西口にて下車し直ちに其の附近一帶の狀況を見學す
1 途中半倒壞の家屋に入り其處にて晝食を取りつゝ種々意見の交換をなす
1 次で東口に至り河川の增水狀況等を見たる後、大正橋沈下跡の渡舟にて對岸に渡り徒歩王子驛に至り生駒を經て上六に歸着し解散す

災害强度委員會

時　5月10日午後6時—同8時40分
所　純清クラブ
出席者　委員長　渡部　　幹事　青柳
　第一分科　黑田、篠原、中島
　第二分科　佐野、谷、堀田
記事
1 龜ノ瀨附近地辷狀況見學報告
2 雜誌12月號に當委員會より調査研究事項發表の件
　A 當委員會にて已に蒐集したる大阪市內ボーリング表の發表を計畫す
　Bコンクリート施工法の解說を今後作成して之を提出すること
3 鎔接研究會電弧鎔接標準示方書案の解說を作成すること
4 古川委員今回遠隔の地に轉勤せられたるに依り委員辭任の申出ありたり

住宅委員會

時　5月2日午後6時—同8時
所　千門
出席者　幹事　淺野　　委員　河盛、小林、南、渡邊(金)
記事
1 前回委員會に於て委員中より雜誌「住宅號」に執事する方々を選定し同時に同號に昭和6年度の本委員會の事業調査報告中よりも適當なる圖面等を揭載する樣內定しありたるに付本夕は今一度夫れに付協議をなし「小住宅設計概要書」並小住宅案(平面及建圖、矩計)を發表することに決定せり

大　會

春季大會

時　4月17日(日)
所　比叡山廻遊、古社寺見學
1 本年春季大會を別紙プログラムの通開催したり。
參加會員90餘名、春酣に麗かな1日を次の順序にて、由緒深き古社寺の見學や、咲き競ふ洛北の櫻花を賞でつゝケーブル、電車、又ケーブルのスピードアップの淸遊に一同歡を盡して稀有の盛會裡に終了せり
1 先づ午前九時早くも參加會員は天滿橋驛へ續々と參集し豫定の9時30分には京阪運輸課長並天滿橋を驛長の格別の好意に依り混雜も無く同驛出發す
1 同10時40分三條終點に於て京都方面よりの參加會員10數名と合し直ちに京津電車にて濱大津を終て阪本に至る
1 阪本の料亭鶴喜屋の座敷、庭園にて一同休憩し名物のそばと御茶漬とに簡單なる中食をなし程近き官幣大社日吉神社に參詣す
1 同社に於ては建築物に就ての說明を聞き、且御神酒を戴き夫れよりケーブルにて比叡山に登り、湖水の風景をあかず眺めつゝ茶店に少憩、午後三時より根本中堂前に於て藤原義一氏の約一時間に亘る、根本中堂を始めとし比叡山に於ける古建築物に關する臨地講演あり引續き中堂の參拜を終り、一同自由行動の下に三々五々空中ケーゲルに或は徒步にて四明嶽を經て八瀨に至り宴會場に向ふ
1 宴會場對山閣に於ては午後6時一同着席し武田大會委員長の挨拶ありて直ちに開宴す
1 宴酣にして淸水組京都支店より寄贈の餘興に更に興を添へ續々と運ばれる支那料理、支那酒に滿を持しつゝ和氣靄々の裡に時を過す
1 此の時池田副會長の指名にて池田谷氏外數氏交々立つて本日の大會に關する感想並感謝の言葉を述べ、記念撮影をなして此の春季大會を恙なく終了せり、時に午後8時40分
尙本大會終了に當り種々御盡力下されし委員各位に對し多謝する次第であります

會員消息

片岡會長より下記の通通信がありましたから御披露いたします

5月19日到着
5月3日巴里にて　片岡　安
池田副會長宛

4月30日會議を終り昨日こちらへ來ました七月中頃歸國色々御報告申上ぐることを樂んで居ります遙かに貴下及會員御一同の御健勝を祈ります

5月23日到着
5月5日巴里にて　片岡　安
協會宛

會議は漸く終りましたこれより獨乙を經て英國へ行き米國を通過歸國の豫定
會員諸君役員諸君へよろしく

て之が種々の惡因をなす事でしよう。

○絨氈の使用上注意すべき箇條は

△靴の土砂は充分拭ひ取りて室内に入る事が第一で、我國の様に道路の鋪裝が不完全な處では一層留意してもらはぬと、殊に雨天の節外來の場合には充分水分を拭き取る事が必要です。でないと絨氈を汚すばかりでなく過度の水分を含むで保存上の惡因となります。

從て「パイル」織物は「ブラッシユ」又は眞空式「クリーナー」を使用して塵を吸取り「パイル」の間に沈降せるものを完全に除去し置かねばなりません。

又時々揮發油を浸したる柔布等で其表面を拭ひ置くことです、之は汚れを除くと同時に色合保善の一方法です汚れた上に日光の作用を受けますと褪色の度を增す恐れがあります。

猶絨氈の下敷に「フエルト」を用ひますと唯に感じの上のみでなく、保全上耐久力を完全ならしむる効果があります。殊に「コンクリート」の床上に直接に絨氈を敷く事は衝動の度を强くし、併せて含水の量を增し地織を弱らせます。

我國の様な濕度の多き處で、初夏の節は特に蟲害豫防に注意を要します。かたき刷毛を用ひての掃除を充分にして害蟲の驅除をなす事も必要ですが、よくある例で、此上に「カバー」の被つて居るのなどは寧ろ害蟲の保護になつてよくありません。絨氈は仕舞つて置く品物ではないのです。

○絨氈と云ふものはなかなかむつかしい織物の様ですが其規格と檢査は

△(イ)原糸の(パイル糸、搦み糸、地經緯糸)種類及番手

(ロ)「パイル」毛の長さ及密度

(ハ)經糸及緯糸の密度

(ニ)「パイル」用の毛糸の品質

(ホ)染色の堅牢度

(ヘ)紋織物では其色數(「フレーム」の數)及柄模様の完全意匠の精粗等

を擧げますが、種々なる絲の種類や番手や特に「パイル」用の毛糸の品質に關しては一寸文字で表はし難い點もあり、玆に其檢査上の難關があるのですが、染着劑の如きも又なかなか其價格に高下があります

例して見れば鐵道の3等客車の敷物の如き其品質から申せば上の下に位するもので、決して下等のものではない。之は3等客の動作が可なり亂暴ですからそれに堪ゆる様なかなか吟味されたものです、又1等車のものは2等車のものに比すると原糸だけで約3倍高につきます、どうです、此麻織のものと區別がつきますか

○成る程やつかいなものですね、要するに信用ある製造所から其責任ある製品の供給に待つ事ですね、猶斯様な工程で出來るものとすれば無暗に製造の期限を急ぐのは間違ひですね。

△絨氈の品質については或官廳や大會社から外國品と違ふと云ふお小言を頂戴した事もありましたが現場を御一覽願ふて段々御理解下さいました事もありました。

例して見ると天然光線によると人工光線による時の色調の變化の如きもので、主として夜間御使用に供せらるゝ處では其色度に加減を要しますが、斯る場合單に白晝での色調御說明だけでは相違を來します。

摩擦による色の變化の如きも又其一つで、英國製の極上等の紺「サージ」服地は植物藍から染着せられると云ふ話ですが、此場合は使用の最初多少色の落ちる事があります。之は我國で古き紺織物御使用の經驗者には充分御得心のゆく事ですが、洗濯する程よくなると云ふのがそれです。

原料糸の如きも其產地によりまして其品質に差がありまして埃及綿、米綿それぞれに特徵を備へておりますから、御注文品の用途や用法が明確であればそれぞれそれに適應するものを選擇いたします。隨つて製品は充分滿足して貰へると信じます。

但し我國の紡績工場では少量の特種糸の製出は厄介視せられますが、正確なる御注文に對して完全なる織物が出來るのは事實です。勿論斯る特殊の御好みに應ずる場合其價格が割高となるのは不得止ことゝ存じます

○色々御話を伺ひまして有り難う御座ゐました、長時間御繁用中御手間をとらせまして、では御暇いたします

(所要時2時間半、5月25日記)

夕食後定例委員會に移る

協議事項

1 曩に東洋陶器株式會社に調製方依頼中の衛生陶器標準寸法圖面本夕出來に付種々意見を交換したる結果別紙の通一部訂正し今一度同會社に調製方を依頼し其の承諾を得たり

1 從來の各分科の研究項目は今月を以て一先づ終了せしに付次回よりは左の通調査研究を始むることに決定す

第一分科……石綿盤類

第二分科……テックス類

16 月中に大阪石綿工業株式會社工場を見學することを申合す

災害强度委員見學會

時　5月1日午前8時30分—午後3時30分

見學　龜ノ瀨方面地辷罹災狀況

出席者　小野、大澤、黒田、篠原、三浦、矢田

記事

會報 2

出席者　委員長　松室　　幹事　須川
第一分科　高松、塙
第二分科　高岡、濱田、林
第三分科　阪井、境、山中、伴

記事

1 本年雜誌12月號は常設各委員會の調査研究の發表を以て特輯する旨別紙の通豫告ありたることを委員長より報告す(別紙略)

1 次回定例日に本委員會委員のみにて住江織物株式會社の見學を計畫す

東洋リノリユーム株式會社技師長宛に別紙の通りリノリユームに關する文獻の提出方を依頼することを申合す

資料委員見學會並委員會

時　5月19日午後2時ー同8時30分

見學　住江織物株式會社工場（見學終了後協會々議室にて委員會開催）

出席者　委員長　松室　　幹事　須川
委　員　阪井、境、白石、平野、福田、高岡、須賀、伴

記事

1 午後1時30分一同協會に集合の上、高島屋裝飾部青木氏の案内にて住江織物株式會社に至る

少憩の後仝社益子氏の案内にて各工場成品の陳列、染色に關する各種實驗表等詳細なる說明の下に見學をなしたり

織物工場見學問答

時　昭和7年5月19日　場所　住江織物株式會社

○問者　資料委員　甲乙丙丁戊己

△答者　住江織物會社　益子勇雄氏

○建築資料に關して其批判的位置に立つ時、我等の所有する智識の甚だしく不足しをることを自省し、より廣く正確なる智識を求めて茲に若き人達に伍して八十の手習ひです「カーペット」の話は拜讀いたしておりますが、第一に絨氈が敷物として其美術的及び實用方面よりの價値、これは御尋ねする迄もない事ですが。

△それは外觀が普通の織物と異なりて非常に豐麗にして且つ立體的の色調を表はし莊重の感じを有して居る點で、單なる無地織でも既に然りですが、之に模樣を織り出すことによりまして一層其感を强くすることが他の敷物類には見られません。

之を實用的に見ますと「パイル」織物を特徵として、其粗鬆なる表面は克く音響を吸收して防音の作用をなし同時に足下の觸感に柔らかさを覺えしむること、宛かも苅り込まれたる芝生の上に座すると一樣で、且つ保溫力に富むことです。此防音と言ふ事は近頃段々建築に考慮を拂はれて來た樣ですが茲に織物の特異性が發揮せらるゝ譯です。

猶此織物が汚損せらるゝ點ですが、それは單に「パイル」の尖端を汚すだけで「パイル」が獸毛で造られる場合には之を反撥します。

以上の諸點から見た効果は他の敷物では兼備してゐない樣です。

○如何です、外國製品と對比して見ると、私は最早外國品を輸入するの要がないと信じますが、强ち國產奬勵と云ふことでなくて充分立派なものが製造せられてゐる點から

△元來絨氈は洋風建築に於て室內裝飾用の敷物として使用せらるゝ關係から明治年代は殆んど輸入品に限られて居りましたが、大正年代に入りて本社が製造し始め此等輸入品に對抗して約20年に涉る輸入品崇拜時代を經過し、國產奬勵の時代となりまして次第に此國產品の眞價が認められる樣になりました。

若し夫れ其對比價値た論じますと何分種類多き織物の事ですから一概に斷定は出來ませんが本社の製品につきましては

(イ)品質を基本として比較すると外國品は遙かに高價です。

(ロ)其柄模樣や色調につきましては洋風鵜呑み時代は輸入品を其儘受入れて此價値判定を碌にしなかつたのですが、其後我國の建築樣式も次第に其固有の風土氣候習俗に適應する特殊の樣式表現の傾向となりまして、隨つて之に配すべき絨氈の如きも又其紋樣染彩等につき獨自のものを要求せらるゝ向が多くなつて來ました、之は國產品に求むることが最も便利であり且つ捷徑であり、民族の心底を流るゝ趣味或は意志の表現は同じ民族でなければ充分に之を會得することが出來ませんからね。

(ハ)更に之を使用上から比較しますと、我國特種の氣候風土及建築樣式に應じ、其品質や着彩や、又大さの自由なる嗜好に適します點に於てもね。

○本邦絨氈の原料は

△「パイル」用としては羊毛、又は麻

地經糸用は綿糸、麻、黃麻

緯糸は麻、黃麻

搦み經糸は綿糸

の區分で此等の原料及染着劑の如何によりまして其製品に等級がつく事となります。

○絨氈に好ましからざる缺點がありますか。

△掃除を怠りますと空中の塵埃が「パイル」の間に降沈し

會　報

役　員　會

常　務　會

時　昭和7年5月2日午後5時30分—同10時
所　ライオン食堂
出席者　副會長　池田、武田
　　主記　伊東、小川、鳥井、富士岡
　　主計　呼子

議事
1 5月例會に關する件
1 記念事業實行委員會設置に關する件
1 各種雜誌製本の件
1 本年度常設委員會研究事項を以て12月號會誌特輯に關し各委員長に豫告の件

報告
1 建築クラブ及建築學會近畿支部設立發起人開催の件
1 備品賣却價格報告
1 3月分會計報告
1 記念事業調査委員會終了報告

常　務　會

時　昭和7年5月16日午後5時—同10時30分
所　本協會々議室
出席者　副會長　池田、武田　主記　小川、鳥井、富士岡
　　主計　岡部、松井、呼子　編輯　高橋、中山

議事
1 A B C 徽章配分に關する件
1 定款第24條中常務會出席定數改正に關する件
1 協會事務所借入の件
1 各種委員會の建築クラブ室使用に關する件
1 記念事業實行委員の件
　附　住宅博覽會準備委員の件
　　展覽會準備委員の件
1 役員會及各種委員會食事費に關する件
1 電話機其他備品賣却差損を償却準備金より塡補する件
1 備品賣却差損處置に關する件
1 住友銀行取引を山口銀行に變更の件
1 7年度豫算編成替の件

報告
1 防火建築振興奬勵に關する建議の件
1 5月例會の件
1 電話機賣却及賣却代金處置の件
1 備品賣却の件
1 大同ビル借室保證金戻入及其處置の件
1 會員詮衡

委　員　會

法制委員會

時　4月21日午後6時30分—同8時30分
所　ライオン食堂
出席者　第一分科幹事　加藤　委員　新名
　　第二分科幹事　玉置　委員　楠瀨、武田、內藤

記事
1 第三回全國都市問題會議總會に提出問題として研究したる下記の研究事項は會誌により發表するや否やに付諮りたる結果、委員會名を以て發表することに決し內藤委員に於て精讀修正を加ふることゝなる
　1 都市建築物內空氣の汚染狀態及其の措置に關する制度に就いて
　2 耐火構造家屋の諸稅率に關する意見

法制委員會

時　5月3日午後5時50分—同8時30分
所　ライオン食堂
出席者　委員長　今林　幹事　加藤、坪井
　　委　員　北垣、村野、吉田、工藤

記事
1 都市防火建築振興奬勵に關する陳情案に付先般法制、災害强度兩委員會に於て別紙の如き成案を得會長に報告せしことを委員長より報告す
1 右問題に付ては既に建築學會外三會より委員會合し研究を進めつゝあるも近く東京に於て第2回の委員會開催せらるゝに當り、日本土木建築請負業者聯會會長より當協會よりも2名位の委員派遣方申込ありしにより常務會に於て池田理事出席と決定し尙法制、災害强度兩委員長の內1名出席方交涉あり、協議の結果兩氏の內1名出席のことに決定す
1 第3回全國都市問題會議に本委員會より1名選出方を常務會より交涉ありしに付委員長より諮りたる結果玉置豊次郎氏出席のことに決定す

資料委員會

時　5月5日午後5時30分—同8時30分
所　ライオン食堂

社團法人 日本建築協會役員及委員（昭和七年）

役員

會長　安實一
副會長　銅雄
副會長　郎吉
監事　知信一
監事　則助正
主事　治郎清
主事　吉實郎
主事　衛吉郎
主事　知則吉
主事　郎郎安
編輯　二一良
編輯　郎男重
編輯　夫二次
編輯　一治吾
評議員　信雄郎
同　三一郎郎
同　忠助八清
同　三吾吉二
同　平正吾
同　同同同
同　同同同
同　同同同

建築と社會第15輯第6號

廣告索引

ア 有山組……8
安藤組大阪支店……8
旭硝子株式會社……39
淺野スレート株式會社……20
淺海商店……26
イ 池田建築事務所……5
池田谷建築事務所……5
池田組……8
池村建築事務所……5
伊藤建築事務所……5
岩元商會建材部……26
井上組……8
エ 榮進社……19
英進商會建材部……49
オ オキナ商店……36
大阪製鎖所エレベーター部……9
大阪窯業セメント株式會社……國際ウラ
大阪伊丹商店……16
大阪橋本組……9
大林組……9
大野製作所……1
大倉土木株式會社大阪出張所……9
小笠原建築事務所……5
奥村重兵衛商店……28
岡部建築事務所……5
岡本工務店……10
置鹽建築事務所……5
オリエンタル化學工業所……13
押谷商店……50
カ 葛野建築事務所……5
龜谷開作商店……10
關西ステンドグラス製作所……50
キ 木下謹三商店……16
桐田商會……35
ク 國枝工務所……5
國藤工務所……48
熊取谷熊次郎商店……10
コ 鴻池組……10
金剛商會大阪支店……42
サ 佐藤四郎建築事務所……6
佐伯組……11
佐久間パブコ工業株式會社……14
笹岡家具裝飾店……22
三稜社……33
シ 清水榮二建築事務所……6
清水組大阪支店……11
城口研究所大阪支店……41
設樂建築事務所……6
島貿易株式會社建材部……43
ス 須賀商會……31
セ 清光社……44
セゼ 錢高組……11
ソ 宗建築事務所……6
タ 竹中工務店……11
多田建築事務所……6
田中昌司商店……22
ダ ダンロップ護謨株式會社……國際ウラ
大和工業株式會社……51
テ 寺井洋家具部……42
ト 朝永建築事務所……6
東洋陶器株式會社……48
東洋リノリユーム株式會社……24
ナ ナンコク商事株式會社……21
中村建築事務所……6
中川辰藏店……12
內外土木建築材料合資會社……40
南滿鑛業株式會社……30
ニ 日本ペイント株式會社……27
日本建築紙工株式會社大阪支店……33
日本金具株式會社……國際ウラ
日本建鐵株式會社……34
日本パイプ製造株式會社……37
西原衛生工業所大阪支店……23
西孫南店建築金物部……25
新田ベニヤ製造所……45
ノ 野村建築事務所……6
野澤幸三郎商店……32
ハ 橋本建築事務所……7
原科建築事務所……7
ヒ 平松釣戸車製造所……44
フ 藤木工務店……12
藤田商會……18
福原工場……34
ベ ベニス工房……48
マ 增田建築事務所……7
眞水三橋建築事務所……7
マルエス工業株式會社……15
ミ 宮島康夫商店……47
ミナト製作所……30
三木商店……34
三井物產株式會社……17
三宅茂雄商店……46
ム 村上建築事務所……7
モ 森本建築社……12
ヤ 安井建築事務所……7
八木工務所……12
矢橋大理石商店……18
山本窯業商店……47
ヨ 横河工務所……7
横河橋梁製作所……29
米田製藥所……46
米本商店……38
レ 玲光社(木內眞太郎)……38